

嵐山町博物誌調査報告

～第3集～



1998

埼玉県比企郡嵐山町教育委員会

嵐山町博物誌調査報告

～第3集～

1998

埼玉県比企郡嵐山町教育委員会

例 言

- 1 本書は『嵐山町博物誌』編さん事業の一環として、平成9年度に行った調査・研究活動の中から、その成果として収録したものである。
- 2 博物誌編さんの専門部会構成は、下記のとおりである。なお、博物誌の編さん組織表は次頁に掲げた。
 - 自然編
 - 動物部会
 - 植物部会
 - 地質部会
 - 考古・歴史編
 - 原始・古代部会
 - 中世部会
 - 近世部会
 - 近代・現代部会
 - 民俗編
 - 民俗部会
- 3 本書の編集は、嵐山町教育委員会生涯学習課博物誌編さん係が行った。
- 4 本書の作成にあたり、杉田正之氏、山下賢治氏、東京家政学院大学図書館からは、本文に掲載した資料の提供並びに掲載についての御快諾をいただいた。銘記してお礼を申し上げます。

目 次

嵐山町南部の動物 [平成8・9年度調査・中間報告]	1
嵐山町の哺乳類 (中間報告) 斎藤貴・町田和彦	3
嵐山町南部の鳥類 (中間報告) 小杉昭光	9
嵐山町のは虫類・両生類 (中間報告) 松本充夫・須永治郎	14
嵐山町の魚類・水生動物調査 (中間報告) 金澤光	18
嵐山町の双翅類調査 (中間報告) 原勝司	19
嵐山町の蜂 (中間報告) 南部敏明	21
嵐山町の蝶類 (中間報告) 関根浩史・豊田浩二	26
嵐山町の蛾類 (中間報告) 江村薫・豊田浩二	32
嵐山町の甲虫類 (中間報告) 豊田浩二	35
嵐山町の半翅類 (中間報告) 野澤雅美	47
嵐山町の直翅類 (中間報告) 内田正吉	52
嵐山町のトンボ類 (中間報告) 新井裕	58
嵐山町が多足類 (中間報告) 桑原幸夫	60
嵐山町の陸産貝類 (中間報告) 松本充夫・須永治郎	65
嵐山町の淡水産貝類 (中間報告) 松本充夫・金澤光	70
江戸期『女訓書』に見られる婦徳 斎藤醇吉	(1)
遠山村の新道開鑿一件 吉瀬総	(36)

嵐山町博物誌編さん関係者名簿

博物誌編さん委員会（※編さん委員長）

- 1号委員（議会議員） 千野良之
市川彰
- 2号委員（学識者） 長島喜平※
関根智司
奥平文雄
関根浩史
藤井欣象
吉野正浩
- 3号委員（町職員） 飯島留一
安藤実

博物誌専門部会（※部会長）

動物部会

※小杉昭光、関根浩史、新井裕、内田正吉、江村薫、金澤光、桑原幸夫、斎藤貴、須永治郎、豊田浩二、南部敏明、野澤雅美、原勝司、町田和彦、松本充夫

植物部会

※田村説三、神沢利一、島本浩美

地質部会

※小林忠夫

原始・古代部会

※宮崎朝雄、中村倉司、富田和夫、石川安司、植木智子、村上伸二、植木弘

中世部会

※長島喜平、宮崎朝雄、石川安司、国井洋子、植木智子、坂野千登勢、村上伸二、植木弘

近世部会

※関根智司、久保康顕

近代・現代部会

※滝澤民夫、稲田滋夫、浅見勉、新井浩、石田貞、一條三子、岩井サチコ、内桶彰、大原弘明、斎藤醇吉、島崎守男、谷俊夫、根岸渡、森山茂樹、吉瀬総

民俗部会

※飯塚好、柳正博、橋本炳、小林久美、駒木敦子

事務局

- 生涯学習課長 安藤高二
博物誌編さん係長 植木弘
主事 豊田浩二
係員 高橋敏子、結城珠江、関口羊子

嵐山町南部の動物

[平成8, 9年度調査・中間報告]

嵐山町の生物環境概要

嵐山町は埼玉県のほぼ中央に位置し、外秩父山地が平野部へと移り変わる場所である。町の南西部を南北にはしる八王子構造線を境に、西側は山地の様相を呈し、東側は水量豊富な平野部となっている。

主な水系としては、南部より流れ込む都幾川、外秩父山地より流れ込み、八王子構造線を抜けて都幾川と合流する槻川、北西部より小川町との境を流れ、町の中央部を横切り平野部へと注ぐ市野川、町北部より流れだし市野川と合流する粕川、町の北東部で江南町、滑川町との境を流れる滑川の5つの河川が認められる。また、南部地域を流れ都幾川へと注ぐ前川、滑川の源流部となる新川などがある。これらの河川に沿って、数多くの水路や溜め池が存在し、極めて湿潤な気候であるといえる。

植生は大きく分けて、山沿いに多く見られる森林環境とそのふところにある谷戸や平野部の河川流域等に展開する草地環境が見られる。森林は丘陵地特有の雑木林が大半を占め、スギ・ヒノキの植林も山側地域を中心に大変多い。町内のあちこちにアカマツ林も存在するが、雑木に押されて衰退しつつある。また、山の尾根部分には極わずかではあるが、常緑広葉樹（照葉樹）の林も存在し、大字遠山の小川町境付近に展開するシイの天然林はその面積もさることながら、この種の植生の北限地域にあたるとして極めて貴重である。平野部の草地は都市化の波と共に住宅等に変わり、近年急速に失われつつあるが、田畑の周辺や山沿いの谷戸を中心にまだ多くが残こされている。特に湿地環境では、開発に強いとされるアシ原以外にもスゲ類の植生が残っている地域があり、近年までモウセンゴケ等の貴重な種も見られた。このように、嵐山町にはまだ多くの豊かな植生が残っているといえよう。

町内における動物類の生息域は山地とその周辺の森林、草地、畑地及び水辺環境が主である。雑木林の様に豊富な植生と豊かな土壌が見られる場所においては、特に多くの種が生息しているものと思われる。また稀に見る水辺環境の豊富さも加わって、嵐山町はとも豊かな動物相が育まれている地域といえる。

嵐山町現代動物誌

嵐山町の動物については、県の教育委員会が1970年代に行った「埼玉県動物誌」の調査においてもほぼ調査されておらず、現在までに総括的な調査が行われたことは無いようである。そのような嵐山町でも、1980年代初頭に入り住民を中心にオオムラサキ（昆虫綱・チョウ目）をシンボルとした自然保護活動が始まり、都市化と共に失われつつある雑木林とそこに生きる生物への関心が高まった。この活動は行政側との連携により“オオムラサキの森”や、“蝶の里、ホタルの里”といった自然保護地域を獲得するに至り、現在では生物の好生息地としてだけでなく、人が気軽に生物と触れ合える憩いの場となっている。

嵐山町博物誌では町の歴史・民俗・自然をテーマに“町の百科事典”となる「博物誌」を刊行するため、それぞれの分野において調査を開始し、1996（平成8）年6月に動物部会を発足させた。そのなかで、過去に例のない、嵐山町における動物相（ファウナ）を解明するための基礎調査を開始した。本報告は、平成8年度から9年度にかけて、嵐山町南部地域を中心に行った合同調査の結果を中間報告として記すものである。来たるべき博物誌動物編の刊行において、また、県内の動物相を解明する上での貴重な資料として、今後大いに役立つことを期待する。

調査地概要

今回の調査では菅谷・大平山地域を中心にA、Bのステーション2地点を設け、この場所については四季を通じて調査を行った。また、その他の地域については任意の調査とし、各調査員の担当するそれぞれのグループによって興味深い調査地を中心に進めた。

菅谷地域は都幾川とその周辺に残る帯状の緑地が主な生物生息域となっており、特に県立歴史資料館のある菅谷館跡周辺は豊富な水源と雑木林を主にした緑地によって貴重な生物が残されている地域である。哺乳類ではキュウシュウノウサギやムササビ、ホンドキツネ等の種が生息し、鳥類ではアオゲラ、カワセミ等が、は虫・両生類ではトウキョウサンショウウオ等の環境変化に敏感な生物が確認された。昆虫類ではウスバアゲハ等の山地性の種が生息し、オオムラサキ、ゲンジボタルのような種も少ないながら生き残っている。また、近年新種として発表されたムクノキトガリキジラミ（カメムシ目、キジラミ科）の様に、菅谷を基準産地（新種として記載する際の標本が得られた地）のひとつとして記載された種も見つかっていて、

他にもコウチュウ目などでいくつか未記載の種が得られている。今回はこの菅谷館跡周辺をA地点とした。

大平山地域では、山全体に広大な緑地がある他、槻川沿いには魚類、トンボ類等が生息するための良好な水辺環境が保存されている。しかし一方、「嵐山溪谷」という観光地として名高い場所でもあり、人の手がかかり入っているようである。槻川で半島状に飛び出した部分（細原地区）は、昨年埼玉県により「緑のトラスト・第3号地」として買い上げられた。この地域は今後とも現在のような環境が保存されるであろう。大平山地域では、大型動物においては基本的に菅谷地区と同じ様な動物相が見られるが、昆虫類では明らかに

山地性の要素が強まっているようである。槻川の清流からも、県内初記録種を含む数多くの昆虫類が見つかる。今回、大字千手堂の蓮沼周辺から槻川も含めたこの地域をB地点とした。

その他の地域については、大字遠山の遠山寺裏のシイ林にて、アツブタガイという貴重な陸生貝類が得られた。嵐山町はこの種の分布東限にあたり、記録的にも極めて貴重である。大字鎌形の塩山地域では、沢沿いを中心に大平山と一風変わった動物相が見られた。また將軍沢地域や市野川沿いでも近年減少傾向にある水生生物が見つかる。嵐山町がいかに動物相の豊かな地域であるか、それがいま解明されつつある。

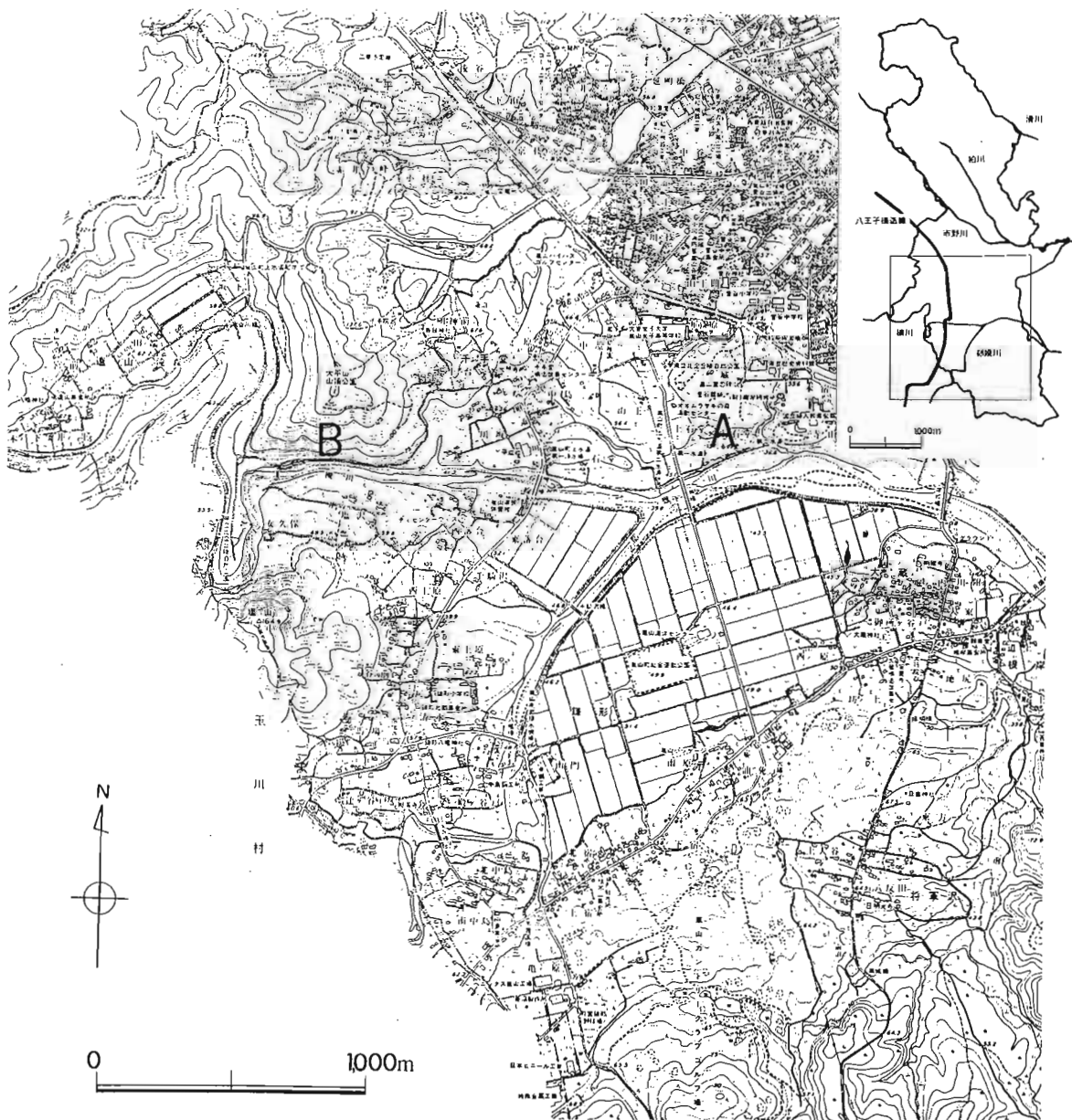


図1 平成8,9年度合同調査地点(A, B)

嵐山町の哺乳類 (中間報告)

齋藤 貴・町田 和彦

I. はじめに

埼玉県比企郡嵐山町は、嵐山町博物誌「嵐山町の動物」の刊行を企画し、基礎資料収集のために1996年6月16日に動物部会を発足させた。以来、筆者らが哺乳類の担当者として嵐山町全域で、1997年12月中旬までの1年6ヶ月間に延べ20日の調査を行ったので報告する。

II. 調査方法

調査はネズミ類と食虫類についてはビクターマウストラップを用い、魚肉ソーセージをつけたものを餌にして捕殺調査を行った。ワナは食虫類とネズミ類の坑道入り口や坑道などに設置した。採集した個体は性別、体重、頭胴長、尾長、後足長、耳介長や精巣の大きさ及び妊娠の有無や胎児数などを記録した後、フラットスキンを作成し頭骨を保存した。アズマモグラやカヤネズミ及び中型～大型哺乳類については調査地をなるべく広範囲に踏査し、哺乳類の生息する証拠、すなわち巣、糞、足跡、食痕などの発見につとめた。また地元の人々を対象とした聞き取り調査も行った。

III. 生息確認種

嵐山町で採集、目撃、死体や巣、糞、足跡、食痕等の生活痕の発見によって生息が確認された種は以下の5目8科13種であった。

食虫目	モグラ科	ホンシュウヒミズ アズマモグラ
霊長目	オナガザル科	ニホンザル
兔目	ウサギ科	キュウシュウノウサギ
齧歯目	リス科	ニッコウムササビ
	ネズミ科	ホンドハタネズミ ホンドアカネズミ ホンシュウカヤネズミ
食肉目	イヌ科	ホンドタヌキ ホンドキツネ
	イタチ科	ホンドテン ホンドイタチ
	ジャコウネコ科	ハクビシン

IV. 調査結果

記録した内容は大字ごとに小字 (記録地の詳細)、記録内容、記録者、記録年月日の順で記載してある。同じ大字内で同一日に記録したものは、記録年月日を省略して“;”で続け、最後に調査年月日を記載した。人名の書いてない記録は全て筆者らによるものである。

なお、採集個体等の測定値の記号は、Sex:性別、Wt:体重(g)、HB:頭胴長(mm)、T:尾長(mm)、HFcu:爪を含む後足長(mm)、HFsu:爪を含まない後足長(mm)、E:耳介長(mm)、Test:精巣長径×精巣短径(mm)、Embr:胎児数(匹)を表している。

MAMMALIA 哺乳綱

INSECTIVORA 食虫目

Talpidae モグラ科

1. *Urotrichus talpoides hondonis* THOMAS
ホンシュウヒミズ

鎌形

細原 (槻川付近の草地) . 1匹 (新鮮な死体を拾得、HB112mm, T 30mm) . 豊田浩二 . 1996. 4. 3

古里

林合 (ススキ草地) . 1匹 (採集、Sex ♂、Wt19.3g、HB93.0mm、T 31.0mm、HFcu17.0mm、HFsu.15.0mm、Test3.5×2.0mm) . 1997.12.13

2. *Mogera wogura wogura* TEMMINCK

アズマモグラ

大蔵

小谷.塚.1996.11.17;西ノ原.塚;地尻(縁切橋付近)塚;小谷272付近.塚.1997.3.31;川附(都幾川右岸).塚;大東.塚.1997.4.12

越畑

三田堂.塚;堂入.坑道;川後岩入.塚;花火原(川後岩沼付近).塚;上串引(沼下の田圃).塚;幡巻.塚.1996.11.24;下串引(市野川左岸).塚;関場.塚;幡後谷1215付近.塚;穂切谷.塚.1997.3.4;台山.塚;清水(打越沼付近).塚;大木入(大木入沼付近).塚;大木前.塚;地方(地方沼付近).塚;城山(溜池付近).塚;深谷.塚.1997.10.15;西川端.塚;東川端.塚;北ヶ谷戸.塚.1997.11.8

勝田

大野田.塚;池ノ頭.坑道;前耕地(淡州神社).塚;

猿田（溜池の流入入口付近）.塚.1997.10.13；高倉前.塚.1997.11.8

鎌形

高城（笛吹峠付近）.塚.1996.11.17；細原.坑道；横吹.塚.1997.2.9；大平（槻川左岸.人家跡）.塚.1997.3.8；番匠面（千騎沢橋下流.都幾川右岸）.塚；石代（都幾川右岸）.塚；南門（八幡橋下流.都幾川右岸）.塚；清水（鎌形八幡神社）.塚；清水（八幡橋下流.都幾川左岸）.塚；殿ヶ谷戸（八幡橋上流.都幾川右岸）.北中島1750-3付近（斑溪橋付近.都幾川左岸）.塚；北中島1718（小林好雄氏宅）.塚；辻ヶ谷戸1795付近.塚.1997.3.29；兼ヶ谷戸（嵐山町総合運動公園付近）.塚；石代2407付近.塚；南門.塚；北宿.塚；南門（東綱工業嵐山工場付近）.塚；北中島1729付近.塚；北宿（北中島との境）.塚；南原.塚.1997.3.31；東落合（槻川右岸）.塚；野戦場（槻川右岸）.塚；千騎沢.塚；東落合2826付近.塚；西落合2776（内田正治氏宅）.塚；塩沢（西上原との境.岩沢家墓地付近）.塚；塩沢2738-1付近.塚.1997.4.12；西上原.塚；塩山2588付近（高橋家墓地）.坑道；塩山（槻川右岸）.坑道；塩沢2716付近.塚.1997.5.10

川島

沼下.塚；豊田.塚.1997.3.4；豊田（関越自動車道路付近.市野川右岸）.塚；赤坂下.塚；屋田2181-1付近.塚；屋田.塚；長山.塚.1997.3.29

志賀

水境1803付近.塚；祖父ヶ入.塚.1996.12.9；遠ノ平1749-2付近（池の奥のスギ林）.塚；藪ノ入（東武東上線と国道254号線バイパス間休耕田）.塚；藪ノ入（東武東上線沿いの休耕田）.塚；諏訪ノ入.塚；西町裏.塚；滝ノ入1602-2付近.塚；滝ノ入1584付近.塚；一町田.塚.1997.3.4；津金沢560-1付近（東武東上線線路沿い）.坑道；津金沢（志賀堂沼付近）.坑道；金平.塚；松原635付近.塚；尾崎833付近.塚；向イ797付近.塚；清岩（八宮神社）.塚；笹山（東武東上線線路沿い）.塚.1997.10.15

将軍沢

一町田（前川左岸.オギ草地）.塚；一町田（一町田堰付近）.塚；八反田.塚；八反田202-2付近.塚；東方（日吉神社付近及び境内）.塚；下大谷180-2付近.塚；南鶴（笛吹峠付近）.坑道.1996.11.17；三反田.塚；田向.塚.1997.3.31

菅谷

上石堂（オオムラサキの森活動センター付近.あげは蝶の花園付近）.塚；下石堂（ホテルの里休憩所付近.

ベニシジミの広場付近）.塚；寺山（菅谷館跡と国立婦人教育会館との境の沢）.塚；城.塚；下石堂869付近.塚；下石堂（嵐山町水道第二水源付近）.塚.1997.2.9；城（畠山重忠公像付近）.塚；城（本郭跡）.塚；城（忠魂祠付近）.塚；上石堂（ベニシジミの広場東屋付近）.塚；上石堂（オオムラサキ活動センターとアゲハチョウの広場間）.塚.1997.3.8；坂下（都幾川左岸）.塚.1997.4.12

杉山

下城ヶ谷戸.塚.1997.3.4；上城ヶ谷戸.塚；城山.塚；雁城（杉山城跡）.塚；谷ツ.塚；谷ツ前.塚；清明（セイメイファーム付近）.塚；豊岡.塚.1997.10.15；打越.坑道.1997.11.8

千手堂

川枝67-1付近.塚；比丘尼山.塚；明神前（蓮沼付近）.塚；沼下（谷との境付近）.塚；八千代山（休耕田）.塚.1996.12.9；山王（古墳群付近）.塚；比丘尼山（大平山登山道標高165m付近）.塚.1997.2.9；比丘尼山833-1付近（嵐山町上水道配水池入口）.塚；沼下（嵐山変電所入口付近）.塚.1997.3.8；石堂346-1付近.塚；石堂332-1付近.塚.1997.4.12；中原184付近.塚；上台（光照寺）.塚；上台507-1付近.塚；明神前584-3付近（春日神社）.坑道；明神前（千手院）.塚.1997.5.10

太郎丸

辰（馬喰沼付近）.塚.1997.3.4

遠山

木ノ下.塚；井ノ上.塚；滝森.塚；宮前.塚；山根.塚；坂下.塚.1996.10.27

根岸

前山（吾妻神社）.塚.1996.11.17；道上29-1付近.塚；坂上.塚；沼田.塚；下河原.塚；前山.塚.1997.4.12

平沢

後谷695付近.塚；表.塚；表550-1付近.塚；表556付近.塚；表580付近.塚；入（白山神社付近）.塚；延明橋.塚；1996.12.9；遠道（ハイタッチ双葉裏休耕田）.塚；遠道797付近.塚.1997.3.4；松葉.塚.1997.3.8；遠道790-1付近.塚.1997.10.11

広野

深谷（武蔵嵐山文化村進入路付近）.塚；深谷（関越自動車道路沿い）.塚.1997.3.6；大野田（弁天池付近）.坑道；竹ノ花.坑道.1997.10.13；広野ヶ谷戸.塚；石倉（谷沼付近）.塚.1997.11.8

古里

神伝田845付近.塚;上耕地.塚;柏木(蟹沢との境の水路沿い).塚;蟹沢(柏木沼付近).塚;神山1178付近.塚;御領台1281付近.塚;原後.塚;林合.坑道;保井.塚;元全町.塚;上土橋.塚;下土橋.塚.1996.11.24;駒込(駒込沼付近).塚;上土橋.塚;藪谷816付近.塚;中内出.塚.1997.3.6;原後.塚;馬内.塚;中ノ下.塚;尾根.塚;藪合.塚;前田.坑道;向井.塚;長峯沢.塚;岩根沢(岩根沼付近).塚.1997.11.8;林合.塚.1997.12.12;茨原(嵐山コロニーフェンス付近).塚;清水(嵐山コロニー職員宿舎付近).塚;喜久(嵐山コロニー付近).塚;二塚(嵐山コロニー付近).塚;蟹沢1733付近(柏木沼奥耕作放棄畑).塚;明時(新川沿い).塚;下耕地(新川沿い).塚.1997.12.13

吉田

三反田(三反田沼付近).塚.1996.11.24;新沼下.塚;池ノ谷.塚;大谷(新沼の上).塚;清水.塚;大谷2316-1付近.塚;大谷2333付近.塚;姥谷597-1付近.塚;高山.塚;長竹497付近.塚;亀井作2102付近.塚;中谷1120-1付近.塚;中谷1126付近.塚;宮田.塚;宮田(手白神社).塚;前谷.塚;法蔵谷.塚;鍋谷.塚;法蔵谷(谷戸沼付近).塚;谷戸(上沼付近).塚;法蔵谷(新沼付近).塚;鍋谷(鍋谷沼付近).塚.1997.3.6;池田(嵐山町上水道第3配水塔付近).塚.1997.10.13;社宮寺.塚;後.塚;西ノ谷(嵐山町農業共同組合乾燥施設兼格納庫付近).塚;陣谷東.塚.1997.12.13

PRIMATES 霊長目

Cercopithecidae オナガザル科

3. *Macaca fuscata fuscata* BLYTH
ホンダザル

広野

広野926.1匹(自宅の庭の柿を食べた.カメラを向けると枝を揺すって脅し2階のベランダに脱糞して逃げた).1991.1.3.宮本敬彦・暉子

LAGOMORPHA 兔目

Leporidae ウサギ科

4. *Lepus brachyurus brachyurus* TEMMINCK
キュウシユウノウサギ

大蔵

小谷(クリ林内)糞.食痕.1996.11.17;地尻(縁切橋付近).糞.食痕;小谷272付近.糞.食痕.1997.3.31;川附(都幾川右岸).食痕;大東.糞.食痕.1997.4.12

越畑

堂入.食痕(ジャノヒゲ);上串引(沼下の田圃).食痕;幡巻.食痕.1996.11.24;幡後谷1215付近.食痕.1997.3.4;大木入(大木入沼付近).食痕;大木前.食痕;地方(地方沼付近).食痕;城山(溜池付近).食痕;深谷.食痕.1997.10.15

勝田

池ノ頭.食痕;猿田(溜池の流入口付近).食痕.1997.10.13

鎌形

大平(大平山登山道標高115 m付近).食痕(シユンラン);大平(大平山登山道標高110 m.95 m.75 m付近).食痕(ジャノヒゲ)細原.食痕.1997.2.9;大平(槻川左岸.人家跡).食痕.1997.3.8;清水(鎌形八幡神社).食痕.北中島1750-3(斑溪橋付近.都幾川左岸).食痕;辻ヶ谷戸1795付近.食痕.1997.3.29;兼ヶ谷戸(嵐山町総合運動公園付近).食痕(ヒノキ林内に多数);石代2407付近.食痕;北宿.食痕(スギ林内).1997.3.31;東落合(槻川右岸).食痕;千騎沢.食痕;西落合2776付近.食痕;塩沢(西上原との境.岩沢家墓地付近).食痕.1997.4.12;西上原.食痕;塩山2588付近(高橋家墓地).食痕;塩山(槻川右岸).食痕.1997.5.10

川島

屋田.食痕.1997.3.29

志賀

池ノ入(池ノ入環境センター進入路付近の草地).糞;遠ノ平1749-2付近(池の奥のスギ林).食痕;滝ノ入(休耕田のヒノキ植林地).糞;滝ノ入1584付近.食痕.糞.1997.3.4;津金沢560-1付近(東武東上線線路沿い).食痕;松原635付近.食痕;尾崎833付近.食痕;向イ797付近.食痕;清岩(八宮神社付近).食痕;笹山(東武東上線線路沿い).食痕.1997.10.15

将軍沢

一町田(草刈りされた休耕田内).糞多数.食痕;一町田488-1付近.糞(新旧多数)一町田525付近(チガヤ草地).糞;八反田.糞;東方(日吉神社付近クリ林内).糞;下大谷180-2付近.糞(新しい).1996.11.17;三反田.糞.食痕;田向.糞.1997.3.31

菅谷

城(菅谷館跡内の草地).1匹(幼獣).豊田浩二.1996.5.20;下石堂(ベニシジミの広場付近).食痕.糞;寺山(菅谷館跡と国立婦人教育会館との境の沢).食痕;城.食痕;城(本郭跡)食痕.1997.2.9;上石堂

(オオムラサキ活動センター資材置場付近) .食痕; 城 (大妻女子大学付属嵐山女子高等学校付近の濠) .食痕; 城 (畠山重忠公像付近) .食痕; 城 (本郭跡) .食痕; 城 (忠魂祠付近) .食痕; 上石堂 (ベニシジミの広場東屋付近) .食痕 .1997.3.8

杉山

城山 (杉山城跡) .食痕; 雁城 (杉山城跡) .食痕; 清明 (セイメイファーム付近) .食痕; 豊岡 .食痕 .1997.10.15

千手堂

川枝 67-1 付近 .食痕; 比丘尼山 .食痕; 八千代山 (休耕田) .食痕 .1996.12.9; 比丘尼山 (大平山登山道標高 165 m 付近) .食痕; 比丘尼山 (広葉樹林内) .糞 .桑原幸夫 .1997.2.9; 上ノ山 902-2 付近 .食痕; 比丘尼山 833-1 付近 (嵐山町上水道配水池入口付近) .食痕 .1997.3.8; 石堂 346-1 付近 .食痕; 石堂 332-1 付近 .食痕 .1997.4.12; 中原 184 付近 .食痕; 上台 (光照寺付近) .食痕 .原 110 付近 (光照寺裏) .食痕; 谷 .食痕; 明神前 584-3 付近 (春日神社) .食痕; 明神前 (千手院) .食痕 .1997.5.10

遠山

井ノ上 .食痕 (スゲ類, ジャノヒゲ); 滝森 .食痕 (ジャノヒゲ); 坂下 .食痕 (ジャノヒゲ) .1996.10.27

根岸

前山 (吾妻神社裏の林内) .1 匹 (大きな個体) .豊田浩二 .1996.4.4; 前山 (吾妻神社) .食痕 (ジャノヒゲ) .1996.11.17; 前山 .食痕 .1997.4.12

平沢

表 .食痕 (ジャノヒゲ); 表 556 付近 .食痕; 入 (白山神社付近) .食痕 (ジャノヒゲ) .1996.12.9; 遠道 (ハイタッチ双葉裏休耕田) .食痕 .1997.3.4; 松葉 .食痕 .1997.3.8

広野

大野田 (弁天池付近) .食痕 .1997.10.13

古里

中内田 (兵執神社付近) .時折見られる .田島栄定 .1996. (古里 817.1996.4.11 の情報); 藤塚 1305-1 付近 .糞; 藤塚 1322-3 付近 .糞; 神山 1178 付近 .食痕 .1996.11.24; 中内出 .食痕 .1997.3.6; 馬内 .食痕; 中ノ下 .食痕; 向井 .食痕; 長峯沢 .食痕; 岩根沢 (岩根沢沼付近) .食痕; 蟹沢 (柏木沼左岸中央部付近) 1 匹 (仔 .2:50PM) .豊田浩二; 蟹沢 (柏木沼奥の谷津) .糞 .内田正吉; 柏木 (柏木沼堤防下) .糞 .内田正吉 .1997.11.8; 林合 .巢 (フォーム) 2 個 (ススキの株の根元) .

糞 (チガヤ草地) .1997.12.12; 喜久 (嵐山コロニー付近) .牛糞を畑に撒いた後の草地) .糞; 二塚 (嵐山コロニー付近) .食痕; 蟹沢 1733 付近 (柏木沼奥耕作放棄畑) .糞 .食痕 .1997.12.13

吉田

三反田 (三反田沼付近) .食痕 .1996.11.24; 新沼下 .糞 .食痕; 池ノ谷 .糞; 大谷 (新沼の上) .食痕; 姥谷 597-1 付近 .糞 .食痕; 高山 .食痕; 長竹 497 付近 .糞 .食痕; 亀井作 2102 付近 .糞多数 .食痕; 中谷 1120-1 付近 .糞 .食痕; 中谷 1126 付近 .糞 .食痕; 宮田 (手白神社付近) .食痕; 法蔵谷 .食痕; 谷戸 (上沼付近) .食痕; 鍋谷 (鍋谷沼付近) .食痕 .1997.3.6; 西ノ谷 (嵐山町農業協同組合乾燥施設兼格納庫付近) .食痕 .1997.12.13

RODENTIA 齧歯目

Sciuridae リス科

5. *Petaurista leucogenys nikkonis* THOMAS

ニッコウムササビ

鎌形

大平 (大平山登山道標高 120 m 付近) .糞 (スギ) .1997.2.9; 清水 (鎌形八幡神社拝殿付近) .鳥居付近 .神社入口付近 .神社裏墓地付近) .糞 (スギ); 北中島 1776 付近 (星野金作家墓地) .糞 (スギ); 北中島 1718 (小林好雄氏宅) .糞 (スギ, サワラ); 南中島 1660 (小林性次氏宅) .糞 (スギ) .食痕 (ツバキ) .1997.3.29; 北中島 1729 付近 (人家裏の神社) .糞 (スギ) .1997.3.31; 千騎沢 .糞 (スギ); 西落合 (内田国治家墓地付近) .糞 (スギ); 西落合 2776 (内田正治氏宅) .糞 (スギ); 塩沢 (西上原との境) .岩沢家墓地付近) .糞 (スギ); 塩沢 2691 (岩沢邦江氏宅) .糞 (スギ, ヒノキ) .1997.4.12; 塩山 (槻川右岸) .食痕 .ササクレ (スギ); 千騎沢 (平地蔵付近) .糞 (スギ) .1997.5.10

菅谷

城 (菅谷館跡) .1 匹 (夜間雑木の樹上にいた) .豊田浩二 .1995; 城 (大妻女子大学付属嵐山女子高等学校付近の濠) .糞 .ササクレ (スギ); 城 (畠山重忠公像付近) .糞 .食痕 .ササクレ (スギ); 城 (本郭跡) .糞 .ササクレ (スギ); 城 (忠魂祠付近) .糞 .ササクレ (スギ); 上石堂 (ベニシジミの広場東屋付近) .糞 .ササクレ (スギ); 上石堂 (オオムラサキ活動センターとアゲハチョウの広場間) .糞 .ササクレ (スギ) .1997.3.8

千手堂

上ノ山 902-2 付近 .糞 .ササクレ (スギ) .1997.3.8; 八千代山 (蓮沼付近) .糞 (スギ, ヒノキ) .1997.4.12; 原 110 付近 (光照寺裏) .糞 (スギ) .1997.5.10

Muridae ネズミ科

6. *Microtus montebelli montebelli*

MILNE-EDWARD

ホンダハタネズミ

大蔵

西ノ原,食痕,坑道;小谷272付近,食痕,坑道,1997.3.31

鎌形

番匠面(千騎沢橋下流,都幾川右岸),食痕,坑道;石代(都幾川右岸),食痕,坑道;南門(八幡橋下流,都幾川右岸),食痕,坑道,1997.3.29;兼ヶ谷戸(嵐山町総合運動公園付近),食痕,坑道;南門,食痕,坑道;北宿,食痕,坑道;南門(東綱工業嵐山工場付近),食痕,坑道;北中島1729付近,食痕,坑道;北宿(北中島との境),食痕,坑道;南原,食痕,坑道,1997.3.31;東落合(槻川右岸),食痕,坑道;野戦場(槻川右岸),食痕,坑道,1997.4.12

川島

豊田(関越自動車道路付近,市野川右岸),食痕,坑道;
;屋田,糞,坑道,1997.3.29

根岸

下河原,食痕,坑道,1997.4.12

吉田

六反田15.1付近,食痕,坑道,1997.10.11

7. *Apodemus speciosus speciosus* TEMMINCK

ホンダアカネズミ

鎌形

石代(都幾川右岸),食痕(クルミ);南門(八幡橋下流,都幾川右岸),食痕(クルミ);清水(八幡橋下流,都幾川左岸),食痕(クルミ),1997.3.29;野戦場(槻川右岸),食痕(クルミ),1997.4.12

古里

林合(ススキ草地),1匹(採集,Sex ♂,Wt44.5g, HB118.5mm, T 89.5mm, HFcu25.0mm, HFsu24.0mm, Test15.0×9.0),1997.12.13

8. *Micromys minutus hondonis* KURODA

ホンシュウカヤネズミ

大蔵

上河原(槻川左岸河川敷),巢4個(2種のイネ科植物);下河原(槻川左岸河川敷),巢1個(チガヤ),1997.3.8;小谷272付近,巢6個(チガヤ1個,イネ科植物2個,スゲ類2個,不明1個),1997.3.31

越畑

三田堂,巢2個(チガヤ);幡巻,巢2個(ススキ),

1996.11.24;西川端,巢1個(チガヤ,作りかけ),1997.11.8

鎌形

木ノ宮(二瀬橋下流,都幾川右岸),巢1個(ススキ),木ノ宮(二瀬橋上流,都幾川右岸),巢1個(チガヤ),1997.3.29;南門,巢1個(イネ科牧草);北宿(水路沿い),巢1個(ススキ,地上近く);南門(東綱工業嵐山工場裏),巢1個(ススキ);北中島1729付近,巢6個(コガマ5個,スゲ類1個),1997.3.31;東落合2826付近,巢2個(ススキ);塩沢2738.1付近,巢3個(チガヤ2個,コガマ+その他1個),1997.4.12

志賀

藪ノ入(国道254号バイパス付近休耕田),巢1個(チガヤ);西町裏,巢2個(チガヤ);滝ノ入1602.2付近,巢2個(チガヤ);諏訪ノ入1695付近,巢6個(チガヤ4個,ススキ2個);諏訪ノ入(農機具置場付近),巢5個(ススキ);大木ヶ谷戸,巢1個(ススキ);一町田,巢5個(イヌビエ),1997.3.4

将軍沢

一町田463.2付近,巢3個(チガヤ);一町田,巢1個(チガヤ);一町田(八反田,丸山との境付近),巢1個(コガマ+イヌビエ);八反田202.2付近,巢1個(チガヤ);下大谷180.2付近,巢1個(ススキ);下大谷(嵐山カントリーゴルフクラブ境),巢1個(チガヤ),1996.11.17;三反田,巢1個(タカスケ),1997.3.31

菅谷

上石堂(オオムラサキ活動センター資材置場付近),巢1個(アヤメ類),1997.3.8

千手堂

川枝67.1付近(国道254号線沿い),巢3個(チガヤ1個,ススキ1個,ササ+チガヤ1個);明神前(蓮沼の堰堤),巢1個(ススキ);沼下(谷との境付近),巢1個(ササ+ススキ);八千代山(休耕田),巢1個(ススキ),1996.12.9;沼下(嵐山変電所入口付近),巢1個(ススキ),1997.3.8

遠山

宮前,巢1個(水路沿いのチガヤ),1996.10.27;風早,巢3個(ススキ1個,スゲ類2個),1997.2.9

平沢

後谷695付近,巢6個(チガヤ5個,スゲ類1個);京枝,巢6個(チガヤ,内作りかけ1個,調査直後にブルドーザーで壊された);表(国道254号線沿い休耕田),巢2個(オギ);延明橋,巢2個(チガヤ);遠道(国道254号線とハイタッチ双葉間),巢4個(ススキ,巢

の1個に死亡直後の雄2雌2計4匹の死体があった。全身に毛が生えそろう仔。1996.12.9; 遠道(ハイタッチ双葉裏休耕田)。巢2個(チガヤ); 遠道797付近。巢1個(チガヤ)。1997.3.4; 赤井(嵐山町上水道配水池入口付近)。巢1個(オギ); 松葉。巢3個(チガヤ)。1997.3.8; 遠道797付近(ハイタッチ双葉裏休耕田)。巢1個(チガヤ)。1997.10.11

広野

深谷(関越自動車道路沿い)。巢1個(チガヤ)。1997.3.6

古里

道参山(柏木沼付近)。巢2個(チガヤ); 柏木(蟹沢との境の水路沿い)。巢1個(ススキ); 藤塚1305-1付近。巢1個(イヌビエ); 林舎。巢1個(チガヤ)。1996.11.24; 中内出。巢1個(農作物)。1997.3.6; 原後。巢3個(チガヤ2個。不明1個); 岩根沢(岩根沢沼付近)。巢1個(チガヤ)。1997.11.8

吉田

大谷2333付近。巢1個(ススキ+?); 亀井作2102付近。巢1個(チガヤ)。1997.3.6

CARNIVORA 食肉目

Canidae イヌ科

9. *Nyctereutes procyonoides viverrinus*

TEMMINCK

ホンドタヌキ

越畑

川後岩入(田圃)。足跡; 幡巻(県道脇)足(交通事故個体)。1996.11.24

勝田

池ノ頭(田圃)。足跡; 猿田(溜池流入口付近)。足跡。1997.10.13

志賀

向イ797付近(側溝内)。足跡。1997.10.15

将軍沢

八反田(田圃)。足跡。1996.11.17

菅谷

本宿(稲荷塚古墳)。1匹(発掘調査の際目撃。脇にある畑のシノ藪に逃げ込む)。植木弘。1990; 本宿(国立婦人教育会館敷地内)。1匹(病気にかかっていたらしく獣医師からもらった薬を飲ませた)。小澤勝。1996.3~4; 下石堂(都幾川左岸水際)。足跡。1997.3.8

千手堂

原(嵐山バイパスゴルフセンター付近)。数匹(親子らしい。ゴルフ練習場内を横切る。畑荒らしもするらしい。国道254号バイパスで2匹車に轢かれて死んだ)。1991.9.1(嵐山町報道第399号。平成3年9月号); 石堂(槻川橋付近河川敷)。1匹(死体。ウジがわいていた。HB約540mm, T170mm)。豊田浩二。1996.3.31

遠山

木ノ下(水田内)足跡。宮前。足跡; 山根。足跡; 坂下。足跡。1996.10.27

平沢

遠道797付近(ハイタッチ双葉裏休耕田)。足跡。1997.10.11

古里

神伝田(田圃)。1匹(小川町西古里方面の山へ逃げ去る)。田島栄定。1995; 馬内。足跡。爪痕(カキの幹)。1997.11.8

吉田

大谷2316-1付近。足跡。1997.3.6; 社宮寺。足跡。1997.12.13

10. *Vulpes vulpes japonica* GRAY

ホンドキツネ

越畑

東山(越畑城跡)。1匹(関越自動車道に架かる歩道橋を走り抜ける際に糞をした。1:30PM)。島崎守男。1996.9.24

杉山

城山。雁城(杉山城跡周辺で良く目撃される。城跡内に巢穴があり現在も生息している)。植木弘。1995.4~5

太郎丸

田圃脇。1匹(夜間かなり大きい個体が車の前を横切る)。中村寧。1996.7

広野

中郷。1匹(民家の庭先。チャボを狙っているらしい)。宮本敬彦。1996.3; 下郷(田の周辺)。1匹(目撃)。植木弘。1996.4~5

吉田

雨ヶ谷戸1470付近。1匹(草が刈られている場所を横切って藪に消えた。2:30PM)。1997.10.11

Mustelidae イタチ科

11. *Martes melampus melampus* WAGNER

ホンドテン

広野

広野926 (自宅の庭先) .1 匹 (黄茶色の成獣が何かを見据えていた) .宮本敬彦 1990 頃; なお, 同所では 1950 年頃にテンの親子を目撃. また, 明治の末に広野の神社の森にテンが住んでいて, それを福田村 (現在の滑川町) の猟師が鉄砲で撃ち, 大変叱られたという話が伝わっている.

12. *Mustela sibirica itatsi* TEMMINCK

ホンDOIタチ

越畑

上串引 (沼下の田圃) .糞 .1996.11.24

鎌形

大平 (大平山登山道標高120 m付近) .糞; 細原, 糞; 横吹, 糞 (タール状) ; 1997.2.9; 東落合 (槻川右岸) .足跡 .1997. 4 .12

志賀

向イ 797 付近 (側溝内) .足跡 .1997.10.15

菅谷

下石堂 (都幾川河川敷) .1 匹 (菅谷館跡方面へ逃げる) .豊田浩二 .1995. 6 .7; 下石堂 (ホテルの里休憩所付近) .糞 (昆虫を含む) .1997. 2 .9; 下石堂 (都幾川左岸水際) .足跡 .1997.3.8

千手堂

比丘尼山 (大平山登山道標高140 m .160 m付近) .糞 (昆虫と哺乳類の毛を含む) .1997.2.9

遠山

木ノ下 (水田内) .足跡; 宮前, 足跡 .1996.10.27

平沢

入 (白山神社付近) .糞 .1996.12.9; 遠道 797 付近 (ハイタッチ双葉裏休耕田) .足跡 .1997.10.11

古里

蟹沢 (柏木沼付近) .糞 .1996.11.24

Viverridae ジャコウネコ科

13. *Paguma larvata* HAMILTON-SMITH

ハクビシン

平沢

北山 (大沼, ハイタッチ双葉付近, 国道 254 号路上) .1 匹 (交通事故死体) .1997.5.18

嵐山町南部の鳥類 (中間報告)

小杉昭光

この調査は嵐山町博物誌編さんのための基礎資料を得ることを目的に行っている調査である。

調査は1996年のなかばより4年計画で始められたもので、現在も調査を実施している所であるが、約2年を終わるにあたり、これまでの調査結果の中から嵐山町南部の鳥類に関する調査結果をまとめて中間報告するものである。

調査した地域は環境庁の示した3次メッシュ区分に従えば、地形図「武蔵小川」の33.34.35.36.43.44.45.46.の8メッシュであるが、嵐山町の大字名でいうと遠山、千手堂、菅谷と鎌形、平沢の一部である。

調査の方法は主としてロードサイドセンサスによった。調査は1996年10月27日より1997年12月29日までの間に11回の調査を行い、その結果27科45種の鳥類の生息を確認した。

この45種の大部分は「村落の鳥」というか「里山の鳥」といえるもので、都幾川、槻川の流れがありそこには広い礫の河原や中州が見られるが水辺の鳥は意外にすくなかった。以下確認出来た45種について簡略に記述するが、その配列の順序や学名は日本鳥学会編の日本鳥類目録第五版によった。

また、観察記録は観察地をメッシュ番号と大字名を記し、その後に観察年月日、観察個体数を記した。

嵐山町南部の鳥類目録

カイツブリ目 **PODICIPEDIFORMES**

カイツブリ科 **Podicipitidae**

1. カイツブリ *Podiceps ruficollis* (PALLAS)
池・沼で繁殖する鳥だが巣や幼鳥は見えていない。
武蔵小川 45 (千手堂) '97.4.12.1; '97.8.15.3;

ペリカン目 **PELECANIFORMES**

ウ科 **Phalacrocoracidae**

1. カワウ *Phalacrocorax carbo* (LINNAEUS)
都幾川、槻川の上空を飛ぶ。
武蔵小川 35 (鎌形) '97.12.29.1;
武蔵小川 36 (菅谷) '97.3.28.1;

コウノトリ目 CICONIFORMES

サギ科 Ardeidae

1. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* (LINNAEUS)
武蔵小川 35 (鎌形) '97.6.14.1;
武蔵小川 45 (千手堂) '97.8.15.2;
幼鳥は見たが繁殖は確認していない。
2. ダイサギ *Egretta alba* (LINNAEUS)
槻川でみかけた。冬季も残留しているものあり
武蔵小川 35 (鎌形) '97.6.14.1; '97.10.1.1;
'97.12.29.1;
3. コサギ *E. garzetta* (LINNAEUS)
個体数は少ないが周年みられる、繁殖地の有無は
確認されていない。
武蔵小川 35 (鎌形) '97.5.10.2; '97.6.14.1;
武蔵小川 36 (菅谷) '97.10.1.1;

ガンカモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 Anatidae

1. マガモ *Anas platyrhynchos* LINNAEUS
武蔵小川 35 (鎌形) '97.6.4.1;
2. カルガモ *A. poecilorhyncha* FORESTER
留鳥として周年生息している。
武蔵小川 35 (鎌形) '97.4.12.2; '97.5.10.1;
武蔵小川 36 (菅谷) '97.5.10.1;
武蔵小川 45 (千手堂) '97.8.15.2;

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 Accipitridae

1. トビ *Milvus migrans* (BODDAERT)
時々槻川沿いの地の上空に飛来する。
武蔵小川 43 (遠山) '96.10.27.1; '97.10.11.1;
なお、槻川沿いの地は春から夏にかけても何回か
調査したが、その時期には見かけられなかった。

ハヤブサ科 Falconidae

1. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* LINNAEUS
武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.1;
上空を飛ぶ姿を目撃した。

キジ目 GALLIFORMES

キジ科 Phasianidae

1. コジュケイ *Bambusicola thoracica* (TEMMINCK)
武蔵小川 34 (鎌形) '97.4.12.1;
武蔵小川 35 (菅谷) '97.4.12.1;
〃 (千手堂) '97.10.1.1;
武蔵小川 36 (菅谷) '97.5.10.1;
武蔵小川 44 (平沢) '97.8.15.4;
武蔵小川 45 (千手堂) '97.10.1.1;
普通小群を作って生活していて、雑木林の林床の
草地で餌をあさっている。

2. キジ *Phasianus colchicus* LINNAEUS

- 武蔵小川 35 (千手堂) '97.4.12.1;
武蔵小川 45 (千手堂) '97.5.10.1;
〃 (平沢) '97.8.15.1 ♂;
〃 〃 '97.10.11.1 ♂;

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 Charadriidae

1. イカルチドリ *Charadrius placidus* GRAY
武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.1;

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 Columbidae

1. キジバト *Streptopelia orientalis* (LATHAM)
武蔵小川 33 (遠山) '96.10.27.3;
武蔵小川 34 (鎌形) '97.6.14.21;
武蔵小川 35 (菅谷) '97.2.25.3;
〃 (千手堂) '97.3.28.1;
〃 (鎌形) '97.4.12.1;
〃 (鎌形) '97.6.14.5;
〃 (千手堂) '97.6.14.2;
〃 (千手堂) '97.10.1.4;
〃 (千手堂) '97.12.29.2;
武蔵小川 36 (菅谷) '97.3.28.1; '97.5.10.2;
'97.6.14.1; '97.10.1.1;
'97.12.29.3;
武蔵小川 43 (遠山) '96.10.27.1; '97.10.11.1;
武蔵小川 44 (遠山) '96.10.27.2;
〃 (平沢) '97.8.15.5;
〃 (遠山) '97.10.11.1;
〃 (平沢) '97.10.11.1;
〃 (千手堂) '97.10.11.3;
武蔵小川 45 (千手堂) '97.1.11.1; '97.3.28.3;
'97.4.12.1; '97.5.10.5;
'97.8.15.6; '97.10.1.8;
'97.10.11.3;
〃 (平沢) '97.8.15.3;
〃 (菅谷) '97.10.1.1;
武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.2; '97.8.15.2;
'97.10.1.6;

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 Cuculidae

1. ホトトギス *Cuculus poliocephalus* LATHAM
武蔵小川 36 (菅谷) '97.6.14.1;

アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 Apodidae

1. アマツバメ *Apus pacificus* (LATHAM)
武蔵小川 34 (鎌形) '97.4.12.1; 大平山上空

- ブッポウソウ目 **CORACIIFORMES**
- カワセミ科 **Alcedinidae**
1. カワセミ *Alcedo atthis* (LINNAEUS)
 武蔵小川 34 (鎌形) '97.6.14.-3;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.-1; '97.12.29.-1;
- キツツキ目 **PICIFORMES**
- キツツキ科 **Picidae**
1. アオゲラ *Picus awokera* TEMMINCK
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.5.10.-1;
 武蔵小川 43 (遠山) '97.10.11.-1;
2. コゲラ *Dendrocopos kizuki* (TEMMINCK)
 武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.-1; '97.4.12.-1;
 いずれも大平山にて
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.10.1.-1; '97.12.29.-1;
- スズメ目 **PASSERIFORMES**
- ヒバリ科 **Alaudidae**
1. ヒバリ *Alauda arvensis* LINNAEUS
 武蔵小川 35 (鎌形) '97.3.28.-1;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.4.12.-2; '97.6.14.-1;
- ツバメ科 **Hirundinidae**
1. ツバメ *Hirundo rustica* LINNAEUS
 武蔵小川 35 (菅谷) '97.4.12.-2; '97.5.10.-2;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.4.12.-2; '97.5.10.-3;
 '97.6.14.-4;
 武蔵小川 44 (平沢) '97.8.15.-6;
 武蔵小川 45 (平沢) '97.8.15.-16;
 ♪ (千手堂) '97.8.15.-18;
 武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.-5; '97.5.10.-7;
 '97.6.14.-3; '97.8.15.-25;
- セキレイ科 **Motacillidae**
1. キセキレイ *Motacilla cinerea* TUNSTALL
 武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.-1;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.1.11.-1; '97.2.25.-2;
 武蔵小川 44 (遠山) '96.10.27.-1;
2. ハクセキレイ *M. alba* LINNAEUS
 武蔵小川 35 (鎌形) '97.3.28.-3; '97.12.29.-2;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.-1; '97.3.28.-1;
 '97.12.29.-2;
 武蔵小川 45 (千手堂) '97.12.29.-1;
3. セグロセキレイ *M. grandis* SHARPE
 武蔵小川 34 (鎌形) '97.6.14.-1;
 武蔵小川 35 (菅谷) '97.2.25.-2;
 ♪ (鎌形) '97.3.28.-2; '97.6.14.-4;
 ♪ (千手堂) '97.4.12.-1; '97.6.14.-3;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.-4; '97.3.28.-1;
 '97.4.12.-1; '97.5.10.-5;
- '97.6.14.-2; '97.12.29.-4;
 武蔵小川 44 (遠山) '96.10.27.-2;
 武蔵小川 45 (千手堂) '97.8.15.-1; '97.10.1.-1;
 '97.12.29.-1;
4. ビンズイ *Anthus hodgsoni* RICHMOND
 武蔵小川 46 (菅谷) '97.12.29.-5;
 ヒヨドリ科 **Pycnonotidae**
1. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (TEMMINCK)
 嵐山町を始め各地に広く分布している鳥で、調査した8区画のすべての区画で生息を確認した。
 武蔵小川 33 (遠山) '96.10.27.-7; '97.10.11.-2;
 武蔵小川 34 (鎌形) '97.4.12.-3; '97.5.10.-1;
 '97.6.14.-1;
 武蔵小川 35 (菅谷) '97.1.11.-1; '97.2.25.-2;
 '97.4.12.-2; '97.5.10.-1;
 ♪ (千手堂) '97.3.28.-1;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.1.11.-1; '97.2.25.-1;
 '97.3.28.-3; '97.4.12.-3;
 '97.5.10.-5; '97.10.1.-4;
 '97.12.29.-11;
 武蔵小川 43 (遠山) '96.10.27.-5; '97.10.11.-2;
 武蔵小川 44 (遠山) '96.10.27.-1;
 ♪ (平沢) '97.8.15.-3; '97.10.11.-1;
 ♪ (千手堂) '97.5.10.-3; '97.10.11.-2;
 武蔵小川 45 (菅谷) '97.1.11.-4;
 ♪ (平沢) '97.8.15.-2; '97.10.11.-2;
 ♪ (千手堂) '97.1.11.-2; '97.4.12.-1;
 '97.8.15.-13; '97.10.1.-2;
 '97.12.29.-5;
 武蔵小川 46 (菅谷) '97.3.28.-1; '97.4.12.-4;
 '97.5.10.-1; '97.10.1.-3;
 '97.12.29.-7;
- モズ科 **Laniidae**
1. モズ *Lanius bucephalus* TEMMINCK & SCHLEGEL
 武蔵小川 35 (菅谷) '97.1.11.-1; '97.2.25.-1;
 ♪ (鎌形) '97.4.12.-2;
 ♪ (千手堂) '97.10.1.-2;
 武蔵小川 36 (菅谷) '97.4.12.-1; '97.12.29.-2;
 武蔵小川 44 (遠山) '97.10.11.-1;
 武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.-1;
- ヒタキ科 **Muscicapidae**
- ツグミ亜科 **Turdinae**
1. ジョウビタキ *Phoenicurus aureus* (PALLAS)
 武蔵小川 33 (遠山) '96.10.27.-1 ♂;
 武蔵小川 35 (菅谷) '97.1.11.-1 ♂;
 武蔵小川 43 (遠山) '96.10.27.-1 ♂;
 武蔵小川 45 (千手堂) '97.12.29.-1 ♂;

2. ツグミ *Turdus naumanni* TEMMINCK

秋に日本海を越えて渡来する渡り鳥である。

武蔵小川 35 (菅谷) '97.1.11.3; '97.2.25.10;
'97.12.29.1;

ク (鎌形) '97.4.12.3;

ク (千手堂) '97.3.28.1; '97.12.29.1;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.1.11.2; '97.2.25.3;
'97.3.28.4; '97.4.12.1;
'97.12.29.4;

武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.8; '97.12.29.1;

ウグイス亜科 *Sylviinae*

1. ウグイス *Cettia diphone* (KITTLITZ)

ウグイスは早春の鳥のように思われているが、春から初夏にかけて良く囀っている。

武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.1; '97.3.28.3;
'97.4.12.6; '97.5.10.3;
'97.6.14.3;

ク (千手堂) '97.6.14.6;

武蔵小川 35 (鎌形) '97.3.28.1;

ク (千手堂) '97.4.12.2; '97.6.14.2;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.4.12.1; '97.5.10.1;
'97.6.14.2;

武蔵小川 45 (千手堂) '97.4.12.1; '97.5.10.1;

武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.1;

2. オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* (LINNAEUS)

武蔵小川 35 (鎌形) '97.6.14.1;

ヒタキ亜科 *Muscicapinae*

1. コサメビタキ *Muscicapa latirostris* RAFFLES

武蔵小川 45 (菅谷) '97.10.1.1;

エナガ科 *Aegithalidae*

1. エナガ *Aegithalos caidatus* (LINNAEUS)

武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.3;

シジュウカラ科 *Paridae*

1. シジュウカラ *Parus major* LINNAEUS

武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.1; '97.3.28.2;
'97.4.12.15; '97.6.14.2;

武蔵小川 35 (千手堂) '97.3.28.1;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.2; '97.4.12.1;
'97.12.29.2;

武蔵小川 45 (平沢) '97.10.11.2;

武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.4;

メジロ科 *Zosteropidae*

1. メジロ *Zosterops japonica* TEMMINCK & SCHLEGEL

武蔵小川 34 (鎌形) '97.1.11.1; '97.4.12.9;

武蔵小川 46 (菅谷) '97.12.29.2;

ホオジロ科 *Emberizidae*

1. ホオジロ *Emberiza cioides* BRANDT

雑木林の林縁や河原の草地によく見かけられる。

武蔵小川 33 (遠山) '96.10.27.2; '97.10.11.1;

武蔵小川 34 (鎌形) '97.6.14.6;

武蔵小川 35 (鎌形) '97.4.12.6;

ク (菅谷) '97.1.11.2; '97.2.25.2;
'97.4.12.2; '97.12.29.3;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.32; '97.3.28.10;
'97.4.12.8; '97.12.29.12;

武蔵小川 44 (遠山) '96.10.27.5;

武蔵小川 45 (千手堂) '97.1.11.1;

2. カシラダカ *Emberiza rustica* PALLAS

武蔵小川 33 (遠山) '96.10.27.3;

武蔵小川 35 (菅谷) '97.2.25.13;

ク (鎌形) '97.4.12.4;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.15; '97.3.28.6;
'97.4.12.4; '97.12.29.24;

武蔵小川 45 (千手堂) '97.3.28.6;

3. アオジ *Emberiza spodocephala* PALLAS

武蔵小川 35 (鎌形) '97.3.28.1;

ク (菅谷) '97.12.29.2;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.3.28.1;

アトリ科 *Fringillidae*

1. カワラヒワ *Carduelis sinica* (LINNAEUS)

飛翔時に翼の黄斑が鮮やかに見える特徴がある。
雑木林や草地で餌をあさっている。

武蔵小川 35 (菅谷) '97.1.11.5; '97.2.25.11;

ク (鎌形) '97.3.28.32;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.3.28.28; '97.5.10.1;
'97.12.29.2;

武蔵小川 44 (遠山) '97.5.10.12;

2. シメ *Coccothraustes coccothraustes* (LINNAEUS)

秋から冬にかけて姿を現す渡り鳥(冬鳥)である。
スズメよりやや大きい。

武蔵小川 35 (鎌形) '97.3.28.1;

武蔵小川 36 (菅谷) '97.2.25.2; '97.3.28.1;
'97.12.29.7;

武蔵小川 46 (菅谷) '97.4.12.1;

ハタオリドリ科 *Ploceidae*

1. スズメ *Passer montanus* (LINNAEUS)

最もよく知られている鳥で周年見られる鳥である。
秋にイネの穂をついばむので有害な鳥とよく
言われているが、春から初夏の繁殖期には多くの
昆虫類を捕食するし、また周年雑草の種子をよく
食べるという人間にとって有益となることもして
いる。

嵐山町のは虫類・両生類(中間報告)

松本充夫・須永治郎

1 はじめに

は虫類・両生類は、脊椎動物のなかでは比較的人家周辺の人の生活圏に近い場所で、人とかがわりながら生活している種類が多いと言える。近年では、ヘビ類やカエル類も場所によっては少なく、なかなかその姿を見ることができないようになってしまった。地方の都市化により生息場所を追われているのである。昔の農村の人家周辺では、草地や石垣、水田や畑地などでトカゲやヘビがよくみられ、このような場所が彼らの生活場所であり逃避場所でもあった。また、ヘビとカエルは天敵としてのかかわりもあり、一方が少なくなれば他方も少なくなると言う連鎖も考えられる。水田のカエルはヤマカガシが好む餌であることはよく知られている。しかし、現在では人々の生活も変化したことにより、昔と同じようなかかわりを持ってきた種類は少なくなってしまった。全般的にカエル類をはじめヘビ類も減少傾向にあるが、トウキョウダルマガエルやツチガエルの減少は、水田や農地の変遷と共に次第に姿を消しつつあるといえる。

このような現状をふまえて、今のうちに地域のは虫類・両生類相を明らかにし、現状の把握に努めそれらを後世に残すことが必要であると思われる。

人間生活にも影響が現れる環境汚染を、両生類は直接受ける種類が多いことから、身をもって私たちに知らせてくれる生き物といえる。

2 調査の概要

嵐山町は埼玉県内のほぼ中央部に位置し、その地形は丘陵・台地帯に属している。町の各地には低山がみられ、市街地から望むと一見、山里の様相を呈している。

手入れの行き届いた農地や耕作地も各地に見られるが、全体的に平地と山地の間の地域で、そのことが地形的特徴に現れていることから、嵐山町のは虫類・両生類を明らかにすることは、埼玉県中央部の台地・丘陵地帯のは虫類・両生類相を示すものとして興味を持たれる。

現在までの調査の結果、嵐山町の菅谷館跡や大平山地区の周辺において、は虫類2科2種類、両生類4科7種類の生息を確認した。

本報告書は、嵐山町の遠山地域と千手堂地域、菅谷館周辺の地域において、1996年4月と1997年3月から10月に調査を実施したものである。

1) 調査結果

(1) 現地調査では、特に低山に囲まれている谷津やそこに発達する水田、水田の側流、流路、用水路、溜め池、池沼、河川等の水域を主として調査した。これらの場所では特に両生類の生息確認を行い、は虫類に関してはさらに乾燥地にも生息することから草地や山地の林縁部、林道、水田の畦道、一般の道路など広く調査を進めた。

は虫類と両生類は、互いに「食うものと食われるもの」という天敵としての宿命があることから、同一の生息環境において目撃、確認されることも希ではない。また、目撃しやすい場所に出現する時期が限られている種類、例えばトウキョウサンショウウオのような仲間もあり、これらに関しては出現期を逸することのないような調査が必要で、各地の水田や流路などの水域を対象とした。

その結果、現地で確認できた種類を以下に示す。

は虫類

- ・カナヘビ (*Takydromus tachydromoides* (SCHLEGEL))
- ・ヤマカガシ (*Rhabdophis tigrinus tigrinus* (BOIE))

両生類

- ・トウキョウサンショウウオ (*Hynobius nebulosus tokyoensis* TAGO)
- ・アズマヒキガエル (*Bufo japonicus formosus* BOULENGER)
- ・アマガエル (*Hyla japonica* GUNTHER)
- ・ニホンアカガエル (*Rana japonica japonica* GUNTHER)
- ・ヤマアカガエル (*Rana ornativentris* WERNER)
- ・トウキョウダルマガエル (*Rana porosa* COPE)
- ・ウシガエル (*Rana catesbeiana* SHAW)

(2) 各調査地における観察事象

①菅谷館跡周辺では、1996年4月にオオムラサキの森付近の堀内の湿潤な落葉上に現れたアマガエル (*Hyla japonica* GUNTHER, 1858) を確認し、撮影した。
②遠山地区では1997年3月25日に調査を行いトウキョウサンショウウオ (*Hynobius nebulosus tokyoensis* TAGO, 1931) の成体を確認した。

生息場所は、遠山寺の山門の行わきの池内で、水辺の落葉中に潜んでいた。また、本堂西側の池にも同様に確認することができた。千手堂の小千代山沼(図1)では、成体と卵嚢が確認されたが、いずれの場所においても個体数は少なかった。谷地区の吉野氏宅前では、赤井沼の東にあたる地点で卵塊を確認することができた。

ヤマアカガエル (*Rana ornativentris* WERNER, 1904) の卵塊が、遠山寺の南に位置する田圃周辺の側溝内において2地点で確認できた。さらに、蓮沼では水路の

流れ込みで確認できた。一方、谷地区でも本種の卵塊を確認できた。

ニホンアカガエル (*Rana japonica japonica* GUNTHER, 1858) の卵塊も谷地区で確認できたことにより、この地区では両種が混生していると思われる。

③千手堂地区・平沢地区では1997年4月12日に調査を行った。ここではトウキョウサンショウウオ (*Hynobius nebulosus tokyoensis* TAGO, 1931) を千手院と、蓮沼の流れ込みの側溝で確認できた。さらに、ヤマカガシ (*Rhabdophis tigrinus tigrinus* (BOIE, 1826)) も目撃することができた。

④遠山地区・千手堂地区では1997年10月1日に調査を行った。ここでは、は虫類として、ヤマカガシ (*Rhabdophis tigrinus tigrinus* (BOIE, 1826)) (図2) を3個体確認する事ができた。また、カナヘビ (*Takydromus tachydromoides* (SCHLEGEL, 1838)) (図3) も確認できた。

両生類では、トウキョウダルマガエル (*Rana porosa* COPE, 1868) (図4) を3個体確認し、ウシガエル (*Rana catesbeiana* SHAW, 1802) も確認した。また、谷地区においてもウシガエル (*Rana catesbeiana* SHAW, 1802) を確認した。

⑤平沢地区では1997年4月8日に調査を行い、トウキョウサンショウウオ (*Hynobius nebulosus tokyoensis* TAGO, 1931) の成体を確認した。確認個体は、平沢寺の東に位置する田圃のなかで落葉中に潜んでいたものである。カエル類ではアズマヒキガエル (*Bufo japonicus formosus* BOULENGER, 1883) の卵囊を大沼において確認した。

は虫類では、カナヘビ (*Takydromus tachydromoides* (SCHLEGEL, 1838)) を確認した。

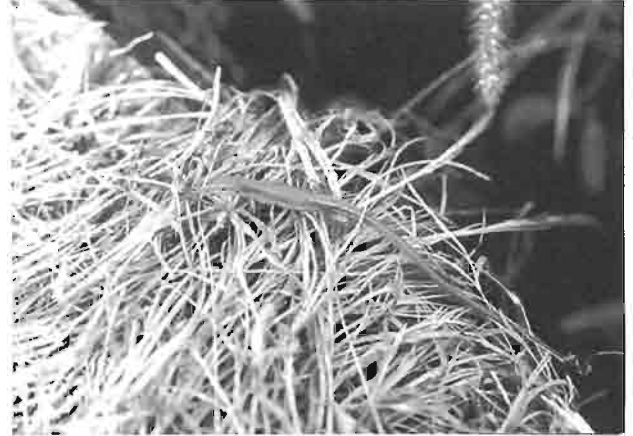
3 各種の概説

1) は虫綱 REPTILIA

Takydromus tachydromoides (SCHLEGEL, 1838) カナヘビ

全国的に分布している。最も普通にみられるトカゲであるが、ニホントカゲ *Eumeces latiscutatus* (HALLOWELL, 1860) と分布域を同じにするため、名前が混同されることがある。カナヘビは細長い体型で、非常に長い尾をもっている。体の表面は光沢がなく、かさかさしている感じがする。全長は20cm位の個体がみられる。背中は褐色で、腹面は白色をしている。藪や草地によく見られ、人家の庭先などにも現れる。よく人目に付くのは日向で休んでいる時で、枯れ木や石垣などでみられる。

埼玉県内でも広い地域でみることができる。



カナヘビ (遠山, 1997-10-17)

Rhabdophis tigrinus tigrinus (BOIE, 1826) ヤマカガシ

本州で最も普通にみられる種類。体色は褐色の地に不規則な黒い斑点が左右に並び、その間に赤色の模様が入り交じっている。一見すると、この赤い模様がよく目にとまる。体は60～120cm位で、より大型の個体も希に知られる。水田や河川の周囲などでよく見かけられるが、特にカエル類が生息する環境には本種が目撃される機会が多い。

埼玉県内でも、平地から山地にかけ普通にみられる。



ヤマカガシ (遠山, 1997-10-11)

2) 両生綱 AMPHIBIA

Hynobius nebulosus tokyoensis TAGO, 1931

トウキョウサンショウウオ

全国的には、関東地方や中部地方に生息していることが知られている。止水性の種類で、関東地方では2月の下旬から4月上旬頃に、水田や池沼に産卵のため現れる。繁殖期以外は陸上で生活し、谷津や溪流の落葉の下、朽ちた大木の下や岩の下など、湿潤なところに潜んでいる。夜行性で、昆虫の幼虫やミミズなどを捕食する。

成体の体長は7～10cmと小型の種類で、尾の長さは、他の種類と比較すると短い。

池沼などに産み付けられた卵嚢はバナナのような三日月型をしており、長さが10~13cmの大きさとなる。卵嚢内の卵は3~4週間で成長し卵嚢から幼生がでてくる。その後、7~8月にかけて変態し、以後、陸上生活に移行する。

埼玉県内では、比企郡を中心に低山の山麓や丘陵地に分布する。



トウキョウサンショウウオの成体と卵嚢 (千手堂,1997:2:25)

Bufo japonicus formosus BOULENGER, 1883

アズマヒキガエル

背面の体色は、褐色から黒褐色の個体が見られる。体長は9~13cm位でカエルの中ではやや大型。繁殖期以外は陸上でみる機会が多い。以外と人家周辺にも出没するので、名前はよく知られている。日中は草むらや倒木の下、石の下などに潜んでいる。

繁殖期は3~4月頃で、この頃、池沼に多数の個体が現れ、雌を奪い合う光景は「カエル合戦」などといわれている。卵嚢は細長いひも状で、その中に卵が、2500~8000個包まれているといわれている。池沼や人工池などの止水に産卵する。

Hyla japonica GUNTHER, 1858 アマガエル

北海道・本州・四国・九州に分布する。小型のカエルとして人々になじみが深い普通の種類。体色はよく変え、緑色や灰色味を帯びた個体など変化が多い。体長は2.5~4cm位。産卵は5~7月にかけて水田などにバラバラに産む。夏になると小ガエルが上陸し、秋までには育ち冬を越す。遅く産卵された個体は、幼生のまま越冬するという。

埼玉県内の分布は、奥秩父の山岳地をのぞいた県内各地に分布する。

Rana japonica japonica GUNTHER, 1858 ニホンアカガエル

本州・四国・九州の平野から丘陵地にかけて分布する。体の背面にある背側線はまっすぐで、鼓膜の後方でも(内側には)曲がらない。体長は雄で4~5cm、

雌はやや大きく5~7cm位。雄は、前肢の親指の付け根に灰色または黒色のたこ(婚姻瘤)があり、雌と区別ができる。普通、水田のまわりに草むらに多いが、池沼や河川などにもみられる。早春の頃、日当たりのよい水田や池沼などの止水域に産卵することが多い。卵はひとかたまりの卵塊となり、卵の粒は黒い。

埼玉県内での分布は、平地から丘陵地にかけてみられ、台地・丘陵地帯(具体的には八高線沿いの地域)が本種とヤマアカガエルとの混生地帯となっているようである。秩父山地では、今までに記録がないようである。

Rana ornativentris WERNER, 1904 ヤマアカガエル

本州・四国・九州に分布する。体の背面にある背側線が、鼓膜のまわりの黒色斑と離れる部分でそれぞれ内側に曲がる特徴がある。産卵は雪解けと同じ頃といわれ、水田や池沼の水たまりに現れて2月から3月頃産卵を行う。その後、春遅くから秋にかけては、森林の地上で生活し、雨上がりには林道などで見かけることがある。

山沿いの地域に分布し、埼玉県内でも秩父山地や外秩父山地を主に分布する。台地から丘陵地帯より山地にかけて生息し、嵐山町では、平地を主に分布しているニホンアカガエルとの混生地となっているようである。

Rana porosa COPE, 1868 トウキョウダルマガエル

分類学上亜種として位置づけられ、トノサマガエルとダルマガエルの中間的形態をしているといわれている。



トウキョウダルマガエル (遠山,1997:10:14)

る。体の色彩には変異が多く、トノサマガエルやダルマガエルに似た個体もみられることが知られている。繁殖期は5~7月で、水田や池沼の止水域に産卵する。関東地方をはじめ、福島、宮城、岩手、新潟や長野、静岡に分布(環境庁1993)すると言われている。

埼玉県内の分布は、秩父盆地やその周辺、上武山地、外秩父山地やその周辺に広く分布する。

Rana catesbeiana SHAW,1802 ウシガエル

帰化動物であるが、現在の日本産のカエル類では最も大型に成長する。鳴声が牛に似ていることからウシガエルと言われている。体長は15~20cm位で、別名、食用蛙とも言われる。普通、池沼の水辺で休んでいることが多いが、人が近づくと敏感に反応して水中へ逃げ込む。昭和40年頃、県内の東部や南部の平坦地の水域に広く生息していたと言われている。産卵は6~7月に行われ、孵化した幼生は一冬を越し、翌年の夏に体長12cm位になって変態しカエルになる。この頃は、水辺に多数の変態直後の個体が群れていることがある。これらの中には尾がまだ完全に消えきらないようなものもみられる。

埼玉県内でも、平地から丘陵、山地にかけての広い範囲の止水域に生息している。

4 まとめ

現在までの調査地は嵐山町の一部にすぎず、そこから得られた情報もまだ少ないと言えるが、とりあえずこれまでに確認できた種類や、調査時の観察事象などをまとめた。

①トウキョウサンショウウオは3月25日の調査やその後の調査で、成体及び卵囊を確認することができた。このことから、本種の繁殖期は3月上旬頃からはじまると推定され、この頃にはすでに成体が池沼やその周囲に集結しているとおもわれる。従って今後は、いつ頃、本種が山地から移動を始め、産卵のための池沼に現れるのか、また、おそらく直接山地から産卵のための水域(池沼)に集結するというのではなく、産卵場の池沼の付近で一時的に入水の機会をうかがっている時間があると思われることから、これらの生活史を調べる必要がある。

②カエル類では、アカガエル科のニホンアカガエルとヤマアカガエルの2種が成体や卵塊で同一地域で発見されたことから、これらの2種が混生していると思われる。これは両種の埼玉県内における分布の境界が、台地・丘陵地帯を境にして、これより山地にはヤマアカガエルが、また、これより平地にはニホンアカガエルが生息分布しているということになり、嵐山町におけるこの2種類の分布状況を精査し、境界域が確認できるか、あるいは混生地域となっているのかなど、2種間における分布状況の把握が必要である。

5 目録(生息確認種)

目録作成は環境庁(1993)を参考とした。また、和名の後に記した記録は「生息確認地・年・月・日」とした。

REPTILIA は虫綱

SQUAMATA トカゲ目

Lacertidae カナヘビ科

Takydromus tachydromoides (SCHLEGEL) カナヘビ
平沢寺・1997-4-8、遠山・1997-10-11

Colubridae ヘビ科

Rhabdophis tigrinus tigrinus (BOIE) ヤマカガシ
平沢・1997-4-12、遠山・1997-10-11

AMPHIBIA 両生綱

CAUDATA サンショウウオ目

Hynobiidae サンショウウオ科

Hynobius nebulosus tokyoensis TAGO トウキョウサンショウウオ
遠山寺・1997-3-25、小千代沼・1997-3-25、谷・1997-3-25、赤井沼・1997-3-25
平沢寺(水田)・1997-4-8、千手院・1997-4-12、蓮沼(側溝)・1997-4-12

SALIENTIA カエル目

Bufonidae ヒキガエル科

Bufo japonicus formosus BOULENGER アズマヒキガエル
大沼・1997-4-8(卵囊)

Hylidae アマガエル科

Hyla japonica GUNTHER アマガエル
菅谷館跡・1996-4

Ranidae アカガエル科

Rana japonica japonica GUNTHER ニホンアカガエル
谷・1997-3-25

Rana ornativentris WERNER ヤマアカガエル
遠山寺(水田側溝)・1997-3-25、蓮沼(流れ込み)・1997-3-25、谷・1997-3-25

Rana porosa COPE トウキョウダルマガエル
遠山・1997-10-11

Rana catesbeiana SHAW ウシガエル
遠山(谷の沼)・1997-10-11

6 文献

環境庁(1993). 日本産野生生物目録 一 本邦産野生動物植物の種の現状一. 脊椎動物編. : 80pp.

千石正一(1979). 原色日本両生・は虫類. 家の光協会. : 206pp.

嵐山町の魚類・水生動物調査（中間報告）

金澤 光

嵐山町は比企丘陵に位置し、槻川・都幾川及び市野川などの河川及び農業用水路とため池群が散在している。標高から推察すると中下流域を生息空間にしている魚類・水生生物相である。

比企丘陵の過去の知見としては、魚類では都幾川1科2種、槻川8科22種、市野川8科25種、滑川7科21種が確認されている。

平成8年から始まった調査では、これまでに十分な調査は行っていないが、魚類4科9種、甲殻類2科3種、軟体動物2科3種が確認された。

過去に嵐山町で確認された魚類及び水生動物の目録を以下にとりまとめた。

円口類 CYCLOSTOMATA

ヤツメウナギ目 PETROMYZONTIFORMES

ヤツメウナギ科 Petromyzonidae

スナヤツメ *Lampetra (Lethenteron) reissneri* (DYBOWSKI)

魚類 PISCES

ウナギ目 ANGUILLIFORMES

ウナギ科 Anguillidae

ウナギ *Anguilla japonica* TEMMINCK et SCHLEGEL

サケ目 SALMONIFORMES

キュウリウオ科 Osmeridae

ワカサギ *Hypomesus transpacificus nipponensis*

MCALLISTER

アユ科 Plecoglossidae

アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* TEMMINCK et SCHLEGEL

サケ科 Salmonidae

サケ亜科 Salmoninae

ニジマス *Salmo (Oncorhynchus) mykiss* (WALBAUM)

コイ目 CYPRINIFORMES

コイ科 Cyprinidae

ハエジャコ亜科 Danioninae

カワムツ *Zacco temmincki* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

オイカワ *Z. platypus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ハス *Opsariichthys uncirostris* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ウグイ亜科 Leuciscinae

ウグイ *Leuciscus (Tribolodon) hakonensis* GUNTHER

マルタウグイ *L. (T.) brandi* (DYBOWSKI)

アブラハヤ *Phoxinus lagowski steindachneri* SAUVAGE

ソウギョ *Ctenopharyngodon idellus* (CUVIER et VALENCIENNES)

アブラミス亜科 Abramidinae

ハクレン *Hypophthalmichthys molitrix* (CUVIER et VALENCIENNES)

モロコ亜科 Barbinae

タモロコ *Gnathopogon elongatus elongatus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ヒガイ亜科 Sarcocheilichthyinae

モツゴ *Pseudorasbora parva* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ビワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus microoculus* MORI

カマツカ亜科 Gobioninae

カマツカ *Pseudogobio (Pseudogobio) esocinus esocinus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ニゴイ *Hemibarbus labeo barbatus* (PALLAS)

コイ亜科 Cyprininae

コイ *Cyprinus carpio* LINNAEUS

キンブナ *Carassius carassius* subsp.1 (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ゲンゴロウブナ *C. cuvieri* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ギンブナ *C. gibelio langsdorfi* (VALENCIENNES)

タナゴ亜科 Acheilognathinae

ヤリタナゴ *Tanakia lanceolata* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ミヤコタナゴ *T. tanago* TANAKA

タイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* (KNER)

ドジョウ科 Cobitidae

ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* CANTOR

シマドジョウ *Cobitis biwae* JORDAN et SNYDER

ホトケドジョウ *Lefua costata echigonia* JORDAN et SNYDER

ナマズ目 SILURIFORMES

ギギ科 Bagridae

ギバチ *Pseudobagrus (Pseudobagrus) tokiensis* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ナマズ科 Siluridae

ナマズ *Silurus asotus* LINNAEUS

ダツ目 BELONIFORMES

メダカ科 Adorianichthyidae

メダカ *Oryzias latipes* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

スズキ目 PERCIFORMES

タイワンドジョウ科 Channidae

カムルチー *Channa argus* CANTOR

サンフィッシュ科 Centrarchidae

オオクチバス *Micropterus salmoides salmoides* (LECEPÈDE)

ブルーギル *Lepomis macrochirus* RAFINESQUE

ハゼ亜目 GOBIOIDEI

ハゼ科 Gobiidae

ハゼ亜科 Gobiinae

ヨシノボリ *Rhinogobius brunneus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

チチブ *Tridentiger obscurus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

ジュズカケハゼ *Chaenogobius laevis* (STEINDACHNER)

甲殻類 CRUSTACEA

背甲目 NOTOSTRACA

カブトエビ科 Triopsidae

カブトエビ *Triops longicaudatus* (LECONTE)

十脚類(エビ目) DECAPODA

ヌマエビ科 Atyidae

ヌカエビ *Paratya compressa improvisa* KEMP

テナガエビ科 Palaemonidae

スジエビ *Palaemon paucidens* DEHAAN

テナガエビ *Macrobrachium nipponense* (DEHAAN)

歩行亜目 REPTANTIA

アメリカザリガニ科 Astacidae

アメリカザリガニ *Procambarus clarki* (GIRARD)

サワガニ科 Potamonidae

サワガニ *Potamon (Geothelphusa) dehaani* (WHITE)

嵐山町の双翅類調査 (中間報告)

原 勝司

嵐山町教育委員会が嵐山町博物誌編さんのために行っている動物部会の調査において、平成8、9年度の調査で得られた双翅類(ハエ・アブの仲間)について報告する。

平成8年度は5回、のべ6地点、平成9年度は14回、のべ20地点について捕虫網によるスーピング調査を実施した。捕集したハエ、アブ類は乾燥標本にして保存し、後日同定した。

これまでに生息が確認されたのは18科92種で、ヤドリバエ科を中心に未同定のものが多い。また、普通種で確認されないものが多数あり、調査不足が原因と考えられ、今後さらに調査を充実する必要がある。

生息が確認された種は次のとおりである。

目 録

双翅目 DIPTERA

ケバエ科 Bibionidae

1. メスアカケバエ *Bibio rufiventris* WIEDEMANN

ミズアブ科 Stratiomyidae

1. アメリカミズアブ *Hermetia illucens* LINNAEUS
2. ルリミズアブ *Geosargus nipponensis* BIGOT
3. コウカアブ *Ptecticus tenebrifer* WALKER

ムシヒキアブ科 Asilidae

1. シオヤアブ *Promachus yesonicus* BIGOT
2. マガリケムシヒキ *Neoitamus angusticornis* LOEW
3. サキグロムシヒキ *Trichomachimus scutellaris* COQUILLET

ツリアブ科 Bombyliidae

1. ピロウドツリアブ *Bombylius major* LINNAEUS
2. スキバツリアブ *Villa limbata* COQUILLET
3. ホシツリアブ *Anthrax distigma* WIEDEMANN
4. ニトベハラボツリアブ *Systropus nitobei* MATSUMURA

コガシラアブ科 Acroceridae

1. シバカワコガシラアブ *Nipponcyrtus shibakawae* MATSUMURA

アシナガバエ科 Dolichopodidae

1. マダラアシナガバエ *Sciapus nebulosus* MATSUMURA

シヨクガバエ (ハナアブ) 科 Syrphidae

1. キイロナミホシヒラタアブ *Syrphus vitripennis* MEIGEN
2. ナミホシヒラタアブ *Metasyrphus nitens* ZETTERSTEDT
3. ヨコジマオオヒラタアブ *Dideoides latus* COQUILLET
4. クロヒラタアブ *Betasyrphus serarius* WIEDEMANN
5. キベリヒラタアブ *Xanthogramma sapporensis* MATSUMURA
6. ホソヒラタアブ *Episyrphus balteatus* DEGEER
7. ニセキアシマメヒラタアブ *Paragus tibialis* FALLEN
8. ツマグロコシボソハナアブ *Baccha apicalis* LOEW
9. ヤマトヒゲナガハナアブ *Chrysotoxum grande* MATSUMURA
10. スズキフタモンハナアブ *Ferdinandea cuprea* SCOPOLI
11. ニセスズキフタモンハナアブ *F. nigrifrons* EGGER
12. クロベッコウハナアブ *Volucella nigricans* COQUILLET
13. ホソモモブトハナアブ *Syrirta pipiens* LINNAEUS
14. ルリイロナガハナアブ *Xylota coquilletti* HERVE-BAZIN
15. シマハナアブ *Eristalis cerealis* FABRICIUS
16. ハナアブ *E. tenax* LINNAEUS
17. ホシメハナアブ *Lathyrphtalmus ocellaris* COQUILLET
18. オオハナアブ *Megaspis zonnata* FABRICIUS
19. アシブトハナアブ *Helophilus virgatus* COQUILLET
20. ミケモモブトハナアブ *Pseudomallota tricolor* LOEW

ミバエ科 Tephritidae

1. ミツマタハマダラミバエ *Paragastrozona japonica* MIYAKE
2. カボチャミバエ *Paradacus depressus* SHIRAKI

ベッコウバエ科 Dryomyzidae

1. ベッコウバエ *Dryomyza formosa* WIEDEMANN

ツヤホソバエ科 Sepsidae

1. ヒトテンツヤホソバエ *Sepsis monostigma* THOMSON

ヤチバエ科 Sciomyzidae

1. ヒゲナガヤチバエ *Sepedon sauteri* HENDEL

フトヒゲコバエ科 Cryptochaetidae

1. クロメマトイ *Cryptochaetum nipponense* TOKUNAGA

シヨウジョウバエ科 Drosophilidae

1. マダラメマトイ *Amiota okadai* MACA

フンバエ科 Scatophagidae

1. ヒメフンバエ *Scatophaga stercoraria* LINNAEUS

イエバエ科 Muscidae

1. イエバエ *Musca domestica* LINNAEUS
2. ノイエバエ *M. hervei* VILLENEUVE
3. ミドリハナバエ *Orthellia coerulia* WIEDEMANN
4. サシバエ *Stomoxys calcitrans* LINNAEUS
5. カガハナゲバエ *Dichaetomyia bibax* WIEDEMANN
6. ヤマトハナゲバエ *D. japonica* HORI et KURAHASHI
7. オオイエバエ *Muscina stabulans* FALLEN
8. モモグロオオイエバエ *M. angustifrons* LOEW
9. カトウハナゲバエ *Phaonia katoi* SHINONAGA et KANO
10. セマダラハナバエ *Graphomyia maculata* SCOPOLI
11. ヒメイエバエ *Fannia canicularis* LINNAEUS

クロバエ科 Calliphoridae

1. オオクロバエ *Calliphora lata* COQUILLET
2. ミヤマクロバエ *C. vomitoria* LINNAEUS
3. ケブカクロバエ *Aldrichina grahami* ALDRICH
4. フタオクロバエ *Triceratopyga calliphoroides* ROHDENDORF
5. イトウコクロバエ *Paradichosia itoi* KANO
6. オカザキコクロバエ *P. okazakii* KANO
7. *Pollenia argenticincta* SENIOR-WHITE
8. キンバエ *Lucilia caesar* LINNAEUS
9. ミドリキンバエ *L. illustris* MEIGEN
10. コガネキンバエ *L. ampullacea* VILLENEUVE
11. ニセミヤマキンバエ *L. bazini* SEGUY
12. ミヤマキンバエ *L. papuensis* MACQUART
13. スネアカキンバエ *L. porphyrina* WALKER
14. ヒツジキンバエ *Phaenicia cuprina* WIEDEMANN
15. ヒロズキンバエ *P. sericata* MEIGEN

16. ホホグロオビキンバエ *Chrysomya pinguis*
WALKER
17. ツマグロキンバエ *Stomorphina obsoleta* WIEDMANN

ニクバエ科 *Sarcophagidae*

1. ヤマトカスミニクバエ *Blaesoxipha japonensis* HORI
2. センチクバエ *Boettcherisca peregrina* ROBINEAU-DESVOIDY
3. クロニクバエ *B. septentrionalis* ROHDENDORF
4. シリグロニクバエ *Helicophagella melanura* MEIGEN
5. ゲンロクニクバエ *Parasarcophaga albiceps* MEIGEN
6. トラツメニクバエ *P. unguis* ROHDENDORF
7. ツシマニクバエ *P. tsushimae* SENIOR-WHITE
8. シリタカニクバエ *P. shiritakaensis* HORI
9. ナミニクバエ *P. similis* MEADE
10. ムサシノニクバエ *Sinonipponia musashinensis*
KANO et OKAZAKI
11. メッツゲルニクバエ *Phallosphaera metzgeri* KANO
et SHINONAGA
12. フィールドニクバエ *Pierretia uniseta* BARANOV
13. ホリニクバエ *P. horii* KANO
14. タカハシニクバエ *P. takahasii* KANO et OKAZAKI
15. カガニクバエ *P. kagaensis* HORI
16. ハナバチノスヤドリニクバエ *Brachycoma devia*
FALLEN

ヤドリバエ科 *Tachinidae*

1. マルボシヒラタハナバエ *Gymnosoma rotundatum*
LINNAEUS
2. アシナガハリバエ *Theralia nigripes* FALLEN
3. *Meriania melanopyga* ZIMIN
4. ブランコヤドリバエ *Exorista japonica* TOWNSEND
5. ヨコジマオオハリバエ *Servillia amurensis* ZIMIN
6. セスジハリバエ *Tachina nupta* RONDANI

嵐山町の蜂（中間報告）

南部敏明

嵐山町博物誌のための動物調査を始めて約2年が経過した。昆虫類のうちの蜂類を受け持って調査してきた。この間個人的な事由により、重要な5、6月の調査がほとんどできなかったことなど、不完全ではあるが、今までの記録を整理し、何が、いつ、どこで採集されているか、普通種でありながら記録していないのは何か、などを調べておくことは今後の調査に役立つと思われる。

1997年11月現在、嵐山町で採集された蜂は189種である。これは隣接した江南町の235種より少ないが、調査が途中であること、すべての時期に調査が行われていないことなどによると思われる、今後の調査により江南町に近い種類数は得られるものと思われる。平地の都市化が進んだ北本市では177種が採集されたのみであり、現在市町村単位で最も多くの種が得られている寄居町は384種である。これは埼玉県1065種の36%である。（嵐山町のは17.7%）

これらの4市町の科ごとの種類数の比較を表にしてみた。

科名	嵐山町	北本市	江南町	寄居町
ナギナタハナバチ	1			
ヒラタハナバチ				1
ミフシハナバチ	2	1	3	2
コンボウハナバチ		1	1	2
ハナバチ	7	8	23	26
キバチ	1			1
クビナガキバチ				3
ヤドリキバチ				1
クキバチ				2
コマユバチ	4	3	3	5
ヒメバチ	16	2	1	4
セダカヤセバチ	1		1	1
コンボウヤセバチ	2		1	2
シリアゲコバチ			1	2
アシプトコバチ	4	1	1	10
その他のコバチ	1	2		6
タマバチ		1	1	1
セイボウ	3	1	4	16
カマバチ		1	1	2
アリガタバチ	2	2	3	8
アリバチ	3		2	5
コツチバチ	1		2	9
ツチバチ	4	3	6	7
アリ	31	35	34	36
ベッコウバチ	7	11	11	13

科名	嵐山町	北本市	江南町	寄居町
ドロバチ	9	14	15	21
スズメバチ	11	12	11	13
アナバチ	20	32	43	91
ムカシハナバチ	2	-	3	5
コハナバチ	23	12	20	25
ヒメハナバチ	7	8	18	18
ハキリバチ	11	10	9	15
コシブトハナバチ	13	14	14	23
ミツバチ	4	3	3	5
合計	189	177	235	384

まだ調査の途中ではあるが、この表から考えられることをいくつか述べることにする。

蟻は地中に住むために少しの自然が残っていればその部分に生存していた個体群は残りやすく、昔の自然が保存されていることも多いと考えられる。4市町の蟻が31~36種と割合近い種類が採集されていることから本来の自然度は大きな差はなかったのではないかと考えられる。その後の開発、都市化等により多くの種が減少または絶滅したと思われるが、なかでも最も大きな影響を受けたのがアナバチ科であると考えられ、それがこの表にも現れている。寄居町は調査の時期も最も古く、筆者が居住しているため長期間にわたって調べている。したがってこれが現在の蜂相を表しているとは言えず、現在はこれだけの種類は採集できないだろう。

ハバチ、ヒメバチでも差があるが、これはまだ未同定のままになっている標本があり、採集されたすべてではない。同定は専門の方をお願いしているので、先方あるいは当方の都合によりすべてが同定されるのは難しい。また調査時期、回数により採集される種類数に差ができる。発生する時期の短いものは、その時期に調査に行かないとだめなので採集が難しいが、それぞれの地域で調査に差ができるのはしかたがない。

セイボウとドロバチが寄居町で多いが、セイボウの多くの種はドロバチに寄生するので、ドロバチが減るとセイボウも減ってしまう。これは他の寄生蜂についても言えることである。

ハナバチ類については特にヒメハナバチ類、ツツハナバチ類は出現時期が春早いので、その時期を逃すと採集出来ない。3月から4月にかけての時期は勤めているときはなかなか暇がとれず採集に出ない。場所によって採集した回数に差があるのでそれが採集された種類数に現れていると思う。1つの町内でも地面に巣を掘るハナバチのいる場所は限られている。

嵐山町の蜂目録 (1997年11月現在)

膜翅目 HYMENOPTERA

広腰亜目 SYMPHYTA

ミフシハバチ科 Argidae

1. アカスジチュウレンジ *Arge nigrinodosa* (MOTSCHULSKY)
2. ルリチュウレンジ *A. similis* (VOLLENHOVEN)

ハバチ科 Tenthredinidae

1. ハグロハバチ *Allantus luctifer* (SMITH)
2. セグロカブラハバチ *Athalia infumata* (MARLATT)
3. ニホンカブラハバチ *A. japonica* (KLUG)
4. クロムネハバチ *Lagidina irritans* (SMITH)
5. ツマジロクロハバチ *Macrophya apicalis* SMITH
6. クロハバチ *M. ugnava* SMITH
7. チャイロハバチ *Nesotaxonus flavescens* (MARLATT)

キバチ科 Siricidae

1. ニホンキバチ *Urocerus japonicus* (SMITH)

細腰亜目 APOCRITA

コマユバチ科 Braconidae

1. ムネアカトゲコマユバチ *Zombrus bicolor* (ENDERLEIN)
2. スズメヤドリコマユバチ *Snellenius theretrae* (WATANABE)
3. マツムラベッコウコマユバチ *Braunsia matsumurai* WATANABE
4. クロヒゲアカコマユバチ *Cremnops atricornis* (SMITH)

ヒメバチ科 Ichneumonidae

1. *Scambus divergens* UCHIDA et MOMOI
2. サッポロオナガバチ *Sychnostigma sapporensis* (UCHIDA)
3. キアシオナガトガリヒメバチ *Acroricnus ambulator ambulator* (SMITH)
4. キマグラマルヒメバチ *Colpotrochia nipponensis* UCHIDA
5. *Jezarotes tamanukii* UCHIDA
6. シロスジヒメバチ *Achais oratrius albizonellus* (MATSUMURA)
7. イヨヒメバチ *Amblyjoppa proteus satanas* (KRIECHBAUMER)
8. ナカノヒメバチ *Protichneumon nakanensis* (MATSUMURA)
9. *Pimpla nipponica* UCHIDA
10. *P. luctuosa* SMITH
11. *P. pluto* ASHMEAD
12. *Ichneumon generosus* SMITH

13. *I. sugiharai* UCHIDA
 14. *Xorides sapporensis* (UCHIDA)
 15. *Agrotheleutes lanceolatus* (WALKER)
 16. *Barichneumon fuscatus* (UCHIDA)
 セダカヤセバチ科 **Aulacidae**
 1. ホシセダカヤセバチ *Pristaulacus intermedius*
 UCHIDA
 コンボウヤセバチ科 **Gasteruptiidae**
 1. オオコンボウヤセバチ *Gasteruption jaculator*
 (LINNAEUS)
 2. ヒメコンボウヤセバチ *G. assectator* (LINNAEUS)
 アシプトコバチ科 **Chalcididae**
 1. キアシプトコバチ *Brachymeria lasus* (WALKER)
 2. ムネトゲアシプトコバチ *Haltichella nipponensis*
 HABU
 3. ハネマダラアシプトコバチ *Hockeria nipponica*
 HABU
 4. ツヤアシプトコバチ *Tainania hakonensis*
 (ASHMEAD)
 オナガコバチ科 **Torymidae**
 1. オナガアシプトコバチ *Podagrion nipponicum*
 HABU
 セイボウ科 **Chrysididae**
 1. ムツバセイボウ *Chrysis fasciata daphne*
 SMITH
 2. イラガセイボウ *Praestochrysis shanghaiensis*
 SMITH
 3. オオセイボウ *Stilbum cyanudrum pacificum*
 LINSENMAIER
 アリガタバチ科 **Bethylidae**
 1. ヌバタマアリガタバチ *Epyris* sp.F
 2. ヤマトヒメアリガタバチ *Epyris* sp.H
 アリバチ科 **Mutillidae**
 1. セツノアリバチ *Odontomutilla taiwaniana*
 nipponica TSUNEKI
 2. フタホシアリバチ *Trogaspidia pustulata* (SMITH)
 3. アリバチモドキ *Myrmosa nigrofasciata* YASUMATSU
 コツチバチ科 **Tiphiidae**
 1. アキコツチバチ *Tiphia autumnalis* ROHWER
 ツチバチ科 **Scoliidae**
 1. アカスジツチバチ *Carinoscolia fascinata fascinata*
 (SMITH)
 2. キオビツチバチ *Scolia oculata* (MATSUMURA)
 3. ヒメハラナガツチバチ *Campsomeriella anulata*
 anulata (FABRICIUS)
 4. キンケハラナガツチバチ *Campsomeris prismatica*
 SMITH
- アリ科 Formicidae**
1. ノコギリハリアリ *Amblyopone silvestrii* (WHEELER)
 2. オオハリアリ *Pachycondyla chinensis* (EMERY)
 3. メクラハリアリ *Cryptopone sauteri* (WHEELER)
 4. ニセハリアリ *Hypoponera sauteri* ONOYAMA
 5. ヒメハリアリ *Ponera japonica* WHEELER
 6. テラニシハリアリ *P. scabra* WHEELER
 7. イトウハリアリ *Proceratium itoi* (FOREL)
 8. キイロシリアゲアリ *Crematogaster osakensis* FOREL
 9. クロナガアリ *Messor aciculatus* (F.SMITH)
 10. カドフシアリ *Myrmecina nipponica* WHEELER
 11. シワクシケアリ *Myrmica kotokui* FOREL
 12. コツノアリ *Oligomyrmex yamatonis* TERAYAMA
 13. ヒラタウロコアリ *Pentasturma canina* BROWN et
 BOISVERT
 14. アズマオオズアリ *Pheidole fervida* F. SMITH
 15. アミメアリ *Pristomyrmex pungens* MAYR
 16. イガウロコアリ *Smithistruma benten*
 TERAYAMA, LIN et WU
 17. トフシアリ *Solenopsis japonica* WHEELER
 18. ウロコアリ *Strumigenys lewisi* CAMERON
 19. トビイロシワアリ *Teramorium caespitum*
 (LINNAEUS)
 20. ウメマツアリ *Vollenhovia emeryi* WHEELER
 21. シベリアカタアリ *Dolichoderus sibiricus* EMERY
 22. クロオオアリ *Camponotus japonicus* MAYR
 23. ムネアカオオアリ *C. obscuripes* MAYR
 24. イトウオオアリ *C. itoi* FOREL
 25. ミカドオオアリ *C. kiusiuensis* SANTSCHI
 26. クロヤマアリ *Formica japonica* MOTSCHULSKY
 27. ハヤシクロヤマアリ *F. hayashi* TERAYAMA et
 HASHIMOTO
 28. キイロケアリ *Lasius flavus* (FABRICIUS)
 29. クサアリモドキ *L. spathepus* WHEELER
 30. トビイロケアリ *L. niger* (LINNAEUS)
 31. アメイロアリ *Paratrechina flavipes* (F. SMITH)
 ベッコウバチ科 **Pompilidae**
 1. ヒメベッコウ *Auplopus carbonarius* (SCOPOLI)
 2. ミヤコヒメベッコウ *A. kyotensis* YASUMATSU
 3. タカチホヒメベッコウ *A. takachihoi* (YASUMATSU)
 4. オオモンクロベッコウ *A. samariensis* (PALLAS)
 5. モンベッコウ *Batozonellus maculifrons* (SMITH)
 6. オオシロフベッコウ *Episyron arrogans* (SMITH)
 7. *Poecilagenia suclptulata* (KOHL)
 ドロバチ科 **Eumenidae**
 1. ケブカスジドロバチ *Ancistrocerus melanocerus*
 (DALLA TORRE)

2. オオフトオビドロバチ *Anterhynchium flavomarginatum micado* (KARSCH)
3. フタスジスズバチ *Discoelius japonicus* PÉREZ
4. ミカドトックリバチ *Eumenes mikado* CAMERON
5. キアシトックリバチ *E. rubrofelmoratus* GIORDANI SOIKA
6. ムモントックリバチ *E. rubronotatus rubronotatus* PEREZ
7. エントツドロバチ *Orancistrocerus drewseni drewseni* (SAUSSURE)
8. スズバチ *Oreumenes decorata* (SMITH)
9. カタグロチビドロバチ *Stenodynerus chinensis simillimus* SK. YAMANE et GUSENLEITMER
- スズメバチ科 **Vespidae**
1. ムモンホソアシナガバチ *Parapolybia indica indica* (SAUSSURE)
2. フタモンアシナガバチ *Polistes chinensis antennalis* PÉREZ
3. キボシアシナガバチ *P. mandarinus* SAUSSURE
4. キアシナガバチ *P. rothneyi iwatai* VAN DER VECHT
5. コアシナガバチ *P. snelleni* SAUSSURE
6. コガタスズメバチ *Vespa analis insularis* DALLA TORRE
7. オオスズメバチ *V. mandarinia japonica* RADOSZKOWSKI
8. キイロスズメバチ *V. simillima xanthoptera* CAMERON
9. ヒメスズメバチ *V. ducalis pulchra* BUYSSON
10. クロスズメバチ *Vespula flaviceps lewisii* (CAMERON)
11. シダクロスズメバチ *V. shidai shidai* ISHIKAWA, SK. YAMANE et WAGNER
- アナバチ科 **Sphecidae**
1. ルリジガバチ *Chalybion japonicum* (GRIBODO)
2. キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum kohli* SICKMANN
3. コクローアナバチ *Isodontia nigella* (F. SMITH)
4. ヤマジガバチ *Ammophila infesta* F. SMITH
5. ミカドジガバチ *Hoplammophila aemulans* (KOHL)
6. ジンムプセン *Psen dzimm* TSUNEKI
7. ミシマイスカバチ *Passaloecus mishimaensis* TSUNEKI
8. アバタアリマキバチ *Pemphredon diervillae* IWATA
9. オオハヤバチ *Tachytes sinensis sinensis* F. SMITH
10. ケシジガバチモドキ *Trypoxylon exiguum exiguum* TSUNEKI
11. トゲジガバチモドキ *T. errans* SAUSSURE
12. エゾジガバチモドキ *T. figulus yezo* TSUNEKI
13. ヒメジガバチモドキ *T. fronticorne japonense* TSUNEKI
14. オオジガバチモドキ *T. malaisei* GUSSAKOVSKIJ
15. キスケジガバチモドキ *T. regium hatogayuum* TSUNEKI
16. マダラジガバチモドキ *T. varipes* PÉREZ
17. イワタギングチ *Ectemnius schlettereri japonicus* TSUNEKI
18. コシジロギングチ *Rhopalum succineicollarum* TSUNEKI
19. コイケギングチ *R. venustum* TSUNEKI
20. マルモンツチスガリ *Cerceris japonica* ASHMEAD
- ムカシハナバチ科 **Colletidae**
1. アシプトムカシハナバチ *Colletes patellatus* PÉREZ
2. スミスメンハナバチ *Hylaeus floralis* (SMITH)
- コハナバチ科 **Halictidae**
1. アカガネコハナバチ *Halictus aerarius* SMITH
2. ズマルコハナバチ *Lasioglossum affine* (SMITH)
3. シオカワコハナバチ *L. baleicum* (COCKERELL)
4. ホクダイコハナバチ *L. duplex* (DALLA TORRE)
5. ヒゲナガコハナバチ *L. trispine* (VACHAL)
6. ニッポンチビコハナバチ *L. japonicum* (DALLA TORRE)
7. *Lasioglossum pallilomum* (STRAND)
8. キオビコハナバチ *L. sibiriacum* (BLUTHGEN)
9. ヒラタチビコハナバチ *L. taeniellum* (VACHAL)
10. ケナガチビコハナバチ *L. villosulum* (STRAND)
11. *Lasioglossum* (El.) sp. H-4
12. ミヤマツヤコハナバチ *L. exiliceps* (VACHAL)
13. サビイロカタコハナバチ *L. mutilum* (VACHAL)
14. シロスジカタコハナバチ *L. occidens* (SMITH)
15. ハルノツヤコハナバチ *L. primavera* SAKAGAMI et MAETA
16. ズマルツヤコハナバチ *L. proximum* (SMITH)
17. フタモンカタコハナバチ *L. scitulum* (SMITH)
18. アマクサヤドリコハナバチ *Sphecodes amakusensis* YASUMATSU et HIRASHIMA
19. ヤマトヤドリコハナバチ *S. nipponicus* YASUMATSU et HIRASHIMA
20. シロウズヤドリコハナバチ *S. shirozui* TSUNEKI
21. モリノヤドリコハナバチ *S. silvicola* TSUNEKI
22. エサキヤドリコハナバチ *S. simillimus* SMITH
23. アオスジハナバチ *Nomia punctulata* DALLA TORRE
- ヒメハナバチ科 **Andrenidae**
1. ワタセヒメハナバチ *Andrena watasei* COCKERELL
2. アブラナマメヒメハナバチ *A. brassicae* HIRASHIMA

3. ヒコサンマメヒメハナバチ *A. hikosana* HIRASHIMA
4. カグヤマメヒメハナバチ *A. kaguya* HIRASHIMA
5. マメヒメハナバチ *A. minutula* (KIRBY)
6. ツヤマメヒメハナバチ *A. sublevigata* HIRASHIMA
7. ヤマトヒメハナバチ *A. yamato* TADAUCHI et HIRASHIMA

ハキリバチ科 **Megachilidae**

1. ハラアカハキリバチヤドリ *Euaspis basalis* (RITSEMA)
2. ヒメハキリバチ *Chalicodoma spissula* (COCKERELL)
3. ヒメトガリハナバチ *Coelioxys inermis* (KIRBY)
4. ヤノトガリハナバチ *C. yanonis* MATSUMURA
5. スミスハキリバチ *Megachile humilis* SMITH
6. キョウトハキリバチ *M. kyotensis* ALFKEN
7. バラハキリバチ *M. nipponica nipponica* COCKERELL
8. クズハキリバチ *M. oseuromonticola* HEDICKE
9. サカガミハキリバチ *M. remota sakagamii* HIRASHIMA et MAETA
10. ツルガハキリバチ *M. tsurugensis* COCKERELL
11. イマイツツハナバチ *Osmia jacoti* COCKERELL

コシブトハナバチ科 **Anthophoridae**

1. アスワキマダラハナバチ *Nomada aswensis* TSUNEKI
2. ウシヅノキマダラハナバチ *N. comparata* COCKERELL
3. ギンランキマダラハナバチ *N. ginran* TSUNEKI
4. ダイミョウキマダラハナバチ *N. japonica* SMITH
5. ニッポンキマダラハナバチ *N. nipponica* YASUMATSU et HIRASHIMA
6. コキマダラハナバチ *N. sheppardana okubira* TSUNEKI
7. シラキキマダラハナバチ *N. shirakii* YASUMATSU et HIRASHIMA
8. ミツクリヒゲナガハナバチ *Tetralonia mitsukurii* COCKERELL
9. ニッポンヒゲナガハナバチ *T. nipponensis* PÉREZ
10. イワタチビツヤハナバチ *Ceratina iwatai* YASUMATSU
11. キオビツヤハナバチ *C. flavipes* SMITH
12. ヤマトツヤハナバチ *C. japonica* COCKERELL
13. クマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* SMITH

ミツバチ科 **Apidae**

1. トラマルハナバチ *Bombus diversus diversus* SMITH
2. コマルハナバチ *B. ardena ardena* SMITH
3. ニホンミツバチ *Apis cerana japonica* RADOSZKOWSKI
4. セイヨウミツバチ *A. mellifera* LINNAEUS

以上25科189種である。採集月日、採集地は省略した。最終的な報告ではそれらも全て記録したい。

現在までの採集地は町内すべてを網羅しておらず、偏っている。1997年度は菅谷のオオムラサキの森近辺と大平山周辺を重点的にやることになっていたもので、どうしてもその2カ所が多くなった。その他、古里地区の重輪寺付近が多かった。また遠山地区の遠山寺、笛吹峠などでも調査している。時期が悪く収穫がなかったが、自然が残っていて、よい時期に行けばいろいろ採集できるのではないかと思われたのが、將軍沢、越畑地区などである。

ジガバチはヤマジガバチとサトジガバチという2種に分けられていてヤマの方が標高の高いところに生息する。古里の重輪寺で採集した1♀はヤマジガバチと同定できるもので、平地に近い場所なのに不思議である。ここでは他にジョウザンギングチバチを採集しているが、この種は埼玉県では1996年に大滝村の県立グリーンスクールで初めて採集したもので、北海道には多いが本州では標高の高いところでしかとれないと思われていた。偶然かもしれないが、この地区は注意する必要がある。

埼玉県で嵐山町のみで発見されている種はヒメバチ科で8種、ベッコウバチ科で1種ある。ヒメバチ科はまだ調査が進んでいないので、他でも採れているかもしれないが、ベッコウバチ科は採集したものはすべて見てもらっているが、今まで一度も見出されなかったもので、*Poecilagenia sculptulata* (KOHL) という種で、菅谷歴史資料館で1♀を採集している。なお、1998年3月に埼玉県昆虫誌(埼玉県の膜翅目)が発刊になったが、この9種はそこにはまだ収録されていない。

以上の外にはとりたてて珍しい蜂は得られていない。逆にたいていの場所で採集される普通種でまだ記録していないものにニホンチュウレンジ、カブラハバチ、シリアゲコバチ、クリタマバチ、クロハラカマバチ、ヒメアリ、サトジガバチ、ヒメコロギバチ、ヌカダカバチ、クララギングチバチなどがあり、今後の調査で採集されると思われる。

1998年度は古里地区、越畑地区を重点的に調査することになっているが、將軍沢、笛吹峠、遠山地区などその他も以上を参考にしていきたい。

嵐山町の蝶類（中間報告）

関根浩史・豊田浩二

筆者らは嵐山町博物誌の動物類調査において、鱗翅目昆虫のうちの蝶類について調査を進めている。平成8年より始まった動物部会の合同調査では、主に菅谷・大平山地域にて調査を行った。菅谷館跡やオオムラサキの森周辺では種類・個体数共に多く、山地性の種も見受けられた。調査はまだ不十分なものであり、嵐山町の蝶類相を明らかにするまでには到っていない。また今回、町内在住の蝶類研究者である杉田正之氏に協力していただき、筆者らが所蔵する物も含めて、多くの嵐山町産蝶類標本を見ずる機会を得た。これらの標本の中には、産地の環境が激変してしまい、記録自体が今となっては貴重な種や、偶発的に発生し、以後得られていないのも含まれていた。古い未発表の記録が多く、県内の蝶類の分布等を知る上でも貴重と思われる。そこで、今回は野外調査の記録に加え、これらの標本についても合わせて報告しておく。

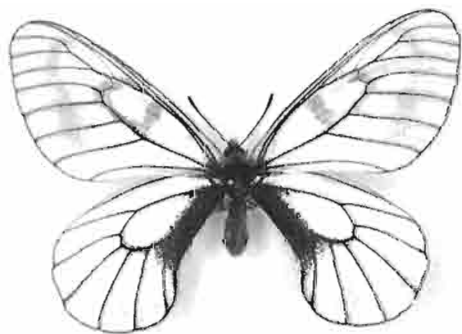
なお、標本の同定については、筆者らと杉田氏が行った。また、標本データの表示に関しては、種名（和名、学名）、採集地名〔大字名（山・河川等も含む）〕、個体数（雄雌の判別が容易なものに関しては♂、♀で表示し、他のものに関しては‘頭’を使用）、採集年月日の順で示し、採集者ごとにデータをまとめて最後に採集者名を示した。

嵐山町産蝶類目録

チョウ目 LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

・ウスバアゲハ *Parnassius glacialis* BUTLER



〔菅谷〕 1頭, 11.V.1986 : 1頭, 29.IV.1987 :
2頭, 5.V.1988 豊田採集, 1頭, 5.V.1987 :

4頭, 4.V.1988 関根採集, 2頭, 7.V.1987 :
2頭, 9.V.1987 杉田採集.

埼玉県内における本種の分布域拡大については、既にいくつかの報告があるが（吉田, 1986、荻野, 1988等）、嵐山町からの記録は無い。1986年、大字菅谷の都幾川河川敷において町内初の個体が得られたが、これは本種が分布を拡大した時期にはほぼ一致する。余談ではあるが、菅谷館跡周辺には、食草のムラサキケマンが多く、中には白い花をつける株が見られる。

・ホソオチョウ *Sericinus montela* (BREMER et GREY)



〔菅谷〕 1♂ 2♀♀, 16.VIII.1987 豊田採集.
1♂, 9.IX.1987 杉田採集.

本種は人為的に国内に持ち込まれたものと言うことだが、多摩丘陵などではかなり普通に見られるようになった。嵐山町では菅谷館跡にて1987年の1年間だけ発生した。既に生息していたジャコウアゲハとの餌（ウマノスズクサ）の奪い合いが予想されたが、翌年は本種の姿は全く見られず、以後発生していないようである。また、この年には県内の他の地域でも突然発生している。本種の様な移動能力の乏しい蝶が、土塁によって隔離された城跡の草地のみで突然発生する事は自然状態では考えにくい。恐らく何者かにより意図的に持ち込まれたものであろう。

・ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* KLUG
〔菅谷〕 1♂, 23.IX.1958 : 1♀, 7.IX.1997 関根
採集, 1♂, 12.VI.1978 杉田採集.

〔鎌形〕 1♀, 3.VI.1977 杉田採集.

菅谷周辺には普通に見られる。菅谷館跡内の草刈りが幼虫の発生時期と重なると、餌を求めてかなりの距離を移動するのが観察される。

・アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum*
(FRUHSTORFER)

〔菅谷〕 1頭, 3.X.1958 関根採集, 1頭, 21.IV.
1985 豊田採集.

国立婦人教育会館にて、クスノキ周辺を飛び回る姿がよく見られる。

・アゲハ *Papilio xuthus* LINNAEUS

〔菅谷〕 1頭, 10.IX.1958 : 1頭, 10.VI.1959 : 1頭, 18.VIII.1959 : 2頭, 5.V.1962 : 2頭, 27.IX.1977 関根採集. 1頭, 29.IV.1985 杉田採集.

〔鎌形〕 1頭, 19.IV.1978 (飼育) 杉田採集.

・キアゲハ *P. machaon hippocrates* C. et R. FELDER

〔菅谷〕 2頭, 5.V.1962 : 1頭, 4.IX.1977 : 1頭, 11.IX.1977 関根採集. 1頭, 11.VIII.1982 : 1頭, 20.VIII.1982 豊田採集.

・クロアゲハ *P. protenor demetrius* CRAMER

〔菅谷〕 1♀, 26.IX.1977 : 1♀, 5.IX.1997 関根採集.

・カラスアゲハ *P. bianor* CRAMER

〔菅谷〕 1♂, 20.V.1960 : 1♂, 22.VII.1960 関根採集.

〔遠山〕 1♀, 20.VIII.1984 杉田採集.

山地に多く見られる蝶である。オオムラサキの森周辺や、嵐山溪谷等で見かけることがある。

シロチョウ科 Pieridae

・ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* (BUTLER)

〔菅谷〕 1♂, 17.IV.1976 : 8♂♂ 1♀, 20-21.IV.1976 : 2♀♀, 26.IV.1976 : 1♂, 19.IV.1985 : 1♀, 29.IV.1985 杉田採集. 2♂♂, 5.IV.1991 豊田採集.

〔将軍沢〕 1♂, 25.IV.1982 豊田採集.

早春から5月の頃にかけて見られる。

・モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* (BOISDUVAL)

〔菅谷〕 4♂♂ 1♀, 9.X.1977 : 1♂, 17.X.1977 : 1♂, 10.II.1978 (飼育) : 1♂, 14.II.1978 (飼育) : 1♂, 17.II.1978 (飼育) : 1♂, 18.III.1978 (飼育) 関根採集. 1♂ 2♀♀, 16.VI.1985 : 1♂, 8.VII.1985 (飼育) 杉田採集. 1♀, 28.IV.1982 : 1♂, 22.III.1987 : 1♂, 11.IX.1987 豊田採集.

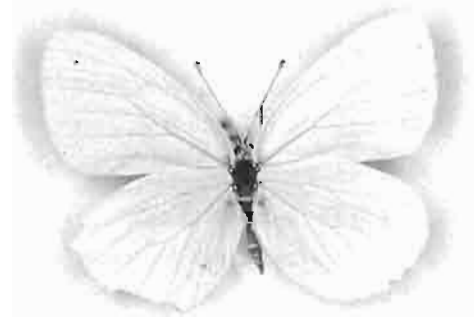
・スジグロシロチョウ *P. melete* (MÉNÉTRIÈS)

〔菅谷〕 1♂, 4.IX.1977 : 1♂, 26.IX.1977 : 3♂♂, 2.X.1977 : 1♂ 1♀, 9.X.1977 : 2♀♀, 17.X.1977 : 1♂, 6.XI.1977 : 1♀, 17.II.1978 : 1♂, 18.III.1978 関根採集. 1♂, 19.IV.1985 : 1♀, 15.VIII.1991 杉田採集. 1♂ 1♀, 2.III.1982 : 1♂ 1♀, 5.III.1987 豊田採集.

〔遠山〕 3♀♀, 15-16.VI.1986 杉田採集.

1991年の8月に杉田氏が自宅の庭で採集した雌個

体は、完全に色素の抜けた、いわゆる白子の状態であった。とてもスジグロシロチョウには見えず、はじめ蛾の1種かと思ったそうである。種類を確かめるために採卵し、飼育したところ、本種の成虫が羽化してきたので種を確定できたそうである。なお、次世代には白子の個体は見られなかった様である。



色素の抜けたスジグロシロチョウ

・キチョウ *Eurema hecabe* (LINNAEUS)

〔広野〕 3頭, 30.IX.1976 杉田採集.

〔菅谷〕 1頭, 4.IX.1977 : 1頭, 11.IX.1977 : 4頭, 2.X.1977 : 4頭, 9.X.1977 : 5頭, 17.X.1977 : 1頭, 30.X.1977 : 1頭, 7.XI.1977 関根採集. 1頭, 31.VIII.1976 : 2頭, 29.IV.1985 : 2頭, 9.X.1985 杉田採集. 1頭, 4.IV.1982 : 1頭, 5.VIII.1982 : 1頭, 28.X.1988 : 1頭, 23.VII.1990 豊田採集.

・ツマグロキチョウ *E. laeta betheseba* (JANSON)

〔菅谷〕 1頭, 26.IX.1975 : 1頭, 1.XI.1975 : 1頭, 3.XI.1975 杉田採集.

〔千手堂〕 1頭, 21.X.年不明 杉田採集.

〔遠山〕 1頭, 30.VIII.1984 豊田採集.

本種は1970年代には各地で見られたようであるが、現在では多くの産地より姿を消している。恐らく、食草であるカワラケツメイの自生地が住宅地等に変わってしまったためであろう。嵐山町では、現在では嵐山溪谷沿いにわずかに生息が確認されているだけである。1970年代に近隣の市町村で採集された標本には、小川町中爪や玉川村田黒のものが含まれていた。

・モンキチョウ *Colias erate poliographus* MOTSCHULSKY

〔菅谷〕 1♂, 17.X.1977 : 1♂ 1♀, 6.XI.1977 : 3♂♂, 6.IV.1978 : 2♀♀, 20.IV.1978 関根採集. 1♂, 16.VI.1985 杉田採集. 1♂ 1♀, 28.IV.1982 : 1♀, 29.VII.1990 : 1♂, 22.IX.1991 豊田採集.

マダラチョウ科 *Danaidae*

・アサギマダラ *Parantica sita nipponica* (MOORE)

[菅谷] 1♂, 23.X.1995 関根採集.

[古里] 1♂, 28.IX.1997 関根採集.

本種は関東地方では山地に見られる傾向が強いが、丘陵地でも観察例は多く、嵐山町では近年多くの個体が観察されている。町内で発生しているかについては定かでない。

テングチョウ科 *Libytheidae*

・テングチョウ *Libythea celtis* (LAICHTARTING)

[菅谷] 1頭, 2.IV.1986 豊田採集.

[大平山] 4頭, 3.V.1985 豊田採集.

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

・サカハチチョウ *Araschnia burejana* BREMER

本種は本来山地性の種であるが、山沿いにかなり低いところまで降りてくるらしく、大字菅谷にあるオオムラサキの森でも何回か目撃されている。しかし残念ながら標本は得られていない。

・アカタテハ *Vanessa indica* (HERBST)

[菅谷] 1頭, 20.VIII.1982 : 1頭, 11.VI.1991

(飼育) 豊田採集.

・ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* (LINNAEUS)

[菅谷] 3頭, 6.XI.1977 関根採集. 1頭, 11.

VI.1991 : 1頭, 3.VIII.1982 豊田採集.

・ルリタテハ *Kaniska canace* (LINNAEUS)

[菅谷] 1頭, 25.VII.1982 : 1頭, 10.VIII.1982 :

1頭, 16.V.1990 : 4頭, 15-20.VI.1991 (飼育)

豊田採集.

菅谷館跡では、幼虫はヤマユリに多く、サルトリイバラにはあまりつかないようである。

・キタテハ *Polygonia c-aureum* (LINNAEUS)

[菅谷] 4頭, 2.X.1977 : 1頭, 9.X.1977 : 1頭,

17.X.1977 関根採集. 2頭, 25.VII.1986 : 7頭,

21.IX.1988 : 1頭, 23.IX.1991 豊田採集.

町内の至る所で見かける。秋には熟した柿の実に、本種が集まる光景を目にする。

・ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas japonica* (STICHEL)

[菅谷] 3頭, VII.1982 (飼育) 関根採集. 1頭,

25.VII.1982 : 1頭, 14.VI.1985 豊田採集.

1980年代には大字菅谷の菅谷中学校付近では普通に見られた。後に発生木となっていたエノキが立て続けに切られてしまい、今ではほとんどその姿は見られなくなった。近隣では東松山市岩殿の物見山でまだ多く見られる。サナギは寄生バエ等に寄生される事が多く、飼育中にサナギからウジが出てくることがある。

・ミドリヒョウモン *Argynnis paphia tsushimana* FRUHSTORFER

[遠山] 3♂4♀, 7-9.VI.1986 (飼育) 杉田採集.

[菅谷] 1♂1♀, 11.VIII.1982 豊田採集.

夏の高原に行くとよく見かける種であるが、嵐山のように標高の低い所でも見られる。

・メスグロヒョウモン *Damora sagana ilona* (FRUHSTORFER)

[菅谷] 1♀, 3.VII.1982 : 1♂, 10.VII.1982 :

1♀, 25.VII.1982 豊田採集. 1♂, 9.IX.1988

杉田採集.

本種は比企郡内では普通に見られる種である。嵐山町では大平山周辺に多く、筆者のひとり豊田は1996年に遠山地区でも1メスを確認している。

・スミナガシ *Dichorragia nesimachus* (DOYÈRE)

[菅谷] 1頭, 24.VIII.1990 豊田採集.

幼虫は沢沿いのアワブキを食べるが、町内ではアワブキ自体が少ないため、滅多にお目にかかれない珍種である。樹液や水溜まりに飛来する。

・イチモンジチョウ *Limenitis camilla japonica* (MÉNÉTRIÈS)

[菅谷] 1頭, 1978 (採集月日不明) 関根採集.

1頭, 23.VII.1990 : 1頭, 29.VII.1990 豊田採集.

・アサマイチモンジ *L. glorifica* (FRUHSTORFER)

[菅谷] 1頭, 1978 (採集月日不明) 関根採集.

1頭, 25.VII.1982 : 1頭, 29.V.1988 豊田採集.

・コムスジ *Neptis sappho intermedia* W. B. PRYER

[菅谷] 1♂, 8.V.1976 杉田採集. 2頭, 1978

(採集月日不明) 関根採集. 1頭, 3.VIII.1982 :

2頭, 2.V.1992 豊田採集.

・オオムラサキ *Sasakia charonda charonda* (HEWITSON)



[菅谷] 1♀, 20.VIII.1959 : 1♂, VIII.1960 関根採集. 1♀, 24.VIII.1981 : 1♀, 20.VIII.1982 豊田採集.

[勝田] 1♂, 4.VII.1987 (飼育) : 2♀♀, 11-13.VII.1987 (飼育) : 1♂, 23.VI.1988 (飼育) 杉田採集.

本種は日本昆虫学会で国蝶にも選定されており、そ

の美しさはまさに日本の蝶を代表するにふさわしいと言える。成虫は6月下旬より夏の終わりまで、雑木林の周辺にて見られる。大型種ゆえに個体数も少なく、樹液に集まる姿を見るほかは観察しにくい蝶である。

嵐山町では本種の生息地保護を行っているが、人気の高い蝶である故、密猟者による越冬幼虫の乱獲が絶えないのも事実である。筆者らの見る限り、その生息数は周辺の環境がほとんど変化していないにも関わらず、10年前に比べ明らかに減少している。マニアの方々には是非、採集を自粛していただきたいところである。また、比企地区の個体に特有の斑紋型が、徐々に変化しているように感じる。最近では翅裏の白い個体も全く観られなくなった。これらの現象は周辺地域の放蝶と何らかの関係があるのではなからうか。

・ゴマダラチョウ *Hestina japonica japonica*
(C. et R. FELDER)

[菅谷] 4♂♂1♀, 4.V.1988 関根採集. 1♂, 15.VIII.1982: 2♂♂2♀♀, 2.VI.1986: 1♂, VII.1986 豊田採集. 1♂, 10.VI.1987 (飼育) 杉田採集.

ジャノメチョウ科 Satyridae

・ジャノメチョウ *Minois dryas bipunctatus*
(MOTSCHULSKY)

蝶の里公園ではふつうに見られる。

・ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* BUTLER

[菅谷] 2頭, 13.X.1977 関根採集. 1頭, 29.IV.1985 杉田採集. 1頭, 11.V.1986: 1頭, 4.IV.1987: 6頭, 28.IV.1987 豊田採集.

・ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* FRUHSTORFER

[菅谷] 2♂♂2♀♀, 4.IX.1977 関根採集. 1♀, 20.IX.1984 豊田採集.

・コジャノメ *Mycalesis francisca perdiccas* HEWITSON

[菅谷] 1♂, 11.V.1986: 1♂, 29.VII.1990 豊田採集.

[遠山] 1♂, 9.VIII.1984 杉田採集.

・クロヒカゲ *Lethe diana* (BUTLER)

[菅谷] 1頭, 4.IX.1977 関根採集. 4頭, 2.V.1992 豊田採集.

次種と共に、コナラ等の樹液に群がっている姿を目にする。眼状紋の縁取りの青藍色が美しい。

・ヒカゲチョウ *L. sicelis* (HEWITSON)

[菅谷] 1頭, 4.IX.1977 関根採集. 1頭, 6.VI.1982 豊田採集.

・サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* (MÉNÉTRIÈS)

[菅谷] 1♂1♀, 4.IX.1977 関根採集. 6♂♂, 22-29.V.1988 豊田採集.

シジミチョウ科 Lycaenidae

・ゴイシシジミ *Taraka hamada hamada* (H. DRUCE)

[菅谷] 1頭, 17.X.1977 関根採集. 3頭, 30.VI~1.VII.1984 (飼育): 2頭, 5.VII.1984 杉田採集. 2頭, 18.V.1986: 1頭, 23.V.1986 豊田採集. 幼虫はアブラムシを食べる事で有名である。雑木林の林床に生えるササ類周辺に見られる。

・ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* DE NICEVILLE

[菅谷] 1♀, 5.V.1962: 3♂♂2♀♀, 2.X.1977 関根採集. 1♀, 25.X.1981 杉田採集. 1♂1♀, 10.VIII.1982: 1♂, 8.X.1985: 5♂♂1♀, 23.IX.1991 豊田採集.

[大平山] 1♂, 30.VIII.1984: 2♂♂1♀, 2.X.1985 豊田採集.

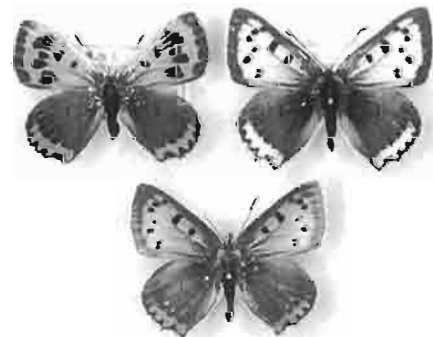
[遠山] 1♂1♀, 22.XI.1983: 1♀, 16.VI.1985: 1♂, 23.VII.1985 杉田採集.

・クロシジミ *Niphanda fusca* (BREMER et GREY)

杉田氏の標本中に東松山市上唐子産の古い標本が混じっていたが、嵐山町のものについては標本が見あたらなかった。だいふ前のことであるが、武蔵嵐山駅付近にあった雑木林にて、筆者の一人関根と杉田氏が本種の生息を確認している。現在では幻となってしまった種である。

・ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* (MATSUMURA)

[菅谷] 4頭, 13.X.1977: 2頭, 17.X.1977: 9頭, 7.XI.1977 関根採集. 1頭, 19.IV.1985: 1頭, 9.VI.1985 杉田採集. 1頭, 16.VI.1985: 1頭, 7.VIII.1985: 1頭, 2.IV.1986: 1頭, 22.VI.1986: 1頭, 27.IV.1986: 1頭, 10.IX.1986: 2頭, 22.III.1987: 3頭, 3-4.IV.1987: 1頭, 19.IV.1987: 3頭, 1.IV.1990: 8頭, 3.IV.1991 (飼育): 1頭, 21.IV.1991 豊田採集.



上: 左, 斑紋異常型 右, 白化型 下: 通常の個体
本種には、翅の橙赤色にあたる部分が白色の異常型

(白化型)が知られるが、1991年の4月21日に菅谷館跡内で採集された個体は、白色に近いクリーム色でほぼ白色型と言って良い個体であった。この年には他にもやや白色味を帯びた個体が得られており、越冬幼虫期の環境条件が関係しているものと思われる。また、1986年4月27日に得られたものは、黒点模様が糸状にのびる異常斑紋個体である。ヤマトシジミやダイミョウセセリ、ホソバセセリ等で同様のものが知られている。

・ムラサキシジミ *Narathura japonica japonica* (MURRAY)

[菅谷] 1♀, 4.VI.1987 杉田採集, 1♀, 14.IV.1991: 1♂, 11.VI.1991 豊田採集。

[大平山] 1♂1♀, 30.VIII.1984: 1♂3♀♀, 2.X.1985 豊田採集。

[遠山] 3♂♂4♀♀, 22.XI.1983: 8♂♂1♀, 8.VIII.1984: 1♀, 16.VI.1985 (飼育): 1♂, 29.VII.1985 (飼育): 1♂, 6.VIII.1985 (飼育): 1♂, 9.VIII.1985 (飼育): 1♂, 11.VIII.1986 (飼育) 杉田採集。

本種の県内での記録は丘陵地に多い。日当りの良いアラカシの周辺で越冬する。

・トラフシジミ *Rapala arata* (BREMER)

[菅谷] 2♂♂, 5.V.1962: 1♀, 15.X.1978 関根採集, 1♂, 5.VII.1975: 3♂♂1♀, 20-21.IV.1976: 2♀♀, 26.IV.1976: 1♀, 5.VII.1986 杉田採集, 1♀, 1.VIII.1982: 1♂, 6.IV.1985: 2♂♂1♀, 23.VI.1985: 1♀, 4.IV.1987: 1♂, 30.III.1988: 2♂♂, 1.IV.1990: 1♀, 29.VII.1990: 3♂♂, 14.IV.1991 豊田採集。

・コツバメ *Callophrys ferrea* (BUTLER)

[菅谷] 1頭, 15.V.1978: 1頭, 19.IV.1985: 1♀, 31.III.1986 (飼育): 2♀♀, 26-28.II.1987 (飼育) 杉田採集, 1頭, 5.IV.1985: 1頭, 13.IV.1986: 4頭, 4-6.IV.1987: 2頭, 30.III.1988 豊田採集。

早春、アセビの花が咲き出す頃に見られる。素早く飛び回り、各種の花を訪れる。最近ではあまり見られなくなった種である。

・ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri* (MURRAY)

[菅谷] 1♂♂1♂♂1♂♂1♂♂, 9-23.V.1976 (飼育) 2♂♂, 6.VI.1976: 1♂4♀♀, 10-11.V.1977 (飼育) 杉田採集, 1♂1♀, 27.IV.1988 (飼育) 豊田採集。

・ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia attilia* (BREMER)

[菅谷] 1♀, 18-20.VI.1976: 2頭, 28-29.

V.1978 (飼育): 5頭, 21-25.V.1979 (飼育): 2頭, 5-6.VI.1981 (飼育): 1頭, 7.VI.1981 (飼育): 1頭, 8.VI.1981 (飼育): 1頭, 3.VI.1982 (飼育): 1頭, 16.VI.1985 杉田採集, 1頭, 23.VI.1985: 1頭, 15.VI.1986: 3頭, 22.VI.1986: 2頭, 11.VI.1991 豊田採集。

・アカシジミ *Japonica lutea* (HEWITSON)

[菅谷] 1♀, 6-7.VI.1976 杉田採集, 1頭, 18.VI.1982: 1頭, 11.VI.1985 豊田採集, 6月の朝、早起きして雑木林に出かけてみると赤いシジミチョウが木の上を飛んでいるのが見られる。本種の方が次種に比べやや早めに発生する

・ウラナミアカシジミ *J. saepestriata* (HEWITSON)

[菅谷] 4頭, 14-15.IV.1976: 5♂♂1♂1♀♀, 14-15.VI.1976: 2♀♀, 18.VI.1976: 2♀♀, 9.VI.1977: 1♂1♀, 12.VI.1978: 1頭, VII.1978: 1♂, 23.V.1979 (飼育): 4頭, 16-28.V.1985 (飼育) 杉田採集, 3頭, 18-20.VI.1982: 1頭, 23.VI.1985: 1頭, 22.VI.1986: 4頭, 11.VI.1991 豊田採集。

・オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (MURRAY)

[菅谷] 1♀, 6.VI.1981 (飼育): 1♀, 4.VI.1982 (飼育): 3♂♂1♀, 22-24.V.1983 (飼育): 1♂, 16.VI.1985 杉田採集。

雄は青緑に輝き、日中枝先で縄張りを張っている。

・ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* (MURRAY)

[平沢] 7♂♂1♂♂1♂♂, 1978 (採集月日不明): 5♂♂5♀♀, 23.VI.1979 関根採集。

嵐山町では菅谷地区の都幾川河川敷に発生地があったが、わずかに残っていたハンノキが台風により倒れ、その後確認できない。平沢地区の谷津にも発生木があったが、埋め立てにともない切られてしまった。町内にまだ生息地は残っているのか、今後の調査の課題である。

・ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (KOLLAR)

[菅谷] 1♂, 21.IV.1976 杉田採集, 1♂1♀, 26.IX.1977: 1♂, 3.X.1977: 6♂♂, 9.X.1977: 2♂♂1♀, 13.X.1977: 1♂2♀♀, 17.X.1977: 4♂♂4♀♀, 7.XI.1977 関根採集, 1♂, 10.V.1986: 1♂, 4.IV.1987: 1♂, 23.X.1988: 1♀, 21.V.1992 豊田採集。

・ツバメシジミ *Everes argiades hellotia* (MÉNÉTRIÈS)

[菅谷] 2♂♂, 19.VIII.1975: 1♀, 2.IX.1975 杉田採集, 2♂♂, 17.X.1977: 3♂♂, 16.III.1978: 1♂, 13.IV.1986: 1♂, 6.IV.1987: 1♂, 23.X.1988 関根採集, 1♂, 12.IV.1987: 1♂, 25.VII.1987: 1♂, 9.II.1997 豊田採集。

- ・ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides* (DE L'ORZA)
 [菅谷] 1♀, 4.IX.1977 関根採集. 1♂, 20.VII.1982 豊田採集. 1♀, 17.IV.1976: 1♂, 16.VI.1985 杉田採集.
- ・ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (LINNAEUS)
 [菅谷] 1♂, 26.IX.1975: 1♂, 1.X.1975 杉田採集. 5♂♂1♀, 9.X.1977: 2♂♂1♀, 17.X.1977: 2♂♂, 23.X.1977: 1♀, 7.XI.1977: 9♂♂4♀♀, 18.IX.1978 関根採集. 1♂1♀, 29.X.1986 豊田採集.
- セセリチョウ科 **Hesperiidae**
- ・アオバセセリ *Choaspes benjaminii japonica* (MURRAY)
 [遠山] 1♀, 9.V.1985 杉田採集.
 [大平山] 1♀, 25.VII.1982 豊田採集.
- ・ミヤマセセリ *Erynnis montanus* (BREMER)
 [菅谷] 4♂♂, 6.III.1978 関根採集. 1♀, 19.V.1985 杉田採集. 1♂, 4.IV.1982: 2♂♂, 5.IV.1985: 3♂♂, 4.IV.1987: 1♂, 30.III.1988 豊田採集.
- ・ダイミヨウセセリ *Daimio tethys* (MÉNÉTRIÈS)
 [菅谷] 3頭, 1978 (採集月日不明) 関根採集.
 1頭, 10.VIII.1982: 2頭, 10-11.V.1986 豊田採集.
 [千手堂] 1頭, 1.VI.1986 豊田採集.
- ・ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor* (BREMER et GREY)
 [菅谷] 1頭, 19.VIII.1990: 1頭, 21.IV.1991 豊田採集.
- ・コチャバネセセリ *Thoressa varia* (MURRAY)
 [菅谷] 1頭, 10.V.1986: 1頭, 23.V.1986: 1頭, 28.V.1988: 1頭, 23.VII.1990 豊田採集.
 [千手堂] 1頭, 1.VI.1986 豊田採集.
 [遠山] 1頭, 9.V.1985 杉田採集.
- ・キマダラセセリ *Potanthus flavus flavus* (MURRAY)
 [菅谷] 1頭, 28.V.1988 豊田採集.
- ・ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochracea* (BREMER)
 [菅谷] 1頭, 10.VIII.1982 豊田採集.
- ・オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida pellucida* (MURRAY)
 [菅谷] 1頭, 1978 (採集月日不明) 関根採集.
- ・イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata* (BREMER et GREY)
 [菅谷] 2頭, 9.X.1977 関根採集.

参考文献

- 市川和夫・原 聖樹, 1978. 埼玉県の蝶類. 埼玉県動物誌 : 259-298.
 杉田正之, 1989. オオムラサキの森周辺の蝶. 寄せ蛾記 (54) : 978-979.
 他、多数の文献類を参考にさせていただいた。



木陰で翅をのばす羽化したてのジャコウアゲハ (メス)
 【大字菅谷、菅谷館跡にて。1996年7月】



アりに守られているムラサキシジミの幼虫。シジミチョウの幼虫は多くがわらじ型をしている。
 【大字菅谷、オオムラサキの森にて。1996年7月】

嵐山町の蛾類 (中間報告)

江村 薫・豊田浩二

1996年より始まった嵐山町博物誌動物部会の合同調査では、筆者らは蛾類の調査を担当したが、諸事情により殆ど調査することが出来なかった。そこで、町内在住の蛾類愛好家である杉田正之氏の協力を得て、同氏が今までに町内で採集された蛾類標本を整理させて頂いた。その結果、合同調査で得られたものも含めて12科72種の嵐山町産蛾類を確認することができた。今回はこれらのものを町内のまとまった記録として報告する。

本報告に際して、データの公表を快諾された杉田正之氏に、標本同定を手助けして頂いた春日部市の萩原昇氏に厚く御礼申し上げる。また、標本の同定に際して元博物誌調査員の故・市川和夫氏にご指導、ご教示を頂いた。あらためて感謝申し上げるとともに、故人の御冥福をお祈りする。

凡例

- 1) 種の配列、和名、学名等は以下によった。
井上 寛ほか (1982) 日本産蛾類大図鑑.Vol.1: 1968; Vol.2: 1-556, pls 1-392. 講談社. 東京.
- 2) 種名に付した数字は、上記大図鑑のシノニミックカタログ番号である。
- 3) 各確認データの記述の配列は以下によった。
採集個体数, 採集地, 採集日. 月. 年, 採集者名 (杉田採集のものはS., 豊田採集のものはT.とした).

目録

チョウ目 LEPIDOPTERA

二門亜目 DITRYZIA

マダラガ科 Zygaenidae

- 1337 ミノウスバ *Pryeria sinica* MOORE
1頭, 菅谷, 14.XI.1986, S.
- 1343 ホタルガ *Pidorus glaucopis atratus* BUTLER
1頭, 菅谷, 9.IX.1985, S. ; 1頭, 菅谷,
8.IX.1986, S.

イラガ科 Limacodidae

- 1376 イラガ *Monema flavescens* WALKER
1頭, 菅谷, 17.VII.1985, S.
- 1378 テングイラガ *Microleon longipalpis* BUTLER
1頭, 菅谷, 13.VIII.1985, S. ; 1頭, 菅谷,

7.IX.1986, S.

- 1379 アカイラガ *Phrixolepia sericea* BUTLER
1頭, 菅谷, 20.IX.1988, S.

マドガ科 Thyrididae

- 1406 チビマダラマドガ *Rhodoneur erecta* (LEECH)
2頭, 菅谷, 4-8.IX.1985, S.

メイガ科 Pyralidae

- 1466 マエキツトガ *Pseudocatharylla simplex* (ZELLER)
1頭, 菅谷, 12.IX.1986, S.
- 1555 ミツテンノメイガ *Mabra charonialis* (WALKER)
1頭, 菅谷, 15.VII.1985, S.
- 1560 クロオビノメイガ *Pynarmon pantherata* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 25.VIII.1987, S.
- 1565 ウスムラサキスジノメイガ *Agrotera nemoralis* (SCOPOLI)
1頭, 菅谷, 7.IX.1986, S.
- 1570 ヨスジノメイガ *Pagyda quadrilineata* BUTLER
1頭, 菅谷, 27.VII.1985, S.
- 1598 シロテンキノメイガ *Nacoleia commixta* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 31.VII.1985, S. ; 1頭, 菅谷,
22.IX.1986, S.
- 1655 スカシンメイガ *Glyphodes pryeri* BUTLER
1頭, 菅谷, 12.IX.1986, S.
- 1657 クワノメイガ *G. duplicalis* INOUE, MUNROE et MUTUURA
1頭, 菅谷, 26.VIII.1985, S.
- 1697-A アカウスグロノメイガ *Bradina* sp. A
1頭, 鎌形, 5.VIII.1985, S.
- 1736 キムジノメイガ *Prodasyncnemis inornata* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 20.VII.1988, S. (飼育).
- 1762 フキノメイガ *Ostrinia scapularis* (WALKER)
1頭, 鎌形, 5.VIII.1985, S.
- 1778 ベニフキノメイガ *Pyrausta panopealis* (WALKER)
1頭, 菅谷, 27.VII.1985, S. ; 1頭, 菅谷,
21.VIII.1985, S.
- 1806 ヒメマダラミズメイガ *Elophila turbata* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 8.IX.1987, S. ; 1頭, 菅谷,
20.IX.1988, S.
- 1849 ネグロフトメイガ *Lipidgma atribasalis* (HAMPSON)
1頭, 鎌形, 5.VIII.1985, S.

- 1865 クロモンフトメイガ *Orthaga euadrusalis* (WALKER)
1頭, 菅谷, 15.VIII.1985, S.
- 1868 ナカトビフトメイガ *O. achatina* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 1.VII.1985, S. ; 2頭, 菅谷, 4-5.VIII.1985, S.
- 1870 コメシマメイガ *Aglossa dimidiata* (HOWORTH)
1頭, 菅谷, 6.VII.1985, S. ; 1頭, 菅谷, 25.VIII.1985, S.
- 1883 マエモンシマメイガ *Tegulifera bicoloralis* (LEECH)
1頭, 菅谷, 3.VIII.1985, S.
- 1886 フタスジシマメイガ *Orthopygia glaucinalis* (LINNAEUS)
1頭, 菅谷, 11.VII.1985, S.
- 1946 アカマダラメイガ *Salebria semirubella* (SCOPOLI)
1頭, 菅谷, 25.VIII.1985, S.
- カギバガ科 Drepanidae**
- 2100 ヒトツメカギバ *Auzata superba* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 15.VII.1985, S.
- 2104 スカシカギバ *Macrauzata maxima* INOUE
1頭, 菅谷, 23.X.1988, S.
- シャクガ科 Geometridae**
- 2188 キマエアオシャク *Neohipparchus vallata* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 28.VII.1985, S.
- 2231 クロモンアオシャク *Comibaena nigromacularia* (LEECH)
1頭, 菅谷, 14.VII.1985, S.
- 2244 フタナミトビヒメシャク *Pylargosceles steganicides* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 17.III.1987, S.
- 2248 ウスベニスジヒメシャク *Timandra dichela* (PROUT)
1頭, 菅谷, 22.IX.1986, S.
- 2309 ウスキクロテンヒメシャク *Scopula ignobilis* (WARREN)
1頭, 菅谷, 5.VIII.1985, S.
- 2314 キオビベニヒメシャク *Idaea impexa* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 1.VII.1985, S.
- 2440 サカハチクロナミシャク *Rheumaptera hecate* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 29.V.1986, S.
- 2463 セスジナミシャク *Evecliptopera decurrens* (MOORE)
1頭, 13.VII.1985, S. ; 1頭, 菅谷, 30.IX.1986, S.
- 2648 ユウマダラエダシャク *Abraxas miranda* BUTLER
1頭, 菅谷, 14.X.1986, S. ; 1頭, 菅谷, 1.XI.1986, S.
- 2688 クロハグルマエダシャク *Synegia esther* BUTLER
1頭, 菅谷, 6.VII.1985, S.
- 2721 ヒロオビトンボエダシャク *Cystidia truncangulata* WEHRLI
1頭, 菅谷, 16.VI.1985, S.
- 2759 フタヤマエダシャク *Rikiosatoa osatoa grisea* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 8.X.1985, S.
- 2783 ヨモギエダシャク *Ascotis selenaria* (DENIS et SCHIFFERMULLER)
1頭, 菅谷, 3.VIII.1987, S.
- 2821 シロフフユエダシャク *Agriopis leucophaearia* (DENIS et SCHIFFERMULLER)
1頭, 大平山頂, 20.II.1997, T.
- なお、*Inurois* 属 (フユシャクの仲間) でウスバフユシャク *I. fletcheri*、もしくはクロテンフユシャク *I. punctigera* と思われる種が1997年2月に遠山地区にて得られているが、同定が極めて困難であり、今回は記録を見送った。
- オビガ科 Eupterotidae**
- 2982 オビガ *Apha aequalis* (FELDER)
1頭, 菅谷, 2.X.1986, S. ; 1頭, 菅谷, 23.IX.1986, S.
- スズメガ科 Sphingidae**
- 3036 オオスカシバ *Cephonodes hylas* (LINNAEUS)
3頭, 菅谷, 6.X.1985, S. (飼育).
- 3045 ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta* BUTLER
1頭, 菅谷, 30.IX.1986, S.
- 3066 セスジスズメ *Theretra oldenlandiae* (FABRICIUS)
1頭, 菅谷, 12.IX.1985, S.
- シャチホコガ科 Notodontidae**
- 3113 モンクロシャチホコ *Phalera flavescens* (BREMER et GREY)
1頭, 鎌形, 5.VIII.1985, S.

- 3188 ツマアカシャチホコ *Clostera anachoreta* (DENIS et SCHIFFERMULLER)
1頭, 菅谷, 26.VIII.1985, S.
- ドクガ科 *Lymantriidae*
- 3218 マイマイガ *Lymantria dispar* (LINNAEUS)
1頭, 菅谷, 23.VII.1985, S.
- 3236 ドクガ *Euproctis subflava* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 4.VIII.1985, S.
- 3238 チャドクガ *E. pseudoconsersa* (STRAND)
1頭, 菅谷, 1.XI.1986, S.
- 3319 クワゴマダラヒトリ *Spilosoma cmparilis* BUTLER)
1頭, 菅谷, 30.VIII.1986, S.
- ヒトリガ科 *Arctiidae*
- 3322 キハラゴマダラヒトリ *Spilosoma lubricipeda* (LINNAEUS)
1頭, 菅谷, 15.VII.1985, S. ; 1頭, 菅谷, 25.VIII.1985, S.
- 3323 シロヒトリ *Chionarctia nivea* (MENETRIES)
1頭, 菅谷, 3.IX.1986, S.
- 3331 アメリカシロヒトリ *Hyphantria cunea* (DRURY)
1頭, 菅谷, 28.VIII.1985, S.
- 3268 ヨツボシホソバ *Lithosia quadra* (LINNAEUS)
1頭, 菅谷, 7.IX.1986, S.
- 3281 オオベニヘリコケガ *Melanaema venta* BUTLER
1頭, 菅谷, 30.IX.1986, S.
- ヤガ科 *Noctuidae*
- 3428 アサケンモン *Plataplecta pruinosa* (GUENEE)
1頭, 菅谷, 21.IX.1988, S.
本種は比較的珍しい種で、県内では川口市にて初めて得られたが、嵐山町の個体は2例目である。
- 3442 ナシケンモン *Viminia rumericis* (LINNAEUS)
2頭, 菅谷, 14-15.VIII.1985, S.
- 3493 カブラヤガ *Agrotis segetum* (DENIS et SCHIFFERMULLER)
1頭, 菅谷, 12.V.1987, S.
- 3559 ヨトウガ *Mamestra brassicae* (LINNAEUS)
1頭, 菅谷, 9.IX.1985, S. ; 1頭, 菅谷, 26.VIII.1986, S. ; 1頭, 菅谷, 23.IX.1986, S.
- 3569 キミヤクヨトウ *Dictyestra dissecta* (WALKER)
1頭, 菅谷, 4.XI.1986, S.
- 3596 ホソバキリガ *Orthosia angustipennis* (MATSUMURA)
3頭, 遠山, 25.II.1997, T.
- 3708 ホシオビキリガ *Conistra unimacula* SUGI
1頭, 遠山, 20.II.1997, T. ; 2頭, 遠山, 24.II.1997, T. ; 3頭, 遠山, 25.II.1997, T.
- 3766 ハジマヨトウ *Bambusiphila vulgaris* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 15.VIII.1986, S.
- 3940 マダラツマキリヨトウ *Callopietria repleta* WALKER
1頭, 菅谷, 25.VIII.1985, S. ; 1頭, 菅谷, 15.VIII.1986, S.
- 4004 アカスジアオリング *Pseudoips sylpha* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 14.VII.1986, S.
- 4015 シマフコヤガ *Corgatha nitens* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 26.VIII.1985, S.
- 4104 フタオビコヤガ *Naranga aenescens* MOORE
3頭, 菅谷, 25-26.VIII.1985, S.
- 4186 マメキシタバ *Catocala duplicata* BUTLER
8頭, 菅谷, 14-15.VIII.1985, S.
- 4188 コシロシタバ *Catocala actaea* FELDER et ROGENHOFER
2頭, 菅谷, 14.VIII.1985, S.
- 4241 フクラスズメ *Arcte coerulea* (GUENEE)
1頭, 菅谷, 9.IX.1988, S.
- 4251 クビグロクチバ *Lygephila maxim* (BREMER)
1頭, 菅谷, 18.VIII.1997, T.
- 4263 オオアカキリバ *Anomis commoda* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 30.VII.1986, S.
- 4276 アカエグリバ *Oraesia excavata* (BUTLER)
1頭, 菅谷, 1.IX.1988, S.
- 4321 ウスズミクチバ *Hyposemantis singha* GUENEE
1頭, 菅谷, 24.VIII.1985, S.
- 4481 ヤマガタアツバ *Bomolocha stygiana* (BUTLER)
1頭, 鎌形, 5.VIII.1985, S.
- 4499 ソトウスグロアツバ *Hydrillodes repugnalis* (WALKER)
1頭, 菅谷, 16.IX.1986, S.
- 4549 ツマテンコブヒゲアツバ *Zanclogenatha sugii* OWADA
1頭, 菅谷, 6.VIII.1986, S.
- 4557 フシキアツバ *Herminia dolosa* BUTLER
1頭, 菅谷, 31.VII.1985, S.

嵐山町の甲虫類 (中間報告)

豊田浩二

はじめに

嵐山町は埼玉県内において、最も甲虫類の豊富な地域のひとつであろう。嵐山町の甲虫相を地形的に見ると、秩父山系と平野部の交わる場所、いわゆる丘陵地に位置することから、山地性の種類と平地性の種類の両者が同時に見られると言った特徴を備えている。また、非常に多くのため池や、河川に沿った水路があるため、全体的に湿度が高く、甲虫類が棲むのに適した環境が多く見られる。森林植生もナラ等の落葉広葉樹を中心とした雑木林が広範囲を占め、一部ではシイの自然林が残されているなど多様性に富んだ環境が展開している。

筆者がこれまでに町内で採集した甲虫類は既に1,000種を上回っており(現在整理中、未発表)、市町村単位で知られる甲虫相の内容としては全国的に見ても多い場所のひとつである。嵐山町がいかにファウナ(動物相)の豊かな地域であり、生物の生息域がよく残されているかが伺い知れる。

平成8(1996)年より始まった博物誌の合同調査では、嵐山町南部地域の動物相について調べた。甲虫類の調査は、既に菅谷地区を中心に大分進んでいるため、主に嵐山溪谷(槻川)とその周辺の大平山・塩山地区を重点的に調べた。調査方法は基本的には見つけ採りによる任意採集を行い、ベイト、ライト等のトラップ(罟)類も利用した。その結果219種の甲虫類を記録し、未同定の種も含めると250種程度を採集することが出来た。以下にその記録を示す。

報告にあたり、貴重な甲虫類を恵与頂いた博物誌調査協力員の桑原幸夫・島崎守男、博物誌編さん室の関口羊子・高橋敏子、日高市の新井志保、嵐山町の高橋友美子・豊田富喜の各氏に、また調査に全面的な協力を頂いた長島喜平編さん委員長を始めとする嵐山町博物誌の関係諸氏に厚く御礼申し上げます。

凡例

表記の方法については種類ごとの記録とし、和名、学名、頭数(雌雄の判別できたものに関しては♂、♀の記号を、他は頭を使用。)、大字もしくは山河の地名、採集年月日の順に示した。採集者名は、筆者が採集したものについては省略した。また、文献等に記録が無く、恐らく県内初記録と思われる種について

は、「◎」印をデータの頭に示した。学名、配列の順序等は、基本的には日本産昆虫総目録(1989)に従い、デオキノコムシ科 Scaphidiidae についてはハネカクシ科 Staphylinidae の亜科として扱った。

表1. 科ごとの種類数一覧

ナガヒラタムシ科	1	ヒラタムシ科	2
ハンミョウ科	1	ホソヒラタムシ科	1
オサムシ科	5	キスイムシ科	1
ホソクビゴミムシ科	1	オオキノコムシ科	1
ゲンゴロウ科	6	テントウムシダマシ科	2
ミズスマシ科	1	テントウムシ科	8
ガムシ科	2	ミジンムシダマシ科	1
エンマムシ科	3	ヒメマキムシ科	3
シテムシ科	1	ホソカタムシ科	1
ハネカクシ科	2	コキノコムシ科	2
マルハナノミ科	1	ハナノミ科	2
クワガタムシ科	1	カミキリモドキ科	2
センチコガネ科	1	アカハネムシ科	1
コガネムシ科	7	アリモドキ科	4
ナガハナノミ科	1	ニセクビボソムシ科	1
ヒラタドロムシ科	3	ハナノミダマシ科	1
タマムシ科	3	チビキカワムシ科	1
コメツキムシ科	5	ハムシダマシ科	2
ベニボタル科	2	ゴミムシダマシ科	10
ホタル科	3	カミキリムシ科	12
ジョウカイボン科	3	ハムシ科	26
カツオブシムシ科	1	ヒゲナガゾウムシ科	3
ジョウカイモドキ科	2	オトシブミ科	9
ケシクスイ科	8	ホソクチゾウムシ科	1
ネスイムシ科	1	ゾウムシ科	5
ヒメハナムシ科	2	オサゾウムシ科	1

目録

甲虫目 COLEOPTERA

ナガヒラタムシ科 Cupedidae

1. ナガヒラタムシ *Tenomerga mucida* (CHEVROLAT)
 - 1頭, 志賀, 16.VII.1996, 高橋敏子採集; 1頭, 志賀, 18.VIII.1996, 高橋敏子採集.
 - 昼間, 白い洗濯物に付いていたとの事である。県内の記録は山地に多い。

ハンミョウ科 Cicindelidae

1. トウキョウヒメハンミョウ *Cicindela kaleea yedoensis* KANO
 - 2♂♂, 菅谷, 11.VII.1997.
 - 人家の庭や神社の境内、雑木林の周辺などいたるところで見られる。ややコケ生した裸地に多いようである。埼玉県内での本種の記録は、平地に集中しており、秩父山地では得られていない。

オサムシ科 Carabidae

1. エゾカタビロオサムシ *Campalita chinense* (KIRBY)
1 ♀, 将軍沢, 19.V.1997; 1 ♀, 大蔵, 12.V.1997.
蛾などの鱗翅類幼虫を捕食するため、益虫として知られる。菅谷、大蔵地区などでは極普通に見られ、夜間ライトに集まっていることが多い。なお、本種は虫を寄せないオレンジ色の街灯にも集まるようである。
2. ヒメマイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides* (SCHAUM)
1 ♂, 菅谷, 21.VIII.1997.
3. ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus* BATES
1 頭, 菅谷, 14.VI.1997.
4. マダラケシミズギワゴミムシ *Bembidion articulatum* (PANZER)
1 頭, 将軍沢, 19.V.1997.
田んぼの畦道にて得られた。ミズギワゴミムシ類のなかでは美麗種である。北本市や戸田市等の平野部では個体数が多いようであるが、嵐山町では上記の一例のみである。
5. アオマルガタミズギワゴミムシ *B. gebleri edai* FASSATI
1 ♂ 2 ♀ ♀, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997; 1 ♂, 同所, 3.V.1997.
槻川の岩場にて、水辺の堆積物中より得られた。
6. アトモンミズギワゴミムシ *B. niloticum batesi* PUTZEYS
6 頭, 平沢, 19.IV.1997.
7. ウスオビコミズギワゴミムシ *Paratachys sericans* (BATES)
1 ♀, 将軍沢, 24.IX.1997.
8. ヒラタコミズギワゴミムシ *Tachyura exarata* (BATES)
1 頭, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997; 1 頭, 同所, 8.VI.1997.
9. クライロコミズギワゴミムシ *T. fumicata* (MOTSCHULSKY)
18 頭, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997.
槻川の岩場にて、落ち葉等の堆積物下より多数の個体が得られた。河原の水際に多い。
10. ヨツモンコミズギワゴミムシ *T. laetifica* (BATES)
1 頭, 志賀, 18.XI.1996.
11. オオゴミムシ *Lesticus magnus* (MOTSCHULSKY)
1 ♀, 菅谷, 3.VII.1997.
夜間、林縁や草地にて歩行中のものが多く見られる。平地に多い種である。

12. キンナガゴミムシ *Pterostichus planicollis* (MOTSHULSKY)
1 ♀, 志賀, 13.IX.1996.
13. カジムラヒメナガゴミムシ *P. kajimurai* HABU et TANAKA
1 ♂, 志賀, 18.XI.1996; 1 ♀, 平沢, 19.IV.1997.
湿地に生息する。志賀の記録は市ノ川の河川敷で、平沢は谷間の休耕田より得られた。
14. タカオヒメナガゴミムシ *P. takaosanus* HABU
1 ♂ 1 ♀, 塩山, 15.X.1997.
どちらかという、山沿いに多く見られる種。平沢から遠山にかけて続く山の尾根沿いでは、石の下で越冬する個体が多く見られた。
15. ヨリトモナガゴミムシ *P. yoritomus* BATES
1 ♀, 塩山, 15.X.1997.
16. アカガネオオゴミムシ *Trigonognatha cuprescens* MOTSCHULSKY
1 ♂, 菅谷, 10.IX.1997.
雑木林の林床に多く見受けられる。
17. ルイスオオゴミムシ *Trigonotoma lewisii* BATES
1 ♂, 将軍沢, 3.IX.1997.
南方系の種で、町内では少ないようである。
18. アオグロヒラタゴミムシ *Agonum chalconum* (BATES)
1 ♂, 鎌形 (槻川), 8.VI.1997.
19. アシミゾヒメヒラタゴミムシ *A. thoreyi nipponicum* HABU
1 ♂, 平沢, 19.IV.1997.
20. セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis* (SCHALLER)
1 ♂ 1 ♀, 志賀, 13.IX.1996; 1 ♀, 菅谷, 10.IX.1997.
21. マルガタツヤヒラタゴミムシ *Synuchus arcuaticollis* (MOTSCHULSKY)
1 ♂, 遠山, 11.X.1997; 1 ♀, 塩山, 15.X.1997.
22. クロツヤヒラタゴミムシ *S. cycloderus* (BATES)
11 ♂ 9 ♀ ♀, 塩山, 15.X.1997.
23. ヒメツヤヒラタゴミムシ *S. dulcigradus* (BATES)
3 ♀ ♀, 塩山, 15.X.1997.
普通種であるにもかかわらず、県内の記録は極めて少ない。丘陵地から低山地にかけて見られる種であるが、同定が困難であるため記録されにくいものと思われる。林床の落葉下より得られる。
24. オオクロツヤヒラタゴミムシ *S. nitidus* (MOTSCHULSKY)
7 ♂ 9 ♀ ♀, 塩山, 15.X.1997.
次種と共にベイトトラップにて多数の個体が得られた。林床に多く見られる。

25. シバタホソヒラタゴミムシ *Trephionus shibataianus* HABU
1 ♀, 塩山, 11.X.1997.
オス個体の生殖器による同定が必要であり、メス個体のみでは確実な同定とは言い難いが、外部形態からみて一応今回は本種とした。谷間の岩盤の露出している付近にて、落葉下より得られた。ホソヒラタゴミムシ類は奥秩父等ではガレ場の地下浅層（岩盤と土壌、もしくはガレの境目にある地中の隙間で、半地中性生物の宝庫でもある）にて得られているので、塩山の環境はやや特異といえよう。また、同所にてやはり地下浅層に多く見られるニクイロババヤスデ *Parafontaria acutidens* が得られているが、本種と共に塩山の環境を考察する上で重要である。
26. ナガマルガタゴミムシ *Amara macronota ovalipennis* JEDLICKA
1 ♂ 1 ♀, 志賀, 18.XI.1996.
27. ゴミムシ *Anisodactylus signatus* (PANZER)
1 ♂, 志賀, 13.IX.1996.
28. オオゴモクムシ *Harpalus capito* MORAWITZ
1 ♀, 菅谷, 10.IX.1997.
29. ハコダテゴモクムシ *H. discrepans* MORAWITZ
1 ♂, 鎌形, 8.VI.1997.
30. ヒメケゴモクムシ *H. jureceki* (JEDLICKA)
1 ♂ 1 ♀, 志賀, 13.IX.1996; 1 ♀, 鎌形, 8.IX.1996.
31. ウスアカクロゴモクムシ *H. sinicus* HOPE
2 ♂ 1 ♀, 志賀, 13.IX.1996; 3 ♂ 1 ♀, 將軍沢, 3.IX.1997.
32. コゴモクムシ *H. tridens* MORAWITZ
1 ♂, 志賀, 13.IX.1996; 1 ♀, 菅谷, 10.IX.1997.
33. ケゴモクムシ *H. vicarius* HAROLD
1 ♂, 塩山, 11.X.1997, 桑原幸夫採集.
34. キュウシュウツヤゴモクムシ *Trichotichnus vespertinus* (HABU)
1 ♀, 將軍沢, 3.IX.1997.
35. ナガマメゴモクムシ *Stenolophus agonoides* BATES
4 ♂ 2 ♀, 塩山, 8.IV.1997; 1 ♀, 平沢, 19.IV.1997; 1 ♀, 將軍沢, 24.IX.1997.
36. ムネアカマメゴモクムシ *S. propinquus* MORAWITZ
1 頭, 將軍沢, 19.V.1997.
37. コキベリアオゴミムシ *Chlaenius circumdatus* BRULLE
1 ♂, 根岸, 16.V.1997.
湿地に多く見られる。
38. ヒメキベリアオゴミムシ *C. inops* CHAUDOIR
1 ♀, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997; 1 ♂, 根岸, 16.V.1997.
39. ニセコガシラアオゴミムシ *C. kurosawai* KASAHARA
1 ♂ 1 ♀, 根岸, 16.V.1997; 1 ♂, 將軍沢, 3.IX.1997.
コガシラアオゴミムシ *C. variicornis* に良く似ているため、オス個体でないと同定が困難である。コガシラが河川敷等で得られるのに対し、本種はアシ原やため池の周りに広がる湿地、林の林床などに多い。前胸背板の色彩は、コガシラに比べやや緑色の強い金属光沢を帯びる。また、脚の色もやや黄色味が強い。嵐山町では田んぼの周りやアシ原等の湿地にて、極普通に見られる。
40. オオアトボシアオゴミムシ *C. micans* (FABRICIUS)
1 ♂, 志賀, 13.IX.1996.
41. アトボシアオゴミムシ *C. naeviger* MORAWITZ
1 ♂, 鎌形, 8.VI.1997.
42. アオゴミムシ *C. pallipes* GEBLER
1 ♀, 志賀, 13.IX.1996.
43. キボシアオゴミムシ *C. posticalis* MOTSCHULSKY
1 ♂, 志賀, 13.IX.1996.
44. アトワアオゴミムシ *C. virgulifer* CHAUDOIR
1 ♂, 塩山, 10.VIII.1996; 1 ♀, 勝田, 14.VI.1997.
45. ノグチアオゴミムシ *Lithochlaenius noguchii* (BATES)
4 ♂ 1 ♀, 鎌形 (都幾川), 8.IX.1996.
河川の水際にのみ生息する。大きめの石の下に潜んでおり、凄じ勢いで走り回る。都幾川の河川改修で生息地を大分狭められてしまった。また、槻川橋周辺では河原への人の侵入が多く、既に生息の確認できない状態である。
46. オオキベリアオゴミムシ *Epomis nigricans* (WIEDEMANN)
1 ♀, 志賀 (市野川), 13.IX.1996.
本種の幼虫はアマガエルを好んで食するらしく、成虫もアマガエルの多い場所に見られる。南方系の種で、町内では少ないようである。
47. チャバネクビナゴミムシ *Odacantha aegrota* (BATES)
1 頭, 平沢, 19.IV.1997.
アシやヒメガマの生える湿地に見られる。
48. トゲアトキリゴミムシ *Aepheidius adelioides* MACIEAY
1 頭, 菅谷, 4.VIII.1997.
49. スジミズアトキリゴミムシ *Apristus grandis* ANDREWES
2 頭, 鎌形 (槻川), 8.IX.1996.
河原の石の下に極普通に見られる。生息環境とその大きさから、ミズギワゴミムシ類と間違えやすい。良

く飛び回り、冬場でも暖かい日には活動する。

50. アオアトキリゴミムシ *Calleida onoha* BATES

1頭、菅谷、12.II.1997.

冬季はスギの樹皮下で越冬している個体が良く見られる。

51. ミズギワアトキリゴミムシ *Demetrius marginicollis*

BATES

2頭、根岸、16.V.1997; 1頭、將軍沢、19.V.1997.

湿地や河川に生えるススキ、アシ、オギなどの葉の間や、その根際の落葉下に見られる。越冬場所も落葉下である。都幾川河川敷には比較的多いようである。

52. ヤセアトキリゴミムシ *Dolichoctis luctuosus*

(PUTZEYS)

1頭、菅谷、14.VI.1997.

キノコ類の生える薪に集まっていることが多い。

53. イクビホソアトキリゴミムシ *Dromius quadraticollis*

MORAWITZ

1頭、菅谷、11.I.1997.

わりと珍しい種で、ケヤキの樹皮下に越冬している個体が時々得られる。浦和市などで記録がある。

54. キクビアオアトキリゴミムシ *Lachnolebia*

cribricollis (MORAWITZ)

1頭、勝田、14.VI.1997; 1頭、越畑、15.VI.1997;

1頭、菅谷、21.VI.1997.

55. フタホシアトキリゴミムシ *Lebia bifenestrata*

MORAWITZ

2頭、菅谷、12.IV.1997; 1頭、平沢、19.IV.1997.

ホソクビゴミムシ科 *Brachinidae*

1. オオホソクビゴミムシ *Brachinus scotomedes*

REDTENBACHER

1♀、菅谷、21.VIII.1997.

触れると腹部の先端より高熱(100度位)のガスを噴射し、手に付くと茶褐色の染みになってしまう。この仲間はへっぴりむしとも呼ばれている。

ゲンゴロウ科 *Dytiscidae*

1. チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus* (SHARP)

2頭、平沢、19.IV.1997; 1頭、菅谷、3.VII.1997.

ライトによく集まるほか、小さな水たまりにも見られる。背面の模様は変異幅が大きい。

2. マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* SHARP

2♀♀、平沢、19.IV.1997.

3. キバリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus*

(SHARP)

1♂6♀♀、菅谷(都幾川)、19.IV.1997; 1♀、鎌形(都幾川)、8.VI.1997.

次種と共に、河川の浅瀬にある石の下や落ち葉の下

で見られる。清流に棲む種であり、都幾川の環境を推察するうえで重要な種である。

4. モンキマメゲンゴロウ *P. pictipennis* (SHARP)

2♀♀、鎌形(都幾川)、8.VI.1997.

前種と共に見られ、水のきれいな浅瀬の石をひっくり返すと大量に見つかることもある。

5. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (STEPHENS)

1♀、鎌形、31.III.1997; 1♀、平沢、19.IV.1997;

1♂1♀、16.V.1997; 1♀、將軍沢、24.IX.1997.

6. コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (GERMAR)

1♀、根岸、16.V.1997.

ミズスマシ科 *Gyrinidae*

1. ミズスマシ *Gyrinus japonicus* SHARP

4頭、塩山、11.X.1997.

小さな池にて得られた。菅谷館跡や嵐山溪谷でも見られるが少ない。

ガムシ科 *Hydrophilidae*

1. キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus* (SHARP)

6頭、平沢、19.IV.1997.

2. シジミガムシ *Laccobius bedeli* SHARP

1頭、鎌形、8.IX.1996.

エンマムシ科 *Histeridae*

1. アカキノコエンマムシ *Notodoma fungorum* LEWIS

4頭、菅谷、14.VI.1997.

多孔菌のキノコに見られ夜間活動する。

2. ヒメナガエンマムシ *Platysoma (Platysoma) celatum*

LEWIS

3頭、菅谷、11.IX.1996.

3. オオヒラタエンマムシ *Hololepta amurensis*

REITTER

1頭、大平山、14.VI.1997.

本来は山地のブナ林などに多い種である。塩山でも得られている。立ち枯れの樹皮下より見いだされる。

シテムシ科 *Silphidae*

1. マエモンシテムシ *Nicrophorus maculifrons*

KRAATZ

1頭、大平山、14.VI.1997.

あまり多くはないようである。低山地の森林に生息する種で、動物の死骸に集まる。

ハネカクシ科 *Staphylinidae*

1. アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*

(CURTIS)

1頭、志賀、18.XI.1996; 3頭、鎌形、31.III.1997.

触れると皮膚炎をおこすことで有名な衛生害虫。湿地に多く見られるほか、河原の草地にも多い。

2. ヤマトデオキノコムシ *Scaphidium japonum* REITTER
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.

マルハナノミ科 *Helodidae*

1. トビイロマルハナノミ *Scirtes japonicus*
KIESENWETTER
2頭, 菅谷, 11.I.1997.

クワガタムシ科 *Lucanidae*

1. コクワガタ *Macrodorcas rectus rectus*
(MOTSCHULSKY)
5♂, 菅谷, 21.VIII.1997.

センチコガネ科 *Geotrupidae*

1. センチコガネ *Geotrupes laevistriatus* MOTSCHULSKY
1♂, 遠山, 11.X.1997.
獣糞に集まる他、腐ったキノコや動物の死骸にも見られる。

コガネムシ科 *Scarabaeidae*

1. クロマルエンマコガネ *Onthophagus ater*
WATERHOUSE
1♂, 菅谷, 12.IV.1997; 1♂, 菅谷, 14.VI.1997.
2. クロコガネ *Holotrichia kiotoensis* BRENSKE
1♀, 塩山, 10.VIII.1996; 1♀, 將軍沢, 3.IX.1997.
3. ヒメアシナガコガネ *Ectinohoplia obducta*
(MOTSCHULSKY)
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
4. ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (HOPE)
1頭, 菅谷, 21.VI.1997.
農作物の害虫としてよく知られる種。野外では様々な植物の葉に見られる。
5. セマダラコガネ *Blitopertha orientalis*
(WATERHOUSE)
1頭, 大平山, 14.VI.1997; 1頭, 菅谷, 3.VII.1997.
6. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda*
(FALDERMANN)
1頭, 志賀, 13.IX.1996.
5月の半ば頃に花に集まる個体が多く見られる。良好な林が残る場所に多いと言う。
7. カブトムシ *Allomyrina dichotoma dichotoma*
LINNAEUS
2♂♂, 菅谷, 8.VII.1997.
最も有名な甲虫類である。嵐山町では極普通に見られ、夜間樹液の周りには多くの個体が群がる。

ナガハナノミ科 *Ptilodactylidae*

1. ヒゲナガハナノミ *Paralichas pectinatus*
(KIESENWETTER)
1♂, 將軍沢, 16.V.1997.

ヒラタドロムシ科 *Psephenidae*

1. ヒラタドロムシ *Mataopsephus japonicus japonicus*
(MATSUMURA)
2頭, 菅谷, 14.VI.1997.
2. マスダチビヒラタドロムシ *Psephenoides japonicus*
MASUDA
◎14♂♂, 鎌形 (槻川), 8.VI.1997; 1♀, 鎌形 (槻川), 14.VI.1997.

清流に棲む種で、槻川では水辺の石についている個体が多数見られた。

3. チビヒゲナガハナノミ *Ectopria opaca*
(KIESENWETTER)
28頭, 鎌形 (槻川), 3.V.1997.

やはり清流に棲む種であり、水辺の植物上に見られるという。県内では皆野町等で記録がある。筆者の観察では、ちょうど羽化の時期にあたるようで、水面ぎりぎりの所で静止する個体が多数見受けられた。

タマムシ科 *Buprestidae*

1. マスダクロホシタマムシ *Ovalisia vivata* (LEWIS)
1頭, 志賀, 13.V.1997, 高橋友美子採集.
2. ヒシモンナガタマムシ *Agrilus discalis* E. SAUNDERS
2頭, 菅谷, 12.II.1997.
3. ウグイスナガタマムシ *A. tempestivus* LEWIS
4頭, 鎌形, 8.VI.1997.

コメツキムシ科 *Elateridae*

1. ヒメサビキコリ *Agrypnus scrofa scrofa* (CANDEZE)
2頭, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997.
河原で乾燥した場所の石の下に集団で冬越しをしているのをよく見かける。
2. ヒラタヒサゴコメツキ *Colioascerus saxatilis*
(LEWIS)
1頭, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997.
3. タテジマカネコメツキ *Gambrinus vittatus*
(CANDEZE)
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
4. クロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius secessus secessus* (CANDEZE)
1頭, 鎌形, 8.VI.1997.
5. ヨツキボシコメツキ *Ectinoides insignitus insignitus* (LEWIS)
1頭, 志賀, 23.IV.1997.

ベニボタル科 *Lycidae*

1. ネアカヒシベニボタル *Dictyoptera speciosa*
OHBAYASHI
1♂2♀♀, 大平山, 14.VI.1997.

2. クロハナボタル *Plateros coracinus* (KIESENWETTER)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.

ホタル科 Lampyridae

1. ゲンジボタル *Luciola cruciata* MOTSCHULSKY
3♂♂, 將軍沢, 5.VI.1997, 新井志保採集。
町内の産地は既にわずかしか残されておらず、宅地化・河川改修と共に絶滅が危惧されている。成虫は微弱な光によるコミュニケーションで子孫を残すため、発生場所の近くに人工的な光源(街灯や人家の明かり等)が出来ると、たちまちいなくなってしまう。町内では本種に比べ、ヘイケボタル *L. lateralis* の方が割と多い様である。
2. オバボタル *Lucidina biplagiata* (MOTSCHULSKY)
1頭, 根岸, 16.V.1997; 1頭, 將軍沢, 19.V.1997.
3. カタモンミナミボタル *Drilaster axillaris*
KIESENWETTER
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.

ジョウカイボン科 Cantharidae

1. クロヒゲナガジョウカイ *Habronychus providus*
(KIESENWETTER)
1頭, 鎌形, 8.VI.1997.
2. ヒメジョウカイ *Micadocantharis japonicus*
(KIESENWETTER)
8頭, 菅谷, 12.IV.1997.
3. ジョウカイボン *Athemus suturellus* (MOTSCHULSKY)
2頭, 將軍沢, 15.V.1997.

カツオブシムシ科 Dermestidae

1. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus*
REITTER
1♂, 川島, 16.V.1997, 関口羊子採集.

ジョウカイモドキ科 Melyridae

1. クロアオケシジョウカイモドキ *Dasytes japonicus*
KIESENWETTER
1♀, 菅谷, 12.IV.1997.
カエデの花が満開の頃、花に集まる個体を良く目にする。大宮市で得られているが、県内では記録に乏しい種である。町内では決して少なくない。
2. ツマキアオジョウカイモドキ *Malachius prolongatus*
MOTSCHULSKY
1頭, 菅谷, 10.IV.1997; 1頭, 菅谷, 12.IV.1997.

ケシキスイ科 Nitidulidae

1. キイロチビハナケシキスイ *Heterhelus japonicus*
(REITTER)
9頭, 菅谷, 12.IV.1997; 2頭, 平沢, 19.IV.1997.

次種と共にニワトコの花に集まる。採集時は花粉まみれである。

2. クロチビハナケシキスイ *H. morio* (REITTER)
10頭, 菅谷, 12.IV.1997; 3頭, 平沢, 19.IV.1997.
前種と共に普通に見られる。
3. クロヒラタケシキスイ *Ipidia variolosa* REITTER
7頭, 菅谷, 11.IX.1996; 1頭, 將軍沢, 19.V.1997.
4. ツヤマルケシキスイ *Neopallodes vicinus* GROUVELLE
2頭, 菅谷, 14.VI.1997.
多孔菌のキノコに集まる。
5. マルガタカケシキスイ *Pocadites japonus*
REITTER)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
6. マルキマダラケシキスイ *Stelidota multiguttata*
REITTER
1頭, 遠山, 11.X.1997.
7. キベリチビケシキスイ *Meligethes violaceus*
REITTER
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
8. コヨツボシケシキスイ *Librodor ipsoides* (REITTER)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.

ネスイムシ科 Rhizophagidae

1. アナバケデオネスイ *Mimemodes cribratus* (REITTER)
◎1頭, 菅谷, 11.I.1997.
ネスイムシ科の甲虫類は、アシヤスキ・トウモロコシ等の葉の隙間、カミキリの坑道や昆虫の死骸、アブラムシのゴール(ムシ瘤)などから得られるが、いずれも記録は少ない。ケヤキ樹皮下より採集。

ヒメハナムシ科 Phalacridae

1. キイロアシナガヒメハナムシ *Heterolitus nipponicus*
HISAMATSU
1頭, 將軍沢, 24.IX.1997.
2. アカボシチビヒメハナムシ *Stilbus bipustulatus*
CHAMPION
1頭, 菅谷, 11.IX.1996.
県内では他に北本市の記録がある。

ヒラタムシ科 Cucujidae

1. キボシチビヒラタムシ *Laemophloeus submonilis*
REITTER
1頭, 菅谷, 11.I.1997; 1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
伐採後間もないコナラなどの薪に見られる。寄居町などで記録がある。
2. カドムネチビヒラタムシ *Placonotus testaceus*
(FABRICIUS)
1♀, 鎌形, 8.VI.1997.

ホソヒラタムシ科 *Silvanidae*

1. ミツモンセマルヒラタムシ *Psammoecus triguttatus* REITTER
1頭, 鎌形, 12.IV.1997.

クスイムシ科 *Cryptophagidae*

1. ヨツモンクスイ *Cryptophagus callosipennis* GROUVELLE
1頭, 根岸, 16.V.1997.

オオキノコムシ科 *Erotylidae*

1. ホソチビオオキノコ *Triplax japonica* CROTCH
9頭, 根岸, 2.I.1997.

テントウムシダマシ科 *Endomychidae*

1. ヨツボシテントウダマシ *Ancylopus pictus asiaticus* STROHECKER
1頭, 志賀, 13.IX.1996; 1頭, 鎌形, 31.III.1997;
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
2. キボシテントウダマシ *Mycetina amabilis* GORHAM
9頭, 菅谷, 14.VI.1997.
キノコ類に多く集まる。

テントウムシ科 *Coccinellidae*

1. ヨツボシテントウ *Phymatosternus lewisii* (CROTCH)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
2. カメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota* (HOPE)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
クルミにつくクルミハムシの幼虫を捕食するが、菅谷ではエノキの葉上より多数の個体を確認している。エノキ上で何を捕食しているのかは不明である。
3. ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata* LINNAEUS
1頭, 志賀, 13.IX.1996.
4. ナミテントウ *Harmonia axyridis* (PALLAS)
2♂♂1♀, 菅谷, 12.IV.1997.
5. ジュウサンホシテントウ *Hippodamia tredecimpunctata timberlakei* CAPRA
1頭, 根岸, 16.V.1997.
アシ原などの湿地に多く見られる。
6. キイロテントウ *Illeis koebelei koebelei* TIMBERLAKE
1頭, 大平山, 11.I.1997.
7. ヒメカメノコテントウ *Propylea japonica* (THUNBERG)
1頭, 菅谷, 10.IV.1997; 1頭, 菅谷, 12.IV.1997;
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
8. オオニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctomaculata* MOTSCHULSKY
1頭, 志賀, 8.IV.1997.

ミジンムシダマシ科 *Discolomidae*

1. クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* WOLLASTON
2頭, 將軍沢, 19.V.1997; 2頭, 鎌形, 8.VI.1997.
県内でミジンムシダマシ科の記録は少ない。広葉樹林の落葉下に生息し、極普通に見られる。

ヒメマキムシ科 *Lathridiidae*

1. クロオビケシマキムシ *Corticaria ornata* REITTER
2頭, 鎌形, 12.IV.1997.
2. ヤマトケシマキムシ *Melanophthalma japonica* JOHNSON
1頭, 鎌形, 12.IV.1997.
3. ムナボソヒメマキムシ *Stephostethus angusticollis* (GYLLENHAL)
1頭, 菅谷, 11.I.1997.
冬季採集でケヤキの樹皮下より得られるが、たまにしか見られない。寄居町等で記録がある。

ホソカタムシ科 *Colydiidae*

1. ツヤナガヒラタホソカタムシ *Penthelispa vilis* (SHARP)
3頭, 菅谷, 11.IX.1996; 2頭, 菅谷, 11.I.1997.

コキノコムシ科 *Mycetophagidae*

1. コモンヒメコキノコムシ *Litargus japonicus* REITTER
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
2. コマダラコキノコムシ *Mycetophagus pustulosus* (REITTER)
2頭, 菅谷, 12.II.1997.
日当たりの良い沢沿いにあった、スギ伐採木の樹皮下にて越冬中の個体が得られた。

ハナノミ科 *Mordellidae*

1. ヤマトヒメハナノミ *Mordellina yamamotoi* (NOMURA)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
2. クロヒメハナノミ *Mordellistena comes* MARSEUL
2頭, 鎌形, 8.VI.1997; 1頭, 大平山, 14.VI.1997.
ハルジョオンの花に集まる。

カミキリモドキ科 *Oedemeridae*

1. モモトカミキリモドキ *Oedemeronia lucidicollis* (MOTSCHULSKY)
2♂♂, 大平山, 12.IV.1997.
2. キアシカミキリモドキ *O. manicata* (LEWIS)
1♀, 菅谷, 14.VI.1997.
低山地性の普通種である。町内では春季に出現するが、あまり多くない。

アカハネムシ科 Pyrochroidae

1. ムナビロアカハネムシ *Pseudopyrochroa laticollis* LEWIS)
1♂, 菅谷, 12.IV.1997; 1♂, 大平山, 12.IV.1997.
嵐山町で最も普通に見られるアカハネムシ類。幼虫は広葉樹の枯木樹皮下に見られる。

アリモドキ科 Anthicidae

1. キアシクビボムシ *Macratria japonica* HAROLD
1頭, 根岸, 16.V.1997.
沢沿いや湿地の周辺に多く、ケヤキなどの樹皮下にて越冬する。
2. ツヤチビホソアリモドキ *Anthicus laevipennis* MARSEUL
◎ 1 2頭, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997; 2頭, 鎌形 (槻川), 8.VI.1997.
清流の石の上に見られる。筆者は奥秩父地方の溪流でも採集している。日中暑い中、石の上を徘徊している個体が多く見られた。
3. ヨツボシホソアリモドキ *Pseudoleptaleus valgipes* (MARSEUL)
1頭, 志賀, 13.IX.1996; 6頭, 鎌形, 12.IV.1997.
4. アカモンホソアリモドキ *Sapintus marseuli* (PIC)
1頭, 將軍沢, 19.V.1997.
草地の葉上に多く見られる。

ニセクビボムシ科 Aderidae

1. チャイロニセクビボムシ *Aderus grouvelli* (PIC)
1頭, 菅谷, 28.III.1997.
大字菅谷にある我が家の畑にて、草むしりの途中に土中より得られた。平野部にて若干の記録がある。

ハナノミダマシ科 Scaptiidae

1. クロフナガタハナノミ *Anaspis marseuli* CSIKI
1頭, 菅谷, 12.IV.1997; 1頭, 大平山, 14.VI.1997.

チビキカワムシ科 Salpingidae

1. クリイロチビキカワムシ *Lissodema dentatum* LEWIS
2頭, 菅谷, 21.VI.1997.
薪の表面を徘徊するのがよく見られる。

ハムシダマシ科 Lagriidae

1. ハムシダマシ *Lagria rufipennis* MARSEUL
1♀, 志賀, 13.IX.1996.
町内では近似種のニセハムシダマシ *L. nigricollis* も得られている。落葉樹の葉上に多い。
2. ヒゲブトハムシダマシ *Luprops orientalis* (MOTSCHULSKY)
1頭, 菅谷, 11.I.1997.

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

1. コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriaceum* MOTSCHULSKY
1頭, 鎌形 (槻川), 12.IV.1997; 2頭, 菅谷 (都幾川), 10.IX.1997.
 2. モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi lewisi* BATES
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
コナラなどの薪に生える多孔菌類に集まる。
 3. ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydemus subfascia subfascia* (WALKER)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
 4. アメイロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus gentilis* (LEWIS)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
 5. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* (HERBST)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997; 4頭, 菅谷, 3.VII.1997.
大字菅谷にある、筆者の家の中に発生したものである。穀物などを食い荒らす世界的な害虫。
 6. ヨツコブゴミムシダマシ *Uloma latimanus* KOLBE
1♂ 2♀♀, 菅谷, 11.I.1997.
 7. エグリゴミムシダマシ *U. marseuli marseuli* NAKANE
1♂ 1♀, 大平山, 11.I.1997; 1♂, 菅谷, 12.IV.1997.
 8. ヒメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus duellius* (LEWIS)
1♂, 菅谷, 3.VII.1997.
夜間、クヌギの倒木に生えるサルノコシカケより得られた。
 9. コマルキマワリ *Elixota curva* (MARSEUL)
1頭, 菅谷, 11.I.1997.
 10. クロツヤキマワリ *Plesiophthalmus spectabilis spectabilis* HAROLD
1頭, 菅谷, 21.VIII.1997.
キマワリ *P. nigrocyanus* に比べて少ないようである。夜間、樹液の周りや薪の上を徘徊しているのが時々見られる。
- ### カミキリムシ科 Cerambycidae
1. クロカミキリ *Spondylis buprestoides* LINNAEUS
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
以前は菅谷中学校校庭のナイターに多数の個体が飛来したものであるが、エサである松が減ってしまったため、なかなか得られなくなった。
 2. ホソカミキリ *Distenia gracilis gracilis* BLESSIG
1♂, 菅谷, 8.VII.1997.
雑木林に積んである薪の周辺より得られる。

3. ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta* (GEBLER)
2頭, 大平山, 12.IV.1997.
4. キマダラカミキリ *Aeolesthes chrysothrix chrysothrix* BATES
1♂, 菅谷, 8.VII.1997.
南方系の種で、町内においては決して多くはないようである。栗の花に集まる他、夜の樹液にも見られる。
5. キスジトラカミキリ *Cyrtoclytus caproides* BATES
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
ケヤキの伐採木に多く集まっているのを良く見かける。一見ハチ類に見間違える模様である。
6. ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta* (BATES)
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
雑木林で枝打ちをしたソダ(枝の細かい部分)を積んであるところに集まる。
7. ホタルカミキリ *Dere thoracica* WHITE
1頭, 菅谷, 12.IV.1997; 1頭, 大平山, 14.VI.1997.
ネムノキの伐採木に集まる。
8. ゴマフカミキリ *Merosa myops myops* (DALMAN)
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
9. シナノクロフカミキリ *Asaperda agapanthina agapanthina* BATES
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
10. キボシカミキリ *Psacotheta hilaris hilaris* (PASCOE)
1♂, 志賀, 13.IX.1996.
11. ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella* (BATES)
33頭, 菅谷, 14.VI.1997.
この年、菅谷ではアザミ類に本種が大発生した。数百頭もの黄色いカミキリが、夕刻になると一斉に飛び交っていた。
12. キクスイカミキリ *Phytoecia rufiventris* GAUTIER
2♂♂1♀, 鎌形, 8.VI.1997.

ハムシ科 Chrysomelidae

1. スゲハムシ *Plateumaris sericea* (LINNAEUS)
1頭, 平沢, 19.IV.1997.
湿地のスゲ類に発生し、県内での記録は山沿いのものがほとんどである。本種のような湿原を生息域とする種が見られるのは、嵐山町にまだ荒らされていない良い状態の湿地が存在する証拠である。町内では平沢地区の他、鎌形地区でも生息を確認している。なお、平沢地区で得られた個体は金青色であったが、鎌形地区では金桃色、金色、金青色、金緑色、黒色の個体が見られる。
2. タマツツハムシ *Adiscus lewisii* (BALY)
2♂♂, 菅谷, 21.VI.1997.
3. クロボシツツハムシ *Cryptocephalus signaticeps* BALY
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
4. アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevichii gaschkevichii* (MOTSCHULSKY)
1頭, 川島, 15.VI.1997, 島崎守男採集.
5. ウスイロサルハムシ *Basilepta pallidula* (BALY)
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
6. イモサルハムシ *Colasposoma dauricum* MANNERHEIM
1頭, 菅谷, 14.VI.1997; 1頭, 大平山, 14.VI.1997.
町内では青色、緑色、真鍮色の全ての型が見られる。ヒルガオの葉につく。
7. ヒメキバネサルハムシ *Pagria signata* (MOTSCHULSKY)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
8. ドウガネサルハムシ *Scelodonta lewisii* BALY
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
得られたのは銅金色の個体であった。他にも青色、緑色に輝く型がある。
9. トビサルハムシ *Trichochrysea japana japana* (MOTSCHULSKY)
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
コナラに多くみられる。
10. ヤナギルリハムシ *Plagioderma versicolora* (LAICHARTING)
1頭, 塩山, 8.IV.1997.
11. コガタルリハムシ *Gastrophysa atrocyanea* MOTSCHULSKY
2頭, 菅谷, 12.IV.1997.
早春、河原や草地に生えるギンギシの葉に群がる。
12. イタドリハムシ *Gallerucida bifasciata* MOTSCHULSKY
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
13. ホタルハムシ *Monolepta dichroa* HAROLD
1頭, 鎌形, 13.IX.1997.
14. アトボシハムシ *Paridea angulicollis* (MOTSCHULSKY)
1頭, 菅谷, 11.I.1997.
15. ブタクサハムシ *Ophraella notulata* FABRICIUS
20頭, 鎌形, 13.IX.1997, 文献引用(豊田(1998), 寄せ蛾記).
本種は北アメリカからの移入種で、秋の花粉症の基になるブタクサ類を食い荒らすことから、益虫として注目され新聞にも取り上げられた。日本国内に侵入してわずかな時間しか経っておらず、分布の広がり具合が興味をひくところである。本種の学名については *O. communis* LE SAGE とする見方もある。

16. サメハダツブノミハムシ *Aphthona strigosa* BALY
1頭, 鎌形, 8.VI.1997.
17. アカイロマルノミハムシ *Argopus punctipennis* (MOTSCHULSKY)
3頭, 大平山, 14.VI.1997.
熊谷市などで記録がある。あまり多くない。
18. ヒサゴトビハムシ *Chaetocnema ingenua* (BALY)
1頭, 菅谷, 12.IV.1997.
19. イヌノフグリトビハムシ *Longitarsus holsaticus* (LINNAEUS)
1頭, 平沢, 19.IV.1997.
草地のイヌノフグリに見られる。
20. チャバネツヤハムシ *Phygasia fulvipennis* (BALY)
1頭, 鎌形, 8.VI.1997.
草地のスイーピングで得られることがある。
21. フタホシオオノミハムシ *Pseudodera xanthospila* BALY
2頭, 將軍沢, 19.V.1997.
県内の記録は低山地に多く、低地で得られる事は稀である。
22. キイロタマノミハムシ *Sphaeroderma unicolor* KIMOTO
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
23. カタビロトゲハムシ *Dadtylispa subquadrata* (BALY)
1頭 (死骸), 菅谷, 11.I.1997.
春から初夏にかけて、コナラなどの若い葉に見られる。大平山方面には多いようである。
24. カメノコハムシ *Cassida nebulosa* LINNAEUS
1頭, 將軍沢, 19.V.1997.
25. ヒメカメノコハムシ *C. piperata* HOPE
2頭, 大平山, 14.VI.1997.
26. イチモンジカメノコハムシ *Thlaspidia cribrata* (BOHEMAN)
1頭, 大平山, 12.IV.1997.
ムラサキシキブ等の葉上に多く見られる。

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

1. キノコヒゲナガゾウムシ *Euparius oculus oculus* (SHARP)
3頭 (内1個体は黒色型), 菅谷, 11.IX.1996.
2. ササセマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius stenus* JORDAN
◎ 1♂, 鎌形, 12.IX.1997.
枯れたモウソウチクについているのを採集した。
3. キスジヒゲナガゾウムシ *Aphaulimia debilis* (SHARP)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.

オトシブミ科 Attelabidae

1. ヒメクロオトシブミ *Apoderus (Compsapoderus) erythrogaster* SNELLEN van VOLLENHOVEN
4頭, 平沢, 19.IV.1997; 1頭, 大平山, 14.VI.1997.
2. エゴツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus roelofsi* (HAROLD)
1♂, 菅谷, 11.I.1997, 文献引用 (豊田 (1998), 甲虫ニュース).
3. アカクビナガオトシブミ *Paracentrocorynus nigricollis* (ROELOFS)
1♂, 將軍沢, 19.V.1997.
4. ヒメコブオトシブミ *Phymatapoderus pavens* VOSS
1頭, 大平山, 14.VI.1997.
5. カシルリオトシブミ *Euops (Synaptops) splendidus* VOSS
1♂, 菅谷, 12.II.1997; 1♂, 鎌形, 13.II.1997, 文献引用 (豊田 (1998), 甲虫ニュース); 1♂, 平沢, 19.IV.1997.
6. アシナガオトシブミ *Phialodes rufipennis* ROELOFS
1♂, 根岸, 16.V.1997.
7. クロケシツブチョッキリ *Auletobius (Aletinus) uniformis* (ROELOFS)
1頭, 菅谷, 14.VI.1997.
本種は、バラ科植物の新芽に穴を空け産卵することから、園芸害虫として知られる。
8. グミチョッキリ *Involvulus (Involvulus) placidus* (SHARP)
36頭, 菅谷, 10.IV.1997.
菅谷館跡に植栽されているグミに大発生する。
9. マルムネチョッキリ *Chonostropheus chujoi* VOSS
1頭, 大平山, 12.IV.1997.
本種の生態についてはあまり知られていない。菅谷や大平山では、カエデ類及びカツラの新芽を巻く。

ホソクチゾウムシ科 Apionidae

1. ヒゲナガホソクチゾウムシ *Apion (Protapion) placidum* FAUST
4頭, 大平山, 14.VI.1997.

ゾウムシ科 Curculionidae

1. ミドリクチブトゾウムシ *Cyphicerus viridulus* (ROELOFS)
1頭, 菅谷, 21.VI.1997.
2. アイノカツオゾウムシ *Lixus maculatus* ROELOFS
1♂ 1♀, 鎌形, 8.VI.1997.
3. カシアシナガゾウムシ *Mecysolobus piceus* (ROELOFS)
1頭, 遠山, 11.X.1997.

4. タデサルゾウムシ *Homorosoma asperum* (ROELOFS)
2頭, 鎌形, 8.VI.1997.
5. オリーブアナアキゾウムシ *Dyscerus perforatus*
(ROELOFS)
◎4頭, 菅谷, 3.VIII.1997, 豊田富喜採集.

オサゾウムシ科 Rhynchophoridae

1. トホシオサゾウムシ *Aplotes roelofsi* (CHEVROLAT)
1頭, 鎌形, 8.VI.1997.

本報告にて記録された嵐山町産甲虫類は、県内初記録と思われるものが5種含まれており、少ない種類ながらも内容の濃い報告と成り得たであろう。種類の同定が困難であるハネカクシ類等については、現時点では整理が出来ていないので今回は一部のみ記録した。また、今回の調査で本邦初記録の、恐らく未記載種と思われるものが得られているが、文献調査等が不十分であるのであえて記さないでおく。

今回記録されたものの中で特筆すべき種類として、山沿いの清流に見られるアオマルガタミズギワゴミムシ、主に山地の地下浅層で得られるシバタホンヒラタゴミムシ、山沿いの自然林で得られるオオヒラタエンマムシ、清流の岩上で生活するマスタチビヒラタドROMシヤツヤチビホンアリモドキ、スゲ類の生えた良好な状態の湿地にのみ生育するスゲハムシ等が挙げられる。また、分布記録として注目して行きたいものには、トウキョウヒメハンミョウ、ブタクサハムシ等の種が挙げられよう。しかし、これらはあくまで生態的知見の多い種、もしくは記録の多い種に限ったことであり、記録の少ない微小甲虫類にも貴重なものが含まれているものと思われる。県内の他の地域との種類数の比較については、今回はあくまで部分的な報告であるので、全体的な調査が一通り終了した時点で、比較・検討してゆきたいと思う。

《参考文献》

ここでは参考にした主なものについて挙げた。

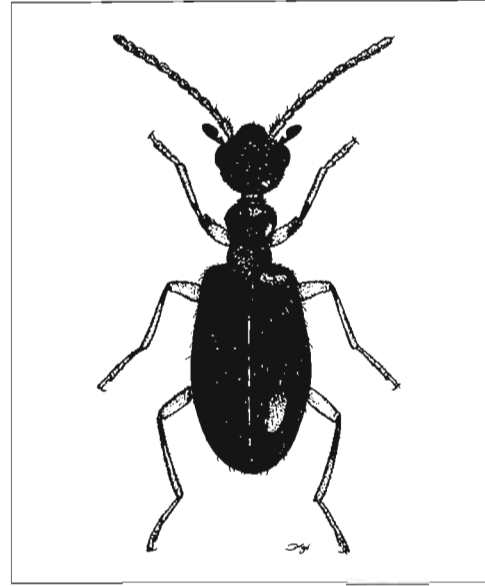
- 斎藤良夫, 1978. 埼玉県産の甲虫. 埼玉県動物誌, 埼玉県教育委員会. : 213-258.
- 斎藤良夫, 1980. 深作沼動物植物調査報告 (甲虫類). 大宮市文化財調査報告第14集, 大宮市教育委員会. : 66-74.
- 斎藤良夫, 1981. 寄居町の甲虫類. 寄居町の自然, 動物編 (寄居町史資料集), 寄居町教育委員会. : 87-104.
- 寺山 守, 1982. 埼玉県熊谷市産動物目録基礎資料 (鞘翅目). 北埼玉地域研究センター年報第1号, 立正大学北埼玉地域研究センター. : 30-36.
- 大野正男, 1985. 埼玉県のトウキョウヒメハンミョウ. 寄せ蛾記 (45), 埼玉昆虫談話会. : 609-610.
- 小田 博, 1985. 「埼玉県動物誌」に追加する甲虫類 (II).

- 寄せ蛾記 (45), 埼玉昆虫談話会. : 612-615.
- 江村 薫, 1985. 久喜市の動・植物 (I, 甲虫目). 久喜市史調査報告書第4集, 久喜市史編さん室. : 89-92.
- 藤多文雄, 1986. 浦和市付近の甲虫類 (8) ハムシ科①. 昆虫と自然 21 (6). : 29-32.
- 福嶋義一・長島武志, 1987. 武甲山の鞘翅目. 秩父武甲山総合調査報告書 (自然編), 武甲山総合調査会 (横瀬町教育委員会). : 308-367.
- 江村 薫, 1989. 久喜市の甲虫類. 久喜市の動・植物 (II), 久喜市史調査報告書第14集, 久喜市史編さん室. : 81-107.
- 長谷川道明, 1989. 戸田市の甲虫類. 戸田市動物誌, 戸田市立郷土博物館. : 151-181.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 1989. 日本産昆虫総目録 I (23. コウチュウ目). : 197-538.
- 高橋 衛 他, 1990. 加治丘陵自然環境調査報告書 (昆虫, 甲虫類). 入間市加治丘陵自然環境調査研究会. : 355-363.
- A. F. Newton Junior & M. K. Thayer, 1992. Current classification and family-group names in Staphyliniformia (Coleoptera). *feeldiana zoology* (N. S.), No. 67. : III + 1-92.
- 長島武志, 1993. コガネムシ・テントウムシ・カミキリの仲間 (甲虫類). 児玉町史自然編, 児玉町教育委員会. : 459-483.
- 長島武志・谷口正行, 1994. 滝沢ダム水没地域とその周辺の鞘翅目. 秩父滝沢ダム水没地域総合調査報告書, 滝沢ダム (大滝村教育委員会). : 203-213.
- 小田 博, 1994. 埼玉県産甲虫類の分布資料 [2]. 寄せ蛾記 (70), 埼玉昆虫談話会. : 1557-1569.
- 記野直人, 1994. 埼玉県における甲虫類の採集記録. 寄せ蛾記 (70), 埼玉昆虫談話会. : 1591-1598.
- 小田 博, 1994. 埼玉県産甲虫類の分布資料 [3]. 寄せ蛾記 (71), 埼玉昆虫談話会. : 1630-1642.
- 藤多文雄, 1994. 埼玉県産ホソクチゾウムシ科既知種目録. 寄せ蛾記 (72), 埼玉昆虫談話会. : 1688-1689.
- 小田 博, 1994. 埼玉県産甲虫類の分布資料 [4]. 寄せ蛾記 (72), 埼玉昆虫談話会. : 1726-1731.
- 大熊光治・黒澤与四郎, 1995. 水辺の動物 (3) 水生昆虫類. 小鹿野町の自然 I, 小鹿野町. : 71-107.
- 藤多文雄, 1995. 埼玉県産オトシブミ科既知種目録. 寄せ蛾記 (74), 埼玉昆虫談話会. : 1793-1796.
- 小田 博, 1995. 埼玉県産甲虫類の分布資料 [5]. 寄せ蛾記 (74), 埼玉昆虫談話会. : 1803-1819.
- 小田 博, 1995. 埼玉県産甲虫類の分布資料 [6]. 寄せ蛾記 (75), 埼玉昆虫談話会. : 1889-1911.
- 牧林 功, 1995. 北本市の甲虫類. 北本の動植物誌, 北本市教育委員会. : 195-246.
- 長島武志, 1996. 平地・山地の動物とその分布 (6). 鞘翅目. 小鹿野町の自然 I I, 小鹿野町. : 105-115.
- 内田正吉, 1996. 埼玉県産ゴミムシダマシ科昆虫の採集記録. 寄せ蛾記 (78), 埼玉昆虫談話会. : 2073-2074.
- 牧林 功, 1996. 埼玉県産ジョウカイボン科の記録. 寄せ蛾記 (80), 埼玉昆虫談話会. : 2139-2141.
- 長知直和, 1997. 埼玉県で採集した甲虫. 寄せ蛾記 (82), 埼玉昆虫談話会. : 2274-2280.
- 吉越 肇, 1997. 埼玉県昆虫誌基礎資料 (III). 寄せ蛾記 (83), 埼玉昆虫談話会. : 2335-2339.
- 福嶋義一, 1997. 長瀬町の水生昆虫類. 長瀬町史長瀬の自然. 長瀬町 : 225-249.

豊田浩二, 1998. 冬季採集で得られたオトシブミ類. 甲虫
 ニュース (120), 日本鞘翅学会. : 8.
 豊田浩二, 1998. 帰化昆虫ブタクサハムシの記録. 寄せ蛾記
 (85), 埼玉昆虫談話会. : 2390-2393.
 吉越 肇 他, 1998. 埼玉県の鞘翅目 (甲虫類). 埼玉県昆虫誌
 Ⅲ. 埼玉昆虫談話会. : 93-340.



人家の庭先や畑の脇などで見られるトウキョウヒメハンミョウ
 (1997年7月, 大字菅谷, 筆者自宅の庭にて)



Anthicus laevipennis ツヤチビホソアリモドキ
 日中、清流にて岩の表面を歩き回る姿が観られる。体長約
 2.5 mm (1997年5月, 大字鎌形, 槻川・嵐山溪谷にて)



水面をグルグル回るミズスマシ
 (1996年5月, 大字菅谷, 菅谷館跡の池にて採集。)



ケヤキ伐採木の表面を徘徊するキシジトラカミギリ
 (1996年6月, 大字越畑, 関越道路脇の貯木場にて)



清流で石の水際に静止するマスのグチビヒラタドロムシのオス
 (1997年6月, 大字鎌形, 槻川・嵐山溪谷にて)



スゲの花に群れるスゲハムシ。塩山は、県内では数少ない平
 野部の生息地である。(1996年5月, 大字鎌形, 塩山にて)

嵐山町の半翅類 (中間報告)

野澤雅美

はじめに

嵐山町は埼玉県の中央部に位置し、南北に細長い形をしており、北部は比企丘陵、中部は東松山山地、南部は岩殿丘陵そして西部は外秩父山地と変化に富んだ地形をしている。標高も越畑の尾根がおよそ120mの標高を保っているものの、概ね100m前後のゆるやかな丘陵地形であり、滑川町、東松山市、鳩山町、玉川村、小川町、寄居町、川本町、さらに江南町と境界を接している。

平成8年6月、嵐山町の博物誌編さんのための動物部会が発足し、筆者も調査協力員の委嘱を受け、嵐山町の半翅類昆虫の本格的な調査を開始した。特に8年度9年度は、嵐山町南部地域、とりわけ菅谷、千手堂を中心に遠山、鎌形、將軍沢の各地域の調査を試みた。同翅類(セミ・アワフキムシ・ウンカ・ヨコバイ等)は調査が不十分であるが、これまでの調査で明らかになった嵐山町の半翅類昆虫を整理する。

報告にあたり小杉昭光部会長をはじめ、動物調査協力員の方々には調査で協力をいただき心よりお礼申し上げますと共に、博物誌編さん室の豊田浩二氏には、日頃採集された半翅類資料を提供していただき、嵐山町の半翅類相の解明に極めて有益であった。改めて感謝申し上げる次第である。

嵐山町の半翅類

これまでに明らかになった嵐山町の半翅類は、異翅目23科98種、同翅目11科33種の計34科131種である。ただこの他に多数の未同定種があるので今後精査していきたい。報告は和名・学名・産地(大字名)・調査年月日・性別の順に示した。記載の順序は埼玉大学生物学研究室の林正美氏の教示されたものを基本とした。

目録

異翅目 HETEROPTERA

クビナガカメムシ科 *Enicocephalidae*

1. ヒメクビナガカメムシ *Hoplitocoris*

(*Pseudenicocephalus*) *lewisii* (DISTANT)

菅谷 1997.6.14 1♂; 鎌形 1996.4.5 2頭
(幼虫)

イトアメンボ科 *Hydrometridae*

1. ヒメイトアメンボ *Hydrometra procera* (HORVATH)

千手堂(槻川) 1997.4.12 1♂1♀

アメンボ科 *Gerridae*

1. ヒメアメンボ *Gerris latiabdominis* MIYAMOTO

菅谷 1996.6.6 1♂1♀

ミズギワカメムシ科 *Saldidae*

1. ミズギワカメムシ *Saldula saltatoria* (LINNAEUS)

千手堂(槻川) 1997.4.12 2♂♂, 1997.6.14 1♂

2. キボシミズギワカメムシ *Saldula scotica* CURTIS

千手堂(槻川) 1997.6.14 4♂♂

メミズムシ科 *Ochteridae*

1. メミズムシ *Ochterus marginatus* LATREILLE

菅谷 1997.4.12 2♂♂, 千手堂(槻川) 1997.4.12 (幼虫)

メクラカメムシ科 *Miridae*

1. ズアカシダメクラガメ *Monalocoris filicis* (LINNAEUS)

菅谷 1997.6.14 1♀

2. モンキクロメクラガメ *Deraeocoris ater* JAKOVLEV

菅谷 1997.6.16 1♀, 1997.6.14 1♂1♀

3. シロテンメクラガメ *Deraeocoris punctulatus* (FALLEN)

將軍沢 1996.4.9 1♂

4. ヒメセダメクラガメ *Charagochilus gyllenhalii* (FALLEN)

大平山 1997.6.14 1♀

5. メンガタメクラガメ *Eurystylus coelestialium* (KIRKALDY)

菅谷 1995.6.16 1♀

6. アカアシメクラガメ *Onomaus lautus* (UHLER)

志賀 1996.7.25 1♂

7. オオキベリメクラガメ *Pinalitus japonicus* (KERZHNER)

千手堂 1997.5.10 1♂; 菅谷 1997.5.10 3♂♂
3♀♀

8. ムギメクラガメ *Stenodema calcaratum* (FALLEN)

大平山 1997.6.14 1♀

9. クロマルメクラガメ *Orthocephalus funestus* JAKOVLEV

三反田 1997.4.27 1♂; 千手堂 1997.5.10 1♂2♀♀

10. チビトゲメクラガメの1種 *Campylomma* sp.

菅谷 1997.5.10 3♂♂

11. マットビメクラガメ *Phoenicocoris kyushuensis*
(LINNAVUORI)
菅谷 1997.5.10 2♂♂ 3♀♀
12. キアシクロホソメクラガメ *Phylus coryloides*
JOSIFOV et KERZHNER
菅谷 1997.5.10 1♀
13. シラゲヨモギメクラガメ *Plagiognathus albipennis*
(FALLEN)
千手堂 1997.5.10 1♀
マキバサシガメ科 **Nabidae**
1. アシプトマキバサシガメ *Prostemma hilgendorffi*
STEIN
菅谷 1997.6.14 1♀
2. キバネアシプトマキバサシガメ *P. kiborti*
(JAKOVLEV)
鎌形 1996.4.5 1♂, 1997.6.14 1♀; 菅谷
1997.6.14 1♀; 吉田 1997.8.27 1♀
3. コバネマキバサシガメ *Nabis (Milu) apicalis*
(MATSUMURA)
吉田 1997.8.27 1♀
4. ハネナガマキバサシガメ *N. stenoferus* HSIAO
菅谷 1997.6.14 1♀
ハナカメムシ科 **Anthocoridae**
1. ヒメハナカメムシ *Orius sauteri* (POPPIUS)
菅谷 1996.6.6 1♂ 1♀
2. ヤサハナカメムシ *Amphiareus obscuriceps*
(POPPIUS)
菅谷 1997.2.9 1♂
グンバイムシ科 **Tingidae**
1. ウチワグンバイ *Cantacader lethierryi* SCOTT
越畑 1997.11.8 1♂
2. キクグンバイ *Galeatus spinifrons* (FALLEN)
菅谷 1996.8.30 1♂
3. ナシグンバイ *Stephanitis nashi* ESAKI
千手堂 1997.5.10 1♂; 大平山 1997.5.17 1ex.
サシガメ科 **Reduviidae**
1. アカサシガメ *Cydnocoris russatus* STAL
大平山 1996.9.23 1♂; 菅谷 1997.6.14 1♀
2. シマサシガメ *Sphdanolestes impressicollis*
(STAL)
千手堂 1997.5.10 1♂; 大平山 1997.6.14 1♂;
菅谷 1997.5.10 1♂, 1997.6.14 1♀
3. ヤニサシガメ *Velinus nodipes* (UHLER)
菅谷 1996.6.14 1♂; 大平山 1997.2.9 1♂
4. モモブトトビイロサシガメ *Oncocephalus femoratus* REUTER
菅谷 1996.7.25 1♀, 1997.9.3 1♀
5. トビイロサシガメ *O. assimilis* REUTER
菅谷 1997.6.14 2♀♀
6. クビグロアカサシガメ *Haematoloecha delibuta*
(DISTANT)
鎌形 1996.4.4 5♂♂ 1♀
7. アカシマサシガメ *H. nigrorufa* (STAL)
菅谷 1997.5.10 1♂
8. クロモンサシガメ *Peirates turpis* WALKER
鎌形 1996.4.4 1♂
ヒラタカメムシ科 **Aradidae**
1. ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis*
BERGROTH
根岸 1996.4.23 1♂ 1♀
2. ヒラタカメムシ *A. consentaneus* HORVATH
菅谷 1996.6.19 1♂
3. オオヒラタカメムシの1種 *Mezira* sp.
菅谷 1997.5.10 1♀, 1997.6.14 10♂♂ 3♀♀
イトカメムシ科 **Berytidae**
1. イトカメムシ *Yemma exilis* HORVATH
千手堂 1997.5.10 1♀; 菅谷 1997.5.10 1♂,
1997.4.12 4♀♀
ナガカメムシ科 **Lygaeidae**
1. ジュウジナガカメムシ *Tropidothorax cruciger*
(MOTSCHULSKY)
菅谷 1997.6.14 1♀
2. ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus*
DISTANT
菅谷 1996.6.20 1♀; 千手堂 1997.5.10 3♀♀
3. ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon*
(THUNBERG)
菅谷 1997.3.14 1♂ 1♀; 大平山 1997.3.7 1♂
4. ヒメコバネナガカメムシ *Dimorphopterus bicoloripes* (DISTANT)
菅谷 1994.2.9 1♀, 1996.6.6 1♂ 1♀; 将
軍沢 1996.4.9 3♂♂ 3♀♀
5. コバネナガカメムシ *D. pallipes* (DISTANT)
大平山 1997.4.12 2♂♂ 2♀♀, 1997.6.14 1♀
6. ホソコバネナガカメムシ *Macropes obnubilus*
(DISTANT)
大平山 1997.6.14 1♂; 菅谷 1997.4.12 1♂
4♀♀; 三反田 1997.4.27 1♂ 2♀♀; 吉田 1997.
8.27 1♂
7. コガシラコバネナガカメムシ *Pirkimerus japonicus* (HIDAKA)
三反田 1997.4.27 2♂♂; 菅谷 1996.4.18 1♂
8. オオメナガカメムシ *Piocoris varius* (UHLER)
大平山 1995.11.11 1♂, 1997.6.14 1♂ 1♀

9. ヒゲナガカメムシ *Pachygrontha antennata* (UHLER)
菅谷 1997.4.12 1 ♂
10. クロスジヒゲナガカメムシ *P. similis* UHLER
千手堂 1997.5.10 1 ♂
11. ヨツボシチビナガカメムシ *Botocudo japonicus* (HIDAKA)
菅谷 1996.8.30 2 ♂♂, 1997.6.14 1 ♀
12. ヒナナガカメムシ *Iodinus ferrugineus* LINDBERG
菅谷 1996.8.30 1 ♂ 1 ♀; 大平山 1997.5.17 1 ♀
13. オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* (SCOTT)
将軍沢 1996.8.22 1 ♀; 大平山 1997.6.14 1 ♀; 菅谷 1997.6.14 1 ♀
14. ヒラタヒョウタンナガカメムシ *Pachybrachius luridus* (HAHN)
将軍沢 1996.10.16 1 ♂; 吉田 1997.8.27 2 ♂♂ 2 ♀♀
15. チャモンナガカメムシ *Paradieuches dissimilis* (DISTANT)
大平山 1997.6.14 1 ♂; 菅谷 1995.6.16 1 ♀
16. ケベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius lateralis* (SCOTT)
菅谷 1995.8.15 1 ♀
17. コバネヒョウタンナガカメムシ *Togo hemipterus* (SCOTT)
菅谷 1997.8.7 1 ♀; 鎌形 1996.4.4 1 ♂; 大平山 1995.11.11 1 ♀
- オオホシカメムシ科 **Largidae**
1. ヒメホシカメムシ *Physopelta cisticollis* STALL
菅谷 1997.6.14 1 ♀; 鎌形 1997.9.11 1 ♀
2. オオホシカメムシ *P. gutta* (BURMEISTER)
菅谷 1997.5.10 1 ♂; 大平山 1997.6.14 1 ♀
- ホシカメムシ科 **Pyrrhocoridae**
1. フタモンホシカメムシ *Pyrrhocoris sibiricus* KUSCHAKEWITSCH
越畑 1997.11.8 1 ♂; 志賀 1996.7.25 1 ♂
2. クロホシカメムシ *P. sinuaticollis* REUTER
越畑 1997.11.8 2 ♂♂ 1 ♀
- ヘリカメムシ科 **Coreidae**
1. ホオズキヘリカメムシ *Acanthocoris sordidus* (THUNBERG)
菅谷 1995.6.6 1 ♀, 1995.6.15 1 ♀
2. ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (THUNBERG)
大平山 1997.6.14 1 ♀, 1997.6.14 1 ♂; 鎌形 (塩沢) 1997.5.10 1 ♂ 2 ♀
3. オオツマキヘリカメムシ *Hygia (Colpura) lativentris* (MOTSCHULSKY)
大平山 1997.6.14 1 ♂
4. ツマキヘリカメムシ *H. (Hygia) opaca* (UHLER)
菅谷 1992.11.21 1 ♀
5. キバラヘリカメムシ *Plinactus bicoloripes* SCOTT
菅谷 1997.5.10 1 ♂
- ホソヘリカメムシ科 **Alydidae**
1. クモヘリカメムシ *Leptocoris chinensis* (DALLAS)
大平山 1997.6.14 1 ♂
2. ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* (THUNBERG)
菅谷 1993.4.23 1 ♂, 1995.4.26 1 ♂; 将軍沢 1996.4.9 1 ♂
- ヒメヘリカメムシ科 **Rhopalidae**
1. スカシヒメヘリカメムシ *Liorhyssus hyalinus* (FABRICIUS)
菅谷 1997.6.14 1 ♀
2. アカヒメヘリカメムシ *Rhopalus maculatus* (FIEBER)
千手堂 1997.5.10 1 ♂; 菅谷 1997.4.12 1 ♂; 三反田 1997.4.27 1 ♂
3. ブチヒゲヘリカメムシ *Stictopleurus punctatan* GOEZE
千手堂 1997.5.10 3 ♀♀; 菅谷 1997.4.12 2 ♂♂
- クヌギカメムシ科 **Urostylidae**
1. ヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis* SCOTT
菅谷 1993.5.29 1 ♂
- マルカメムシ科 **Plataspidae**
1. ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttulum* MOTSCHULSKY
菅谷 1997.9.19 1 ♂
2. マルカメムシ *Megacocta punctatissima* (MONTANDON)
三反田 1997.4.27 4 ♀♀
- ツチカメムシ科 **Cydnidae**
1. ツチカメムシ *Macroscytus japonensis* (SCOTT)
菅谷 1997.4.12 2 ♂♂, 1997.6.14 2 ♂♂ 2 ♀♀
2. フタボシツチカメムシ *Adomerus biguttulus* (MOTSCHULSKY)
志賀 1996.8.18 2 ♀♀
3. ミツボシツチカメムシ *A. triguttulus* (MOTSCHULSKY)
菅谷 1997.6.14 1 ♂ 2 ♀♀, 1997.4.12 6 ♂♂ 2 ♀♀, 1997.4.12 5 ♂♂ 1 ♀
4. ツヤツチカメムシの1種 *Chilocoris* sp.
大平山 1997.5.17 1 ♂

カメムシ科 Pentatomidae

1. ウズラカメムシ *Aelia fieberi* SCOTT
千手堂 1997.5.10 2 ♂♂; 大平山 1997.6.14
1 ♂; 菅谷 1995.6.15 1 ♀
 2. シロヘリカメムシ *Aenalia lewisi* (SCOTT)
大平山 1997.6.14 1 ♂; 菅谷 1996.6.6 1 ♂
 3. トゲカメムシ *Carbula humerigera* (UHLER)
将軍沢 1996.8.22 1 ♀ n
 4. ブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccalum* (LINNAEUS)
古里 1997.8.14 1 ♀
 5. ヒメナガメ *Eurydema pulchra* (WESTWOOD)
千手堂 1997.5.10 1 ♂ 1 ♀
 6. ナガメ *E. rugosa* MOTSCHULSKY
千手堂 1997.5.10 1 ♂; 菅谷 1996.7.4 1 ♂,
1995.4.26 1 ♀
 7. ムラサキシラホシカメムシ *Eysarcoris annamita*
BREDDIN
大平山 1997.6.14 1 ♀
 8. シラホシカメムシ *E. ventralis* (WESTWOOD)
菅谷 1997.6.14 1 ♂
 9. ミヤマカメムシ *Hermolaus amurensis* HORVATH
大平山 1997.4.12 1 ♂
 10. ヨツボシカメムシ *Homalogonia obtusa* (WALKER)
三反田 1997.4.27 1 ♂
 11. スコットカメムシ *Menida scotti* PUTON
大平山 1997.3.7 1 ♂
 12. ナカボシカメムシ *M. musiva* (JAKOVLEV)
菅谷 1994.2.9 1 ♂, 1992.12.25 2 ♀♀
 13. チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali*
SCOTT
千手堂 1995.4.27 2 ♀♀; 菅谷 1997.6.14 1 ♂; ;
大平山 1997.6.14 1 ♂; 三反田 1997.4.27 2 ♀♀
 14. アオクサカメムシ *Nezara antennata* SCOTT
菅谷 1997.6.14 1 ♂
 15. ハナダカカメムシ *Dybowskyia reticulata*
(DALLAS)
大平山 1997.6.14 1 ♂ 2 ♀♀
 16. オオクロカメムシ *Scotinophara horvathi*
DISTANT
将軍沢 1996.10.16 1 ♂; 吉田 1997.8.27 1 ♂
 17. ヒメクロカメムシ *S. scotti* HORVATH
将軍沢 1996.10.16 1 ♂
- ツノカメムシ科 Acanthosomatidae
1. ヒメハサミツノカメムシ *Acanthosoma forficula*
JAKOVLEV
菅谷 1996.5.20 1 ♂

2. アオモンツノカメムシ *Dichobothrium nubilum*
(DALLAS)
菅谷 1997.5.10 1 ♀, 1992.12.25 1 ♂
3. エサキモンキツノカメムシ *Sastragara esakii*
HASEGAWA
菅谷 1992.12.25 1 ♀

同翅目 HOMOPTERA

セミ科 Cicadidae

1. アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata*
(MOTSCHULSKY)
大平山 1997.8.7 1 ♂; 菅谷 1997.8.7 1 ♂
2. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* (WALKER)
大平山 1997.8.30 1 ♂
3. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*
(MOTSCHULSKY)
大平山 1997.8.7 1 ♂; 菅谷 1997.8.7 1 ♂;
古里 1997.8.14 1 ♂
4. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*
(FABRICIUS)
古里 1997.8.7 1 ♂
5. ヒグラシ *Tanna japonensis japonensis* (DISTANT)
菅谷 1997.8.7 1 ♂; 大平山 1997.8.7 1 ♂
6. ハルゼミ *Terpnosia vacua* (OLIVIER)
大平山 1997.5.17 1 ♂

コガシラアワフキ科 Cecopidae

1. コガシラアワフキ *Eoscartopis assimilis* (UHLER)
菅谷 1997.7.4 1 ♀

アワフキムシ科 Aphrophoridae

1. シロオビアワフキ *Aphrophora intermedia*
UHLER
大平山 1997.6.14 1 ♀
2. マエキアワフキ *A. kostalis* MATSUMURA
大平山 1997.6.14 1 ♀; 古里 1997.8.7 1 ♂
3. テングアワフキ *Philagra albinota* UHLER
菅谷 1997.7.14 1 ♀
4. モンキアワフキ *Yezophora flavomaculata*
(MATSUMURA)
菅谷 1997.7.14 1 ♀; 大平山 1997.6.14 1 ♀

トゲアワフキムシ科 Machaerotidae E

1. ムネアカアワフキ *Hindoloides bipunctatus*
(HAUPT)
菅谷 1997.5.10 4 ♀♀, 1997.4.12 1 ♂ 1 ♀;
古里 1997.4.27 (巢確認)

ツノゼミ科 Membracidae

1. マルツノゼミ *Gargara genistae* (FABRICIUS)
菅谷 1995.3.14 1 ♂

2. トビイロツノゼミ *Machaerotypus sibiricus*
(LETHIERRY)

菅谷 1997.6.14 1 ♀; 將軍沢 1996.4.9 1 ♂;
大平山 1995.4.22 1 ♂ 1 ♀, 1993.5.29 1 ♂

ヨコバイ科 Cicadellidae

1. ハンノヒロズヨコバイ *Oncopsis alni* (SCHRANK)
菅谷 1997.5.10 1 ♀
2. ミミズク *Ledra auditura* WALKER
菅谷 1994.8.5 2 ♀♀
3. コミミズク *Ledropsis discolor* (UHLER)
菅谷 1997.4.12 1 ♂
4. クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida* LETHIERRY
千手堂 1997.5.10 1 ♀
5. カンキツヒメヨコバイ *Apheliona ferruginea*
(MATSUMURA)
菅谷 1997.2.9 3 ♀♀
6. スズキヒメヨコバイ *Arboridia suzukii*
(MATSUMURA)
菅谷 1997.2.9 1 ♀
7. バラヒメヨコバイ *Edwardsiana rosae* (LINNAEUS)
菅谷 1997.2.9 2 ♂♂ 1 ♀
8. ホシヒメヨコバイ *Limassolla multipunctata*
(MATSUMURA)
菅谷 1997.2.9 2 ♀♀
9. ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea*
(FABRICIUS)
千手堂 1997.5.10 1 ♀; 菅谷 1997.5.10 1 ♀,
1997.4.12 1 ♀

10. モジヨコバイ *Amimenus mojiensis* (MATSUMURA)
大平山 1997.6.14 1 ♂

ヒシウンカ科 Cixiidae

1. ハスオビヒシウンカ *Betacixius obliquus*
MATSUMURA
大平山 1997.6.14 1 ♂ 1 ♀
2. キガシラヒシウンカ *Kuvera flaviceps*
(MATSUMURA)
大平山 1997.5.17 1 ♀

ウンカ科 Delphacidae

1. ナガウンカの 1 種 *Stenocranus* sp.
千手堂 1997.5.10 1 ♂
2. コブウンカ *Tropidocephala brunneipennis*
SIGNORET
菅谷 1994.8.5 1 ♀

マルウンカ科 Issidae

1. マルウンカ *Gergithus variabilis* (BUTLER)
大字菅谷等でいくつか得られている。

ハネナガウンカ科 Derbriidae

1. アヤヘリハネナガカメムシ *Nomuraida hibarensis*
MATSUMURA

菅谷 1997.7.4 1 ♀

キジラミ科 Psyllidae

1. クワキジラミ *Anomoneura mori* SCHWARZ
大平山 1997.6.14 1 ♀, 1997.2.9 2 ♂♂ 1 ♀
2. ベニキジラミ *Psylla coccinea* KUWAYAMA
大平山 1997.6.14 1 ♂ 1 ♀
3. カエデキジラミ *P. japonica* KUWAYAMA
菅谷 1997.2.9 1 ♂; 大平山 1997.2.9 1 ♂
4. ヒメグミキジラミ *P. elaeagnicola* MIYATAKE
菅谷 1997.3.12 2 頭
5. ヤマトキジラミ *P. jamatonica* (KUWAYAMA)
菅谷 1997.2.9 1 頭; 大平山 1997.2.9 1 頭
6. ハコネキジラミ *P. hakonensis* KUWAYAMA
大平山 1997.5.17 3 頭
7. ウコギトガリキジラミ *Trioza ukogi* (SHINJI)
菅谷 1997.2.9 1 頭
8. ムクノキトガリキジラミ *T. usubai* K.MATSUMOTO
菅谷 1997.2.9 1 頭
9. ウスイロトガリキジラミ *T. uoknamui*
(KWON et LEE)
菅谷 1997.2.9 1 頭

おわりに

今回明らかにした嵐山町の半翅類は 131 種であったが、分布域にあるにもかかわらず記録されていない種が数多くあり、今後の調査で多数の種の分布が明らかになるはずである。これまでの調査では、ナガカメムシ科の種類が豊かなことや、クビグロアカサシガメ(サシガメ科)、キバネアシブトサシガメ・アシブトサシガメ(マキバサシガメ科)等の個体数の少ない種がまとめて記録されていること、またキアシクロホソメクラガメ(メクラカメムシ科)のように、県内における記録も極めて少ない種が記録されていること等、嵐山町の豊かな半翅類相を特徴づける種が明らかになっており、今後の調査の継続をさらに充実させていきたい。

嵐山町の直翅類 (中間報告)

内田正吉

はじめに

本報告は、嵐山町博物誌調査の一環として1996年より実施している直翅類分布調査の基礎となる各種の確認記録を収録したものである。今回は中間報告として、菅谷地区や千手堂地区など嵐山町南部地域での調査結果をとりまとめた。

報告にあたり、貴重な標本をご恵与くださった南部敏明氏、豊田浩二氏に厚くお礼申し上げます。

凡例

1. 記録は以下のように記述した。

採集地：記録個体数，記録年月日，記録者。

2. 記録地に関しては、「埼玉県嵐山町」を省略し、基本的には大字名を示した。ただし、2つの大字にまたがっている大平山については、山の名称をそのまま用いた。また、大字名の後に必要に応じてカッコで位置を特定できる地形の名称などを記した。

3. 記録個体数に関しては、雌雄それぞれの個体数がわかっているばあいにはそれぞれ数字で示した。記録個体数のあとに「鳴き声」とあるのは鳴き声による確認であり、「目撃」とあるのは目撃による確認である。記録個体数のあとに「鳴き声」も「目撃」も付されていないのは、採集した個体数であることを示している。必要に応じて、記録個体数のあとにカッコで幼虫・色彩型・生息が確認された環境などを記した。

4. 記録年月日については、日・月・年の順に記した。

5. 記録者については、筆者(内田正吉)が記録者である場合はMUの略語で示した。

6. 確認記録のあとに、その種の一般的な特徴などについて簡単なコメントを付した。

目録

ゴキブリ目 BLATTARIA

ゴキブリ科 Blattidae

1種を確認している。屋内性のクロゴキブリも菅谷などの市街地の家屋内に生息していると思われるが、確認できていない。

1. ヤマトゴキブリ *Periplaneta japonica* KARNY
菅谷 (歴史資料館)：2♂, 10.V.1997, 南部敏明。

菅谷 (菅谷館跡)：1♂目撃 (コナラ樹幹のすき間) .7.VII.1996, MU；1卵鞘 (サクラの樹幹) .11.I.1997, MU。

将軍沢 (笛吹峠)：1頭目撃 (幼虫；アカマツ立枯樹皮下) .13.1.1997, MU。

雑木林に生息している。木造家屋内にもよく入り込む。

チャバネゴキブリ科 Blattellidae

1種を確認している。やはり屋内性のチャバネゴキブリが菅谷の市街地などの家屋内に生息していると思われるが、確認できていない。

2. モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica* ASAHINA

菅谷 (歴史資料館)：1頭, 20.VI.1996, 南部敏明。

菅谷 (菅谷館跡)：1頭 (幼虫) .11.I.1997, MU。

大平山 (山頂付近の草地)：1頭目撃, 28.VIII.1997, MU。

雑木林の林床や林縁に比較的普通に見られる。

カマキリ目 MANTODEA

カマキリ科 Mantidae

菅谷や千手堂などの地域からは1種のみが確認された。オオカマキリやコカマキリ、ハラビロカマキリは同地域からは未確認であるが、分布していると考えられる。

1. チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis*
SAUSSURE

千手堂 (蓮沼付近)：2♀目撃 (沼畔のブッシュ) .22.X.1997, MU。

草原に生息する草原性のカマキリである。

直翅目 (バッタ目) ORTHOPTERA

キリギリス科 Tettigoniidae

今までに11種を確認することができた。この中には当然分布しているはずのクサキリやコバネヒメギス、ヒメギスなどが含まれていないので、今後の調査で5種以上は追加確認できると思われる。

1. ツユムシ *Phaneroptera falcata* (PODA)

菅谷 (菅谷館跡)：1♂1♀目撃 (草地) .22.X.1997, MU。

比較的乾燥した草原に生息している。全身が緑色で草の色によく似ている。

2. アシグロツユムシ *Phaneroptera nigroantennata*

BRUNNER von WATTENWYL

菅谷 (菅谷館跡)：1頭目撃 (幼虫) .7.VII.1996, MU。

丘陵地から山地にかけて広く分布していて、個体数

も多い。

3. セスジツユムシ *Ducetia japonica* (THUNBERG)
菅谷 (菅谷館跡) : 2 ♀ 目撃 (ともに緑色型) .22.X.1997.MU.
大平山 (山頂付近) : 1 ♂ 鳴き声 (ブッシュ) .28.VIII.1997.MU.
千手堂 : 1 ♀ 目撃 (緑色型; 林縁のアズマネザサ群落) .22.X.1997.MU.

1997年10月22日の菅谷館跡に確認したメス2頭のうち、1♀はツバキ低木の葉上に静止していて、別の1♀はブッシュに生えているクワの葉上に静止していた。クワ葉上に静止していた個体は、観察中に糞をした。直翅類のなかには糞をする際に後脚で糞を後方へ蹴飛ばす習性をもつものがあるが (たとえばヒシバツタ類)、今回確認できた本種の糞のしかたは単に落下させるだけの方法であった。少なくとも日本産の直翅類に関するかぎり、種による糞のしかたについては詳しくは調べられていないが、腹端や後脚の構造、生息環境、集団で生息しているか否か、天敵 (カリバチなど) の種類などの諸要因から総合的に比較してみると、糞のしかたの相違が理解できるかもしれない。

本種は、人家周辺の低木上や雑木林の林縁、やぶなどに多い普通種である。

4. サトクダマキモドキ *Holochlora japonica* BRUNNER
大平山 (山頂付近) : 1 ♀ (二次林樹上) .28.VIII.1997.MU.

樹上性の大型のツユムシ類である。本種によく似たヤマクダマキモドキはまだ確認していないが、おそらく大平山周辺などには分布しているだろう。

5. ウマオイの一種 *Hexacentrus* sp.
菅谷 : 1 ♀ .3.IX.1997. 豊田浩二.

埼玉県にはハヤシノウマオイとハタケノウマオイの2種が分布していて、嵐山町にも2種が分布している可能性が高い。♀による同定は現時点では不可能であるので、ここでは標記のようにしておいた。

6. クビキリギス *Euconocephalus varius* (WALKER)
菅谷 (菅谷館跡) : 1 ♂ 目撃 (発音中の個体) .29.IV.1997.MU.
千手堂 : 1 ♀ 目撃 (緑色型; 水田と雑木林の間の草地) .22.X.1997.MU.

成虫で越冬して、春から初夏にかけて麦畑や草地で「ジー・・・」と鳴く。たいていは夜間に鳴くが、朝に鳴くこともある。上記4月29日に菅谷館跡で確認した個体は、午後2時ころにカモジグサと思われるイネ科植物の茎につかまって鳴いていた。本種が日中 (あ

るいは夕方前の午後)に鳴くという観察例はあまりないと思われる。クビキリギスに対する学名は従来 *E. thunbergi* とされてきたが、これの原記載である *Conocephalus thunbergi* STAL.1874 は *C. thunbergi* MONTRUIZIER.1855 のホモニムになるため改称しなければならないという (市川, 1996)。ここでは市川 (1996) に従って標記の学名を用いた。



クビキリギス ♀ (千手堂)

7. オナガササキリ *Conocephalus gladius* (REDTENBACHER)

志賀 (国道254バイパス沿い) : 5 ♂ 鳴き声 .22.X.1997.MU.

本種はススキ群落の乾燥した草原に生息している。志賀の国道254バイパス沿線では、5年ほど前から本種の鳴き声を確認しているため、ここでは毎年安定的に発生しているものと思われる。

8. ウスイロササキリ *Conocephalus chinensis* (REDTENBACHER)

千手堂 : 3 ♂ 鳴き声 .22.X.1997.MU.

水田あぜの草地で鳴いていた。水田地帯で比較的に普通に見られるササキリである。

9. ササキリ *Conocephalus melas* (de HAAN)
遠山 : 1 ♂ 鳴き声 (林縁のアズマネザサ群落) .28.VIII.1997.MU.

菅谷 (菅谷館跡) : 1 頭目撃 (幼虫) .7.VII.1996.MU.

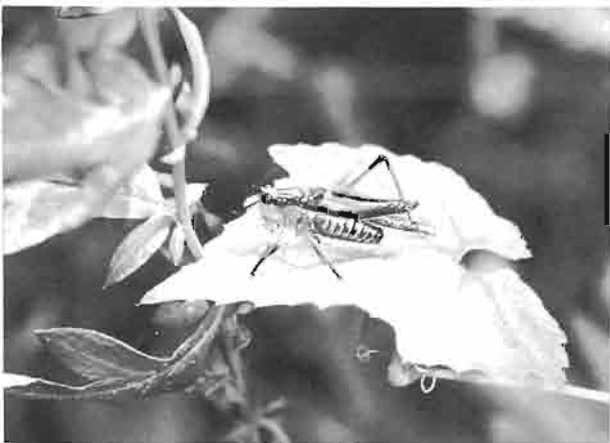
菅谷 (菅谷館跡) : 9 ♂ 鳴き声 (アズマネザサの混じる日当たりのよいブッシュ) .22.X.1997.MU. 発音中の褐色型1♂も目撃した。

千手堂 (蓮沼付近) : 7 ♂ 目撃および鳴き声, 5 ♀ 目撃 (林縁のアズマネザサ群落) .22.X.1997.MU. 1ヶ所のアズマネザサ群落にまともに見られた。♂はいずれも地表から1~2mの高さのところで確認された

が、♀はより低い地表ざわに見られる傾向があった。ここでも褐色型の1♀を目撃する。



ササキリ♀ (千手堂)



ササキリ♂ (褐色型、菅谷)

10. ヒメツユムシ (コガタササキリモドキ)

Leptotera albicornis (MOTSCHULSKY)

大平山 (山頂付近): 1♂, 28.VIII.1997, MU.

全身が淡緑色の小さなササキリモドキの仲間、広葉樹の樹上に生活している。少なくはないが、樹上で小さいので一般に見る機会は少ない。

11. ヤブキリ *Tettigonia orientalis* UVAROV

千手堂 (蓮沼付近): 4♂目撃 (すべて中齢幼虫, うち3♂採集) .1.VI.1997, MU. 採集した3♂のうち、1♂が6月21日に羽化した。飼育容器内に羽化からは残されていなかったもので、羽化した新成虫自身が食べたものと思われる。この個体の体色は基本的には緑色型だが、各脚が黒色で、前翅の会合部付近も黒みをおびている。色彩のコントラストが鮮やかな個体であった。大平山 (山頂付近): 2♂鳴き声 (長鳴型; 二次林樹上にて) .28.VIII.1997, MU.

人家の樹木上や雑木林の樹上に普通なキリギリスの仲間である。地域により鳴き声に変異があり、その分

類学的な解明が課題とされている。町内でいまのところ確認しているのは、生息するのは「ジリリリリリ・・・」と連続して長く鳴くタイプであるが、その発音時間に変異があるように思われるので、より詳しい調査が必要である。



ヤブキリ♂ (飼育羽化個体, 千手堂)

コロギス科 *Gryllacrididae*

埼玉県からは2種が生息しているが、そのうちの1種が確認された。もう1種ハネナシコロギスも確実に町内に分布していると思われる。

1. コロギス *Prosopogryllacris japonica* (MATSUMURA et SHIRAKI)

大平山: 1♀ (幼虫) .14.VI.1997, 豊田浩二.

コロギスの仲間はキリギリスのような、コオロギのような形をしている。分類学的にはカマドウマの仲間に近い。日本から知られているすべての種は樹上性であり、本種も広葉樹の樹上で生活している (海外には非樹上性の種も知られていて、たとえばオーストラリア産の *Wirritina brevipes* という種は林縁の石下に生息している (RENTZ, 1996))。

カマドウマ科 *Rhaphidophoridae*

町南部の地域からは今のところカマドウマ類は確認できていないが、マダラカマドウマをはじめとして、数種は生息していると思われる。今後の調査で確認したい。また、屋内性のカマドウマやクラズミウマも分布している可能性が大きい。

コオロギ科 *Gryllidae*

13種を確認することができた。ツヅレサセコオロギやミツカドコオロギ、カンタン、エゾスズなど普通種をまだ確認していないので、今後の調査で20種は越えるものと思われる。

1. タンボコオロギ *Modicogryllus siamensis* CHOPARD

千手堂：2♂鳴き声（水田）.21.VI.1997.MU.

幼虫で越冬して、6月ごろから成虫になる。田植えの時期の夕方に、代かき前の水田内や代かきあとの畦などで「ジャッ・ジャッ・ジャッ・ジャッ・」とカエルのような鳴で鳴いている。8～9月にも鳴き声を聞くことができる。

2. モリオカメコオロギ *Loxoblemmus sylvestris*

MATSUURA

菅谷（菅谷館跡）：10♂鳴き声（雑木林縁の地表）.22.X.1997.MU.

千手堂（蓮沼付近）：1♂鳴き声（雑木林縁の地表）.22.X.1997.MU.

大平山：6♂鳴き声（雑木林縁の地表）.28.VIII.1997.MU.

雑木林の林床や林縁に普通に生息しているコオロギである。

3. ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus campestris*

MATSUURA

千手堂：2♂鳴き声（畑に接した草地）.28.VIII.1997.MU.

名前のとおり、草はらや畑に生息していて、個体数も多い。

4. エンマコオロギ *Teleogryllus emma*

(OHMACHI et MATSUURA)

千手堂：3♂鳴き声（畑に接した草地）.28.VIII.1997.MU.

千手堂：1♂鳴き声（水田あぜの草地）.22.X.1997.MU.

菅谷（菅谷館跡）：1頭目撃（幼虫）.7.VII.1996.MU.

菅谷（菅谷館跡）：3♂鳴き声，2♀目撃（草地）.22.1997.MU.

菅谷：1♂.17.VIII.1997,豊田浩二.



エンマコオロギ♀（菅谷）

草地に普通に見られるコオロギである。「コロコロコロリー」ときれいな声で鳴く。

5. クマスズムシ *Sclerogryllus punctatus*

(BRUNNER von WATTENWYL)

菅谷：3♂.3.IX.1997,豊田浩二.

千手堂：1♀目撃（水田あぜの稲束の下）.22.X.1997.MU.

スズムシを小さくしたような形をしている。体は頑丈で硬い。草むらなどの地表際に生息していて、表現しにくいかん高い鳴き方をする。



クマスズムシ♀（千手堂）

6. アオマツムシ *Truljalia hibinonis* (MATSUMURA)

菅谷（菅谷館跡）：6♂鳴き声（樹上）.22.X.1997.

MU.サクラの樹上で鳴いている個体が多かった。

千手堂：1♂鳴き声（クリ・コナラ主体の雑木林樹上）.22.X.1997.MU.

帰化昆虫として有名な種である。町内には全域に分布していると思われる。

7. クサヒバリ *Paratrigonidium bifasciatum* SHIRAKI

菅谷（菅谷館跡）：1♂鳴き声（低木上）.22.X.1997.MU.

千手堂（蓮沼付近）：1♂鳴き声.22.X.1997.MU.

大平山（山頂付近）：2♂鳴き声（サカキ樹上）.28.VIII.1997.MU.

低木の樹上に生息する小型のコオロギの仲間で、昼夜ともに鳴く。同様の環境に生息して、本種に似ているが♂でも鳴かないスグモスズは今のところ町内からは未発見であるが、菅谷館跡などに生息している可能性が高い。

8. ヤマトヒバリ *Homoeoxipha lycoides* (WALKER)

千手堂（蓮沼付近）：1♂鳴き声.22.X.1997.MU.

雑木林の林床低木や林縁に生息している。丘陵地や低山地にはそれほど少なくないが、地味な鳴き声で鳴

くために一般に気付かれにくく、記録も多くない。

9. キアシヒバリモドキ *Trigonidium* sp.

菅谷：2♂ .14.VI.1997. 豊田浩二.

千手堂：2頭（幼虫）.26.III.1997.MU.

乾燥していない草地に比較的普通に生息している小さなコオロギの仲間である。♂も鳴かない。幼虫で越冬して、初夏に新成虫が出現する。

10. ヤチスズ *Pteronemobius ohmachi* (SHIRAKI)

千手堂（蓮沼付近）：1♂鳴き声（沼畔の湿った深い草地内）.22.X.1997.MU.

「ヤチ」という名前のとおり湿地に生息している。短翅型が一般的だが、しばしば長翅型があらわれて夜間灯火に飛来することがある。

11. マダラスズ *Dianemobius nigrofasciatus*

(MATSUMURA)

菅谷（菅谷館跡）：1♂鳴き声（浅い草地）.22.X.1997.MU.

千手堂（蓮沼付近）：3♂鳴き声（水田あぜの草地）.22.X.1997.MU.

本種は比較的乾燥した草地～裸地的環境に生息する。やはり短翅型が一般的だが、ときどき長翅型が出現する。

12. ヒゲジロスズ *Polionemobius flavoantennalis*

(SHIRAKI)

菅谷（菅谷館跡）：2♂鳴き声（刈草の下）.22.X.1997.MU.

本種は一般にやや湿り気のある深い草地に生息している。桑園に積まれたクワの廃条（カニコにクワの葉を与えた後の使用済みのクワの枝）の下にいることも多い。本種は短翅型のみで、長翅型は知られていない。

13. シバスズ *Polionemobius mikado* (SHIRAKI)

菅谷（菅谷館跡）：1♂鳴き声（芝生）.22.X.1997.MU.

千手堂（蓮沼付近）：1♂鳴き声（水田あぜの草地）.22.X.1997.MU.

千手堂：1♀目撃（長翅型；若いヒノキ植林林縁の浅い草地）.28.VIII.1997.MU.

大平山（山頂）：5♂鳴き声（芝生）.28.VIII.1997.MU.

和名が示すように芝生に多いが、芝生と同様の環境である比較的乾燥した浅い草地にも生息している。短翅型が一般的だが、しばしば長翅型が出現する。

カネタタキ科 *Mogoplistidae*

埼玉県からは1種のみが生息が確認されていて、町内にも分布している。

1. カネタタキ *Ornebius kanetataki* (MATSUMURA)

菅谷（菅谷館跡）：8♂鳴き声（うち1♂採集）.22.X.1997.MU. 生け垣などの低木で鳴いていた。また、コナラ樹上の5mくらいの高さのところでも1♂が鳴いていた。

千手堂：6♂鳴き声（民家付近の低木上）.22.X.1997.MU.

住宅街の生け垣や公園の低木に多い種である。

アリツカコオロギ科 *Myrmecophilidae*

アリツカコオロギ類は本州には複数種が産することが明らかにされてきている。埼玉県には1種は確実に産していて各地に比較的普通であるが、町内からは今のところ未発見である。今後の調査で発見したい。

ケラ科 *Gryllotalpidae*

日本産は1種とされていて、県内にも各地に分布している。町内にも確実に分布していると思われるが、今のところ未確認である。

ノミバッタ科 *Tridactylidae*

日本本土には1種が分布していて、県内にも各地に産している。町内にも普通と思われるが、菅谷や千手堂などの地域からは未発見である。

オンブバッタ科 *Pyrgomorphidae*

埼玉県には1種が産し、町内にも普通に見られる。

1. オンブバッタ *Atractomorpha lata* (MOTSCHULSKY)

菅谷（菅谷館跡）：2♂4♀目撃（うち1♂2♀採集；草地）.22.X.1997.MU.

千手堂（蓮沼付近）：1♂1♀目撃（草地）.22.X.1997.MU.

千手堂：1♀目撃（若いヒノキ植林林縁の浅い草地）.28.VIII.1997.MU.

大平山（山頂付近）：1♀目撃（幼虫；草地）.28.VIII.1997.MU.

草地に普通に見られるバッタである。町内で採集した標本と県内他産地の標本を比較したところ、頭部などの形態に若干の差が認められた。詳しく調査する必要がある。

イナゴ科 *Catantopidae*

水田害虫として著名なコバネイナゴや成虫越冬するツチイナゴ、翅が退化して地理的分化の著しいフキバッタ類などを含む。3種を確認している。

1. コバネイナゴ *Oxya yezoensis* SHIRAKI

菅谷（菅谷館跡）：1♀目撃（草地）.22.X.1997.MU.

千手堂（蓮沼付近）：5♂10♀目撃（草地）.22.X.1997.MU.

蓮沼付近の草地では、交尾中の個体を2ペア確認した。また、アズマネザサの葉を食べている個体が2♀見られた。2♀のうちの1♀は交尾中の個体であり、もう1♀は交尾はしていないが♂がおんぶしている個体であった。この他に、頭部から前翅にかけての背面が緑色の個体も1♀見られた。



コバネイナゴ♀ (菅谷)

2. ツチイナゴ *Patanga japonica* (BOLIVAR)

大平山：1♀, 14.VI.1997, 豊田浩二.

秋に新成虫が出現して成虫越冬するバッタである。

3. ヤマトフキバッタ *Parapodisma yamato*

TOMINAGA et STOROZHENKO

大平山：1♀目撃, 28.VIII.1997, MU.

林縁の日の当たる乾いた地面に腹部をさし込んでいて、産卵中の個体であった。本種は埼玉県ではもっとも広く分布している。本種は以前から知られていたが、記載されたのはつい最近である (TOMINAGA et al., 1996)。

翅が退化しているフキバッタ類は埼玉県からは5種ほどが分布しているが、各種の分布状況から考えると、本種の他にヒメフキバッタが町内(大平山や笛吹峠など)に分布している可能性がある。

バッタ科 Acrididae

ショウリヨウバッタやトノサマバッタなどなじみ深い種類を含んでいる。草原性の種が多い。3種を確認しているが、当然分布しているはずのクルマバッタモドキやイボバッタなどの普通種はまだ確認していない。またトノサマバッタは、菅谷や千手堂などの地域からは未発見である。

1. ショウリヨウバッタ *Acrida cinerea antennata*
MISTSHENKO

菅谷(菅谷館跡)：1頭目撃(幼虫), 7.VII.1996, MU.

大平山(山頂付近)：1♂1♀目撃(草地や芝生), 28.VIII.1997, MU.

頭部が三角形状に尖っている大型のバッタである。♂は飛翔中に「キチキチキチ」と音を出す。ただし、常に飛翔中に音を出しているわけではない。この発音の意味についてはまだ明らかにされていない。

2. クルマバッタ *Gastrimargus marmoratus* (THUNBERG)

大平山(山頂)：1♂2♀目撃(芝生), 28.VIII.1997, MU.

埼玉県内ではあまり多くない種である。攪乱の程度の低い安定した草地に生息する傾向があるようである。

3. ナキイナゴ *Mongolotettix japonicus japonicus*
(BOLIVAR)

志賀(国道254線付近)：2♂鳴き声, 1.VI.1997, MU.

初夏から成虫が出現して、ススキ群落でよく鳴いている。

ヒシバッタ科 Tetrigidae

日本には30種以上が分布している。そのうち、埼玉県には約8種が知られている。町内の菅谷・千手堂などの地域からは、いまのところ3種を確認しているのみである。

1. ハネナガヒシバッタ *Euparattix insularis* BEY-BIENKO

千手堂：2♂目撃(槻川の川岸), 26.III.1997, MU.

千手堂(蓮沼付近)：1♂(水田あぜの浅い草地), 22.X.1997, MU.

比較的開けた湿地に住んでいて、成虫はよく飛翔する。

2. コバネヒシバッタ *Formosatettix larvatus* BEY-BIENKO

千手堂：4♂1♀(他に幼虫2頭), 26.III.1997, MU.

大平山：1♀, 14.VI.1997, 豊田浩二.

林床や林縁の地表にみられる。翅が微少な鱗片状に退化していて、前胸背板の下に完全に隠れている。



コバネヒシバッタ♀ (千手堂)

3. ハラヒシバッタ *Tetrix japonica* (BOLIVAR)

菅谷：1♀, 5.V.1995, 豊田浩二；1♀, 14.VI.1997, 豊田浩二.

千手堂 (蓮沼付近) : 2 ♀ (水田あぜの浅い草地)
.22.X.1997.MU.

もっとも普通に見られるヒシバツタである。乾燥した草原から湿地にまでみられ、生息可能なニッチは大きい。

おわりに

今のところ菅谷や千手堂などの嵐山町南部地域から3目10科38種を確認している。なお、町内に当然分布しているはずの普通種でまだ確認できていないのがかなりある。これはキリギリスやコオロギの鳴く種類がもっとも多く出現する8月中旬から9月にかけての、夜間の調査が未調査であるためである。このほかナナフシ目、ハサミムシ目、ガロアムシ目に属する昆虫も未確認である。ナナフシ目とハサミムシ目については、それぞれ数種が同地域には分布していると思われる。ガロアムシ目は一般に山地性の昆虫なので町内に分布している可能性は低いが、大平山付近にはもしかしたら生息しているかもしれない。

以上のような未調査の分野に留意しながら、今後の調査をおこなっていききたい。

お願い

カマドウマ類やゴキブリ類など屋内性の種類は通常採集することは困難です。そのためにそれらの種類の分布状況は詳しくは分かっていません。もしそれらの昆虫を採集されましたら、博物誌編さん係までにお寄せいただければ幸いです。叩きつぶされた虫でも大丈夫です (虫の名前はわかります)。

参考文献

- Rentz, D. C. (1996) Grasshopper country : the abundant orthopteroide insects of Australia. 284pp. University of New South Wales Press.
- Tominaga, O., S. Yu. Storozhenko and Y. Kano (1996) Two new species and a subspecies of the genus *Parapodisma* (Orthoptera, Acrididae) from Japan. *Tettigonia*.1 (1): 1-23.
- 富永修・編 (1996) 図鑑 日本のクサキリ。ぱったりぎす (106) : 1-24. (クビキリギスの学名の考察を含む)

嵐山町のトンボ類 (中間報告)

新井 裕

トンボ類は幼虫期を水中で、成虫期を地上で生活する水生昆虫である。幼虫の生息水域は種類によって異なっているが、大別すると、水田や池沼、湿地など止水域に生息する止水性種と、河川や小さな流れなどの流水域に生息する流水性種とに分類される。したがってこれらの様々な水域を多く有する地域ほどトンボ類も豊富になるといえる。

嵐山町には、都幾川、槻川、市野川、粕川の4つの河川を持ち、とりわけ都幾川はトンボ類の好生息地としてトンボ愛好者によく知られている。一方、比企丘陵は全国的に溜め池が多い地域として知られ、その水を利用して水田も多く作られている。嵐山町にも大小多数の溜め池があり、2万分の1の地図に名前が記された池だけでも20カ所を越えている。このように当町は流水域、止水域ともに恵まれている地域でありトンボ類の多いことが予想されたが、これまで嵐山町に生息するトンボ類についてのまとまった調査は行われてこなかった。今回嵐山町博物誌編さん事業の一環として動植物調査が企画され、筆者はトンボ類の担当者として加えさせていただくことになった。最近各地で市町村レベルでの動植物調査が行われており、それらの中には大変立派な刊行物として出版されているものが少なくない。しかし、それらの中には単に採集記録を羅列しただけのものが多く、残念な気がしている。もちろん正確な採集記録を残しておくことは大切なことではあるが、これからの調査は保護対策や生き物と共生する街作りに参考となるような情報提供となることも必要ではないだろうか。そのような観点から今回の調査に当たって筆者は、あちこちトンボを採り回るのがよりも、嵐山町でトンボがどのように生活しているのか、その環境はどのようにになっているか、という点に重点を置いて調べることにした。そのため、一ヶ所での調査時間に時間がかかったうえ、仕事や雑用に追われ十分な調査日数を割くことが出来ず、町内に多数散在する池沼まで手が及ばなかった。本中間報告は、河川を主に調査した過去2年間の結果の概要を記した甚だ不十分なものであるが、最終報告までには詳細な調査を実施し、少しでも環境行政にお役に立つような情報を提供したいと考えている。

1. 嵐山町で確認したトンボのリスト

1996、1997年の2年間の調査で確認できたトンボは、以下の8科48種であった。

トンボ目 ODonata

均翅亜目 Zygoptera

イトトンボ科 Coenagrionidae (5種)

1. キイトトンボ *Ceriagrion melanurum* SELYS
2. アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* BRAUER
3. セスジイトトンボ *Cercion hieroglyphicum* (BRAUER)
4. クロイトトンボ *C. calamorum calamorum* (RIS)
5. オオイトトンボ *C. sieboldii* (SELYS)

アオイトトンボ科 Lestidae (1種)

1. オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* SELYS

モノサシトンボ科 Platycnemididae (1種)

1. モノサシトンボ *Copera annulata* (SELYS)

カワトンボ科 Calopterygidae (4種)

1. ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia* SELYS (文献記録)
2. ハグロトンボ *C. atrata* SELYS
3. アオハダトンボ *C. japonica* SELYS
4. ヒガシカワトンボ *Mnais pruinosa costalis* SELYS

不均翅亜目 Anisoptera

サナエトンボ科 Gomphidae (12種)

1. コサナエ *Trigomphus melampus* (SELYS)
2. ダビドサナエ *Davidius nanus* (SELYS)
3. ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (SELYS)
4. ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* (SELYS)
5. キイロサナエ *A. pryeri* (SELYS)
6. ホンサナエ *Gomphus postocularis* SELYS
7. アオサナエ *Nihonogomphus viridis* OGUMA
8. オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* (OGUMA)
9. オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* (OGUMA)
10. ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus* (OGUMA)
11. コオニヤンマ *Sieboldius albardae* SELYS
12. ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus* (FABRICIUS)

オニヤンマ科 Cordulegastridae (1種)

1. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (SELYS)

ヤンマ科 Aeshnidae (7種)

1. サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri* (MARTIN)
2. コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (SELYS)
3. ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* (SELYS)
4. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* BRAUER
5. クロスジギンヤンマ *A. nigrofasciatus nigrofasciatus* OGUMA

6. ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (SELYS)

7. マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (SELYS)

エゾトンボ科 Corduliidae (2種)

1. オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans* (BRAUER)
2. コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* SELYS

トンボ科 Libellulidae (15種)

1. ハラピロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (SELYS)
2. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* (UHLER)
3. シオヤトンボ *O. japonicum japonicum* (UHLER)
4. オオシオカラトンボ *O. triangulare melania* (SELYS)
5. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia mariannae* KIAUTA
6. コフキトンボ *Deielia phaon* (SELYS)
7. ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum* (SELYS)
8. ナツアカネ *S. darwinianum* (SELYS)
9. アキアカネ *S. frequens* (SELYS)
10. ヒメアカネ *S. parvulum* (BARTENEFF)
11. マユタテアカネ *S. eroticum eroticum* (SELYS)
12. ノシメトンボ *S. infuscatum* (SELYS)
13. ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (FABRICIUS)
14. チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* SELYS
15. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (BURMEISTER)

2. トンボ相の概要

これまでの調査は、町内の一部しか行っていないうえ、河川が中心であったのでトンボ相の特徴を論ずることは出来ないが簡単に感じた点を述べてみたい。

地形的にみて当然のことであるが、山地性種がみられないのに対し、平地や丘陵地に生息する種が豊富である。また、都幾川や槻川には流水性種が豊富で、山地性種を除けば県内から記録されている流水性トンボのほとんどがみられた。とくに2つの川が合流する二瀬橋から下流はサナエトンボ類が種類数個体数ともに多く、とくに嵐山町菅谷から東松山市下唐子にかけての都幾川はホンサナエやキイロサナエが確実に生息する県内唯一の場所として貴重である。また、この辺りは瀬と広範な淵とが混在しており、河川でありながらモノサシトンボやオオアオイトトンボなどの止水性種も多数繁殖している点が特徴的である。一方、止水域についてみると、水田は乾田が大部分であり、卵態で越冬する1年1化性種の生息場所となっている。自然池沼は無いようであるが、前述のように溜め池が多く、その中にはヒシなどの水生植物が繁茂したトンボの生息にとって好ましい状態を維持しているところが少なくない。最近激減傾向にあるチョウトンボが町内に広く分布しているようであり、今後これらの溜め池を調査すれば思わぬ希少種が発見できるのではないかと期待される。恐らく止水域での調査が進めば町内で確認できるトンボ類は60種代になるものと予想され、県内で最もトンボ相の豊富な地域であると考えられる。

嵐山町の多足類 (中間報告)

桑原 幸夫

1. はじめに

嵐山町の多足類に関する調査報告等は、これまでにまったく行われていない。現在、嵐山町博物誌動物編の作成にあたり、嵐山町の多足類について調査を実施している。今回、中間報告として、1996年9月から1997年10月までの間に調査を実施した菅谷、大平山、遠山及び塩山の4地域について、調査結果の概要を報告する。

標本を採集していただいた動物部会の調査委員及び調査協力員の方々に感謝の意を表す。

2. 調査地の概要

菅谷、大平山、遠山及び塩山の各地域は、嵐山町の中央部から南部にかけて位置する。対象とした各地域は、図1に示した。

菅谷地区は台地上の平坦部で、その大部分は市街地になっており、森林植生はほとんどない。幸い、現在県立歴史資料館になっている菅谷館跡は、武蔵野の面影を残し、雑木林や台地崖の斜面に照葉樹林を有して

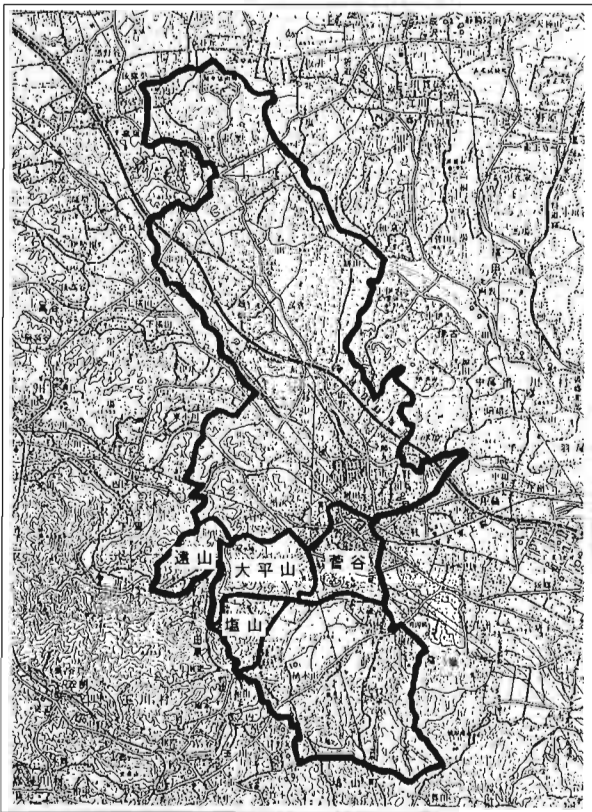


図1 嵐山町の多足類の調査地域略図

いる。菅谷地区の南境を都幾川が東流している。

大平山は標高179mの低山であるが、町内の独立峰としては最高地点である。大平山は、南北に長くゆるやかな尾根をもち、スギ、ヒノキ等が広範囲に植林されている。造林地の林床は、照度が低い。大平山の南面は日当たりもよく、広葉樹林が残存している。

遠山地区は大平山の西側にあり、北側は丘陵の尾根で、南側は槻川により小川町と境界を分けている。丘陵部はスギ・ヒノキの植林が進み、急斜面のガレ場に広葉樹が残っている。遠山寺の北側の山林の一部は、カシの古木も残る照葉樹林帯になっている。遠山地区の平坦部は、その大部分が農地として耕作されている。

塩山は、槻川の嵐山溪谷を挟み大平山と対峙する位置にある。塩山(標高164.9m)はスギ、ヒノキの植林が進んでいるが、山の中腹には小規模の広葉樹林や湿地帯を有する。

3. 菅谷、大平山、遠山及び塩山の多足類相

菅谷、大平山、遠山及び塩山の多足類は種名不明種を含め、ムカデ綱4目8科22種1亜種、ヤスデ綱3目7科17種及びコムカデ綱1目1科1種、合計40種1亜種を記録した。

各地域別の多足類は、表1に示した。各地域での調査回数等が異なるため単純な比較はできないが、菅谷地区は平野部ながら32種類の多足類を記録し、4地域の中では最も多い。菅谷館跡の森は、土壌性の強い多足類に適した生息環境を維持していると思われる。

塩山からは12種類を記録した。調査は、1997年10月に2日間実施しただけである。季節を変えて調査を行えば、さらに多くの種類が確認できるであろう。

ゲジは、森林内よりも人家周辺の開けた草地等から見つかることが多い。嵐山町でも市街地の菅谷神社から採集することができた。

イシムカデ類は、大平山と塩山からの記録が少ないが、精査をすれば、種数もふえると思われる。イシムカデは4地域に数多く生息している。

オオムカデ類は、6種類記録されたが、これらは4地域全域に生息していると思う。

ジムカデ類は、菅谷から多数記録されたが、他地域にも生息していると考えられる。

ヒメヤスデ類のシマフジヤスデは、大平山で生息が確認された。埼玉県では、今回の報告が初記録になる。シマフジヤスデは、伊豆諸島の新島が基準産地であるが、神奈川県、群馬県及び栃木県の山地からも記録されている。

オビヤスデ類では、好蟻性のヤスデとして知られて

表1 嵐山町の各地域別の多足類

目 種	菅谷	大平山	遠山	塩山
ゲジ ゲジ	○			
ゲジムカデ	○	○	○	
イッスンムカデ	○	○	○	○
イ ヨシイッスンムカデ				○
シ イッスンムカデ属の一種			○	
ム モモブトイシムカデ	○	○		
カ イシムカデ属の一種	○			
デ ダイダイヒトフシムカデ	○		○	
ホルストヒトフシムカデ	○		○	○
ヒトフシムカデ属の一種			○	
アオズムカデ	○	○	○	○
オ トビズムカデ	○	○		○
オ ムサシアカムカデ	○	○	○	
ム アカムカデ	○	○		
カ ヨスジアカムカデ	○	○	○	○
デ セスジアカムカデ	○	○		
ヒロズジムカデ	○	○	○	
ツメジムカデ	○	○		
ジ ヨコジムカデ	○			
ム ツツメベニジムカデ	○			
カ エリジロベニジムカデ	○	○		
デ ヤマトベニジムカデ	○		○	○
ホソツメベニジムカデ			○	
ヒメ シマフジヤスデ		○		
ヤゲ フジヤスデ属の一種	○	○	○	
① ミコシヤスデ科の一種	○	○		
ハガヤスデ	○			
オオギヤスデ	○			
マクラギヤスデ	○	○		
トサカヤケヤスデ		○	○	○
ムツモリヤスデ	○			
オ アカヤスデ	○		○	
ビ アカヤスデ属の一種	○			
ヤ ヤケヤスデ	○			
ス ニクイロババヤスデ				○
デ オビヤスデ属の一種 No.1	○			○
オビヤスデ属の一種 No.2	○			○
オビヤスデ属の一種 No.3	○			
オビヤスデ属の一種 No.4			○	○
オビヤスデ属の一種 No.5	○			
② ナミコムカデ		○	○	
合計40種1亜種	32	18	17	12

①：ツムギヤスデ ②：ナミコムカデ

いるハガヤスデが発見された。ハガヤスデは、アリの

巣内から発見されることが多く、アリと何らかの共生関係があると考えられている。

オオギヤスデは、暖温帯性のヤスデである。県内からは、戸田、浦和及び北本から記録されているに過ぎない。ムツモリヤスデは、さいたまレッドデータブックの希少種になっている。

オビヤスデ属の仲間は5種類を識別できたが、雄の成虫があまり採集できず種名の決定には至らなかった。オビヤスデ属の一種No.4は、雄の生殖肢の構造からみて新群の可能性がある。

嵐山町の4地域から採集された種類は、埼玉県内の低地から山地にかけて生息する種が多く、特に分布上特徴のある種は見られない。逆に言うと、嵐山町の多足類相の特徴は、低地性の種類と山地性の種類が混在していることである。

4. 嵐山町の多足類目録

目録は、次の通り記録した。

- (1) 綱・目・科の配列は日本動物大百科(1996)を基に、一部、桑原が改編した。属・種の配列はアルファベット順とした。
- (2) 通し番号は、目別に付した。
- (3) 記録は、次のように記述した。

採集地：採集個体数，採集年月日，採集者。

- ①採集個体数は、ムカデ類では成虫幼虫にかかわらず、雌雄が判明できるものは、1♂2♀のように、性が識別できないものは、3 exs.とした。ジムカデ類で歩肢数に差異のある種については、♂、♀、ex.の後に○対肢と加えた。また、ヤスデ類は成虫の場合は、♂♀の記号で表し、幼虫(幼虫と思われる個体も含む)の場合は、令が不明のものは4 lar.のように、令が判るものは5令6♂または7令8 exs.のように表した。コムカデ類では、ex.またはlar.で表した。
- ②採集年月日は、年月日の順に1997.12.16のように記した。
- ③採集者については、筆者の場合は省略し、その他の採集者については、氏名を記した。
- (4) 記録以外の記述は、種の特徴等や本調査で得られた標本の特徴等について簡単に述べた。

CHILOPODA ムカデ綱 SCUTIGEROMORPHA ゲジ目 Scutigeridae ゲジ科

1. *Thereuonema tuberculata* (WOOD) ゲジ

菅谷神社：1♀, 1997.5.10.

草むらや人家近くに生息する。歩肢を自切して逃げる。低地性。

LITHOBLOMORPHA イシムカデ目

Henicopidae トゲイシムカデ科

1. *Esastigmatobius japonicus* SILVESTRI ゲジムカデ
大平山:1♀,1997.1.11. 菅谷館跡:2♀,1997.2.9.
遠山:1♂,1996.10.27.

林床の落葉下など陰湿な場所を好む。

Lithobiidae イシムカデ科

2. *Bothropolys asperatus* (L. KOCH) イッスンムカデ
大平山:3♂,1997.1.11.;1♀,1997.2.9.;2♂
.1997.4.12.;1♂,1997.8.1. 春日神社:1♂3♀
.1997.5.10. 菅谷神社:1♂2♀,1997.5.10. 菅谷館
跡:1♀,1996.11.14.;1♂,1997.1.11.;1♂1♀
.1997.2.9. 南部敏明;1♀,1997.4.12. 遠山:3♂1♀
.1996.10.27. 塩山:2♂,1997.10.11.

体長20~25mm、体色濃褐色、歩肢15対。落枝
落葉下に潜み、動きの速いイシムカデ。平地に多い。

3. *B. yoshidai* TAKAKUWA ヨシイッスンムカデ
塩山:1♂1♀,1997.10.11.

樹木の根回りや樹皮下に多い。大型のイシムカデ。

4. *Bothropolys* sp. No.1 イッスンムカデ属の一種 No.1
遠山:2♂1♀,1996.10.27.

イッスンムカデ *B. asperatus* に酷似する。

5. *Lithobius pachypedatus* TAKAKUWA

モモトイシムカデ

- 菅谷神社:1♀,1997.5.10. 菅谷館跡:2♂1♀
.1997.5.10. オオムラサキの森駐車場:2♂2♀,1997.
6.14. 大平山:1♂,1997.5.10.

体長10mm程の小型のイシムカデ。雄の最終肢は
膨太する。

6. *Lithobius* sp. No.1 イシムカデ属の一種 No.1

菅谷館跡:2♂1♀,1997.2.9. 南部敏明

触角、レンズは半球状に突出している。歩肢基節
腺孔3.3-4の第14肢剛毛、第15肢、雌の生殖肢の
爪は5尖する。新群の可能性あり。

7. *Monotarsobius elegans* SHINOHARA

ダイダイヒトフシムカデ

- 菅谷館跡:1♂1♀,1996.11.14. 遠山:1♀
.1996.10.27.

基準産地は東松山市。県内平野部に多い。単眼は
頭の左右に1列4個づつ。

8. *M. holstii* (POCOCK) ホルストヒトフシムカデ

- 菅谷館跡:1♂1♀,1996.11.14.;1♂1♀
.1997.1.11.;1♀,1997.2.9.;2♂1♀,1997.7.14.
蝶の里:1♀,1997.5.10. 南部敏明 遠山:1♀

- .1996.10.27.;3♂,1997.10.11. 塩山:2♂1♀
.1997.10.11.

県内に普通。固体変異が大きい。

9. *Monotarsobius* sp. ヒトフシムカデ属の一種

遠山:1♂,1997.10.11.

触角17節、単眼1列4個、基節腺孔♂1.2,2.2♀
2.3,3.3、雄15肢腿節けい節膨太剛刺毛なし、雌1
尖。新群の可能性あり。

SCOLOPENDROMORPHA オオムカデ目

Scolopendridae オオムカデ科

1. *Scolopendra subspinipes japonica* L. KOCH

アオズムカデ

- 大平山:1ex.,1996.9.29.;1ex.,1997.6.14.;
3exs.,1997.7.14.;1ex.,1997.8.1. 菅谷館跡:
1ex.,1997.6.14. 遠山:1ex.,1996.10.27. 関根浩史 塩
山:2exs.,1997.10.11.

頭部は群青色。

2. *S. subspinipes mutilans* L. KOCH トビズムカデ

- 大平山:1ex.,1996.9.29. 菅谷館跡:1ex.,1997.6.14.
塩山:1ex.,1997.10.11. 豊田浩二

日本本土最大のオオムカデ。体長約12cmにまで
成長する。頭部の赤褐色が特徴。

Cryptopidae メナシムカデ科

3. *Scolopocryptops musashiensis* SHINOHARA

ムサシアカムカデ

- 大平山:1ex.,1997.1.11.;1ex.,1997.8.1. 春日神社:
2exs.,1997.5.10.;2exs.,1997.7.14. 菅谷神社:
1ex.,1997.5.10. 菅谷館跡:1ex.,1996.11.14.;
1ex.,1997.1.11.;2exs. 精包,1997.2.9.;2exs.,1997.
7.14. オオムラサキの森駐車場:2exs.,1997.6.14.
遠山:3exs.,1996.10.27.;2ex.,1997.10.11.

背板に溝はなく、最終肢に毛が密生する。

4. *S. nipponicus* SHINOHARA アカムカデ

- 春日神社:1ex.,1997.5.10. オオムラサキの森駐車
場:1ex.,1997.6.14.

背板に溝はなく、毛は無いかごくわずかに生える。
基準産地は東松山市。

5. *S. quadristriatus* (VERHOEFF) ヨスジアカムカデ

- 大平山:1ex.,1997.1.11. 春日神社:1ex.,1997.5.10.
菅谷館跡:2exs.,1997.1.11.;2exs.,1997.2.9.;1ex.
精包,1997.4.12. 遠山:3exs.,1996.10.27.;
2exs.,1997.10.11. 塩山:2exs.,1997.10.11.

山地性、埼玉県の低地部には生息していない。

6. *S. rubiginosus* L. KOCH セスジアカムカデ
大平山：1ex.,1997.1.11.；1ex.,1997.4.12. 春日神社：1ex.,1997.5.10. 菅谷神社：2exs.,1997.5.10. 菅谷館跡：1ex.,1997.1.11.；2exs. 精包,1997.4.12.

朽木の中や落葉下に普通にみられる。背板に2本の縦溝がある。体長40~60mm。

GEOPHILOMORPHA ジムカデ目
Mecistocephalidae ナガズジムカデ科

1. *Dicelophilus latifrons* TAKAKUWA ヒロズジムカデ
大平山：1♀,1997.4.12. 春日神社：2♂,1997.5.10.
菅谷館跡：1♂触角再生,1996.11.14.；1♀,1997.5.10.
遠山：1ex.,1996.10.27.；1♀豊田浩二,1ex. 幼腺孔
1個,1997.10.11.

本州に広く分布する。県内でも最も普通のジムカデ。褐色の大きな頭部が特徴。

2. *Prolamnonyx holstii* (POCOCK) ツメジムカデ
大平山：1ex.,1997.5.10. 蝶の里,1997.5.10. 南部敏明
地中性が強い普通種。

Geophilidae ツチムカデ科

3. *Pleurogeophilus procerus* (K. KOCH) ヨコジムカデ
菅谷館跡：1♀91対肢,1997.1.11.
本種の既知歩肢対数は71-89対である。菅谷の標本は91対の歩肢を持つ。体長は77%エタノール固定で37mm。

Dignathodontidae フタエツチムカデ科

4. *Strigamia alokosternum* (ATTEMS)
ツツメベニジムカデ
菅谷館跡：1♀65対肢,1996.11.14.

5. *Strigamia bicolor* SHINOHARA
エリジロベニジムカデ
菅谷館跡：1♀47対肢,1997.2.9. 大平山：1♂45
対肢,1997.6.14.
低地性。

6. *Strigamia maritima japonica* (VERHOEFF)
ヤマトベニジムカデ
蝶の里：1ex. 幼,49対肢,1997.5.10. 南部敏明 遠山：
1ex.47対肢,1996.10.27. 塩山：1♂45対肢,1997.
10.11.

7. *Strigamia tenuiungulata* (TAKAKUWA)
ホソツメベニジムカデ
遠山：1ex.49対肢,1997.10.11. 豊田浩二

DIPLOPODA ヤスデ綱
JULIDA ヒメヤスデ目
Julidae ヒメヤスデ科

1. *Anaulaciulus quadratus* (TAKAKUWA) シマフジヤスデ
大平山：4♂3♀,1997.2.9.
埼玉県初記録。



埼玉県初記録のシマフジヤスデ (大平山1997.2.9)

2. *Anaulaciulus* sp. フジヤスデ属の一種
菅谷神社：1♀,1997.5.10. 菅谷館跡：2♀,
1996.11.14. 蝶の里：2♀,1997.5.10. 南部敏明 遠山：
3♀,1996.10.27.；3♂,1997.10.11. 大平山：1
♀,1997.5.10.

未記載種と思われる。小川町にも生息する。

CHORDEUMATIDA ツムギヤスデ目
Diplomaragnidae ミコシヤスデ科

1. *Diplomaragnidae* gen. et sp. ミコシヤスデ科の一種
大平山：1ex.,1997.7.14. 菅谷館跡：2♂,1997.4.12.；
1♂,1997.5.10.；3exs.,1997.7.14. オオムラサキの森
駐車場：1幼,1997.6.14.

POLYDESMIDA オビヤスデ目
Pyrgodesmidae ハガヤスデ科

1. *Ampelodesmus granulatus* MIYOSI ハガヤスデ
菅谷館跡：1♀,1997.2.9.
好蟻性のヤスデとされている。
2. *Cryptocorypha japonica* (MIYOSI) オオギヤスデ
菅谷館跡：1♂,1997.4.12.；3♀体内に卵有り
,1997.6.14.

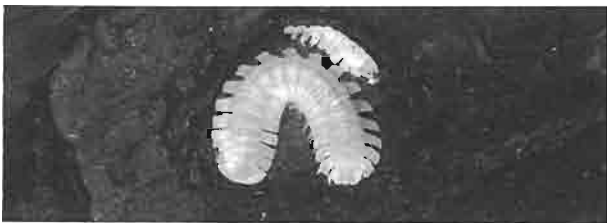


オオギヤスデ (菅谷館跡1997.6.14)

Cryptodesmidae シロハダヤスデ科

3. *Niponia nodulosa* VERHOEFF マクラギヤスデ
 大平山：2♂, 7齢2♂2♀, 6齢1♀, 5齢1♂1♀, 1996.9.29.; 3♀, 7齢3♂2♀, 6齢1♂1♀, 1997.1.11.; 1♂, 7齢1♀, 1997.4.12.; 3♂3♀, (1♀は脱皮直後), 7齢1♂3♀, 6齢3♀, 1997.8.1. 春日神社：2♂2♀, 7齢1♂3♀, 6齢1♂1♀, 5齢1♂2♀, 4齢1♀, 1997.5.10. 菅谷館跡：1♂1♀, 1996.11.14.; 7齢1♂2♀, 1997.1.11.; 1♂2♀, 7齢4♂3♀, 6齢1♂, 1997.2.9.; 6齢1♀, 5齢1♂, 1997.7.14.

朽木中に生息することが多い。一年を通じて発育齢の異なる幼虫が見られることが本種の特徴である。



脱皮直後のマクラギヤスデと脱皮殻 (大平山 1997.8.1)

Paradoxosomatidae ヤケヤスデ科

4. *Chamberlinius cristatus* (TAKAKUWA)
 トサカヤケヤスデ
 大平山：1♀, 1997.1.11.; 1♂2♀, 1997.4.12. 遠山：4♂7♀, 1996.10.27.; 2♂12♀ (脱皮間もない), 7齢1♀, 1997.10.11. 塩山：1♂4♀ (脱皮間もない), 7齢2♂ (脱皮直前), 1997.10.11.

5. *Haplogonosoma implicatum* BROLEMANN
 ムツモリヤスデ
 菅谷館跡：1♀, 1997.4.12.
 県内では少産種。二本木峠、寄居町に次ぎ県内3番目の産地記録。

6. *Nedyopus tambanus* (ATTEMS) アカヤスデ
 菅谷館跡：1♀, 1997.4.12.; 1♀, 1997.5.10.
 遠山：1♂2♀, 1997.10.11.

7. *Nedyopus* sp. アカヤスデ属の一種
 菅谷神社：1♂, 1997.5.10.

8. *Oxidus gracilis* (KOCH) ヤケヤスデ
 オオムラサキの森駐車場：2♂2♀脱皮後白色, 7齢2♂11♀, 6齢1♀, 1997.6.14. 菅谷館跡：1♂, 1997.6.14.; 3♂6♀, 7齢1♀脱皮前, 1997.7.14.
 体長約20mm、体色は黒褐色。側庇はわずかに隆起する。人家周辺にもよく見られる。

Xystodesmidae ババヤスデ科

9. *Parafontaria acutidens* (ATTEMS) ニクイロババヤスデ
 塩山：1♂, 1997.10.11. 豊田浩二; 1♀, 1997.10.15. 豊田浩二
 体長4.5cm、体幅1cm程の大型のヤスデ。

Polydesmidae オビヤスデ科

10. *Epanerchodus* sp. No.1 オビヤスデ属の一種 No.1
 塩山：7齢1♂, 1997.10.15. 豊田浩二; オオムラサキの森駐車場：7齢1♂, 1997.6.14.

7齢幼虫のため、同定不能。ヒガシオビヤスデの可能性あり。

11. *Epanerchodus* sp. No.2 オビヤスデ属の一種 No.2
 塩山：1♀, 1997.10.11. 菅谷館跡：8♀, 1997.7.14.
 雌のため同定不能。褐色、体長約16mm。

12. *Epanerchodus* sp. No.3 オビヤスデ属の一種 No.3
 オオムラサキの森駐車場：7齢3♀, 1997.6.14.
 幼虫のため、同定不能。褐色、体長約12mm。背板側庇は縦長で前角は丸い。

13. *Epanerchodus* sp. No.4 オビヤスデ属の一種 No.4
 塩山：1♀, 1997.10.11. 遠山：1♂2♀, 1997.10.11.
 淡褐色、体長約9mm。背板側庇は横長で前角は角ばる。新群の可能性あり。

14. *Epanerchodus* sp. No.5 オビヤスデ属の一種 No.5
 オオムラサキの森駐車場：7齢1♀, 1997.6.14.
 白色、体長約9.5mm、体幅約1mm、体型は細長い。背板側庇は縦長で前角は丸い。

SYMPYLA 結合綱

SYMPYLA コムカデ目

Scutigerebellidae ナミコムカデ科

1. *Hanseniella caldaria* HANSEN ナミコムカデ
 大平山：2exs., 1997.1.11. 遠山：1ex., 1996.10.27.
 全身白色で、体長4mm程の種類。

5. 参考文献

加藤 勇 1981 寄居町の自然動物編 .p.173-174.
 桑原 幸夫 1996 多足類. さいたまレッドデータブック.
 篠原圭三郎 1978 埼玉県動物誌 .p.459-470.
 篠原圭三郎 1996 ムカデ綱. 日本動物大百科. Vol.8.p.41.
 田辺 力 1996 ヤスデ綱. 日本動物大百科. Vol.8.p.43.

嵐山町の陸産貝類（中間報告）

松本充夫・須永治郎

1 はじめに

陸産貝類とは、陸に生息する貝類の総称である。その代表的な種類がカタツムリといわれている仲間で、昔から歩みの遅い生き物の例えとしてよく知られている。実はこのことが陸産貝類の生物学的大きな特徴となっているのである。この歩みが遅いと言うことは、言葉をかえて言えば、個体の移動能力が大変乏しいということである。一般に、生物が種類としてその生息分布地を拡大し、発達を続けると言うことは大変な困難が伴うと予想されるが、カタツムリの仲間はこのことが特徴的な動物群になっている。

移動力に乏しいと言うことは、地形的に山岳地帯や大河などの自然界の大きな障害物に対しては移動を阻まれて、その生息分布を拡大することが困難である。しかしその反面、このことにより、ある地域に単一な種類が隔離された状態で長い歴史的年月を経過すると、各地方に特有な種類、つまり地方種とか特産種が発達することになってくる。例えば、埼玉県内では普通に見られるミスジマイマイは、関東地方にのみ生息し、関西や九州地方、さらには東北地方には生息していないことなどはその具体的な1例としてあげられる。このように陸産貝類は地形や気候、植生など多様な自然環境から影響を受けると思われ、その結果から、ある地方にのみ生息する特産種や地方の特徴的な陸産貝類相が発達してくる。

このようなことから、ある地域の貝類相を明らかにするためには現地調査が大切で、他の地域とは異なった分布を示す種類の確認や、その地域の貝類相を把握することが重要な意味を持つてくる。

2 調査の概要

嵐山町は埼玉県内のほぼ中央部に位置し、その地形は丘陵・台地帯に属している。町の各地には低山がみられ、市街地から望むと一見、山里の様相を呈している。

発達した農地や耕地も各地に見られるが、全体的に平地と山地の間の地域で、そのことが地形的特徴に現れていることから、嵐山町の陸産貝類相を明らかにすることは、埼玉県中央部の台地・丘陵地帯の陸産貝類相を示すものとして興味を持たれる。

現在までの調査の結果、嵐山町の遠山地区や菅谷館跡の周辺において陸産貝類4科12種が確認された。

本報告書は、嵐山町の遠山地域と菅谷館周辺の地域において、1997年度に調査を実施したものである。したがって、これらの記録から嵐山町全体の陸産貝類相について論ずることはできないが、とりあえず現在までの調査結果から得られた内容に関して本文をまとめた。調査回数が少なかったが、しかし、これまでの調査によって、陸産貝類の分布地として新たな知見が得られたものもある。

なお資料の一部は、桑原幸夫調査員並びに内田正吉調査員また事務局豊田浩二氏に提供を受けた。ここに記し厚くお礼申し上げる。

1) 調査結果

(1) 遠山地区では、特に遠山寺の後背林の調査を行った。ここでは山腹の林床部の乾燥化が進み、また、地上の落葉層は薄いため陸産貝類にとっては必ずしも生息に好適な場所ではなかった。山腹の斜面には、シイとタブの林がみられ、場所によって竹の林もみられた。陸産貝類はこれらのいずれの場所でも確認できたが、個体数は多くはなかった。落葉層が貧弱なためか生きている成員の発見個体は少なく、ほとんどが貝殻のみであった。

この場所で確認できた種類を以下にまとめると、

ヤマタニシ科

アツブタガイ [*Cyclotus (Procyclus) campanulatus campanulatus*]

キセルガイモドキ科

キセルガイモドキ [*Mirus reinianus*]

キセルガイ科

ツムガタモドキギセル [*Pinguiphaedusa pinguis platyauchen*]

ナミギセル [*Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica*]

ナンバンマイマイ科

ニッポンマイマイ [*Satsuma (Satsuma) japonica japonica*]

ヒメビロウドマイマイ [*Nipponochloritis perpunctatus*]

オナジマイマイ科

オオベソマイマイ亜科

オオケマイマイ [*Plectotropis (P.) vulgivaga vulgivaga*]

カドコオオベソマイマイ [*Aegista (Aegista) proba goniosoma*]

エンスイマイマイ [*Trishoplita conospira*]

マイマイ亜科

ミスジマイマイ [*Euhadra peliomphala periomphala*]

ヒダリマキマイマイ [*Euhadra quaesita quaesita*]

オナジマイマイ亜科

ウスカワマイマイ [*Acusta despecta sieboldiana*]

などであった。

(2) 菅谷館周辺では、雑木林の林床部は手入れが良くされていることからか落葉層が少なく、落ち葉などを食物としている陸貝類には生息が不適當のようであった。しかし場所によっては局部的に湿潤な地点も見られ、それらのところで数種の陸産貝類が確認できた。

ナンバンマイマイ科

ニッポンマイマイ [*Satsuma (Satsuma) japonica japonica*]

ウスカワマイマイ [*Acusta despecta sieboldiana*]

2) 各種の概説

調査中に確認した陸産貝類について各種の特徴を記す。

① ヤマトニシ科

アツブタガイ [*Cyclotus (Procyclus) campanulatus campanulatus*]

貝殻の口の部分に、石灰質の円形をした厚い蓋をもつことからアツブタ(厚蓋)といわれる。一見して特徴的な貝殻形態をしており、貝殻の断面はほぼ丸く、4~5層巻いている。生貝の殻口は厚くなる。

生息場所は山地の林内が多く、希に竹林内などにも見ることができる。

貝殻は、殻高10mm、殻径14mm位で、蓋の直径は5.6mm。濃い茶褐色をした低平な円錐形をしている。

関東地方では群馬県と埼玉県に分布が知られている(環境庁1993)。県内での分布は上武山地を主に局部的に分布し、生息地も少ない。

② キセルガイモドキ科

キセルガイモドキ [*Mirus reinianus*]

キセルガイに貝殻の形が似ていることから「モドキ」という名前が付いている。貝殻は、幅に比較し、殻高が高い砲弾形をしている特徴的な形態をもつ。広葉樹が多い林や希に耕作地の周辺にも見ることができるが、総じて山地に生息することが多い。

貝殻は、殻高23mm、殻径9mm位で、黄色みを帯びた褐色をしている。

県内では秩父山地の石灰岩地や外秩父山地、上武山地など広く分布するが、個体数は多くはない。

③ キセルガイ科

この仲間は、貝殻の形が細長く、喫煙具の「キセル(煙管)」にその名前が由来する。貝殻は左に巻き、12

層から14層くらいの巻き数がある。

ツムガタモドキギセル [*Pinguiphaedusa pinguis platyauchen*]

本種は埼玉県内でも山地を主に普通にみられる種類で、石灰岩地や広葉樹林内の落葉中を好んで生息している。場所によっては、椎茸木が朽ちて積み重なったような場所の隙間に潜んでいる。

貝殻は、殻高26mm、殻径6mm位、細長く、やや光沢のある暗褐色をしている。

ナミギセル [*Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica*]

ツムガタモドキギセルと共に、県内では普通にみられる種類。平地から山地にかけて広く分布する。人家周辺や石灰岩地にも生息し、幅広い地域でみられる。

殻は、殻高28mm、殻径7mm位で、淡い褐色から紫褐色をしている個体まで変化がある。

④ ナンバンマイマイ科

ニッポンマイマイ [*Satsuma (Satsuma) japonica japonica*]

カタツムリとしては小型の種類で、ほぼ円錐形をした貝殻をもつ。人家の周辺や耕作地、農地をはじめ山地にも生息する。

貝殻は、殻高13mm、殻径16mm位で、黄褐色から濃い褐色まで幅がある。

ヒメビロウドマイマイ [*Nipponochloritis perpunctatus*]

貝殻の表面に微少突起が密生し、一見するとビロード状の光沢があるためこの名前が付いた。貝殻は薄く壊れやすい。山地の広葉樹林や灌木林下などにも生息する。

貝殻は、殻高12mm、殻径17mm位で、生貝は黒褐色をしている。

⑤ オナジマイマイ科

オオベソマイマイ亜科

オオケマイマイ [*Plectotropis (P.) vulgivaga vulgivaga*]

貝殻は、そろばん玉を薄く平らにしたような形である。貝殻の周囲には、殻皮が変形した毛状の突起をもち、独特の形態をしている。このことからオオケといわれる。主に山地によく見られるが、低山の沢沿いのように湿潤な場所にもみられる。

貝殻は、殻高11mm、殻径23mm位で低平となる。

カドコオオベソマイマイ [*Aegista (Aegista) proba goniosoma*]

貝殻の表面には鱗状の微小突起が密生し、ザラザラした感じがする特徴的な種類。山地の湿潤な樹林下で、コケや石礫の混ざっているような場所や耕作地などにもみられる。

貝殻は、殻高7mm、殻径12mm位で、暗黄褐色で光沢はない。

エンスイマイマイ [*Trishoplita conospira*]

貝殻の形が殻高5mm、殻径6mm位の円錐形をした種類。和名のエンスイは「円錐」の意味。山地の灌木林下や耕作地、農地の草地などにみられる。

貝殻は、やや光沢のある黄褐色をしている。

マイマイ亜科

ミスジマイマイ [*Euhadra peliomphala peliomphala*]

関東地方では最も普通にみられる種類。埼玉県内の平地から山地にかけて広く分布する。デンデムシとかカタツムリと呼ばれるのは、本種とヒダリマキマイマイを指すことが多い。貝殻にみられる色帯には、1234型とか0234型などといわれる6つの型が知られているが、場所によってこれらの色帯の出現率が異なる。遠山で確認したのは0234型のみであった。

貝殻は、殻高20mm、殻径43mm位で中型の大きさである。

ヒダリマキマイマイ [*Euhadra quaesita quaesita*]

大型のカタツムリで、貝殻が左に巻く種類。名前の「ヒダリマキ」はこの巻いている形からきている。平地から山地にかけて生息するが、山地の種類はチャイロヒダリマキマイマイといわれている。人家の庭や耕作地の周辺にも生息する。

貝殻は、殻高30mm、殻径45mm位で黄褐色の個体が普通。

オナジマイマイ亜科

ウスカワマイマイ [*Acusta despecta sieboldiana*]

主として、低山や耕作地、農地の周辺部に散在する湿潤な草地や水田わきの草むらなどに生息する。山地には少ない。休耕田などの草深い場所では、数百個体が群生する事がある。

名前のとおり、貝殻は薄く壊れやすい。

貝殻の大きさは、殻高15mm、殻径18mm位で、黄褐色あるいは緑味を帯びた個体もあるが光沢は少ない。

3) まとめ (特記事項)

現在までに調査を行った場所は嵐山町のごく一部であり、そこから得られた情報もまだ少ないと言える。そして、とりあえずこれまでに確認してきた種類や、現地調査時の観察事象などをここにまとめたが、特に下記の事項を特記事項として記録する。

①アツブタガイ [*Cyclotus (Procyclus) campanulatus campanulatus* MARTENS] (写真1・2)の生息を遠山地域の山腹において確認したことから、本種の埼玉県における生息分布地が新たに確認され、それに伴い本種の分布域が東方に拡大した(図1)。

本種の埼玉県における発見当時の記録を川名(1987)より引用すると、「本県での記録は、川名による1973年5月19日に児玉郡神川村金鑽神社が最初で、その後、松本充夫により1973年9月18日秩父郡長瀨町陣見山で採集された。」とある。



1. アツブタガイ (背面) 2. 側面

筆者はこの記録以降、県内での本種の分布に興味をもち、その分布地域の確認につとめたところ、県内では、群馬県境付近の上武山地を主分布地としていることが明らかになった。その縁辺部が、調査の経過と共に東の方に新たな生息地として記録拡大されつつあるところである。

関東地方における分布は、環境庁(1993)の全国分布図(図2)から見ると、群馬県と埼玉県のみで現在のところ記録が見られる。関東周辺には未調査地もあるようでこのような分布を示しているとも思われるが、全国的には関西から四国、九州地方にその主分布地が知られている。これから言えることは、埼玉県の分布は群馬県と共に飛地的な分布となっている。前述の上武山地の分布は、群馬県の藤岡市や鬼石町と連続した分布を示している。このような視点で分布記録を見ると、嵐山町の記録は東方に位置し大変興味深い。

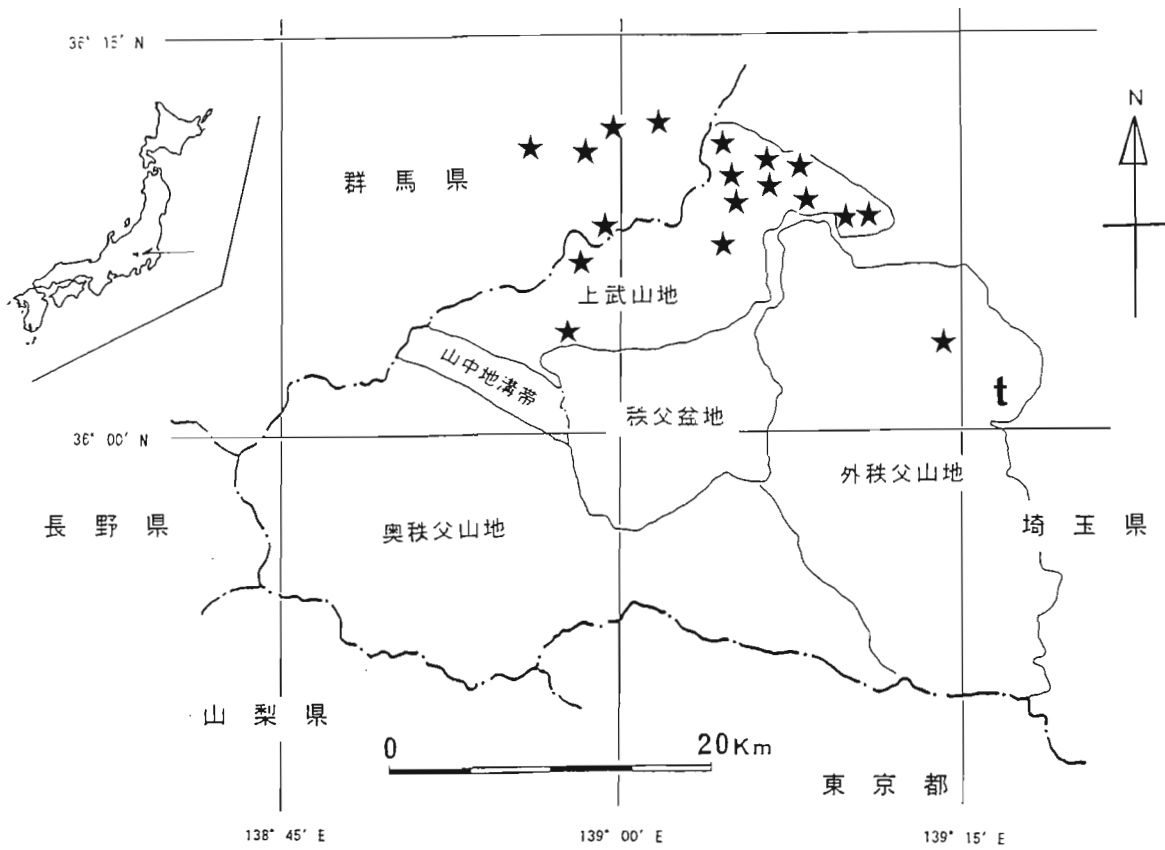


図1 埼玉県におけるアツブタガイの分布 [★] (t:遠山)

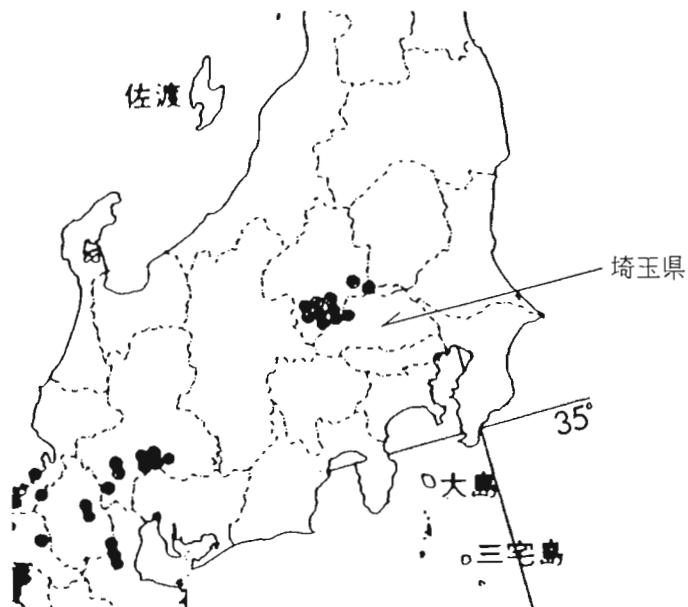


図2 関東地方におけるアツブタガイの分布 [●] (環境庁, 1993 (分布図), 一部引用改編)

4) 目録 (生息確認種)

種の配列は湊 (1988) を参考とした。また、和名の後に記した記録は「生息確認地・年・月・日」とした。

Class GASTROPODA 腹足綱

Subclass PROSOBRANCHIA 前鰓亜綱

Order Archaeogastropoda 原始腹足目

Order Mesogastropoda 中腹足目

Superfamily Cyclophoracea ヤマトニシ超科

Family Cyclophoridae ヤマトニシ科

Cyclotus (Procyclus) campanulatus campanulatus

MARTENS アツブタガイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Subclass Pulmonata 有肺亜綱

Order Stylommatophora 柄眼目

Suborder Orthurethra 直輸尿管亜目

Superfamily Partulacea

ポリネシアマイマイ超科

Family Enidae キセルガイモドキ科

Mirus reinianus (KOBELT) キセルガイモドキ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Suborder Mesurethra 中輸尿管亜目

Superfamily Clausiliacea キセルガイ超科

Family Clausiliidae キセルガイ科

Subfamily Phaedusinae

アジアキセルガイ亜科

Pinguiphaedusa pinguis platyauchen (MARTENS)

ツムガタモドキギセル

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica

(CROSSE) ナミギセル

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Suborder Sigmurethra 屈曲輸尿管亜目

Superfamily Camaenacea

ナンバンマイマイ超科

Family Camaenidae ナンバンマイマイ科

Satsuma (Satsuma) japonica japonica (PFEIFFER)

ニッポンマイマイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12、菅谷館跡・1996-4

Nipponochloritis perpunctatus (PILSBRY)

ヒメビロウドマイマイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Superfamily Helicacea マイマイ超科

Family Bradybaenidae オナジマイマイ科

Subfamily Aegistinae

オオベソマイマイ亜科

Plectotropis (P) vulgivaga vulgivaga (SCHMACKER et

BOETTGER) オオケマイマイ

Aegista (Aegista) proba goniosoma (PILSBRY et HIRASE)

カドコオオベソマイマイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12 遠山、2-X-1997
(豊田)

Trishoplita conospira (PFEIFFER) エンスイマイマイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Subfamily Euhadrinae (nov.)

マイマイ亜科 (新称)

Euhadra peliomphala peliomphala (PFEIFFER)

ミスジマイマイ

Euhadra quaesita quaesita (DESHAYES)

ヒダリマキマイマイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12

Subfamily Bradybaeninae

オナジマイマイ亜科

Acusta despecta sieboldiana (PFEIFFER) ウスカワマイマイ

遠山・1996-6-16、遠山・1997-4-12、菅谷館跡・1996-4

5) 文献

川名美佐男 (1978). 埼玉の軟体動物. 埼玉県動物誌. 埼玉県教育委員会. : 507-524pp.

環境庁 (1993). 動植物分布調査報告書 (陸産及び淡水産貝類) (別冊・分布図). 第4回自然環境保全基礎調査. 環境庁自然保護局.

湊 宏 (1988). 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会. : 294p.

嵐山町の淡水産貝類 (中間報告)

松本充夫・金澤 光

1 はじめに

淡水産貝類とは、私たちの身近に知られている二枚貝のマシジミや巻き貝のカワニナを代表とする貝類の仲間で、人の生活とも深いかわりを持っている種類がみられる。

近年地方の都市化に伴い、生活排水などの流入が河川をはじめとした各地の水域の汚染に関わり、そこに生息する淡水産貝類の多くは減少傾向にある。そのため、より一層の現地での生息状況を確認する必要があると思われる。

人間生活にもつながる環境悪化を、直接受ける種類が多いこともあって、淡水産貝類は環境汚染を示す指標としてもっと人々に関心を持ってもらう必要がある。

2 調査の概要

現在までの調査の結果、嵐山町の千手堂・菅谷地区及び市野川において淡水産貝類3科4種が確認された。

現地調査は、嵐山町の遠山・大平山地域と菅谷館周辺及び市野川において、1997年度に実施したものである。この調査結果から得られた内容に加え、過去に嵐山町から記録されている淡水産貝類も含め本文をまとめた。

1) 調査結果

現地調査により得られた淡水産貝類

①市野川

タニシ科

ヒメタニシ (*Sinotaia quadrata histrica*)

シジミ科

マシジミ (*Corbicula (Corbiculina) leana*)

②菅谷館敷地の一部を流れる用水堀

タニシ科

マルタニシ (*Cipangopaludina malleata*)

カワニナ科

カワニナ (*Semisulcospira bensoni libertina*)

③菅谷館跡からオオムラサキの森へ至る途中の都幾川本流やその伏流の池沼

カワニナ科

カワニナ (*Semisulcospira bensoni libertina*)

タニシ科

マルタニシ (*Cipangopaludina malleata*)

④遠山・千手堂・槻川

カワニナ科

カワニナ (*Semisulcospira bensoni libertina*)

シジミ科

マシジミ (*Corbicula (Corbiculina) leana*)

2) 各種の概説

調査中に確認した淡水産貝類について各種の特徴を記す。

①タニシ科

マルタニシ (*Cipangopaludina malleata*)

昔から食用にされている種類であるが、近年では各地で生息数が減少している。水田やその側流、用水や池沼を主に生息している。貝殻はやや丸みをもち、表面には藻類が付着していることが多い。

貝殻は、殻高3mm、殻径2mm位で、淡褐色や表面に藻が付着し緑色となることが多い。

ヒメタニシ (*Sinotaia quadrata histrica*)

タニシの仲間では、比較的水質汚濁が進行している水域に生息している。食用にはしない。

②カワニナ科

カワニナ (*Semisulcospira bensoni libertina*)

近年、ホタル幼虫の食物としてよく知られている。水のきれいな流れに生息するため、汚染の激しい流れには生息ができない。そのため各地で個体数が減少している。身近な淡水産の巻き貝で、水田やその側流、用水路や池沼などに広く生息している。

貝殻は、殻高2mm、殻径8mm位で、殻頂部が欠損している個体が多い。貝殻の色は褐色をしているが、表面に藻が付着し緑色になることが多い。

③シジミ科

マシジミ (*Corbicula (Corbiculina) leana*)

食用にされている種類であるが、水質汚濁により減少している。河川や用水、池沼に生息している。

3) 目録

(現在までに嵐山町で確認されている種について)

種名の後には産地、採集年月日、採集者名を記した。

Class GASTROPODA 腹足綱

Subclass PROSOBRANCHIA 前鰓亜綱

Order Mesogastropoda 中腹足目

Family Viviparidae タニシ科

- ・ *Cipangopaludina japonica* (V. MARTENES) オオタニシ
金澤 (1997) 私信
- ・ *C. malleata* (REEVE) マルタニシ
菅谷館跡・1996・4. 松本
- ・ *Sinotaia quadrata histrica* (GOULD) ヒメタニシ
市野川・1996・10・13. 金澤
 Family Pleuroceridae カワニナ科
- ・ *Semisulcospira bensoni libertina* (GOULD) カワニナ
菅谷館跡・1996・4. 松本、槻川・1997・7・19. 金澤、
千手堂・1997・10・11. 松本
 Family Lymnaeidae モノアラガイ科
- ・ *Radix auricularia japonica* (JAY) モノアラガイ
金澤 (1997) 私信
 Family Physidae サカマキガイ科
- ・ *Physa (Physella) acuta* DRAPARNAUD サカマキガイ
金澤 (1997) 私信

Class BIVALVIA 双殻綱

Subclass HETEROCONCHIA 異殻亜綱

Oeder Naiadida 淡貝目

Family Unionidae イシガイ科

- ・ *Anodonta (Sinanodonta) woodiana* (LEA) ドブガイ
金澤 (1997) 私信
- ・ *Inversidens (Pronodularia) japonensis* (LEA)
マツカサガイ
金澤 (1997) 私信
- ・ *Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis* V. MARTENS
イシガイ
金澤 (1997) 私信
 Family Corbiculidae シジミ科
- ・ *Corbicula (Corbiculina) leana* PRIME マシジミ
槻川・1996・10・13. 金澤、市野川・1996・10・13. 金澤

4) 文献

- 黒田徳米 (1963). 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会. : 71p.
- 川名美佐男 (1978). 埼玉の軟体動物. 埼玉県動物誌. 埼玉県教育委員会. : 507-524pp.
- 環境庁 (1993). 動植物分布調査報告書 (陸産及び淡水産貝類) (別冊・分布図). 第4回自然環境保全基礎調査. 環境庁自然保護局.
- 金澤 光 (1997). 私信.

江戸期『女訓書』に見られる婦徳

斎藤醇吉

- はじめに
- 一 女性観
 - 二 三従
 - 三 四徳
 - 四 五常・五倫
 - 五 孝行
 - 六 夫婦
 - 七 七去
 - 八 男と女
- むすび

はじめに

江戸時代に入ると、藩校を始めとする教育機関が著しく増加し、そこに学ぶ人々も多くはなつた。しかし、それらの教育機関は主として男子を対象としたもので、女子はわずかに郷学・寺子屋の一部において、その所を得たに過ぎない。松下村塾の指導者吉田松陰は『女訓』の中で「女学校」の開設を提唱しているが、残念ながら、その実現を見ることはな

かった。

では一体、江戸時代の女性はどこで教育されたのだろうか。成瀬維佐子は『唐錦』の中で「女子は女徳女職をならひてひるよるをくのまをまかで侍ることなし」と云っているように、家庭内での教育が主流であったと思われる。女子の教育が学校教育機関によらなかつたことについて、学説によれば、女子の教育は家庭の内部に於て、体験から体験へと移し植えられる個別教育（以心伝心）に俟つべき性格のもので、学校のような一斉集団的な教育を必要としなかつた結果であるとしている⁽¹⁾。しかし、女性に求められる教養や知識の程度は時代の降下と共に高く、且つ広くなつていったし、以心伝心では習得できないような複雑多岐にわたる知識が要求されるようになった。従つて、吉田松陰が『女訓』で力説したように、女子にも学校の機能を持った教育機関は必要であつただろうが、それでも猶且、家庭教育に頼らざるを得なかつたのは、やはり当時の社会をとりまく封建的女性観、或いは儒教的因習や通念に由来するところが多かつたからであると考えられる。『女訓孝経』の「七歳にて男女席を同ふせず」や『唐錦』の「女子は・・・ひるよるをくのまをまかで侍ることなし」という言葉は当時の女性の在り方をよく言い表している。即ち、女子は外に出ることを厳しく禁ぜられたために、勢い家庭に於て教育せざるを得なかつた。

では、誰が家庭にあつて教育の任にあつたのだろうか。古く中国では『内訓』に見られるように「姆」と呼ばれる女教師が、家庭の中で教育にあつた⁽²⁾。我が国でも古くは「女子生れて十歳になるときは女師に就いて女徳を学び女事を習いぬ」と中江藤樹も云っている⁽³⁾。しかし、誰でもが「姆」とか「女師」といった教師を雇い入れることは出来なかつたであろう。そこで、多くの家庭においては母がその任にあたることに

なったのである。貝原益軒の『和俗童子訓』には「女子はつねに内に居て外にいでざれば、師友にしたがいて道をまなび世上の礼儀をみならふべきやうなし、ひとへにおやのをしえを以、身をたつるものなれば父母のおしえおこたるべからず」とあり、又、加藤随鷗は「夫は日々に外をつとめ違なく殊に幼時は母をしたひ不斷に付そふものなれば母の教へて善人とも悪人とも成へきなり」と、女子の教育は父母にゆだねられ、特に父より母の教育の力に待つところが大きかったと考えられて来た。新井白石も自伝『折たく柴の記』の中で、白石の母が子供達に本を読み聞かせ教えてくれたことを回想している。

家庭内の女子教育が、母の教導によつたのは勿論であるが、その教育内容が複雑多岐にわたるに及び、すべてを母に頼ることも出来ない場合が多くあつたと思う。そこで手ほどきは母に受けても、その後は自学自得的な手段で、知識を吸収してゆくより他しかなかったことも否めないところである。さすれば、そこに当然自習的な性格をもつた読み物が要求され、その要求に応じて提供される書物が考案されることとなつた。それが夥しい数の女訓書となつて上梓され、世に出されたわけである。『女小学教草』の序に「常にくりかへし見給ひてなにくれとなくさくく徳を得るいとよきをみな子の教ぐさにはなるならし」と述べ、また、『女鏡秘伝書』序には「あさとなくくれとなくかほみたまふか、みとおなじところにかせたまひてこの書をみたまひゆたんなくおこなひたまはゞ、めでたくもあらんかし」と云うように、絶えず、くり返し女訓書を読むことで女徳が得られるという自学自習の書であつた。苗村文伯は『女重宝記』の序において「女の善をのべあらわしてかのひがみを採なほし女のおほへてよき事を書きあつめてかの拙を直ならしめ申候」と自信をもつて、その発刊の意図を明らかにしている。一七二〇(享

保五)年に上梓された『大和女訓』は「是よりさき。世におこなはる、ところの女訓の書すでに。数十部におよべり」と書いているが、一八〇〇年代、文化・文政期に入るとその数は急増し、枚挙に暇ない程となつて行つた。そして、これらの女訓書が江戸時代の女性たちの教養形成に大きな役割を果たしたことは論をまたないところである。

女訓書についての論考は別にゆずり、以下はこれらの女訓書を中心に、家庭内において行われた教育に光をあて、特に婦人に求められた道徳律、即ち婦徳、女性への教訓、江戸時代の望ましい女性像等について考察してゆきたいと思う。

なお、本論考にあたつては、女訓書の原典資料を長文であつても、そのまま忠実に採択、所載したので、直接原典資料を読んで理解を補足していただければ幸である。

註

- (1) 吉田松蔭『女訓』黒川真道一九八二『日本教育文庫』女訓篇
- (2) 成瀬維佐 一七九九(寛政十二)『唐錦』
- (3) 石川謙 一九四六『女子用往来物分類』講談社
- (4) 一八二二(文政五)『女訓孝経』黒川真道一九八二『日本教育文庫』教科書篇
- (5) 山崎純一 一九八六『教育から見た中国女性史資料の研究』明治書院の『内訓』序に「女子十年而聽姆教」とある。
- (6) 中江藤樹『春風』三、女人は別して心の学問なくしてはかなわぬことなり 一九四一『鑑草』岩波書店
- (7) 貝原益軒 一七二〇(宝永七)『和俗童子訓』黒川真道一九八二『日本教育文庫』学校篇
- (8) 加藤随鷗 一八一九(文政二)『女壽蓬菜台』
- (9) 新井白石『折たく柴の記』一九六三『日本古典文学大系』55 岩波書店
- (10) 文海堂主人 一八三三(天保四)『女小学教草』
- (11) 一六七八(延宝六)『女鏡秘伝書』
- (12) 苗村文伯 一六九二(元禄五)『女重宝記』
- (13) 井沢長秀 一七二〇(享保五)『大和女訓』

一 女性観

時代の思潮にあわせるように、女性に対する見方、考え方や或いは女性像は変遷してゆくものである。

母系制社会が存続していたと考えられる原始・古代においては女性の社会的地位も高く、その存在は社会構成上、経済上極めて重要で意味深いものがあり、それは上代にまで及んでいたと考えられる。神話時代とはいえ、天照大神は女神として語り伝えられ、有史時代に入っても、『魏志倭人伝』の卑弥呼は女性であった。また、我が国の天皇史を見るに、六世紀末から八世紀末まで、女性の天皇が六人即位している。推古・皇極・斉明（皇極重祚）・持統・元明・元正・孝謙・称徳（孝謙重祚）で、重祚を含め八代であり、その間男性で即位した天皇が八代で、実に半数が女帝であったことになる。平塚雷鳥をして「元始、女性は実に太陽であった」といわしめたのは、こうした女性の活躍によつたものである。政権や社会の指導的役割、一家内の労働生産手段において、男性の力が優越し、父権社会の体制が構築されるようになると、女性の社会的地位も、その存在の意義も低くなり、儒教思想の昂揚とあいまって、男尊女卑思想が定着していった。江戸時代に入つて、長子相続権が法制化されると、特に武家社会においては、男子がいなければ、その家の家督を相続することもできず、お家断絶という悲劇も生じかねなかつた。従つて男性の価値は高まり、男子の出生を喜んだが、その反面、女子を軽視する風が助長され、女子は子を産む道具位にしか考えられないようになってしまった。こうした傾向は、武士のみならず庶民の間にも広まり、独特な女性観を生むに至つたのである。

女訓書の間に散見する女性観についての記録を拾つて、当時の人々の

女性に対する見方・考え方を総括してみよう。

女は人のはじまり

天地すでに割て国とこたちのみことと在してより天神七代かあいだは男女のわかちなし七代めの伊弉諾伊弉冉のみことの二神より男女とわかれて天の浮はしのもとにてはじめて婚合して一女三男をうみ給ふ一女といふは天せう大じんの御事にて三男のあねぎみにてわたらせ給ふ御かたちひかりか、やきうるはしくましますゆへあまてる御神と申又日の神とも申奉りてたかまが原をしらしめ給ふ下界にあまくたり天が下しろしめして地神の祖と仰がれ給ひ今の世までもいともかしこく諸人うやまひ奉る事なりされば女は天せう太神のながれなれば神代はいふにおよばず人の世となりても上代の女はその心すなほにして邪ならず世のすへ今の世におよびては女の心日々にあしくなり人をそねみ妬み身を慢じ色あかくいつわりかざりて欲心を、くやさしき心なくして情をしらず女人は地ごくのつかひなり仏のたねをたち外面は菩薩にて内心は夜叉のごとしと釈迦も経にとき女子はちかづくれは不遜なりと孔子も論語にのべ給ふしからば唐天ぢくのむかしよりひがめる女の心なれば今すへの世にいかで女の正しかるべきなれど人々心がけたしなみ給はゞすこしはすなほの心となり神慮の正直にもかなひ給ふべし心正直なればたしなまねども嫉妬のこゝろなく欲すくなく情ふかく物をあはれみ心もやさしくなるものなり女は年わかきいまだ嫁せぬさきは世をはぢ身をはぢていわねども心をたしなむ所もあれど年たけ世をもちての、ち多は心あしくなりへびろくる首などあだ名を立られ下さまにては夫には山の神といわれ人には火車と

よばる、たくひを、しまことにあさましき事なりたしなみ給ふべし
〔女重宝記〕一之巻(4)

惣て婦人は心愚かにして賤きやうにいへどもさにあらず夫日の本を姫氏国と云事かたしけなくも天照皇太神宮女神にてわたらせ給ふによりてなりさあれば婦人をいやしむべきにはあらずされども女には人我の相と云事のありて人と我と隔心あるがゆへなり天地人といふて天も地も人も同体のものにてさらに隔はなきものなり此道理をよく弁へ何事も裏表なく真実を本として偽かざる心なく柔和ならばなと男子婦人のへだてあらんや慎給ふべき事にこそ

〔女遊学操鑑〕婦人評林(3)

両書とも人間、女性の始を女神である天照大神としてをり、従つて女性は諸人から仰がれ敬せられて来た。神代から上代まで女性は心素直で、邪心なく、愚かにして賤しまれる存在ではなかつたとしている。しかし、その後は女性の心が日増しに悪くなり、今日に及んだという。『女重宝記』の作者苗村丈伯は、女性の悪い心を、嫉妬の心、自慢の心、欲心、好色とし、正直の心なく、やさしい心もなく、情けしらずだといひ、女性を外面如菩薩内心如夜叉と評している。また女性が成長した後は、へび、ろくろ首、山の神、火車(火車婆)のことで、遊女を監督指揮する因業婆などと渾名されることになり、あさましい限りだと嘆いている。丈伯は、厳格な儒学者であつたから、女性に対する見方も厳しく、女性の悪い面を強調することにもなつた。その点『女遊学操鑑』の方は、婦人をいやしむべきではないこと、天・地・人の間にあつて、それらが同体でへだてのないという平等観に立つて、男子と婦人の間にへだてのないことを

説いている。

夫女子は陰にして内を治め。男は陽にして外をつとむる事天地自然の道理なり。陽は昼にて陰は夜なり。しかれば夜なれば男よりは諸事にくらきゆへ。知恵の燈を照し。万事とゞこほりなきやうに。つとめおさむべき事肝要なり。智恵のともしといふはなんぞや。いにしへよりの聖賢の教書をよくわきまへしる事なり。兼好がつれぐ草には女の性はみなひがめり。人我の相ふかく。貪欲甚しくもの、理をしらず。直ならずして。拙きものは女なりといへり。かやうのことをきけば。女の身にして口おしきことならずや。よく女の道たる事をわきまへしりて。兼好がにくていぐちをわらひあざむくこそ。誠にめでたかるべし。往方よりいまにいたりて。貞女賢女といはれし人々すくなからず。又男子なればとて智恵かしこく直に貴きものともいふべからず。

〔女諸礼綾錦〕女教益見鑑(4)

この書では兼好法師の『徒然草』第七段の「女の物言ひかけたる返事」の中で、「女の性は皆ひがめり」という部分を引用して人我の相ふかく、直ならずして、拙きものは女であるとしているが、この引用は前出の『女重宝記』の序文にもみられ、また『女遊学操鑑』の前掲の文中にも「人我の相」と使われているように、当時、女性は人我の相を持つていたという評がほぼ定着していたのではないだろうか。要するに「人我」というのは我執、我意をはることで、女性というものは僻みっぽく、我俥で、貪欲で、物の理屈を理解せず愚劣なものであるというのである。

陰陽道からいえば、女は陰で夜、陽で昼の男にくらべれば、諸事に暗

いのが道理だから、暗ければ智恵の燈火を照らして明るくしなければならぬと説く。まことに勝手な因果関係を構築したものと思うが、智恵の燈火は聖賢の教を学ぶことだととして、勉学の動機づけと考えられる点、また最後の貞女賢女少なからず、男子だってみんなが知恵があり、素直で貴いとは限らないという一節は、女性への援護であり、救いでもあるように思われる。次の一文は更に女性への肩入れと、その優位性を語ったものである。

清る物はのぼりて天となり濁れるものは降りて地となり其中に物あり物の中に入り人の中に男あり女有男は尊く女は賤しといへども唐の代詠謡にいふ男を産ても喜ぶ事なけれ女を産ても悲しむ事なけれ男侯だにも封ぜられず女は妃たりとて后になるといへり是を思ふに今日の幸ひを求る事女にあり

〔女壽蓬萊台〕婦人養か、み〕

男子の誕生をめであつて喜び、懐妊した子供が女子と思われたとき、「女子を転じて男子となす法」といったことが、まことしやかに語られた男尊女卑の人間観に貫かれていたこの時代であつて、この記述はまことに珍しい存在であつた。女訓書ならではのことだろうが、女性が玉の輿にのつて出世し、一門榮えて幸をもたらした例があつたからだろう。玉の輿ではないが、明智光秀の重臣齋藤内蔵介の娘お福は逆臣の娘であり、離婚歴をもつ女性だが、二代將軍秀忠につかえ、三代將軍家光（幼名竹千代）の乳母となつて、後、春日局と称し、大奥にあつて権勢を振るい一門繁榮の基を築いた。幕藩体制下、これ程の地位をつかむことの出来たのは女性であつたがためである。しかし、一方では女子を出産

してしまふかも知れない女性への慰めであつたとも考えられる。

最後に、女性観とは言い難いが、いつの世にも女性の容貌、容姿に理想を求めるのが常であり、そのことが女性像をイメージすると共に女性の在り方をも際立たせることになり、女性観に通ずるものになることが多い。江戸時代の女性像を的確に理解するには残された多くの浮世絵から類推する方が手短ではあるが、ここでは女訓書の中に表現され、描き出された女性を考察することで、当時の「よき女」と「あしき女」とを、ほぼ共通する部分にしたがつて比べてみたので表一に示す。

作表のもとになつた『女訓抄』は一六四二（寛永十九）年にかかれたものだから、江戸二六〇年の間には移り変わりもあつただろうが、この表中からすぐには美形を連想しにくい。時代によつて審美眼の相違があるからだろう。歌麿や春信の浮世絵を眺めながら見れば、現代の美意識からは程遠いものの、江戸時代が理想とした女性像は惚げられる。

『女大学』では「女は容よりも心の勝れたるを善とすべし」といつてゐるから、道学的にいえば女の容姿、容貌は論外であつたらうが、それでも女訓書の多くに、女性が美しくなるための方法が縷々述べられてゐるのは、理想の女性像の中に、このことを無視できなかつたからであらう。当時の女性観の底流にあつたものは儒教的男尊女卑観であつたことは否めない。封建制度の中にあつては人が二人以上存在すれば、いづれかに優劣上下をつけなければ社会秩序を保つことが出来なかつた。君と臣、主人と奉公人、親と子、先輩と後輩といった関係をすべて上下において考へた。士農工商といった身分制もそうだし、商の下に置く階級が必要となればそれ以下の階層をもつくり出した。そうしたあらゆる階級、地位を除いて人間を見た場合、そこには男と女という二種類以外には存在しない。そこで、これにも上下関係をつける必要があつた。即ち女より

二 三従

江戸時代の女性は親・夫・子に従う。三従の教を強いられていた。『女実語教』に「三の従を守り慎まずんば、何ぞ五の障を免れん」と云っている。⁽¹¹⁾五の障というのは、法華経の中に女は梵天王、帝釈天、魔王、転輪聖王、仏身とはなり得ぬ、としたことを指し、この五障を免れなければ「つねに地獄をすみかとするばかり也」と『女訓抄』は説いている。中世期、仏教上の末法思想が流布されるようになっていくと、多くの民衆が現世に見切りをつけて、来世を夢見るようになっていった。即ち、浄土欣求がそれであるが、現世を末世穢土の世界とすれば来世は極楽浄土であった。誰しもが死後の世界は百花繚乱の極楽でと願うのは当然であった。これに対して、来世には地獄が存在することも考えられていた。地獄は責め苦の世である。三従の教えを守らなければ、五障が生じ極楽に行くどころか、塗炭の苦しみに喘ぐ地獄に住まなければならないというのである。こんな恐ろしい譬はなかった。非科学的な生活慣習が横行している時代にあつて、宗教的教訓が人の心をとらえ、また人の弱点を巧みに利用した教化は、極めて効果的であつた。

「三従」について記述したものは多いが、ここでは次の二つをあげよう。

三じゅうといふは女はたかきもいやしきも三つのくるしみありこれを三じうとなつたり一にはおさなきときはおやにしたかふゆへ身を心にまかせず。これをのがれんとすればふけうのとがをまねく二にはとさかりになりておとこにしたかひ侍れば心にまかせずしたかはざれば身をたつるにたよりなし三にはとしおひぬれ

ば子にしたかふしたかはさればたうろにそでをひろげかはねをみちのちまたにさらすこの三じうをよく心得て心のま、ならぬとてがいにふるまふへからす (『女鑑秘伝書』五しよう三じうの事)⁽¹²⁾

夫女子は生れたる家にある時は父母の仰せにしたがひ嫁入しては夫舅姑に從ひ老ては子に從ふが道なり是則なにごとく堪忍にあり譬は父母無理なる事を仰らる、時いや夫はと云たけれどもまづ頓首こたへて御請を申こと是すなはち従の道に叶い其いや夫はと云いたきをじつと押しておくが堪忍也 (『女今川操文鑑』日頃草)⁽¹³⁾

三従という考えは女性に限られた道德律で、男性に求められるものではなかった。女性の一生を三つの世代に分け、第一は父母の膝下にある時代、次は嫁して夫の下にある時代、そして、最後は老いて子に家督をゆずり隠居した時代と考え、それぞれの時代において、父母、夫、舅姑、子に従うことが求められた。

三従を三つの苦しみとしているが、楽なことではなかつたろう。父母に従わなければ、不孝の謗りを免れない。しかし、幼少時親に従うことでは、恩愛、肉親の情あつてのことだから、それでも苦痛という程のものではない。勿論、承知し難い事もあるのだが、許して従うことは出来たであろう。嫁してからは夫及び舅姑との関係が生じ、これに対しても従わねばならなかつたが、この場合両者の間には肉親の情愛がないので、父母の場合とは違ってくる。そこで、夫に従い、舅姑に従う理屈を充分に教えられ、納得していなければ難しいことが多くなるのが道理であつた。ただ『女鏡秘伝書』がいうように、従わなければ身を立てることが出来ないことになる。即ち、当時の女性は経済的な力が皆無であつたか

ら、夫から見放されたら生活する術がなかった。身が立たない、独立した生計を営むことが出来ないで、夫に従わざるを得ないこととなったのである。これは忍従の生活であつたろう。最後の老いてからの従も安易なものではなかった。人は余程修養を積んでいないと、老いて頑迷になり、僻っぽくもなつてくるもので、すでに隠居の身でありながら、素直に子の意見に従いにくくなつてくる。そこで、子に従わなければ道端に屍を晒すことになる、その末路の哀れを説いた。姥捨て伝説は世に伝わっていたが、まさか子に従わずといつて山に親を捨てる子はいないが、我を通していたのでは、いかに親子に情愛があつたにもせよ、見捨てられ、顧みられなくなることもあつたらう。従つて元気なうちに隠居契約のようなものを結ぶ例もみられるほどであつた。⁽⁵⁾よく考えてみると子は親に従うという三従の教えであれば、年老いても親である以上、子は親に従うのが道理だと思ふのだが、不思議な教えもあつたものである。いづれにしても、従うということは苦痛を伴うものであつたから『女今川操文鑑』は従は堪忍にあるといつてゐる。無理をいわれたときは「いやそれは」と反発したいだろうが、まず「はあ」と受け入れることが従の道であり、「いやそれは」と反発したいところをじつと我慢するのが堪忍だと教えてゐる。女は一生涯を忍従の中に過すように躰けられていたのである。女性の徳として柔和、従順、貞淑といった言葉が賞賛されたのもつともなことであつた。

註

(1) 一八四八(嘉永元)『女実語教宝箱』(嵐山町吉田 小林武良家架蔵本)

(2) 二六四二(寛永十九)『女訓抄』

(3) 二六七八(延宝六)『女鏡秘伝書』

(4) 一八一三(文化十)『女今川操文鑑』

(5) 森山茂樹一九九七「江戸時代の隠居手当」博物誌だより31 嵐山町広報「嵐山」5月号

三 四徳

四徳は三従について守らなければならない女性の大切な徳目を示したものである。『唐錦』は「曹大家の女戒にいへるよつのおこなひは、女のしらでかなはざるをしへなるべし」と書いている。⁽¹⁾曹大家の『女誡』に「女有四行、一日婦徳、二日婦言、三日婦容、四日婦功……此四者女人の大徳、而不可乏之者也」とあるに由来している。⁽²⁾何としても弁るべき女性の大徳が四徳であつた。また『比売鑑』でも「四行」と呼んで「周礼」に見えると書いているが、『周礼』であれ『女誡』であれ、中国古代の思想であり、遣隋・唐使によつて舶載され、我が国に伝えられたのであろう。江戸時代に入ると『女誡』は『女四書』(女孝経・女論語・内訓・女誠)に組み込まれて刊行され、その内容は女性の道徳目標の主流的存在として、いろいろな解釈が加えられ、多くの女訓書に流用されていった。

四徳、或いは四行というのは「徳・言・容・功」の四つを徳目とするのが普通だが、他に『女遊学操鑑』のように「婉・婉・婉・従」を四徳といひ、『壺の石ふみ』のように「信・順・貞・婉」といったものを徳目とするものもあつた。また、四徳からはややはずれるが五徳といつて「貞・清・美・譜・胎」をあげるものもあつた。『女中道しるべ』の「娘を五もじといふ事」の項に「五もじといふはさのみひさしくもうし侍らず、保元平治の頃より大方はもうし侍るにや」というように、平安末期以来大方で云われてきたことだとしてゐる。そしてその後には「是は周礼注疏に婦人備五徳以此為貞婦とあり、即ち五徳と侍るは貞・清・美・譜・胎なり」とあるから、典拠は一つである。こうした徳目は平安期に端を発し、江戸時代に成長し、遍く普及していった。明治・大正期に入って

も、これらの徳目の多くが、女子教育の努力目標として重要な意味を持たされていたことを考えると、封建体制の中で培養された物の考え方の根強さに驚嘆する他はない。

ここでは、「徳・言・容・功」の徳目をどのように捉えていたか、次に資料をあげてみてゆきたい。

一に婦徳、徳は心に具ふる善なり。二に婦言、言は口に云ふ言葉なり。三に婦容、容は身に現す貌なり。四に婦功、功は手に執る業なり。婦徳とは必ず才智の世に勝れたるをしも云はず、ただ貞順愛敬の心を旨とす。能く身を守り人に逆はず憐広く謹深きを云ふなり。婦言とは必ず弁舌の鮮なるをしも云はず、只声低く言葉にこやかにて、数少く恭しきを云ふなり。婦容とは必ず容儀のなよびかに衣裳の華やかなるをしも云はず、只身持衣着のそこ清く、居起振舞の優にて静なるを云ふなり。婦功とは、必ず芸能人に勝れたるをしも云はず、女の事とする所衣食の外なければ、績み紡ぎ裁ち縫ふ業などは必ず手づから仕習ひ、祭礼賓客の待遇より上下旦夕の事までも皆其の術知りて常にも用意すべきなり。

(『比売鑑』述言卷之一)

※なよびか||しなやかなるさま

それ女に四つの行有 一に婦徳といふは女の心ばへなり其心いさきよく心だてたたく身行ひ人にはづる事なくして物にはぢがはしく思ひ貞心にして人をねたまず心やさしくしていかりの、しる事なく方礼法にたがはざるをいふ、二に婦言といふは女のことばなり女はことばを、からずことばをゑらひ云てさがないき事をい

はず云べき時にあたりていふばかりにてとはずかたりせずしてかしがましと人はいはれざるやうにするをいふなり、三に婦容といふは女のかたち也あざごとにはけはひしかみをゆひ時々ゆあびかみあらふ事をこたらずけがれたるあしやうははやくあらひす、ぎていさぎよくしえもんかいつくろふて立ふるまひさわがしからずぬすまひただしく万身もちをたしなむを云也、四に婦功といふは女のなすしわざ也女はつねにおりぬわさをこたらず心に入ていとなみかりそめにもたはむれわらひていたづらにあそばずいゑのうちのはからひとりつばめなどよくつとむるをいふ也

(『女文選料紙箱』女小学五章)

※つばめ||燕算用||胸算用・収支の決算のこと。

徳 徳言功容の四ツを女の四徳といふ。夫徳とハ貞順の道とて。しうとしうとめに孝行あつく。夫にしたがひて。かりにも我ま、のふるまひなく。淫乱のまよひなくして。本心明に道あるをいふ也。かゝることは誰もしりたる事とて。あさはかに心得まめやかにつとむる女は世に稀也。夫をかるしめ。姑にあらくあたり。いさかひつねにたへず。一門他人のあざけりをもかへりみず。つゝあにはりべつせらる。此ことほりをわきまへて。女は孝行あつく夫をうやまふべきなり。

言 言といふハ。つねに物こしやさしくかすすくなく。むさともいふ事なきをいふ也。いにしへより口を守ることは瓶のごとしとて。腹ふくる、ばかり。いひたき事ありとも口より出すには心一はい打とけぬをよしとす。殊更女は心あさく。かしこしとみゆれども。はなのさきばかりにて。人にさみしられ。わらはる、事

言

言ひつゝ
つひに抱てやせし
つゝすくきびき

なれたらぬいかにより口
守りては花びらも
腹くるぐりいひたす
ありともはよりおそはか
おとけねとてはけふ女
あまのあまとも
いふのさねづりね
人よさやれ
幸かた多し
おとけねとてはけふ女
あまのあまとも
いふのさねづりね
人よさやれ
幸かた多し



おほければ。とりわき口を、しみて。わざはひの出る門なりと。おそるべき事第一なり。物いふ事すくなければ。をのづから心おさまりて。ほまれをとる也。

※さみしられみさげられる。

⑦ 功とハ。糸ぬい。おうみ。わたつむぎ。すべて女のしわざをいふ也。福裕なる女ハ。是を下女はしたのいやしきわざとこゝろえてほころび一つ。ぬふすべしらぬものある也。たかきもひき、も。女ハ内をおさむるやくめなれば衣類食物よろづ。家内のわざをよくおほへ。めしつかふ人々にも。いひつくるを本意とす。此外にも下さまなるは。せたいのしかた。しまつのかんべんに。心をつくる事。まだかんようなり。

⑧ 容とハ。女のすがた。たをやかに。いやしからぬをいふ也。古き哥にも。心からこそ身はいやくになるとあれば。つねに心をしづかに。身をきれいにたしなむべし。はでなる衣服髪ゆいぶりは。遊女めきてあさましき也。たとひいやしき賤の女なりとも月花にこゝろをよせふるき哥物語をも口ずさむは。やさしきこゝろはへの。あらはるゝものなれば。ひとへにこゝろざしをたかく。心をじんじやうにもつべし。これを女の四徳といふ也。

〔女要倭小学〕女中四徳之図

以上三つの資料から「四徳」の内容として、訴えているものは何か探つてゆこう。

「婦徳」の徳というのは全体を示す言葉でもあり、幅広く、奥深く、単純に把握しにくい「女の心ばえ」というのがよくその内容を現しているように思う。心ばえは「心のおもむくところ・気だて」というほどの

意味だから、徳といっても、女の心持ち、気質の在り方を指していると考えてよいように思う。妬む心・怒る心・我俣・淫乱な心・反逆の心などを悪い心のあり方として禁じ、一方、潔よい心・憐れむ心・謹む心・人に恥じない行為・万礼法にたがわざる行為を善としてすすめた。そして、いずれにも共通し、もっとも力点の置かれた心ばえが貞順であった。貞順とは具体的にいえば、夫に従い、舅姑に孝行することであった。しかし、このようなことは誰でも知っていることだといって、いかげんに考え「まめやかにつとむる女は世に稀也」と述べられているように、これは案外、真実の叫びであったかもしれない。これに類する忠言・教戒が女訓書に頻出することからもそれが窺われる。

「婦言」は女のことば、物言いに對する注意である。「ことばを、からず」・「数少く恭しき」・「むざとものいふ事なきをいふ」等の言葉から見て、一言で言えば女は寡黙がよいという戒めであろう。女の言葉、物言いといても弁舌鮮やかなことを言っているのではない。女の心はあさはかで、賢いように見えても、鼻先ばかりで、結局、さげすまれ、笑われることの多いものである。口は禍の門と言われるのはそのためであるから、言葉をよく選び、たちの悪いことや、聞かれもしないことは言わず、人から騒々しいなどといわれないようにと教えている。後述するが、夫婦離別の理由として七つの事をあげ「七去」といつているが、その一つに多言が含まれていた。口数の多い女は離婚の理由とされた。「沈黙は金」などという格言が最近まで横行していたことを思えば頷けることである。女という文字を三つ重ねた「姦」を「かしまし」と国訓にしている。饒舌は女の特性であったのだろうか。

「婦容」は女の姿・かたち・立ち居振る舞いについての教戒である。女が毎朝、化粧・髪結いすることは礼儀であったから、化粧もせず、髪も

整えず、人前に出ることとは礼法の上から、非難された。しかし、元禄期以降になると町人文化が著しく進行し、女の化粧、髪型、衣裳といったものが派手になり、遊女達の風がもてはやされ、流行していった。そのため、時の為政者はこれらを厳しく押え込み、華美、下品にならぬように特に意を用いた。従って、この婦容も大いに論議され、姿は優雅で下品にならぬよう心がけ、湯浴み、髪洗い、衣服の汚れを落とし、身体も着衣も清潔にすることのみをすすめた。立居振舞いはさわがしからず、静かに優しくすべて身持ちを正しくするように、多の躰が課せられた。これらのことはすべて心のあり方によるのだから、身分の低い賤女でも月花に心をよせ、歌の一つもよみうたうよう心がけることが大切であるとしている。

「婦功」は女のなすしわざ、女事のすべてを指している。即ち、衣食によって代表される事柄を主とし、加えて「いえのうちのはからひとりつばめ」をもよろしく取り計らうべきだという。即ち、一家内の家計の收支に関しても取り計らうというのである。「女重宝記」では「女中しらでくるしからぬ芸」として「そろばん」、「はかり目」をあげて、女は算用は知らなくてもよいとしているのに比べると矛盾するが、身分の高下によつたのであろうか。衣食の女事については「下女はしたのいやしきわざ」と考えて、衣服が縫びても縫うこともできない女もあると嘆いているが、再び『女重宝記』は女の知らなくてもよいことの中に「りようりがた」を並べているから、上流階級の婦女子の概念としては衣に関することは別として、食或は金銭に関することは卑しいこととしていたようである。女訓書の中に食に関する記録が少ないのはそのためだろうか。衣については、績、紡、織、縫わざとして、しばしば語られているので、こちらは女事を中心だったのだろうか。

註

- (1) 成瀬維佐 一七九九(寛政十一)『唐錦』
- (2) 後漢の女流文学者班昭のこと。(A D四五一―一七)
- (3) 班昭 一八〇二(享和二)『女誠』
- (4) 中村楊齋 一七〇九(宝永六)『比売鑑』
- (5) 一八一六(文化十三)『女遊学操鑑』
- (6) 一六九八(元禄十一)『壺の石ふみ』
- (7) 一七二二(正徳二)『女中道しるべ』
- (8) 中村楊齋 一七〇九(宝永六)『比売鑑』
- (9) 一七九六(寛政八)『女文選料紙箱』
- (10) 一七七三(安永二)『女要倭小学』
- (11) 一七七三(安永二)『女要倭小学』
- (12) 苗村文伯 一六九二(元禄五)『女重宝記』

四 五常・五倫

五常は「仁・義・礼・智・信」の五つの徳目で、儒教において常に人の守るべき道とされてきた。また、五倫は人と人との間柄を正しくする五箇条の道という。即ち「父子有親」「君臣有義」「夫婦有别」「長幼(兄弟)有序」「朋友有信」の五つであった。封建体制の思想的基盤となった儒学の道徳目標であったから、陰陽道とともに古くからあらゆる条理・式目・慣習・物の考え方に大きな影響を与えてきた。ただ五常五倫の道徳律はどちらかといえば、男子の教化、訓戒として、色濃く述べられているので、女子の場合にはあまりにも堅苦しく義理の難解なところもあつてか、目だつて取り上げられ、語られているものは少ない。

五常については上杉鷹山が孫娘長姫に与えたという『女五常訓』が有名であるが、ここには『女教大全姫文庫』巻末の「仁義礼智信の五常」を取り上げたい。鷹山のものは特定の個人に与えたものであり、文体も難解である。それに比して『女教大全姫文庫』のものは極めて女性向きに

書かれ、不特定多数の女性に読まれたものと思われるためである。五倫については『比売鑑』の「序」に語られているので、これを資料とした。『比売鑑』の著者は当時の硯学である伊藤仁斎と名を連ねる一流の儒学者中村惕斎であり、前後十九巻からなり、婦道を訓誡し、烈女伝を記述したもので、多く武家の婦女子に読まれた。また『女教大全姫文庫』は文海堂主人梅林武の著になるもので『女小学教草』等の著作もある儒学につまびらかな人物の手になるものである。ともにこうした儒学に秀でた人物の著書であるために、女用の書でありながら、五常五倫の道が説かれたのであろう。

仁義礼智信の五常は人間の常なるゆへに五の常といふとかや男女ともに此道にひとつかけても人道は立べからず先仁とは我身をへりくだり心やはらかにして慈悲の心ふかきを云慈悲善根をもつて人の難儀をすくへは我身に來る災難もまぬがる、とかや物て人の本心は仁心をもつて第一とすればかりにも邪見の心をたしなみつゝ、しみたまふべしと哥に

越てゆく人をはさきにたつた山

我身はつゆになをしほるとも

義とは欲をはなれて義理をよく弁へ我身をたかぶらず人を敬ひあなどる事なく我より下さまのものとてあなどらずして義理を弁へ給ふべし殊に女は心せまきものなる故欲心におほはれて義理の道をわする、事多し慎み給ふべし我身を高ぶり勝手ばかりを心がけ欲をのみほしるまゝ、に身のひいきを専とするものは形は人間なれとも心は畜類にひとしかるべし歌に

人をめぐむ心の道にやとかうは

名をさへとむる身ともならなん

礼とは高を敬ひ賤をめぐみて作法正しく人をさきとし我をのちにするの事なり人として礼をわきまへざるは鳥獸にもおとるべし万の事身の程をはかりて奢心なくして身のかざり衣裳のしな時々の法にたがはず目に立ざるやうに守るべし殊に女子は幼き時より行規をみだらにする時は成長の後名を穢し親兄弟に辱をあたへ一生身を空しくする事はみな礼義おろそかなるゆへなり哥に

竹のやも松の心も人として

上下をしる人そひとなる

智とは物の善悪邪正を能悟り愚ならざるの事にして生れえたる所の賢智愚智のわかちありといへども至て愚なる内にも又智ありこれを異明とも神ともいふなり歌に

道しある世に生まれなばおのづから

一つをしらは十をもしらなん

信とは万事に偽りなく実有事をいふ人は此信をもつて本体とすべし故に心を神ともいふ神は正直の頭にやどり給ふとかや偽りかざる人は天理にたがひ神仏にもくしみ給ふ殊に女は心やはらかに我意を立ずして人にしたふが女の道なり下をあはれみ身持正しく偽なきやうに守るべしさりながらおのれ正しきとて人をそしりあなどるべからず歌に

小車にくさひもなくばいか、せまじ

これぞまことにたからなりけり

〔女教大全姫文庫〕仁義礼智信の五常⁽¹⁾

一には父子の親なり、おやこの身は骨肉より髪の毛の末まで、本ひ

とつを分きうけそなへたるものなれば、相親しむべき事なべての人といと異なり。子わづかに生れおつるより、父母ともに心を千々にくだき、身のいたづきを思ひわすれて、やうくはぐ、みたつれば、はじめて物をわきまふるより、又よくをしへならはして、知徳をまほにもてなす一かたならぬめぐみのすえ、あめつちと共にかぎりなかるべし。よりて子の父母につかふる事、睦れていくしむのみならずして君の如くあがめたふとび、朝夕身をつくし心をかたぶけて、よろこびをむかへたのしみをいたし、ひとへに父母の心を我が心となして、一たび足をあぐるにもさらに忘る、間なく、我が身のつひのきはまでも、わきて残せる形をそこなはず、うき名をながして自ら辱しむる事なきを、孝養の全きとはいふならし。二には君臣の義なり。君をあふぎてひとりを上にしただけば、下にたつもろくをすべてあまねくをさめ養ひたまふ。よりて君臣の間四つの枝の身にそひたるが如くに、一体の恩ふかくむすびて貴賤の礼とこしなへにかはらず、みな是れ義なり。かゝらざりせば、世の中をさをさしからずして、人民たゞすむに所なけん。三には夫婦の別なり。男女はなれ易きものなれば、わけへだちくからぬを以てその道とするなり。人おのくめをのつがひ定りあるを以て本として、又なべての男女の中もものごとくわいだめあり。女一たび夫に従へば身をふるまでこと人にふれば、すべて男女のなれちかづきて、わくかたなきふるまひは、毛おひつばさあるもの、業に異なるところなければ、人の人たる礼をたつるに、男女の間つ、しむことをそのはじめとするならし。四には長幼の序なり。人の世にうまる、自らあとさきあり、したしきはらからなべてのわかくおとなしきまで、さいたつ人はみちびき、

おくる、ものは従ひて、そのつきくをみだるべからず。ことにはらからの身は枝をつらぬるしたしみあれば、そのあひおもふ心づかひさらに又ふか、るべし。もし老いたるをうやまはず、いときなきをあはれまずして、互にあなどる心あれば、物のあらそひこれより始めて、家と、のはず国治らぬ禍も出できたることあるべし。五には朋友の信なり。友のかたらひうとくしきに似たれども、あひ共に学びつとむるわざをならはして、よきをす、めあしきをたす事いとまめやかに、事あれば相ばかりて力をたすけ財をかよはず。師弟のちなみも友のたくひなり。世の師の教ならましかば、五の道しるべも尋ねよる方なかるべし。よりて朋友の交、五の品につらなり、師徳の貴きこと君と父となすらふを、よそ人あひ交りて互にたのめたのまる、にいさ、かも信なきは之を友とは名づくべからず。故に信を以て朋友の道とはせり。これすべて五倫といふなるべし。

※いたづき心勞、ほねおり。※まほよく整つてゐるさま。

(「比売鑑」序)

「仁」というのは慈悲の心であり、人間と生まれて慈悲の心のないものは、畜類にも衰るといふ。上杉鷹山は「仁」は憐れみの心だとして「第一父母の恩をおもひて親く愛し、次に、嫁しては、舅姑をひざうし、夫に能事へ」と説いている。正に前出三従の教と同じで、「仁」の心より出たるものと考えられる。

「義」は義理のことで、女は心のせまいものである故に、欲心におぼれて、義理の道を忘れることが多いという。例えば『女式目』に「わが友に、物をたびたびもらいて、さらにうれしきものともおもはず、あまつさへその人をあしくそこなひ、たましく用をたのまる、事あれども、か

なへざる事」とあり、惣じて自分のことばかり考えて、他人のことを何とも思わぬ人は義にかなわぬものだという⁽⁹⁾。まことに具体的で理解し易い。

「礼」とは作法正しく、人をさきとし我をのちにする事である。鷹山も「礼」は「慎むとよむ字なり」として、「人なき一間の所へ入にも人のおはします如く、おとなひ慎みて入るべし、是を真の慎みと云う」と説明している。慎み深い礼儀作法が求められた。女子は幼い頃に行儀をみだらにすると、成長してから名をけがし、親や兄弟に辱をあたえ、一生身を空しくすると、幼少時の礼儀作法の躰の大切さを教えている。

「智」は物の善悪邪正を能く判断する能力と考えている。貝原益軒の『五常訓』には「知ハ心ノ明ナリ、和訓ニハサトルトヨム、是非ヲテラス心ノ光也」と述べている。更に「智ナケレバ、心ニ善アレドモ、行フベキ道ヲシラズシテ、ミダリニ行ナハバ、アヤマリテヒガ事ノミ多シ」と、智に暗ければ、人間生きてゆく上での誤りが多い。従って学んで、蒙を開く必要のあるところを説いた。ただ女は元来愚かなるものという観点に立っていたために『女教大全姫文庫』のように「至つて愚かなる内にも又智あり」として、これを異明、神ともいって、特別に位置づけ、愚かなることにはめげない戒めとしたようにも思われる。

「信」は諸説共に「まこと」をつくすことと考えている。「たとへばけふ人に物をやくそくし、明日ちがふやうの事ども」⁽¹⁰⁾は誠をつくしたとは云いがたい。偽らないことが、誠の心であり「信」である。「正直の頭に神やどる」といつているが、「信」は人の魂のようなもので、これなくしては五常のすべての道がたちゆかないというほど大切なものである。鷹山は「虚を云ふべからず、約束を交することなかれ、弁舌を以て人を欺き、知らざる事を知り顔し、なき者をあり顔する類ひ、皆信なき輩のな

す業なり」と、孫娘を諭しているが、今の世にも通ずる教訓のような気がする。

「五倫」というのはいろいろな人間と人間の間柄をどのように考えるかを明らかにしたものである。

「父子有親」の父子というのは、親と子の間のこと、室鳩巢も「父をいへば母もその内にありと知るべし」といつているから、親と子の間の倫理観と考えてよいだろう。親は子に対して、慈愛と恵を、そして子は親に対して孝養を尽くすことが不易の法であると定めている。親の恩愛と、子の孝養が「有親」という言葉で表現されている。「もろこしにもわがてふにも、此みちをかんじんとする事なり」と、当時の世界共通の人倫の大本、倫理観としてしばしば語りつがれた。

君臣の道については、主従・上下の関係であるため、主をもたない女性に適應する場面はほとんどなかった。そこで、これを夫婦におきかえて説き明かしているものが多い。『大和女訓』では「婦は夫の譜代の臣なり」といい、夫婦間を君臣・主従の関係として義を説き、従順を教えた。⁽¹²⁾ また、夫婦の間は「たがいによくしたしみあいて礼儀をただしうすべし」と『女式目』には述べているが、即ち「有別」というのは礼をもつて別ちありと考えたからである。夫婦というのは「めをのつがひ」であり、男と女の間であるから、とかく慣れ易いものである。しかし、男女の間には「わいだめあり」、即ち差別・けじめがあるというのである。所謂俗説にいう「親しき仲にも礼儀あり」というのは夫婦の場合も同じで、礼をもって一定のけじめ、別を考えたのである。

次に長幼の序であるが、これは本来「兄弟有序」というのを長幼におきかえたのだろう。兄弟では女性向きではないし、年齢の差をもって身分差としようとするれば長幼が一般的であったろう。人間関係を上下関係

で律しようとする封建体制下の考え方としては、身分の上下を一目にして弁別することができない場合は、年齢の差をもって格付けし、順序を立てるのが最も適切であった。そして序列が判然とすれば、『比売鑑』に説くように、先立つ人が導き、遅れるものは従うことによって、一つの社会秩序が維持されようとしたのである。この慣習は現代社会にまで脈々と受け継がれ、先輩、後輩という言葉で、暗黙のうちに社会秩序を維持しようとする傾向が窺える。

最後の朋友の信は五常でいう「信」と同義で、ただ『比売鑑』に云うように「交わりて互にたのめたのまる、にいさ、かも信なきは之を友とは名づくべからず」即ち、友人は信義の上に成り立つというのである。当時の女性にとって、友人関係がどのくらいあったのか、女性は家の中におかれ、外での活動の場はほとんどなかったから、どんな時に女性の友人関係が生じたのか考え至らないところである。ただ、甘言をもって近づく人が多い中に、「信」をもって友を選ぶ基準としたのは賢明なことと云えよう。

『女式目』は最後に「此五倫と、まへの五じゃうは万物の両眼のごとくにて、此内に万の事こもるとかや申せば、人としてこの道をよく守るべき事なり」と結んでいる。しかし、「五常」にしても「五倫」にしてもやや難解なところが多く、元来男性向に用意された道德律であったため、女性向につくり直されても、『女大学』や『女今川』ほどには人々に膾炙されなかった。

註

- (1) 梅村武一七七六(安永五)『女教大全姫文庫』
- (2) 中村惕齋一七〇九(宝永六)『比売鑑』
- (3) 一七五四(宝暦四)『貞節教訓女式目』上巻 『日本教育文庫』女訓篇
- (4) 上杉鷹山 一八一四(文化十二)『女五常訓』『日本教育文庫』女訓篇

- (5) 『貞節教訓女式目』
- (6) 『女五常訓』
- (7) 貝原益軒 一七一二(宝永八)『五常訓』『日本教育文庫』訓戒篇上
- (8) 『貞節教訓女式目』
- (9) 『女五常訓』
- (10) 室鳩巢 一七一八(享保三)『五倫名義』『日本教育文庫』訓戒篇上
- (11) 『貞節教訓女式目』
- (12) 井沢長秀 一七二〇(享保五)『大和女訓』
- (13) (14) 『貞節教訓女式目』

五 孝行

孝は百行の源であり、不孝は五刑の極と考え、善は孝行に過ぎたるものはなく、悪は不孝より重いものはないと、言をきわめて孝行の大切さを位置づけていた。女性の場合、孝行には生みの親である父母に対するものと、嫁入した後、夫の両親である舅姑に対するものとの二通りがあった。どちらに比重がおかれたかは一概に云い難いが、「女は父母の家を家とせず、出て夫の家を我家住とする」と云うように、嫁入したならば再び生家には帰らないという結婚の心構え、慣習であったから、舅姑に対する孝行が重視され、強調された。また、舅姑とは義理の仲であるだけにむずかしい問題が生起し易かったので、殊更、孝行の道を教えておく必要があったのであろう。更に云えば、舅姑への孝養の尽くし方によつては、女性の最も恥辱ともされてきた離縁となることにもつながっていたことを思えば、孝行の強調は当然の教えとなったことが理解される。一方、生みの親への孝行は、報恩の情から生まれるものとして、親の恩の深きことを説いて、孝行の善を進めようとした。

ち、のおんのふかきことは。しゆみせんにたとへ。は、のをんのふかき事をこかにたとへたり。しゆみせんといふ山は。たかさ八まんゆじゆん也。一ゆじゆんといふは。つねのみち四十里也。四十里を八まんまでかさねて。たかさにとへたること。はるかにたかきをや。こかいといふは。ひろくふかきうみ也。しゆみせんは。たかけれ共。八まんのかずにかきる。こかいは。そのふかきもかぎりしらず。これにたとへたり。は、のをん也。

〔女訓抄〕上 第二 五しやう三じゆうの事⁽³⁾

ち、は、の恩は海とも山ともたとへんかたなくひと、なりし事おもへば今さらいふもさらなり子をもつて親のおんを知るといふもあまり恩のことなりいとけなきときよりよく父母へつかへ心になふやうにつ、しむべしわか身にきづをつけぬを孝のはじめといひ身を立おやの名をもあぐるを孝の終といふとなり

〔百人一首都大全〕父母につかゆる事⁽⁴⁾

父母の恩の高く深いことを教えているが、特に母の恩を湖海にたとえ、須弥山にたとえた限りある(四十里の八万倍)父の恩の高さに比して、その深さ限り知らずと敢えて数値をあげていない。稚拙な表現だが、母の恩の偉大さを伝えるに充分であり、事実、父と母の子へのかかわり方を比べれば、母に比重が重かつたのは当然であつたらう。子を持つてようやく親の恩を知るようでは愚かなことであるから、幼い頃より孝養を励むべきことを教えている。『百人一首都大全』の末尾の一節は「身体髪膚受之父母不敢毀傷孝之始也」と云『孝経』の一説によつたものだろうが、昭和の御代まで語り伝えられた孝行の真髓であつた。

おさなきときはもの、すべをしらざるゆへにち、は、へそむきてもあしきにもあらず。をんなの子は十二三。十五六。人によりてははたちまでもよめ入をもせずうちあらばたゞかうくをせんにすべし。なに事につけても。ち、は、のおほせをそむくべからず。おとこの子はのちまでもつきそひやしなひたてまつればゆくすゑはるくゝの事なり。をんなはほとなく人のいゑにゆき侍ればすこしのまを一しほかうくをかんとせらるべし。かうくなる子はたつとしといやしきとなくてんたうふつじんの御めぐみふかし。なに事につけてもしあはせよきものなり。てんどうぶつじんの御めぐみふかきものはかならずしそんはんしやうにしてとしよりも子どもにか、りよをこ、ろやすくわたるはしめなり。たゞ人にはなさけあれなさは人のためならずとむかしの人のいひをけることは。けにもとしられ侍る。かうくのことをしるせるもの、ほん世におほしこれをたつねてよきうへにもよきやうにすべし。

〔女鏡秘伝書〕上 ち、は、へかうく⁽⁵⁾の事

男の子は終生父母とくらすので、永くいつまでも孝行出来るが、女の子はまもなく嫁入して、夫の家に行くので、その少しの間に充分孝行することが肝心である。当時は十五・六歳で嫁入することが普通であつたから、物心ついてから嫁入までの間、父母に孝養をつくす時間は極めて少なかつたと思われる。従つてその間孝行を「専」とし「肝」とさせる必要があつた。そして親孝行したものは天道仏神の恩恵深く、子孫が繁昌し、年寄つても子供が大切にしてくれて、安心してこの世を送ることが出来る、そのありがたさを教え、孝行を奨励した。

さて、舅姑に対してはどうであつたらうか、次に見よう。

女は親の家をつかずしうとの家をつくものなれはしうとをわが親よりかうくすへしよめとしうとは中のよからぬものといへ其心をつくしてつかゆれはよくくのあく人はまれなるものなりもとより他人なれば心のあはぬ事のみおほかるへきはづの事也他人のつきあひに第一物ことこらへねはなかくよりそはれぬもの也是かんやうの事なり扱しうとのあしきを親さとへかたるへからず親は娘のいとをしさになさけなくもあしらはる、かと心もとなく思ふものなるにしうとのしかたのあしきと聞てはこと葉には出さず心にこめてきのとくに思ひくらす程にいつとかなくむこ共間からあしくなるもの也

(女要倭小学)

舅姑しうととらにつかふる事我親わがぢやよりも大切にうやまひ孝行かうかうをつくすべし万の事しうとしうとめに問て其教そのおしへにまかすべしもししうと姑憎み給ふとも怒り恨ることなかれ孝をつくして誠を以てつかゆれば後はかならず中よくなるもの也我親の家をつがずして他の家を継故に嫁しては我親の家わがぢやにゆくも稀なるべしまた我おや郷のよきことをほこりてほめかたるべからず

(百人一首都大全「舅姑につかゆる事」)

十か九つしうとめとは中あしくなる物なりこれをわすれずゆたんなくまことのおやよりあひくしくかげにてもあしくのたまはずほめたまふべし。ことにしうとめの内のをんなどもへいかにもねんころにあるへし。とのしうとはたとひあしくとても

中あしくなる事はなしされともよくかうくをかんせせらるべし。

(女鏡秘伝書「中しうとめにかうく」の事)

この三つの資料に共通することは、先ず、舅姑に対しては自分の親以上に大切に敬い、孝行を尽くさねばならないとしている点、第二は姑とは十中八九、仲が悪くなることを前提としている点である。今日も問題とされる嫁と姑との関係である。要するにこの三資料は生みの父母以外の義父母、即ち舅姑への対応について述べたものである。どんな事に留意したらよいのだろうか。姑は他人なのだから、他人との付合には忍耐することが出来なければ、長く寄り添うことは出来ないという考えを持つべきである。その上で、万事につき相談し、教えを乞い、憎まれても怒ったり、恨んだりせず、陰口をきかず、誠をもつてつかえれば必ず仲よく出来るものだと教えている。また、舅姑の悪口を生みの親に語るな、或は、自分の里親の自慢を語るなども云っている。これは核家族化された現代の家庭内においても注意すべきことで、不和の原因となることが多いのではないだろうか。「とのしうとはたとひあしくても中あしくなる事はなし」と述べているように、姑に比して舅との間にはさしたる問題がなかったのか、これについて細々ふれているものは少ない。極めてあつさり孝養の肝なることを教えているだけである。今日でも義父より義母、姑の方に多くの問題を内包しているように思われ、時代のいかに問わず人と人の心理、情感、在り様はさほど変りない感がある。孝行を奨励するために孝子伝・孝女伝が多く書かれた。女訓書のなかにも沢山取り上げられているが、舅に対する嫁の話として、『比売鑑』に三田村の百姓久兵衛という人の妻の逸話が出てくるので、次に紹介しよう。

近き頃、備中国窪屋郡三田村の民久兵衛という者の妻に孝婦あり。久兵衛の父極めて頑固し。よめをつかひて聊か心に叶はざれば打ち呵責む。然れども嫁は恨むる心もなく、深くその罪を受けて逆はず、孝養怠れる事なし。舅八十に及びて脚弱くなれるを、夜日となくその立居を助けけり。ある夜嫁疲れ臥して舅の起き出づるを知らず、舅怒りて嫁が物呑く臼の中に尿す。嫁目覚めて之を知れどもつゆ色に現はさず、甚く我が寝汚かりしを悔い悲み、舅の心解くるを窺ひて、密に小白を浄めけり。万柔ぎ従へるさま、皆かくの如し。依りて、斯ばかり辛き舅なりけれども、終には嫁が志に賞で過来し僻々しさを悔い慨けり。

〔比売鑑〕紀行卷之五

かくもひどい仕打をする舅であつても、逆らわず、恨むことなく孝養をつくせば、やがて心も解けて、安らぎを得ることが出来るという例であり、後段この嫁は舅の申立てで、嫁の孝行が認められ、禄をたまわり、賞されたと語られている。またその末尾に「僅かに舅姑に叱られるれば泣き甘へて男に告げ、或は己が親のもとへ行きて、我に咎なく舅姑の悪き様へのみ口に任せて言ひ罵る多かり」と述べて、「深く恥づべき所なり」と結んでいる。久兵衛の妻の話は、あまりにも極端な例話のように思われるが、末尾に述べられた箇所は、今日でも多く耳にするところである。次に実父に対する孝行について、橘逸勢の娘の話が『孝女か、美』の中に出てくるので孝女説話として紹介する。

橘妙仲

妙仲は橘逸勢のむすめ也逸勢罪有て伊豆の国へ流さるむすめいまた幼くして父の別れを悲しみ後をしたひ行けるをけいこの武士しかり留ければひるは留る躰にて夜々終に追付り時に逸勢遠江の国に着て病死しけりむすめ死骸はふむり我身は尼と也名を妙仲と改め墓のかたわらに庵して嘆居ける此よし内裏にきこへ逸勢に正五位下を贈給ひ棺を都にうつさせ給ふとなり

〔百人一首都大全〕孝女か、美

この話の橘妙仲は本朝廿四孝の一人であり、筆者が管見した列女伝・女訓書四十種の中十種に所載されていたものである。幼い娘が流刑の父を慕つて他国へ旅し、途中で倒れて死んだ父の菩提を弔つて、出家し、墓側にあつて供養したという話は、到底誰にでもでき得る孝行ではなく、後世に語り継ぎ、範とさせたかつた事柄であつた。しかもその孝心に賞で、父逸勢は位階をもらい、棺は都に帰ることが出来たとすれば、孝のいかに重く、価値あるものであつたかがよく認識される事実であつたろう。従つて、多くの女訓書に引用され、世に喧伝されたのである。このように、一つの教訓をよく理解させ、教え込むためにこうした伝記類を教材にすることが女訓書の中には多く見られる。教育の効果をより増大させるための方法としては有効な手段であつた。

註

- (1) 一七〇九 (宝永六) 『比売鑑』述言第二
- (2) 一七七三 (安永二) 『女要倭小学』婚姻の和訓
- (3) 一六四二 (寛永十九) 『女訓抄』上第二
- (4) 高田政度 一七八五 (天明五) 『百人一首都大全』
- (5) 一六七八 (延宝六) 『女鏡秘伝書』
- (6) 一七七三 (安永二) 『女要倭小学』
- (7) 一七八五 (天明五) 『百人一首都大全』

- 〔8〕一六七八（延宝六）『女鏡秘伝書』
 〔9〕一七〇九（宝永六）『比売鑑』紀行卷五
 〔10〕一七八五（天明五）『百人一首都大全』孝女か、美

六 夫婦

「夫婦は五倫の本なり夫婦ありて後親子あり親子有て後君臣あり君臣有て長幼朋友もあり故に夫婦は人倫の源にして至て大切なり水上濁れば下おのづから濁れるごとく本を正しくせずして末を治んとすること愚なり」と、人と人との在り方を五倫に見てきたが、ここに述べられているように、夫婦の道がすべての基であり、父子、兄弟、朋友、君臣の間柄も夫婦の在り方から発すると考えている。水上の水が濁れば、下の水も濁る道理で、水上の水は夫婦の道であり、その関係が正しくなければ他の人倫の道を正すことは出来ない、その重要性を強調している。ではその関係がどのように考えられていたのかを次に見てゆこう。

それ夫婦の道は天地陰陽の道理になぞらへて子孫を相続するものとひなれは聖人のをしへにもふう婦の道を五倫の一つとしていたつておもんじ給ふ天にあつては男は日にして昼をつかさどり女は月にして夜をつかさどる地にあつては男は火にたとへてさはがしく女は水にたとへてしづかなる物なれば男はつよきをたつとみ女はやはらかなるをよしとす此ゆへに昔よりのことわざにも男はを、かみのごとくなれ女はねずみのごとくなれ女はたゞとらの如くならん事をおそる、といへりしからば女はねづみのごとく物をおそれてとらのごとくたけくつよきをきらひ侍るもの也されば女の心

がけにはつねづつ、しみの心もちて夫のたけくつよき心になひしたがふやうにすべしつ、しむといふはつねづ誠の心をもつて物事を大事に思ふ事うすき氷をふむがごとく時のまもおこたる心なき事也したがふといふは物やはらかなる心もちて夫にへりくだりしたがふ事也此二つの道は女の定れる礼儀なれば此とこそなはりたる人はふう婦の争をのづからやはらぎ行すへ長くつれそひ侍るへし一たび人のつまとなりては一生夫につきそふ物なればのち／＼夫になれすぎ心やすくおもふ心いできていふまじきことばをもいひわがま、なるふるまひ有ていつとなく夫をあなどる事あるもの也これひとへにつ、しみのなきゆへにかくあさましきをこなひ有て夫に見かざられ身をもうしなひ侍る也物じてをつとのいふ事なす事によしあしをいひあらそひ夫のいかりをおこさしむべからずあらそふ心はへりくだりしたがふ心なきよりおこりてかならず夫婦の中もうとく成ものなりふうふは礼儀をもつてしたしみおんあひをもつてまじはるものなるにたがひにあだかたきのごとく色にあらはしいかりあらそはばこれよりふう婦のしたしみもうとくなりて離別のもとひとなる物也をそれつ、しむべき事ならずや

（『女文選料紙箱』夫婦連添道之事）

夫ふう婦の道は天地いんやうになぞらへたる物にてしんりんの始也さればおつとは天のめぐりうごきてやまざるがごとくよろづのおこなひ多き物也女は地のしづかにして天にしたがふごとくにしてわが一つの心ざしをたゞしく守りてをつとにつかふまつる物也かくのごとくをつとは責きものなれば子孫さうぞくの為に二たび妻をめとるだうりあれ共女はをつとにさられあるひはをつとにお

くれても一期のあいだ二たびよめいりするはなし

(『女庭訓御所文庫』女信の道を守る事)

夫・男は天であり、日(太陽)であり、昼であり、火である。従つて騒がしく、強く、狼のようである。これに対して妻・女は地であり、月であり、夜であり、水である。即ち、静かで、柔らかなもので、鼠のごときのものであると、夫婦・男女の性格を印象づけ、従つて、妻は夫に対して慎み、従うべき関係であると極め付けている。「慎」と「従」は女の定まつた礼儀であるとも云い、こうした関係が保たれなければ、夫婦の仲は疎くなり、お互いが怒り争い、やがては離別へと向うことになる警告している。

夫は貴く、子孫相続のためだから、再び妻をめとることが出来る。しかし妻は一生の間に再び嫁入することは出来ない。女の道を説いてはふれず、一方的に妻がどのように夫に接してゆくかが問われ、男性優位の立場で勝手気ままと思えるような倫理観が構築されている。世の中が男性中心の社会であり、男性の立場や地位を堅持してゆくために、男性の手によって書かれた女訓の書であったがためだろう。つぎに『大和女訓』は妻の夫への接し方、妻の在り方を箇条書に示している。見てゆこう。

一、俗語に婦は夫の譜代の臣なりといへり。理にあたり。婦人は夫君を主君とおもひ。うやまひて対するにやはらぎしたがひ謙るべし。愛せらるゝとも。それになれてかるしむべからず。夫ものをいふときは。起て居るとも坐りてきくべし。いかにいそがは

しくとも。たちながらこたふべからず。聞ば其ことをそむかず。則時になすべしおぼつかなきことをば。くはしく尋ねて。教にまかすべし。たとひしげくよふとも。うみたるいろ有べからず。手に物を持ちたりとも。さしおきて。まつゆくべしおそなはるべからず。

一、夫につかふるに。おこたりあるべからず。夫外へ出ば。いくたりの婢女ありとも。かれにゆたぬべからず。みづから衣服を出して着せ刀脇ざし扇までもそろえてあたゆべし。帰るときは出むかひて。刀脇ざし扇とりおさめ。衣服をたゝむべし。

一、夫の他出せるあとに客来らば。常に奥まで通れる人なりとも。夫他出せるよしをいひ出して。対面なすべからず。

一、夫飲食のときは。みづから給仕すべし。膳を目の上にさゝげてもちゆき。ひざまづきて。すす置べし。立ながらすすえる事なかれ。婢女にも命じて。手にもちたる物を。たちながら出さぬやうにすべし。

一、夜は夫よりおそくね。朝は夫よりはやく起髪ゆひ衣をきかゆべし。婦の夫の前に出るは。臣の君の前に候するがごとし。しかれども常の事なればあたらしき衣服をこゝろにまかせかたし。あらひすゝぎて。あかつかぬやうにすべし。すべて度々身をきよめ。髪けつりよそほひし。身もちきれいにすべし。これ夫をうやまふの礼儀なり。

一、夫もし腹をたていからば。まづ是非をたゞさず。やはらかにこたえて。さからふべからず。後にいかりのとけたらん時をまちて。其時の事はかやう／＼なりと。つげさとすべし。

一、かく和順にして。夫命にたがはざる道理なれども。夫もし妻

が不義あるやうにうたがふこゝろみへば。あきらかに弁じて。疑を散せしむべし。

〔大和女訓 上巻〕

冒頭、「婦は夫の譜代の臣なり」と述べている。夫婦を君臣の関係におき、夫は主君で妻は臣下であるという。身分の上下関係を極めて判然とし、封建体制の君臣・主従関係の厳しい在り方を利用して、両者間の立場を固定した。これは「理にあたれり」即ち理屈に合っているというが、理屈も何もあつたものではない。男性の身勝手な言い分という他はない。だが、すべての考え方はここから出発しているので、夫に対する起居振舞、見送り出迎え、給仕の仕方まで細々と取りあげて、恐る恐る、敬つて仕えることを教えている。「夫の前に出るは臣の君の前に候するがごとし」の一節が、それをよく表現している。ただ、妻の不義即ち、不倫については慎重且つ強硬である。夫の他出中は、よく知っている客でも逢つてはならないと戒めている。誰もいないところで男女が逢うことが、思いがけない不義に発展することを警戒したためである。「大和女訓」中巻に「夫姑内に居すして。舅のみ居は兩人むかひ座すべからず。かならず側に婢女を置べし。瓜田に履をいれず。李下に冠をたださずといふごとく。心をつけて嫌疑を避べし。」という一条もある。夫の父に対してすら二人だけで居るときは疑われないように、そばに婢女を置いておけというのである。不義密通への慎重な姿勢が窺える。一方、夫が妻に不義の疑いを抱くようなことのあつたときは、「弁じて疑を散せしむべし」と教えている。その前の項で、夫が腹を立て、怒つたときは「さからふべからず」と教えたのに比べ、不義の疑いには強硬に抗弁するべきだとしている。「不義は御家の御法度」という鉄則からいえば、離別の要因となる事柄だつたからであらう。

妻は常に忍従の中におかれ、夫の無理難題にもやさしく応えたように思われるが、次の二条はそうばかりともいえぬ。

一、夫いかに情なく無道のふるまひありとも恨いきどほりて。道にたがふことあるべからず。おのれをただして。こころのおよばんかぎりは。をしへみちびくべし。

一、夫博奕大酒等をなさば。いふにや及べる淫行の事ありとも。よくいさむべし。

〔大和女訓 中巻〕

夫に無道の振舞いがあつたときは恨んではいけないが、心をこめて教え導くべきだし、夫が博奕・大酒・淫行のあつたときもよくよく諫めるべきであるという。妻はつねに黙して、事態に逆らわず、夫の云うなりになつていのがよかつたかという、不義の疑いをかけられたときと同様に、教え、諫め、抗弁する場面も容認されていたというか、教えられていた。家来が主君に対して、諫言、抗弁するときは、恐らく切腹を覚悟したことだろうから、夫婦の場合も、気軽にできることではなく、相当の覚悟をもつて行なつたのだろう。

いづれにしても、『大和女訓』を中心に妻の立場・役割・在るべき姿を垣間見るに、苦勞の多い、報われない役どころであつたように思われる。しかし、『女たしなみ草』に太閤（豊臣秀吉）の言葉として「けんふはおつとをしてたつとからしめ、あくふはおつとをしてやぶれしむ、家に賢妻あれば夫よこしまなるわざはひにあはず」とあり、誰の言葉かは別として、真実に近い表現であり、賢妻・賢婦の質は時代によつて変つてはいるが、現代社会においても、妻の評価はこれとあまり変らないのではないだろうか。

武家社会の中での夫婦道において、妻の守るべき唯一最高の道徳は「貞節」であった。「古語に。士有百行女有一徳とあり一徳は貞節なり」とひ衣通小町が色ありて、清少紫式が才ありとも、穢行醜声あらば鶏犬に異ならず」と述べられているように、衣通姫、小野小町、のような色香があり、清少納言、紫式部のような才能があつても、貞節なきものは禽獣と異ならずというので、夫に対して貞節をつくした妻は貞女、節婦として賞賛され、多くの女性達がそれ等を範としたし、また手本とするよう教えられた。貞女、節婦の伝記は極めて多く、女訓書三十四種に登場する約四五三名中、貞女と呼ぶにふさわしい人物は一五五名に及んでいる。いかに貞節が鼓吹されたか、またこの時代が貞女を求めていたか推察するに難くない。その貞女の中で最も頻出回数が多かつた（三十四種の女訓書中十七回とりあげられた）のが袈裟御前という人物である。袈裟御前は源渡の妻であつたが、従弟の遠藤盛遠（後の文覚上人）から横恋慕され、一命を賭して貞節を守り通した人物である。ここに「壺の石ふみ」に取り挙げられた袈裟御前の物語を少し長いが原文のまま紹介する。

袈裟御前と聞えしは源の渡が妻なりとかや、かたちいとうつくしく良々敷かりけるを、いとこに遠藤武者盛遠といひし人は文覚上人の事とかや、いまだわかく俗なりしとき袈裟御前を恋したひ、錦木の千束にあまる玉章にをよべども、女なびくけしきもなかりしを盛遠たえかねて、袈裟御前の母はわが為におばなるをかたらひていふやう、袈裟御前をおもひてこ、に文をつかはせどもなびかず、おなじくはむすめに浅からぬおもひをのたまひて、なびけ給ひてんやといへば、姨はことの外におどろき、けしからぬ御心か

な、いまわが家に居て深き寢屋の人しらぬならばこそあらめ、などさほどにおもひ給はゞ、人にゆるさざる前にの給はぬぞ、さてこそその妹にもゆるさめ、今はいやくも渡が妻になりたれば、千代をかねたる夫をすて、そなたになどなびかむや、此恋はおもひとまり給へといへば、盛遠もとより不道人にて、はなはだいかり刀を抜て姨の胸にをしあて、此事をかへ給はぬならば、今害したてまつるなり、いかに——と罵れば、おば是に驚きかくばかり思ひとり給はゞ、いひてぞ見めといへば、其時盛遠色をなをし、しからばたのみたてまつるとてかへりても、ひたづらつたへてや給はりしと日毎にせむれば、娘の母もせんかたなく、ひそかに女をよびて、かう——の事はんべるをばいかゞし給ふ、なびき給はゞ母をもたすけ孝行なる人なるべし、又母をもすて、なびき給ふすとも、われ盛遠に害せらるべければ、今自害して死なんと、おどろ——しくいへば、女はともかうもいはむかたなくこたへをもせでいたりしが、や、ありておもひめくらし、さだめければ母の御命あやうきを見て、など貞女の道にそむけばとて見すて奉らん、さらば仰にまかせ侍らんといへば、母こと外によるこび、甥にかくといへば盛遠よろこび袈裟御前の方へいつしのびはべらんと、文をかきてやれば、女返事にいふやう、とかくは夫の渡を打給はでは逢事はかなふまじけれ、うち給てのちこそは心やすくながくそひ奉らめ、幸こよひ酒をす、めて酔ふさせめ、たゞし髪あらふへければ、手さぐりのぬれたるをしるしにうち給へと、やくそくしていつよりもなつかしう夫にかたらひ、酒をす、めはやく寝せ、ね入たるをまちて我着たる小袖を夫の渡に着せかつらまくらにかけて、われは男の装束を着、たけにあまる髪をすん

どきりて、わざと湯にしめしぬらし、火うちけして寝たりけり、盛遠は時分よしとおもひしのび入てさぐり見れば、髪の大ぶさぬれたり、これぞ相図とよろこび太刀ぬき首打おとし、よろこびてこそ出にけれ、渡太刀音におどろき狼籍あり、あや人はなきか、それあますなとて、太刀をつとりいづれば、侍どももおとらずつきたり、盛遠ははるかににげのびあかき所にてよく見れば、渡の首にはあらでこはいかに、女をうちたり、あさましくおもひ、ことに今は悪をひるがへし、女の道をたてたるにかんじて、それより引返し、渡が前にいで、北方をば我うちたり、かうくの子細にて悪心をおもひたつといへども貞列の道をたて、貴殿の命にかはれり、われ婦人にだにおとれり、今悔るにかひなし、さこそ口惜く思ひ給はん、今貴殿に敵する心なし、我首を打て鬱忿をさんじ給へと首をさしのべていへば、渡聞て尤至極せり、妻のかたきなればうつべき事必然といへともかく降参する人をうつべきやうなし、其前は悪人、今は善心いかでか打べき、しかりといへども我うたでも今義士は自害し給はん事必せり、おなじくは自殺をおもひとまり、衣を墨にそめてなき跡をもろとも問給へかすと、いひて盛遠の一命をたすけもろともに出家したりとかや

〔壺の石ふみ〕貞女列女判上 鳥羽恋慕物語

※良々敷 行とどいて、こまやかであること。

※錦木 五色に彩った二〇センチばかりの木片。男が女に逢おうとする場合に、

女の家門に立てて、女が応ずる心があれば、それをとり、心なければ、男がさらに加え立て、千束を限りとするという。

※ずんどきり (寸胴切) しまつすく切ること。

※あや人 怪しい人の意。

読み終つて何ともやるせない思いがすると共に、何とも現実ばなれのした「貞節」のもつ心意が窺えるのだが、袈裟御前としては、母の言葉にさからえば、母の身を死の危険に押しやる不孝となり、許諾すれば夫渡への不義となる。その間にあつて自らの死を選び、所謂貞節を貫いたのである。当時の評としては「此かた是を貞女といわざれば貞のあぐべきなし」という程であつたし、『唐錦』の著者成瀬維佐子も「おぼえずなみだおつる、貞女のをつとをおもふはかくこそあるべけれ、やさしき心ばへなり」と贅辞をおくっている。女訓書に多く取り挙げられ、人口に膾炙されたのも当然であつた。

註

- (1) 一八一六 (文化十三) 『女遊学探鑑』 婦人身持鑑
- (2) 一七九六 (寛政八) 『女文選料紙箱』 夫婦連添道之事
- (3) 一七六七 (明和四) 『女庭訓御所文庫』 女信の道を守る事
- (4) 伊沢長秀一七二〇 (享保五) 『大和女訓』 上巻
- (5) 伊沢長秀一七二〇 (享保五) 『大和女訓』 中巻
- (7) 一七六三 (宝暦十三) 『女今川姫鏡』 女たしなみ草
- (8) 伊沢長秀一七二〇 (享保五) 『大和女訓』 上巻
- (9) 一六九八 (元禄十二) 『壺の石ふみ』 貞女列女判上
- (10) 成瀬維佐一七九九 (寛政十二) 『唐錦』

七 七去

夫が妻を離別するとき「三下り半」の簡単な離縁状を書き渡し、一方的に妻を離縁することが出来た。次に示したものが離縁状の例である。

離別一札之事

其方義手前存寄有之候ニ付

離別致遣候間以来何方江縁付候共
毛頭構無御座候仍一札如件

吉田村

初五郎 (爪印)

弘化三年

午三月日

よし殿⁽¹⁾

初五郎から よし に与えた離縁状だが、理由は記載されず、ただ「存
寄有之候」とのみ書いている。多くの離縁状には離別の理由が明確に書
かれていないものが多い⁽²⁾。恐らく離縁状は一種の形式であり、また、妻
にどんな事由があったにせよ書かないのが慣例だったのではないだろう
か。しかし、一旦夫婦の縁を結んだものが別れるとなれば、犬猫と違っ
てそれなりの心の葛藤もあったし、理由もなければならなかつたと思っ
確かにその理由は複雑でもあつたらうし、千差万別であつたから、一概
に表現しにくく「勝手二付」とか「不相応二付」として文書をつくつた
のだろうが、その根拠、基準となつたような理由は考えられていた。即
ち、それが「七去」といわれるものである。七箇条の条目からなり、そ
の事由に抵触するときは離縁されても仕方がないというのである。逆を
いえば、その七箇条に該当しないことが、嫁の生活の知恵であり、更に
いえば、その七箇条に相当しない女性となること、当時の社会の或は
男性の理想であり期待であつたということも出来る。女性に求められた
「四徳」と共に、当時の理想の女性像を形成する要因と考えることも出来
る。次に百年の間隔を置いて書かれた二つの「七去」を紹介しよう。

めをさるに七つ。さらざるに三つといふこと有。その七つといふ

は。一には子をむまざるめ。二にはあんしつとて。たわしきめ。
三にはせうとにつかはれぬめ。四にはくぜつとて。人といさかひ
がましきめ。五にはたうぜつとて。ぬすみがましきめ。六にはし
つとて。物ねたみするめ。七にはあくしつとて。わるきやまひ
するめ也。

めをさるざるに。三つといふことは。一にはわうちとて。おとこ
のち、は、し、たるいみのうちに。つかわれたるめをさらず。二
にはしゆひんこうふとて。むかへたるるとき。ひんにして。のちに
いみしくなりたるめ。三にはうしよし。むしよきとて。めのち、
は、の。いきたるとき。むかへつるが。ふもし、てのちは。かへ
すべきところなきあひだ。さらずといふ也。

〔女訓抄〕上卷 卅 さらる女に七つさらざる女に三つの事⁽³⁾

婦人七去の事

聖人の教にも女子は男子とかはりて去る、次第七つ有。

第一嬢にしたがはざればさらる、なり嬢を大切に敬ひ孝行をつく
し。朝夕の給仕をみづからつとめ。愛しむべし。若憎み誹り給ふ
事ありとも。必々恨の色めを出さず。慎しみつかへなば。何かは
天道是を捨て給はんや。終には嬢の御心もとけ。隔なくまことの
子のごとく思ひ給ふものなれば。さらる、事有まじき也。
第二子を産ざる女は去なり。妻を娶事は。子孫をつたへて家相続
せんため也。しかれば子なき時はさらる、なり。しかれども実子
ありても不孝なるか。又はあしき病などありて。家を継べき器量
なければ。親類又は他氏より養子をして。相続成べき事なれば是
には夫の心得有べき事也。子なきとてさらる、は。さりとは口惜

き事也。つねに身持を大事にして。やまひのなきやうに保養第一なるべし。

第三淫乱なる女はさらるゝなり。是第一女子のたしなみ慎むべき事也。淫欲にふけりて身をけがし夫の名をくだし。父母に恥をあ

たへ。子にうけみをみせ。家のみだるはこれ也。第四悋気深ければさらるゝなり。悋気妬の心あればおのづから夫をうたがひ恨みあなどる心有ゆへ。いつとなく内を修勤べき事もおこたり。惣ごとそうづしくなれば。夫の心も疎々敷なりて終に去るゝもの也。

第五あしき病あればさらるゝなり。癩病或は伝戸などとして悪病あれば永く子孫へつたへ家督相続成がたきゆへなり。然れば病の事は家人好て煩ふものにあらず。又初迎へし時無病にて年月を経。病人と成たるはさらざる事夫の法也。病の事は人々好みて煩ふ事あらざれども。又常々養生あしく。身持放埒にて諸々の病発るものなれば。平生心懸灸治をすべし。医療を尽て人の力のおよぶ程はずいぶん保養し。叶はざる時は是天我を亡したまふとあきらめ。ゆめ神仏を祈り奉る事は有まじき事也。

第六多言なるはさらるゝなり。世話にも言葉多きは品すくなしと。誠や親類朋友の中なりとてみだりに人ごとをいふまじきなり。人のよき事はあらはし。少にてもあしき事はかたるまじき也。終には我身の禍と成へし。つゝしみ給ふべし。

第七盗心あれば去るゝ也。盗心といへばとてあながち金銀器物を取かすめる事にもかぎらず。たゞかりそめの事にも。いつはりそら言をいひ。我あやまりをかくし。人をあしさまにいひなし。また夫の手前うしろぐらき事をかまゆる。是みな盗心也。かやうの

心根あれば終には夫に去るゝなればはづかしき事也。右七去の事あらまし書つらねて幼女のたよりとなしぬ。一度嫁して其夫に去るゝ事女の身にしては。是より大なる恥辱なし。(女諸礼綾錦一之巻 婦人七去の事)

※伝戸＝肺結核の古称(伝屍病)。

離別の理由となつた七つの事柄に就いて『女訓抄』と『女諸礼綾錦』とを整理して表二のように比較してみた。

表二 「離別の理由(七去) 比較表」

女 訓 抄	女 諸 礼 綾 錦
子をむまざるめ	舅姑にしたがわざればさらるゝなり
みんしつとてたわしきめ	子を産ざる女は去なり
せうとにつかはれぬめ	淫乱なる女はさらるゝなり
くぜつとて人といさかひがましきめ	悋気深ければさらるゝなり
たうせつとてぬすみがましきめ	あしき病あればさらるゝなり
しつとして物ねたみするめ	多言なるはさらるゝなり
あくしつとてわるきやまひするめ	盗心あれば去るゝ也

(『女訓抄』中) 内の漢字は筆者が補つたものである

両書の間には大きな違いはない。「くぜつ」が「多言」となり、「しつと」

が「悋氣」となっているが、意味するところは同義と考えてよい。ただ、記述の順序が変わっている。例えば『女訓抄』で第一にあげられている「子を産まざる女」は『女諸礼綾錦』では第二になっている。また、同書の第一位であった「舅姑にしたがわざる」は『女訓抄』では第三番目に位置づけられていた。これは作者の考え方、比重の置き方の違いにもよるのだろうが、時代の推移も見逃せない。『女訓抄』は初版が一六三七（寛永十四）年、『女諸礼綾錦』は一七五五（宝暦五）年であるから、両書の刊行年には百十八年の隔たりがある。江戸時代は封建体制下にあり、儒学による思想統一が行われていたから、物の考え方にさしたる進歩や、変革がなかったが、それでも百余年の歳月が経過する中で微妙な違いが生まれてきたものと思われる。子を産まない女が離別の理由とはならなくなっていたのではないか。「婦人の心正しくて妬心なくはさらずとも同姓の子を養ふべし或は妾に子あらは妻に子なく共去に及ばず」と、この一節は嫉妬心のないことを条件に、蓄妾を認め、その子を養えば、相続に不都合はないので「去るに及ばず」ということになった。また、『女諸礼綾錦』もいうように、生れた者が不孝者だったり、悪疾を持つようなら、当然相続は出来ないで、他から養子を貰って家督の相続させることになる。夫の考えによるが、代替の方策が考えられるようになれば、必ずしも離別理由の第一でなくてもよかつたのである。

その他にも「悪疾」は離別の理由であったが、結婚したとき病がなく、後年月が経って病となったものは去る必要がないというのが夫の法であったという。当然過ぎるほど当然であろうが、それでも例々しくことわり書きしている。『女訓抄』では、妻を離別しなくてよい場合を三つあげている。即ち、一つは夫の両親が死んで、その喪中に立ち働いた場合、第二は嫁に来たときは貧しかったが、一生懸命働いて後に家が豊かになっ

た場合。第三は結婚後、妻の両親が死んで帰る家のなくなってしまう場合である。いかに夫婦間の離別の状況が一方的なものであったにも拘わらず、離別することの出来ない理由もそれなりに存在したのである。

また、『女諸礼綾錦』を読んでいると、『女訓抄』とは違って、離別されないようにするにはどうしたらよいか。その方法、心構えに言及している。正に女訓の書で、今日的にいえば教育的配慮がなされていたといふべきであろう。例えば、舅姑に孝行を尽くし、恨むこともなく慎んで仕えれば、やがてはまことの子のごとく思われ、去られることはないという。前の孝行の項で三田村の久兵衛の妻の逸話を紹介しておいたが、あれほどのかたくなな舅も、嫁の従順なやさしい心に悔いて、嫁が孝行を賞賛したという話の通りである。

子の出来ない場合でも、病気の場合でも、常に保養を第一とするように、灸治療や医療を尽くすようにと教えている。多言については、女性に求められた四徳の一つに婦言というのがあって、女は言葉をつつしむよう教えられているが、更に人の善は口にしても、決して悪いことは語ってはならない。身の禍になると厳しく戒めている。

このように考えてくると、「七去」は離婚理由というよりは女性への警戒であり、女性への要望でもあったように思われる。

註

- (1) 嵐山町吉田 藤野治彦家文書
- (2) 高木侃『三くんだり半』平凡社選書105
- (3) 一六四二（寛永十九）『女訓抄』上巻
- (4) 北尾辰宜 一七七二（明和九）『女諸礼綾錦』一之巻
- (5) 一七七六（安永五）『女教大全姫文庫』女一生身持教訓

八 男と女

人と人との関係における礼儀作法の在り方は人間が社会を構成し、そこに生活が続けられる以上、大なり小なり問題にされてきた。特に封建制度という身分制を基底とした社会構造の中では、それは重要な意味をもっていた。女訓書の中に述べられている礼儀作法を見ていても、江戸時代の女性達が、他人の中で過不足なく生活してゆくための細い配慮が窺える。就中、男と女の間係については、極めて厳しい道徳律と教訓が用意されていた。それは当時の貞節観念を固定化することによって、不義、不倫による社会秩序の混乱を避けようとする為政者や道学者の思惑に起因すると思われる。また一方では、泰平の時代が続き文化が爛熟してくるにもなつて、男女間の在り方も、社会問題化し、性道徳の頹廢に拍車がかかるようになると、教戒は一層厳しさを増し、加速していったものと考えられる。男と女という違った性のものがこの世に存在すれば、当然の帰結として恋情の昂揚してくる者達があつても不思議ではない。どんな条例、法度、教訓があつたにしても、恋愛感情を阻止することとは不可能であつた。「不義は御家の御法度」となつていても、主家の娘と奉公人、或いは奉公人同志の間に恋愛関係が生じ、それが法度で禁ぜられるとあれば、思いを遂げるためには駆け落ちしたり、やむなく心中という道を選ばざるを得ないこともあつた。また、妻の密通、今日いうところの不倫もあり、武家社会にあつては離縁位ではすまされず、手打ちとなつた。こうした事件は歌舞伎や浄瑠璃の題材となつて多く語られている通りである。こうした事件を未然に防ぐためには、どうしても女子を教育し、女が男に近づかないようにしておくことが、安全であると考えられた。そこに男女間の在り方が厳しく制限される原因の一つが

あつたように思う。

男女間のことに關する資料を次に挙げて見てゆこう。

されはをんなはおさなきよりしつけかんようなり、ことに七ツすきなば、よろつものやはらかにばしなることをつ、しみ、あそびのみちにもをんなのすべきことわざをのみもてあそび、日にてらされずあめにぬれず人のおしへをよくもちひ、はうあしきをんなの見まねせず、おとこの子をあそびのあいてにすべからず、女のかなにもものやはらかなる内のをんなにつきそひ、人々のほめるをんなの、ものいひ又はあいさつをこゝろにしめてきくなら侍るへし、十にあまらは人に見ゆへからず

〔女鏡秘伝書〕上 七つのとしよりこゝろえの事⁽¹⁾

※ばしり軽はずみで落ち着きのないさま。派手に振舞うさま。

一 幼より男女のわかちだしかるべし。兄弟といふとも男子と一所に居るべからず。衣類をも、おなじところにおかず。おなじ所にてゆあみせず。物をうけとりわたす共。たがひに下におかせて取べし。手より手へすぐにわたすべからず。

〔大和女訓〕上⁽²⁾

をんなはかどをいづれば、おもがくし、夜行にともしびをとる、しるしのなき事をばかたらず、をのこにてづから物を取りかはさず、はこをもてこれをうく、もしはこなければ、かならずしたにをいて是をとる、ゆかはあみ同じ所にせず、ころもねむしるなどをかりかへず、ともにさゞめことせず、これみないにしへの教なり、な

ほざりに思ふべからず、礼儀ののりは、つかさ位ある人の家にまたうして、青さぶらひあき、たみかたなどに、礼義はそなはされども、かゝるおきては、しもさまの女たりとも、とり守るべきなり。

〔唐錦〕女則九章秋卷 内治第六(17)

※ゆかはあみり身をきよめるため川水を浴びること。

※さゝめごとり男女間の陸言をいう。ひそひそ話。

※青さぶらひ官位の卑しい侍。

まず、女子を育てるにあたって、男女の在り方に意を用いている。七歳過ぎたらば男の子を遊び相手にするなといひ、また、幼より男女の別を正しくせよとも述べている。これは思うに中国思想に端緒をもつものである。『女孝経』に「七才、男女不同席 不共食」とあり、『女論語』も立身章、及び訓男章でほぼ同じことを述べている。(16) いずれも曹大家の言葉としてゐるから出所は一つであり、この一章句がすべての男女間の考え方の基になっていった。『女鏡秘伝書』は十歳を過ぎたならば人の前に出てはならないといつてゐる。山崎闇斎の『大和小学』も、貝原益軒の『和俗童子訓』もまったく同じで十歳になれば外に出さず閨門の内におくべしとしてゐる。十五・六歳で嫁入りした当時としてみれば、この頃に人目についたり、男とかかわり合うことがあつてはならないといふ配慮からであろう。『大和女訓』と『唐錦』は更に細かくその在り方を教示してゐる。即ち、例え兄弟であつても、男の子と居室、風呂、寝所を一緒のところにしてはならないとしており、この辺は少々理解も出来るが、物の受け渡しに直接男から女へ手渡しをしてはいけない、箱にて受けるか、必ず一旦は下に置いてから受け取るべきであるといふ。何のためなのだろうか。『唐錦』に一つの例え話が載つてゐる。王凝という人の妻が、人に手を取られて穢れたといつて、腕の肉をそぎ取つて捨てた

といふのである。(17) 即ち男の手の触れたことを忌み嫌つたか、夫王凝への貞節のため許せなかつたからであろう。著者である成瀬維佐子も、少々やり過ぎではあるが、「こころざしはさしもいさぎよく見ゆ」と誉めてゐるところを見ると、その位男女間のことは潔癖でよいと考へてゐた。物の受け渡しも、直接なれば男と女の手が触れ合うこともあり、そのことが男女間の心のときめきを呼び、特別な感情へと移行することも想像に難くない。思へばそれを危惧したためで、実に細かい配慮だし、それ程までに男と女の仲を気遣ひ、神経質になつていたのである。しかもこゝうした男女のことは礼儀知らずの身分の卑しい女たちであつても守るべき掟だとしてゐるのである。

これに対して、男社会であつた当時としては、男には極めて寛大でさして厳しい掟はなかつた。ただ「他の女房を見留る事」とか「女房或は女の中にてざんげもの語りすること」はよくないといふ一節が見られる。(18) 他人の女房を意識して見ることは情を通ずる虞があつたし、「おとこはいふにおよばず女どしなりとも人の顔をじか／＼とながめまじき事」といふほど、女同志でも視線の合うような見方でまじまじと人の顔を見ることは大の無礼であつたから、当然のことである。ましてや女達の中で自分の懺悔話、即ち過去を後悔して、人に打ち明けて話す身話などはすべきではない。なぜならば、そのことから女の同情を引き、男女間の関係に発展していくことを用心したからである。

女の中にも、「夫の留守に若きおのこをよびあつめ雑談ばなし大わらひ」する者があつたり、「男の中に打ちまじりひとりかさどりてしばゐのうはさ役者の評判など顔をあかめてあながちにひいきしせりあふ」者もあつたりといふようだったから、勢い女の側に厳しい躰けと教戒が課せられることにもなつた。夫婦の項で述べたように、夫が外出中はどん

なに親しい来客にでも逢わないように、或いは舅とだけ二人きりになることは避けて、婢女を側に置く配慮をするよう戒められたのは、男女のことから起る過ちを未然に防ぐために女に課せられた教訓と考えられ、これ等が女性の自由闊達な行動の枷となった。

最後に、女子が若い男と言葉を交わすことを戒めたことについて、ある人が質問し、それについて筆者が解答するという、今日流行の「Q & A」のような遣り取りが残っているのを見ることにしよう。若い男と女の会話が禁ぜられたことに疑問をもった人がいたことがわかる。

親類といふとも女子はわかき男にことばをかさはさざれとをしへ給へども、それは介婦かいふちいなどある大身の人の女子こそさやうにもいたされめ、やうく奴僕一人二人めしつかふほどの女子は、わかき男きたるといへども、客のものいふにこたへなからんは無礼ならんや

云、吾子が問事もんじよし、予が言無言ごんむごんをのみいふにあらず、当世の婦女を見るにわかき男子のまへといへども弁舌べんぜつあざやかに世間の事までもとり出し、とはずかたりもするたぐひおほし、凡物すべよくいふを以て今は女子の才とす、是牝鷄ひんけいのあしたするたぐひ也、女子と女子との会くわいにても公儀こうぎらしきは見ぐるし、予したしき中にも下々にいたるまでよく考へ見るに、人のいふに返しだにしかねたるほどの女子にあしきはなし、あるひはこと葉はに花を咲せ舌したにあやをなし、声こゑにしなをやりてをのがこ、ろを名残なごりなく見せて、あるひはふだんつくにても心安こゝろやすといへども、男女なんにょめしつかゐを相手あいてとして雀すずめのごとくさしてなく口をき、あるひはけら／＼わらひなどする女子に一人もよきはなし、上臈じやうろうはわらへども声こゑにいたさ

ず、大きにかしき事もしめわらひといふものにして、常に用なき事をいはず静しづかなるものなり、男子といへども口聞くちきものは見ぐるし、まして女子をや、奴僕一人をだにつかゐかぬるほどの女子たりともまれ人ありてとふ事あらば用事をばいふべし、用なき事は男子も遠慮えんりょしてとはざるものなり、安否あんひをとふ返事だにせば物いわでもあれかし、返事さへいひかぬるほどにて人見てものを得いはざるかとおもふくらゐの女子はよし、婦人は公事くじをいはざるものなれば、弁舌べんぜつよく物いひて何の益かあらん

〔壺の石ふみ〕八 或人の尋

親類のような親しい間柄にあつても、女子は若い男と会話することが戒められていたが、大身の家ならばいざしらず小身の家で、そんなことは出来ないし、客が物を問うているのに答えなければ失礼な振舞いとならないかという質問である。男女間の会話の在り方が、強く制限されていたことへの素直な疑問である。『壺の石ふみ』の筆者は詳ではないが、全編を読むと相当の識者であり、教養人であり、指導的立場にあつた人のように思われる。従つてその解答も、女子の無言を強要するのはなく、前述した女性達の様な状況のあることを充分理解して、「こと葉に花を咲せ、舌にあやをなし、声にしなをやり」そして「雀のごとくさしてなく口をき、あるひはけら／＼わらひなどする」女性に立派な人はいないと考えている。このような女性は今日本においても軽薄な印象はまぬがれないように思われるが、この筆者は人が問いかけても返事をしかねるような、人が見ても物をいいそうもないような女性がよい人だという。極端な気もするが、しかし、客があつて問う事があれば、用事をいうべきであるとしているから、何が何でも口をきいてはならないというのは

なかった。男女間ならずとも、当時は口のきき方、多言、言葉違い、ひいては笑い方まで注文がつけられていて、女訓書の中ではしばしば取り挙げられている。

諸々の男女間の掟は礼儀作法のように入れられるが、不品行、不行跡を未然に抑止しようとした転ばぬ先の杖であった。男女間にある押え難い性の衝動から、当時の倫理観に照らして許すことの出来ない結果を引き起こし、一家が廃れ、一門が恥辱を受け、一人の人間が社会から葬られるようなことにもなったから、これを予防するには厳しい掟と、充分な躰が要求されたのである。

註

- (1) 一六七八(延宝六)『女鏡秘伝書』上
- (2) 一七二〇(享保五)『大和女訓』上巻
- (3) 一七九九(寛政十二)『唐錦』女則九章秋巻 内治第六
- (4) 山崎純一 一九八六『中国女性史資料の研究』
- (5) 山崎闇斎 一七三八(元文三)『大和小学』『日本教育文庫』教科書篇
- (6) 貝原益軒 一七一〇(宝永七)『和俗童子訓』『日本教育文庫』学校篇
- (7) 一七九九(寛政十二)『唐錦』女則九章秋巻 内治第六
- (8) 『じよようちふくろ』常に慎むべきこと(刊年不詳)
- (9) 一八四〇(天保十一)『女教百人一首合鏡』当流しつけ方
- (10) 木村敦寛 一七七〇(明和七)『女操用和国織』平生たしなみ草
- (11) 一八一三(文化十)『女今川操文鑑』女風俗躰時
- (12) 一六九八(元禄十二)『壺の石ふみ』

むすび

ここまで女訓書を詳らかに考察してきたが、婦人の道德律即ち、婦徳については「三従」、「四徳」、「五常五倫」、「七去」といった項目の中に述べ尽くされているように思う。三、四、五、七といった数字を冠し、内容を集約して体得、教化させようとする意図であり、中国流の方法で

あった。これらを要約して考えてみると、まず、女性の悪いところがあって、それを匡正するために教育する必要がある、その手段として女訓の書があったと記されている。女性の悪いところはどこかというところ、愚かで僻みっぽく、我侷である、貪欲で嫉妬深く、好色、多言で不正直である、情知らずで、やさしさに欠けていると指摘し、一言で「外面如菩薩、内心如夜叉」と評している。よくここまで悪口を並べたてたものだと思われるが、徹底して女性を卑しめる考え方が風靡していた時代だったということも出来る。従って「惣て婦人は心愚にして、賤しきやうにいへどもさにあらず」という一行と、「偽かざる心なく柔和ならばなど男子婦人のへだてあらんや」という条件つきながら、男女の平等観を表現した一節は貴重な、類まれな考え方であったといふべきであり、この時代にあつて救いとなる言葉でもあった。これらの悪いところは裏腹になることだが、女性に求められた心の有り様や、行為はどんなことだったのだろうか。要約してみると、第一に従順、貞節であり、寡黙で清楚、優雅であること、慈悲深く義理、礼法をわきまえ親・舅姑に孝行で、子を産む女性、これが理想の女性であつたし当時の女性に求められたことでもあった。淫乱、恠気、盜癖のある者は論外で、これは男子においても避けたい気質であつたろう。

これらが江戸時代の女性の道德律、即ち女徳として教えられ、導かれた徳目であつたが、その命脈は永く保持・継承され近・現代にも及んだのである。今や男女は平等であり、こうした考え方は封建制の弊風として葬られようとしているが、底流として社会のどこかに根強く存続しているような気もするのだが。

さて、江戸時代の女性に要求された道德律である婦徳や、その時代の人々が理想と考えた女性像は一体どこから創造されたものなのだろうか。

理想の人間像とか、望ましい道徳律といったものは、一般的にそれを形成する国家・社会の理念・体質・在り方に排胎するものと考えられる。さすれば、江戸時代の婦徳は、江戸時代の社会の理念、在り方に起因していたと考えて差し支えない。このことは各項の論述の都度、必要に応じて述べてきた通りである。

江戸時代は思想的にいえば儒教思想（朱子学）一辺倒で、寛政異学の禁はそれを決定づけた。「五常」の道、仁・義・礼・智・信は朱子学の根本理念であったから、当然女性にもその体得が要求された。また儒学は孔子の学問で、中国から受容したものであったように婦人に対する道徳律も、儒学を基盤とする中国婦徳思想（曹大家によって提唱された）が直接我が国に伝えられたものと考えてよい。例えば「四徳」とか「七去」（中国では「七出」といった）といったものはそれである。なおまた、江戸時代は封建制度という社会の仕組みによって、国の体制が保持されていた。封建制度は土地を媒体とする政治経済体制であるが、この制度の維持のために重要なことは身分制度であった。士・農・工・商といった身分秩序を不変のものとして維持することが封建体制を永続させる道でもあった。少なくとも中世期横行した「下剋上」の如き思想は全く無用どころか、唾棄された。従って身分の上下関係が厳しく定められ、これを侵すことは許されなかった。女性も全く同様で、「三従」の教も、「五倫」の道も、人間の定まった身分関係を絶対に変えない教戒であった。なおえば、江戸時代は男性社会であった。政治・思想・文化家庭生活いずれの面においても男性が指導的立場に立って進められるのが当然であった。このことが男尊女卑思想を生んだ。幕府が愚民政策をもって政治に臨んだように、ある意味では女性が必要以上に学問をして、物を考え、社会を批判し、自己の存在に疑問を持つようになることを男性は懼

れていた。男と女で社会の主導権が入れ替わるようなことになったら大変である。従って身分制も加えて、男が尊く女は卑しいという固定観念をあらゆる機会に教訓し、その位置関係を不動のものとしていた。「従順」とか「貞節」といった言葉が絶えず教えられたのもそのためである。どちらにしても社会をリードした男性達（学者・思想家・為政者）は男に都合の良いように理論を構築し、それは一方的に何の疑問をさし挟む余地もなく、女性達に与えられ、躰られていった。御一新となって福沢諭吉が「日本国は女の地獄でござる」といったが、当時の女性達がそう考えていたかどうかは別として、いま、客観的に見れば正に地獄であったと思われる。なぜならばそこには自由にして闊達な心の動きは見られなかったし、ただ忍従の中に日々を過ごすようであったからであろう。

最後に、本稿において使用した女訓書の大部分は東京家政学院大学図書館大江文庫本に依った（それ以外のものは「註」末尾に典拠を付した）。なお、閲覧の便宜をはかっていたいただいたことを記し、ここに深謝申し上げる次第である。

遠山村の新道開鑿一件

吉瀬 総

明治初年に、当時の比企郡遠山村から同郡千手堂村をかすめて同郡平沢村に至る道が開鑿カイサクされた。

それ以前の道は、遠山村の東端からいったん大平山麓へ大きく回り込み、ゆるやかに現在の峠状の地点へと登っていたのだが、北側に新ルートを開鑿して峠にトンネルをうち、行程を短縮するのが、工事の目的であった。

一、新道開鑿の動機

一八七九（明治一二）年一〇月三一日付で県令に宛て出された『新道開設御願』（山下賢治家所蔵文書）によると、願人として名前を連ねているのは、平沢村戸長の内田清右衛門、千手堂村の地主吉野英吉と戸長の関根茂平、そして遠山村の山下滝治、山下吉三郎、杉田啓三郎の六名である。

このうち、平沢村と千手堂村の二名、及び遠山村の山下吉三郎は、工事に関しての同意者という立場だと思われるから、実質的な発起人は、山下滝治と杉田啓三郎であった。

杉田啓三郎は当時の遠山村戸長、山下滝治は当時戸長役場筆生（のちに戸長）、史料によつては発起人という肩書である。

史料は、全長二一九間余のそれまでの道が、「至テ峻嶺ニシテ百荷運輸窘ミ諸人難渋不尠」という現状にあり、「依テ明治仁政ヲ奉戴シ聊報國ノ御旨趣次カントシ」、九五間余を短縮する新ルートを計画したと説明している。

二、歴史的背景

江戸時代には、いずれの村々も、商品経済の中に存在していたが、幕末以来、生糸を中心とする商品作物の輸送路の確保は、以前に増して重要になりつつあった。

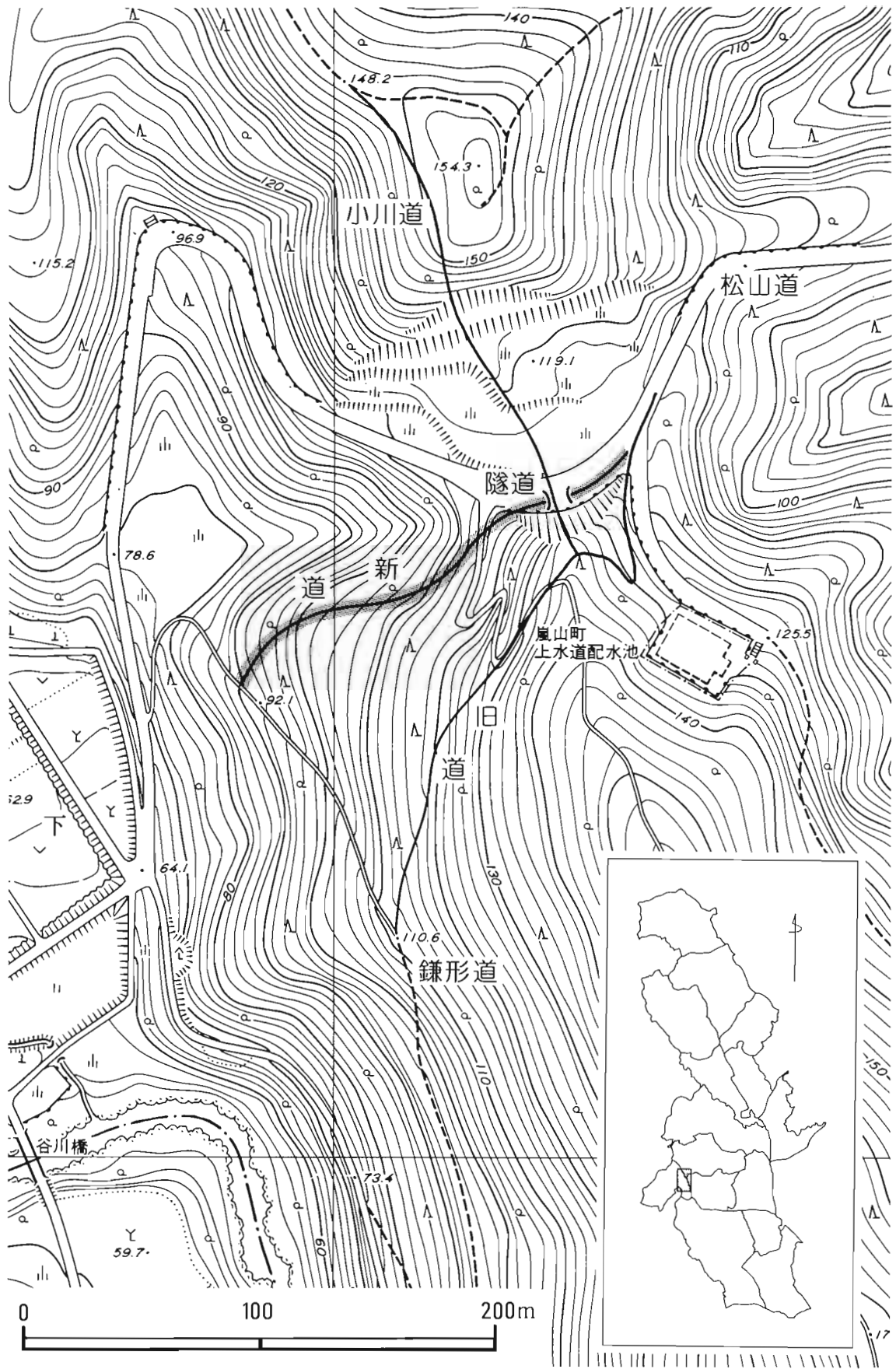
明治になって以降、より低いコストで、より早く物資を輸送することが、収益を増やし、他地域との競争に勝つ条件のひとつとなった。

遠山村から平沢村への道は、比企郡の政治的・経済的中心地である松山町へのメインルートであり、河岸場へつながる物資輸送の動脈でもあった。

従つて、物資輸送のメインルートであった遠山・平沢道を付け替え、通行しやすくすることは、玉川郷や遠山村の住民にとつても切実な課題であった。

しかし、殖産興業の旗を振る政府は、道路整備の必要性を認めながらも、国道以外の道へは官費を補助せず、埼玉県の道路財政は、国道と一部の県道にしか支出されなかつた。

たとえ県費が支出される県道であっても、秩父新道の例にみられるように、過重な負担が地元を圧迫するのが実情であったから、遠山・平沢



新道の位置図 (縮尺：1/2500)

道のごとき小道整備に補助金は与えられず、建設費は、全額寄附金によってまかなわれた。

三、開鑿出願の経過

山下賢治家所蔵文書に記されている開鑿出願の経過は、次のようであった。

一八七九(明治一二)年一〇月三十一日付の願書については、翌月手直しを命ぜられたので、即刻手直しの上再提出した。

この願はその後放置され、沙汰なしとなったらしく、同年一月に杉田啓三郎が『新道開鑿御指令願』を出して、県の指示を求めた。

しかし、県では、この願をいったん却下した。

翌年一月付で出された『新道開鑿追願』をみると、「潰地官有地交換ノ義不都合」と、「旧道廃存」という点が、問題とされたようである。

村にとっては、潰地を官有地にする件については受け入れることができたが、旧道の廢道化については、山仕事の道あるいは鎌形村から小川町への交通路でもあり、一月二六日、郡長の添翰を添え、旧道存続の上新道開鑿を再度出願した。

これに対して、県では杉田、山下滝治らを呼んで種々尋問し、願書を採用し、二月一日頃より(別の史料では二月五日とある)係官を派遣して検査に入ると回答したため、願人たちは、いったん帰村した。

にもかかわらず、言に反して、三月になっても検査は実施されず、山下滝治から「素より農繁ノ節度ヲ除ク旨意ナレバ即今農務ノ透ヲ不失様着手仕度候旨至急御検査被成下度」(『新道開鑿御指令願』)という願が出されている。

その後の経緯については、史料がないので不明である。新道開鑿の許可が下りたのは、一八八〇(明治一三)年八月二五日であった。

四、募金活動

当初の出願の時点では、工事に必要な経費は二五六円と見積もられていた。

しかし、実際には、それをはるかに上回る費用が必要となった。

『新道開鑿創竣中願書並届書等一切書類下書』という綴りに含まれている『有志者出金取調帳』によれば、この工事に、決算の終わった一八八三(明治一六)年二月現在、五七〇円弱を要した。

この経費に対し、県からの補助はなく、町村費からの支出も禁じられたため、費用はすべて寄附によってまかなわれた。

寄附金の募集がどのように行われたかの詳細は不明であるが、発起人の山下滝治以下、新道世話人となった、杉田啓三郎、久留田与平、山下五平、小菅山次郎、山下武八、杉田糸造、山下繁造、久留田菊次郎らの人々が、奔走したものと思われる。

集まった寄附金総額は、五九七円三六銭(労働奉仕換算を含む)であった。

寄附金の内訳を見ると、遠山村民からの寄附が三三五円四五銭と過半を占め、中でも山下滝治(父武八の分を含め一三二円五〇銭)、久留田菊次郎(父与平の分を含め三三三円)、杉田啓三郎(二五五円)らの負担がめだつ。

入間郡(三三三円)、児玉郡(一〇〇銭)、男衾郡(二二五〇銭)など郡外者

の寄附はきわめて少なく、比企郡内各町村有志による寄附がほとんどを占めており、寄附者のいる町村は五ヶ町村にのぼる。

そのなかでは、下里村(四二円)、鎌形村(二六円六五銭)、志賀村(二一円四六銭)、平沢村(二二円四〇銭)、田黒村(二二円三〇銭)、千手堂村(一八円一〇銭)など、新道の恩恵を直接こうむる村からの寄附が多いのが目を引く。

また、なんらかの結社と思われる実行社なる団体からの寄附も七円含まれている。

実行社の社員は、比企郡東平村の柳沢房吉、白井沼村の小森谷忠造、古凍村の根岸惣之助、上野本村の梶田倉之助、毛塚村の金子寅吉、杉山村の内田六平、同郡広野村の栗原嘉十郎、水房村の吉野長行、横見郡久保田村の原銀造、吉見村の松崎古太郎、地頭方村の齊藤申太郎、大里郡相上村の自在貞次郎、小泉村の飯田仙太郎、人間郡塚越村の矢沢祐次郎の一四名であるが、この実体の説明は今後の課題である。

五、新道の完成

『新道開鑿ニ付地租御免除願』(山下家文書二)によれば、工事の着手は一八八〇(明治一三)年一〇月一三日、落成は一八八二(明治一五)年四月一日であった。

二シーズンの農閑期を利用して完成したということであろう。

完成を期した開通式(神事、開通初行式を含む)は、一八八二年九月二八日に実施された。

その場に招かれた県官は県令吉田清英、県警鎌田沖太、郡長鈴木庸行以下総勢一四名である。

隧道わきに仮幌舎が設けられ、雅楽の奏樂と共に祝詞があげられた。さらに、県令の祝辞、郡長の祝辞が述べられたのち、県令に舶来酒(ビール)が献じられた。

初行式は、前駆の神官・雅楽奏者のあとを三夫婦が三家(遠山村久留田与平家、下里村金子初五郎家、志賀村水野年次家)、以下神官、発起人・世話人、近村の村吏・有志が通行の式を行った。遠山村の三夫婦は、久留田與平(七八歳)・フサ(七)、菊次郎(五三歳)・コト(七)、半次郎(二〇歳)・クメ(二二歳)、下里村は金子初五郎(六九歳)・キセ(六七歳)、房太郎(四四歳)・ハマ(三七歳)、三次郎(二〇歳)・エヒ(七)と曾孫の一郎(二歳)、志賀村は、水野年次(六三歳)・コン(五九歳)、年連(四二歳)・タケ(七)、誠一郎(一八歳)・ハマ(一九歳)であった(『開道式順序』)。

六、新道の維持

募金によって五九七円三六銭が集まったわけであるが、一八八三(明治一六)年二月現在二九円の残額があった。

この金は、「新道資本金」としてプールされ、「身分確然タル者」(『新道開鑿創竣出費精算記録』)に貸し付け、その際の利子を新道補修に使うこととされた。

おわりに

一九五四(昭和二九)年七月二五日付の『萱谷村報道』によれば、遠山隧道は同年六月二八日、翌二九日の両日にわたって崩壊し、通行不能

に陥った。

現在の自動車道路は、明治以前とは逆に、峠の北側を大きく開鑿してつくられており、隧道のあった周辺も切り開かれて、往事の面影は全くなく、道形が部分的に残存するのみである。

(本稿の作成は、とくに断らない限り、すべて大字遠山・山下賢治家文書に依った。)

※山下賢治家文書二『新道開設御願綴』目次

- ・新道開設御願(明治十二年一〇月三一日)
- ・新道開鑿二付地租御免除願(一十五年九月三〇日)
- ・新道開鑿二付地価帳御引直願(シ)
- ・遠山村新道開鑿二付潰地々租御免除願(シ)
- ・亡地明細帳(一十二年一〇月三一日)
- ・新道開鑿御指令願(一十三年一月一三日)
- ・遠山村より松山町往還新道開鑿寄付金願(年欠)
- ・比企郡遠山村地内新道開鑿費概算帳(一十二年一〇月)
- ・新道開鑿追願(一十三年一月)
- ・新道開鑿願婦村御届(一十二年二月)
- ・新道開鑿御指令願(一十三年三月)
- ・(費用見積)(一十三年三月)
- ・官地成願(年欠)
- ・地所売渡シ之証(一十七年七月一日)

※山下賢治家文書一八『新道開鑿創竣中願書並届書等一切書類下書』目次

- ・新道開設御願(明治十二年一〇月三一日) 山下賢治家文書二に同文あり。
- ・亡地明細帳(一十二年一〇月三一日) 山下家文書二に同文あり。

- ・有志者出金取調帳(一十二年一月一〇日)
- ・比企郡遠山村地内新道開鑿費額概算帳(一十二年一〇月) 山下家文書二に同文あり。
- ・新道開鑿御指令願(一十三年一月一三日) 山下家文書二に同文あり。
- ・新道開鑿追願(一十三年一月) 山下家文書二に同文あり。
- ・新道開鑿婦村御届(一十三年二月) 山下家文書二に同文あり。
- ・新道開鑿御指令願(一十三年三月) 山下家文書二に同文あり。
- ・御請書(一十三年三月一〇日)
- ・御請書(一十三年三月一三日) 右とほぼ同文。
- ・御請書(一十三年三月一三日) 右とほぼ同文。
- ・比企郡遠山村地内新道開鑿見積概算帳(一十三年三月一三日) 山下家文書二に同文あり。
- ・官地成願(一十三年四月) 山下家文書二に同文あり。
- ・有志者出金取調帳(一十五年九月三〇日)
- ・開道式御届(一十五年九月二三日)
- ・開道式御依頼書(一十五年九月二〇日)
- ・新道開鑿二付地価帳御引直願(一十五年六月) 山下家文書二に同文あり。
- ・新道開鑿二付地価帳御引直願(一十五年九月三〇日) 山下家文書二に同文あり。
- ・遠山村新道開鑿二付潰地地租御免除願(一十五年九月三〇日) 山下家文書二に同文あり。
- ・新道開鑿二付地租御免除願(一十五年九月三〇日) 山下家文書二に同文あり。
- ・潰地明細取調書(一十五年九月三〇日)
- ・遠山村新道開鑿二付荒地成地租御免除願(一十五年九月三〇日)
- ・荒地御取消願(一十五年一月)
- ・御請書(一十六年一月一八日)

※遠山・平沢新道年表(山下賢治家文書一より作成)

- 明治^{一八七九}十二年一〇月三一日 遠山村山下滝治外五名より新道開設願提出。経費見積 256 二五六円。
- 一十二年一月 願書手直し指示。

- 一二年一月 手直し願書提出。
- 一二年二月 何の沙汰もなし。
- 一三年一月 戸長杉田啓三郎より指令願提出。
- 一三年一月 開鑿願却下。
- 一三年一月二六日 戸長ら出県。
- 一三年一月 旧道存続の追願提出。
- 一三年二月 杉田らに対し種々尋問あり。願書採用の口達。
- 一三年二月二一日頃 近く検査する口達あり、杉田ら帰村。
- 一三年二月 何の沙汰もなし。
- 一三年三月 山下滝治より至急御検査願提出。
- 一三年八月二五日 新道開設許可。
- 一三年一〇月一三日 工事着手。
- 一五年四月一日 新道落成。
- 一五年九月三〇日 潰地地租免除願・地価帳引直し願提出。
- 一五年十二月一六日 地租免除願許可。
- 一六年一月一五日 地価帳引直し許可。

※資料一、新道開設御願

比企郡遠山村

当村ヨリ松山町並河岸場等工登通路至テ
 峻嶺ニシテ百荷運輸窘ミ諸人難
 洪不尠依テ明治仁政ヲ奉戴シ聊
 報国ノ御旨趣ヲ次カントシ村内一同
 協議ノ末隣地同郡平沢村並千手
 堂村示談行届キ当村字風早三百四十
 三番秣場官有地ヨリ同字三百四十二番
 山林民有地夫ヨリ平沢村字赤井
 千〇八拾七番斃馬捨場官有地同字
 千〇八十八番林民有地マテ長百廿五間
 四尺式寸内九十九間遠山村廿六間四尺式寸平沢村之場所
 新道開坑シ其内長八間道立六間

許ノ地下ニ隧道ヲ鑿チ嶺ヲ平底ニセハ
 旧道長貳百十九間六尺差引九十三間式尺四寸
 近暨ヒ殆産物ノ繁殖ヲ招キ村内ノ幸
 福ハ勿論普ク通路便益タル基礎ト
 被存候ニ付費額概算帳式冊繪
 図面式枚潰地取調帳式冊有志者
 出金取調帳式冊相副相願候尤モ
 旧道之義者作場兼用ノタメ存置
 申度候間右場所至急御検査
 之上御許可相成候様奉願上候
 尤モ潰地貢租ノ義者御免除被
 成下度地代価並工事費用ノ
 義者村費等工賦課不致悉皆右
 出金ヲ以テ落成ヲ遂ケ候義ニ協議
 行届キ候依之一同連署ヲ以此段
 奉願候以上

明治十二年十月三十一日

右村

願人

山下滝治

山下吉三郎

杉田啓三郎

内田清左衛門

吉野英吉

関根茂平

平沢村

戸長

千手堂村

地主

戸長

埼玉県令白根多助殿

※資料二、有志者出金取調帳

右は遠山村ヨリ松山町往還通路至テ難決ニ付新道開鑿相成候ニ付、書面之通寄附
 仕候。該費用ニ充テ申度、此段相願候也。

内 比企郡遠山村

金 四拾五円

人民惣代

戸長

杉田啓三郎印

金	六拾円	平民	山下滝治印
金	貳拾円	〃	杉田啓三郎印
金	貳拾円	久留田菊次郎隠居	久留田与平印
金	拾五円	平民	山下五平印
金	拾五円	〃	小菅山文次郎印
金	拾円	〃	杉田桑造印
金	拾円	〃	久留田菊次郎印
金	拾円	〃	山下繁造印
金	五円	遠山寺住職	本多全龍印
金	三円	平民	山下吉三郎印
金	三円	〃	久留田丑五郎印
金	三円	〃	高橋利三郎印
金	貳円五十銭	〃	山下半三郎印
金	貳円	〃	池田源七郎印
金	貳円	〃	吉田岸造印
金	貳円	〃	栗原弥太郎印
金	貳円	平民	川端七五郎印
金	貳円	〃	高橋喜造印
金	壹円	〃	野原善造印
金	壹円	〃	高橋団吉印
金	壹円	〃	山下喜十郎印
金	壹円	〃	吉野勇造印
金	壹円	〃	小菅山勘五郎印
金	壹円	〃	欠川峯吉印
金	五拾銭	平民	野原松五郎印
金	壹円	高橋団吉母	高橋かつ印

同郡平沢村 人民惣代 内田清右衛門印

同郡千手堂村 人民惣代 関根茂平

右は新道開鑿有志寄付金、書面之通ニ御座候也。

明治十二年十一月十日

右村発起人 山下滝治印
戸長 杉田啓三郎印
埼玉県令 白根多助殿

※資料三、新道開鑿追願

比企郡遠山村

右署先般新道開鑿金之儀郡役所ヲ經由シ出願仕候処、右潰地官有地交換ノ義不都合ノ趣并旧道廃存ノ見込相立廢道之趣ヲ以出願可致旨御指揮被成下、右願書類御却下相成候。右ニ付潰地交換ノ義相廢シ現場潰地ノ俣ニ引直シ候得共、旧道之義者本村方宇大平山林エノ道路殊ニ隣村鎌形村方小川村市街エノ通路ニシテ廢道難相成、右ニ付坑割ノ場所茂隧道ニ致シ横道存置ノ法方相立候間此段御覽慮被成下度、仍之先般ノ願書絵図面等相添追願仕候間、右場至急御検査被成下御指令相成候様、奉願上候以上

明治十三年一月

右村戸長 杉田啓三郎

埼玉県令白根多助殿

※資料四、新道開鑿願婦村御届

比企郡遠山村

右は先般御添翰被成下候新道開

鑿願ノ義、御本庁工出願仕候処
種々御尋問ノ末来五日頃ヨリ右場所
為検査官派出可致旨被仰
渡候ニ付、此段以書附御届申上候也。

明治十三年二月

右村 戸長 杉田啓三郎
比企横見郡長 鈴木庸行殿

※資料五、新道開鑿御指令願

比企郡遠山村

右者客年十月三十一日附ヲ以新道
開坑ノ義出願候処同年十一月中願
書手直シ被仰付速ニ手直致シ願書
差出置候処年末ニ至リ何等ノ御
沙汰無之本年一月中開坑願御指
令ノ義追願致候処猶亦願書中
不都合ノ廉有之趣御下ケ紙ニテ願書
以下戻相成因而再ヒ正調ノ上同月
二十六日当郡役所御添翰ヲ乞自身
本庁工出願候処、廉々御尋問ノ
末右願書御採用ニ相成、本年二月
十五日頃近キ御検査被成下候趣ノ
御口達ニ基キ一同指ヲ申シ空ク日ヲ費
相待候得共今ニ何等ノ御沙汰モ無之
甚タ当惑ノ次第ニ付、素方農繁ノ
節度ヲ除ク旨意ナレバ即今農務ノ
透ヲ不失様着手仕度候間至急
御検査被成下度偏奉願上候也。

明治十三年三月

比企郡遠山村 筆生 山下滝治
埼玉県令 白根多助殿

※資料六、御請書

比企郡遠山村ニ於テ山下滝治始メ村内一同
ニテ遠山村ヨリ松山町へ達スル往還中、当村内私有
地へ相懸リ新道開鑿之儀ニ付願相成候ヲ以
御出張場所御検査之節立会被仰付
故障之有無御札御座候。右は願書ニモ
調印仕候程之儀ニ而故障筋一切無之
候。由テ書面ヲ以テ此段御受申上候也。

明治十三年三月十日

比企郡千手堂村 戸長 吉野英吉

※資料七、(比企郡遠山村地内新道開鑿費概算帳)

比企郡遠山村

一、新道長延百廿五間四尺式寸
内

長 六十九間三尺

幅 九尺

此坪 百四坪式合

此人足廿三人但四坪五合ニ付人足老人積リ

此賃金四円六十錢但シ人足老人ニ付金二十錢積リ

長 拾老間卷尺五寸

幅 九尺

此坪 十六坪九合

此分置土ニテ成落ノ見込ニ付諸費相省キ

長 九間老尺貳寸

敷 九間貳分

末 十七間五分

平均 十間三分五厘

幅 二間

敷 貳間

上口 十間

平均 六間

高 六間貳分

平均 三間老分

片 ナシ

此坪 九十六坪貳合五勺

但 一方ハ敷而已ナル故切判ヲ以此坪ヲ出ス如斯

此人足 三百八十五人

但 老坪ニ付人足四人積り

此賃金 七拾七円

但 老人ニ付金廿錢

隧道

長 廿五間

幅 貳間

高 老間六分六厘

此坪 八十三坪三合

此人足 四百十七人

此賃金 金八十三円四十錢

但シ 老坪ニ付五人積り 人足老人ニ付金二十錢積り

長 拾間四尺五寸

敷 十間七分

乘 十二間

平均 十一間三分七厘

幅 貳間

敷 貳間

平均 四間老分

高 四間貳分

片方ナシ

平均 貳間老分

此坪 四十八坪九合四勺

但 一方ハ敷而已ナル故切判ヲ斯坪出ス

此人足 百九十六人

此賃金 三十九円廿錢

但 人足老人ニ付金廿錢積り

合 坪 三百三拾貳坪七合

内 平面坪 百四坪貳合

四方面坪 三百廿八坪五合

合 人足 千〇廿老人

通計金貳百〇四円廿錢

一、金五拾老円八拾錢

但 隧道梓並其他臨時費

合計 金貳百五拾六円

右者新道開鑿ニ付職巧ヲシテ見積ヲ以出費額仮算書之通相違無御座候。以上。

明治十三年三月

右村戸長代理 筆生 山下瀧治

比企郡遠山村

- 一、旧草高九十九石一升三合
- 一、反別十四町三畝九步
- 一、地券代価金七百十三円〇八銭

右之通候也。

明治十三年三月十九日

右村戸長代理 筆生 山下滝治
埼玉県令 白根多助殿

※資料八、開道式御依頼書

比企郡遠山村

右は本村新道開鑿之義嚮々
竣功ニ及ヒ然ルニ今般令公各郡
御巡視路次ノ序席ヲ以テ本月廿八日
御覽置トシテ御臨場被為有
候趣幸ニ以当日ヲ開通式施行
仕度候間、伺濟之上寄意ニ倚テ
右開通式御依頼申上候也。

明治十五年九月廿日

右村 小前惣代 山下繁造印
戸長代理 杉田百之助印
比企郡大谷村 秋葉神社祠掌 加藤大膳殿

※資料九、開道式御届

比企郡遠山村

右は当村新道開鑿之義本年四月
中工事落成ニ付本月廿七日同郡大

谷村秋葉神社祠掌權訓導加
藤大膳ヲ以隧道開道式修行仕度
候間此段以書付上申仕候也。

明治十五年九月廿三日

右村 戸長 山下滝治印
比企横見郡長 鈴木庸行殿

※資料一〇、有志者出金取調帳

比企郡遠山村

遠山村ヨリ松山町工往還新道開鑿寄付金調

- 一、金貳拾壹圓五拾銭 比企郡平沢村一同
- 一、金三圓 同郡大谷村秋葉神社祠掌 加藤大善
- 一、金拾圓 同郡吉田村 藤野佐重郎
- 一、金四拾三圓 同郡下里村
- 内 金拾圓 現金寄附ノ分
- 金三拾三圓 人夫寄附之分
- 此人夫百三拾貳人

内訳

- 金壹圓廿銭 金子浅次郎
- 金壹圓 田中浦之助
- 金壹圓 金子房太郎
- 金五拾八銭 田中郡次郎
- 金五拾八銭 田中太三郎
- 金五拾七銭 小野百太郎
- 金三拾七銭 金子瀧治郎
- 金貳拾七銭 金子濱次郎
- 金拾七銭 金子伊八
- 金拾七銭 田中徳太郎
- 金拾七銭 田中峯吉

金十七錢	田中与吉	人足式人	此賃金五十錢	安藤淺次郎
金拾七錢	田中永次郎	人足式人	此賃金五十錢	全 茂太郎
金十七錢	安藤定次郎	人足式人	此賃金五十錢	全 善五郎
金十七錢	金子政次郎	全壹人	同廿五錢	同 西造
金十七錢	向井半七	全六人	同老四五十錢	同 辰五郎
金十七錢	田中喜十郎	全三人	同七十五錢	尾高龍造
金壹圓	関根可正	全貳人	同五十錢	全 寅吉
金三拾錢	新井周吉	全六人	同老四五十錢	加島平五郎
金廿錢	西原市松	全五人	同老四廿五錢	全 半十郎
金五拾錢	福嶋長次郎	全貳人	同五十錢	全 重五郎
金拾錢	田端茂十郎	全貳人	同五十錢	全 鉄五郎
金廿錢	加嶋定吉	全壹人	同廿五錢	全 多吉
金廿錢	田中利三郎	全壹人	同老四五十錢	福嶋惣三郎
金十錢	田中重太郎	全六人	同老四五十錢	西原栄太郎
金十錢	小熊米吉	人足三人	此賃金七十五錢	山口文次郎
金十錢	関根熊次郎	全三人	同七十五錢	全 久三郎
金十錢	田端長太郎	全貳人	同五十錢	西原紋造
金十錢	橋本千代造	全貳人	同五十錢	福嶋栄次郎
金十錢	新井廣吉	全貳人	同五十錢	西原惣吉
人足六人	嶋田伊三郎	全貳人	同五十錢	岩崎勘五郎
人足六人	同 喜重郎	全貳人	同五十錢	金子豊吉
人足四人	清水作太郎	全壹人	同廿五錢	福嶋磯吉
人足二人	島田芳五郎	全壹人	同廿五錢	岩崎和吉
人足貳人	同 平吉	全六人	同壹圓五十錢	新井鶴造
人足壹人	清水安五郎	全六人	同老四五十錢	全 常吉
人足壹人	島田周次郎	全四人	同老四	全 梅次郎
人足壹人	島田惣次郎	全三人	同七十五錢	全 勘五郎
人足壹人	同 卯之吉	全貳人	同五十錢	全 重五郎
人足九人	安藤米吉	全壹人	同廿五錢	島田西松
人足六人	同 重右衛門	全貳人	同五十錢	加嶋勘次郎
人足三人	同 善右衛門	全貳人	同五十錢	酒井小太郎
人足二人	清水孫太郎			

一、金壹圓五十錢 同郡増尾村
一、金貳拾壹圓三十錢 同郡田黒村

内 金五圓三十銭 現金寄附ノ分
金拾六円 人夫寄附之分

此人夫六十四人

人足七人 此賃老円七十五銭

全七人 同老円七十五銭

全六人 同老円五十銭

全六人 全老円五十銭

全六人 同老円五十銭

全五人 同老円廿五銭

全四人 同老円

全三人 同七十五銭

全三人 同七十五銭

全三人 同七十五銭

全三人 同七十五銭

全三人 同五十銭

全三人 同五十銭

全三人 同五十銭

全六拾銭

金老円

金拾銭

金五十銭

金五十銭

金壹圓

金廿五銭

金廿五銭

金老円

金拾銭

一、金式拾六圓六十五銭 比企郡鎌形村

内訳

金老円廿五銭

杉田吉十郎

川端辰五郎

小輪瀬利平

川端竹次郎

全 小平

梶田惣吉

全 善平

小輪瀬六造

小輪瀬龜吉

全 重平

杉田紋次郎

全 文次郎

小輪瀬幾太郎

全 春吉

大澤仁佐吉

全 清次郎

小輪瀬楮太郎

小輪瀬廣吉

小野田健次郎

小野田京藏

小野田猶造

小野田宅太郎

八木原静十郎

小埜田林造

小峯國三郎

小峯橘五郎

全 簾藤信平

金廿八銭

金廿八銭

金四十五銭

金廿八銭

金廿八銭

金廿八銭

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

内田元次郎

山口文之助

岩澤正造

内田浦吉

大久保源次郎

山口梅次郎

内田要吉

新井柳吉

関根要七

新井友吉

岩澤甚八

内田和三郎

岩澤善平

内田伊助

大久保三次郎

内田鶴吉

吉野要吉

全 寅次郎

全 民造

全 鍋吉

全 勘次郎

全 藤造

全 國太郎

全 治平

全 鷺太郎

加藤惣吉

中嶋重次郎

全 兼吉

全 辰之助

全 勘三郎

全 弥三郎

全 岩造

全	金三十七錢	全	惣七	全	源太郎
全	金三十七錢	全	大久保栄三郎	全	簾藤猶太郎
全	金廿七錢	全	山口浦吉	全	山下文次郎
全	金廿七錢	全	小林由三郎	全	斎藤清次郎
全	金廿七錢	全	長嶋惣三郎	全	全 音五郎
全	金廿七錢	全	小峯栄次郎	全	全 彦太郎
全	金廿七錢	全	全 峯吉	全	野村要次郎
全	金廿七錢	全	全 米吉	全	中村重吉
全	金四十五錢	全	簾藤半平	全	全 仙吉
全	金廿七錢	全	全 萬吉	全	杉田つる
全	金廿七錢	全	大野福次郎	全	簾藤忠宏
全	金廿七錢	全	杉田茂七	全	小川良琢
全	金廿七錢	全	全 菊次郎	全	根立源造
全	金廿七錢	全	吉野金太郎	全	大野藤吉
全	金廿七錢	全	小林包三郎	全	大久保常吉
全	金四十五錢	全	小峯金三郎	全	長嶋乾次郎
全	金廿七錢	全	簾藤幾之丞	全	長嶋新三郎
全	金廿七錢	全	矢野由松	一、金廿錢	和田三郎
全	金四十五錢	全	杉田三千造	一、金壹圓廿錢	沢田俊明
全	金廿七錢	全	全 直太郎	一、金壹圓	宮崎善太郎
全	金廿七錢	全	全 きよ	一、金貳拾壹圓四十六錢	
全	金廿七錢	全	全 良平	内訳	
全	金廿七錢	全	全 八十八	金壹圓五十錢	水野年次
全	金廿七錢	全	全 定五郎	金壹圓	八木原鷲太郎
全	金廿七錢	全	杉田長次郎	金壹圓五十錢	水野年連
全	金廿七錢	全	斎藤周養	金壹圓	内田多良平
全	金廿七錢	全	杉田浅次郎	〃	番場澤五郎
全	金廿七錢	全	全 安次郎	〃	根岸彦九郎
全	金廿七錢	全	簾藤儀良	〃	滝澤房五郎
全	金廿七錢	全	権田三太郎	〃	内田庄次郎
全	金廿七錢	全	山下周造	〃	大野半兵衛
全	金廿七錢	全	全 菊次郎	〃	高崎常五郎

- 一、金二円廿銭 同 高橋利三郎父 高橋藤五郎
- 一、金壹円六十五銭 同 山下喜重郎
- 一、金壹円六十五銭 同 高橋團吉
- 一、金壹円六十五銭 同 山下長松
- 一、金壹円十銭 同 野原善造
- 一、金壹円十銭 同 吉野由太郎
- 一、金壹円十銭 同 小菅山勘五郎
- 一、金壹円十銭 同 欠川峯吉
- 一、金壹円十銭 同 野原松五郎
- 一、金壹円十銭 同 山下半三郎
- 一、金壹円十銭 同 高橋かつ
- 一、金壹円十銭 同 池田平六
- 一、金五十銭 同 比留間甚造
- 一、金三十五銭 同 井上萬吉
- 一、金壹円 同 郡高谷村 武井軍次郎
- 一、金五十銭 同 比企郡能増村 佐藤玉次郎
- 一、金拾銭 同 郡西平村 大沢藤吉
- 一、金五十銭 同 郡奥田村 戸口貞吉
- 一、金壹円 同 郡泉井村 小川藤助
- 一、金五十銭 同 郡將軍沢村 秋山勘重郎
- 一、金五十銭 同 郡赤沼村 高山辰造
- 一、金三十銭 同 郡須江村 仲田篤義
- 一、金壹円 男衾郡鷹巣村 吉田明軌
- 一、金壹円三十銭 比企郡吉田 中島半次郎
- 一、金五十銭 同 郡同村 島田藤右衛門
- 一、金廿銭 同 郡同村 藤野柳造
- 一、金五十銭 同 郡同村 島田松五郎
- 一、金五十銭 同 郡大蔵村 金井角造
- 一、金五十銭 同 比企郡根岸村 根岸多之吉
- 一、金五十銭 同 郡同村 福島伴吉
- 一、金五十銭 同 郡竹本村 岩田弥三郎
- 一、金五十銭 同 郡杉山村 増田啓次郎

- 一、金廿銭 同 郡広野村 権田小善太
- 一、金廿銭 同 郡將軍沢村 福島彦平
- 一、金廿銭 同 郡同村 小久保倉吉
- 一、金十銭 同 郡玉川郷 根岸兼吉

惣計 金五百九十七圓三十六銭

右は比企郡遠山村ヨリ松山町往還
道路至テ難渋ニ付、新道開鑿
相成、依テ書面之通り寄附金該
費用ニ充テ申候間此段御届
仕候也。

明治十五年九月三十日

比企郡遠山村 發起惣代 梶田啓三郎

戸長 山下滝治

埼玉県令 吉田清英殿



大字千手堂の路傍にある道標



ありし日のトンネルの様子（昭和30年代）

嵐山町博物誌調査報告第3集

1998年3月20日 印刷

1998年3月23日 発行

発行 嵐山町教育委員会

〒355-0211

埼玉県比企郡嵐山町大字杉山1030-1

電話 0493-62-0724

印刷 朝日印刷工業株式会社

表紙写真 オオムラサキ (オス)